

障害福祉に関するアンケート調査結果 報告書

令和5年(2023年)3月
箕面市

目次

I. 調査概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査設計	1
3. 報告書の見方	3
II. 調査結果（①18歳未満の障害児）	4
1. 回答者について.....	4
(1) 回答者.....	4
(2) 年齢.....	4
(3) 性別.....	5
(4) 居住地域.....	6
2. 障害について.....	7
(1) 身体障害者手帳の所持状況.....	7
(2) 身体障害の種類.....	7
(3) 療育手帳の所持状況.....	8
(4) 精神障害者保健福祉手帳の所持状況.....	8
(5) 自立支援医療（精神通院医療）を受けているか.....	9
(6) 指定難病の診断.....	9
3. 医療的ケアについて.....	10
(1) 医療的ケアを受けているか.....	10
(2) 受けている医療的ケア.....	10
4. 住まいについて.....	11
(1) 住まいの形態.....	11
(2) 同居者の状況.....	11
(3) この先5年以内の希望の暮らし.....	12
(4) グループホームを利用する際に求める条件.....	12
(5) 希望するグループホームと一緒に生活する人数の上限.....	13
(6) 地域で暮らしていくために必要な支援.....	13
5. 障害福祉サービスの利用状況.....	14
(1) 障害福祉サービスの利用状況.....	14
(2) 現在利用している障害福祉サービス、また、今後18歳までの間に利用したい障害福祉サービス.....	15
(3) 将来（18歳以降）利用したい障害福祉サービス.....	16
(4) 現在利用している障害福祉サービスでの困りごと.....	17
(5) 障害福祉サービスを利用できていない理由.....	17
6. 外出について.....	18
(1) 外出時の同行者.....	18
(2) 外出時の主な移動手段.....	18
(3) 外出頻度.....	19
(4) 外出する際の困りごと.....	19

(5) 公共交通機関を利用する際の困りごと.....	20
7. 就学や進路について.....	21
(1) 通っている学校.....	21
(2) 現在の通学先を選んだ理由.....	21
(3) 卒業後に希望する進路.....	22
8. 情報収集について.....	23
(1) 障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段.....	23
(2) 情報収集をする際に求める対応.....	24
9. 災害時の避難について.....	25
(1) 災害時の避難.....	25
(2) 災害時の避難で不安なこと.....	25
10. 相談相手について.....	26
(1) 日頃、相談する人.....	26
11. 差別について.....	27
(1) 障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験.....	27
(2) 差別を受けたり嫌な思いをした場面.....	27
(3) 差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手.....	28
(4) 差別を受けた具体的な内容.....	29
(5) 差別に関する相談窓口の認知度.....	30
12. 虐待について.....	31
(1) 虐待を受けた経験.....	31
(2) 虐待を受けた時期.....	31
(3) 虐待を受けた相手.....	32
(4) 虐待を受けたときの相談相手.....	32
13. 成年後見制度について.....	33
(1) 成年後見制度の認知度.....	33
(2) 今後の成年後見制度の利用意向.....	33
14. 本人以外の回答者について.....	34
(1) 回答者（本人以外）の年齢.....	34
(2) 回答者（本人以外）の性別.....	34
(3) 回答者本人との続柄.....	35
(4) 回答者（本人以外）の日頃の相談相手.....	35
(5) 回答者（本人以外）の日頃の困りごと.....	36
15. 自由記述（障害福祉サービスや行政の取り組みについての意見・提案）.....	37
III.調査結果（②18歳以上の障害者）	38
1. 回答者について.....	38
(1) 回答者.....	38
(2) 年齢.....	39
(3) 性別.....	39
(4) 居住地域.....	40

2. 障害について.....	41
(1) 身体障害者手帳の所持状況.....	41
(2) 身体障害の種類.....	41
(3) 療育手帳の所持状況.....	42
(4) 精神障害者保健福祉手帳の所持状況.....	42
(5) 自立支援医療（精神通院医療）を受けているか.....	43
(6) 指定難病の診断.....	43
3. 医療的ケアについて.....	44
(1) 医療的ケアを受けているか.....	44
(2) 受けている医療的ケア.....	45
4. 住まいについて.....	46
(1) 住まいの形態.....	46
(2) 同居者の状況.....	47
(3) この先5年以内の希望の暮らし.....	48
(4) グループホームを利用する際に求める条件.....	49
(5) 希望するグループホームと一緒に生活する人数の上限.....	50
(6) 地域で暮らしていくために必要な支援.....	51
5. 収入について.....	53
(1) 現在の収入源.....	53
6. 障害福祉サービスの利用状況.....	54
(1) 障害福祉サービスの利用状況.....	54
(2) 現在利用している障害福祉サービス、また、今後利用したい障害福祉サービス.....	55
(3) 現在利用している障害福祉サービスでの困りごと.....	59
(4) 障害福祉サービスを利用できていない理由.....	60
7. 外出について.....	61
(1) 外出時の同行者.....	61
(2) 外出時の主な移動手段.....	62
(3) 外出頻度.....	63
(4) 外出する際の困りごと.....	64
(5) 公共交通機関を利用する際の困りごと.....	66
8. 情報収集について.....	67
(1) 障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段.....	67
(2) 情報収集をする際に求める対応.....	68
9. 日中の活動や就労について.....	69
(1) 平日の日中の過ごし方（現在の過ごし方）.....	69
(2) 平日の日中の過ごし方（今後の過ごし方の希望）.....	70
(3) 継続して働くために必要なこと.....	71
10. 災害時の避難について.....	73
(1) 災害時の避難.....	73
(2) 災害時の避難で不安なこと.....	74

11. 相談相手について.....	76
(1) 日頃、相談する人.....	76
12. 差別について.....	78
(1) 障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験.....	78
(2) 差別を受けたり嫌な思いをした場面.....	79
(3) 差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手.....	81
(4) 差別を受けた具体的な内容.....	82
(5) 差別に関する相談窓口の認知度.....	83
13. 虐待について.....	84
(1) 虐待を受けた経験.....	84
(2) 虐待を受けた時期.....	85
(3) 虐待を受けた相手.....	86
(4) 虐待を受けたときの相談相手.....	87
14. 成年後見制度について.....	89
(1) 成年後見制度の認知度.....	89
(2) 成年後見制度の利用状況.....	89
(3) 今後の成年後見制度の利用意向.....	90
15. 本人以外の回答者について.....	91
(1) 回答者（本人以外）の年齢.....	91
(2) 回答者（本人以外）の性別.....	92
(3) 回答者本人との続柄.....	92
(4) 回答者（本人以外）の日頃の相談相手.....	93
(5) 回答者（本人以外）の日頃の困りごと.....	94
16. 自由記述（障害福祉サービスや行政の取り組みについての意見・提案）.....	95
IV. 調査結果（③18歳以上の障害者でない市民）	96
1. 回答者について.....	96
(1) 年齢.....	96
(2) 性別.....	96
(3) 居住地域.....	97
(4) 職業.....	98
2. 障害や障害のある人について.....	99
(1) 身近に障害者のある人がいるか.....	99
(2) 障害のある人が困っているときに手助けをした経験.....	101
(3) 手助けをした理由.....	103
(4) 手助けをしなかった理由.....	105
(5) 「共生社会」という考え方を知っているか.....	107
(6) 「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だ」という考え方.....	109
(7) 「障害者差別解消法」の認知度.....	111
(8) 障害を理由とする差別や偏見があると思うか.....	113
(9) 経済的な負担を伴う配慮や工夫への対応.....	115

(10) 通所施設やグループホームが自宅の近所にできたとしたら.....	117
(11) 通所施設やグループホームへの思いのきっかけ.....	119
(12) 障害者になる可能性の想定.....	121
(13) 自分や家族が利用する場合の施設や住まいの希望.....	122
(14) 障害者が地域で暮らすことについての社会の理解.....	124
(15) どのような取り組みがあれば理解が進むか.....	126
(16) 災害時に障害のある人に対してできると思う支援.....	128
(17) 災害時に障害のある人を地域で支援するために必要と思うこと.....	130
(18) 力を入れる必要がある国や自治体の施策.....	132
3. 自由記述（障害福祉や行政の取り組みについての意見・提案）.....	135
V. 調査結果のまとめと課題	136
1. 障害児・障害者.....	136
2. 18歳以上の障害者でない市民.....	142

I. 調査概要

1. 調査の目的

本調査は、第4次箕面市障害者市民の長期計画（みのおN'プラン）を策定するにあたり、障害者市民の生活実態、障害福祉サービス等の利用状況及び今後の利用意向、保健福祉政策への意見、要望等を把握し、計画策定の基礎資料とすることを目的としました。

2. 調査設計

(1) 調査地域

箕面市内全域

(2) 調査基準日

令和5年（2023年）1月1日

(3) 調査対象者・調査期間

調査対象者区分	調査期間
①小学1年生から18歳未満の障害者手帳所持者	令和5年（2023年）2月2日（木）～2月16日（木） （2月27日（月）回収分までを受付）
②18歳以上65歳未満の障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等利用者、65歳以上の障害福祉サービス等利用者	令和5年（2023年）2月2日（木）～2月16日（木） （2月27日（月）回収分までを受付）
③18歳以上の障害者でない市民	令和5年（2023年）2月6日（月）～2月20日（月） （2月27日（月）回収分までを受付）

(4) 調査方法

調査票を郵送により配布・回収。

無記名調査。

(5) 回収状況

調査対象者区分	調査対象者数 (配布数)	有効回収数	有効回収率
①小学1年生から18歳未満の障害者手帳所持者	407	264	64.9%
②18歳以上65歳未満の障害者手帳所持者及び障害福祉サービス等利用者、65歳以上の障害福祉サービス等利用者	1,581	1,004	63.5%
③18歳以上の障害者でない市民	1,000	571	57.1%
合計	2,988	1,839	61.8%

(6) 各調査における手帳所持の重複状況一覧表

調査対象者 区分	手帳所持状況								合計
	身体のみ	療育のみ	精神のみ	身体・療育	身体・精神	療育・精神	身体・療育・精神	その他	
18歳以上	395	225	154	123	44	17	9	37	1,004
18歳未満	32	157	25	39	0	6	0	5	264

3. 報告書の見方

本報告書は、それぞれ配布した調査票の設問に沿う形で構成しています。

- 回答結果は、小数第 2 位を四捨五入して、それぞれの割合を示しています。そのため、単数回答（複数の選択肢から 1 つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が 100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても同様です。
- 複数回答（複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は有効回答数に対する選択肢ごとの割合を示しています。そのため、合計が 100.0%を超える場合があります。
- 図表中の「S A（single answer）」は単数回答、「M A（multiple answer）」は複数回答を示しています。
- 図表中の「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない又は回答の判別が著しく困難なものです。
- グラフ及び表の N 数（number of case）は、有効標本数（集計対象者総数）を表しています。
- N 数（有効標本数）が少ないものについては、基本的にグラフを掲載していませんが、必要なものについては、参考データとして掲載しています。
- 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- 障害福祉サービス等の利用の有無にかかわらず、本文中「障害者」は 18 歳以上の障害者市民、「障害児」は 18 歳未満の障害者市民の略称です。

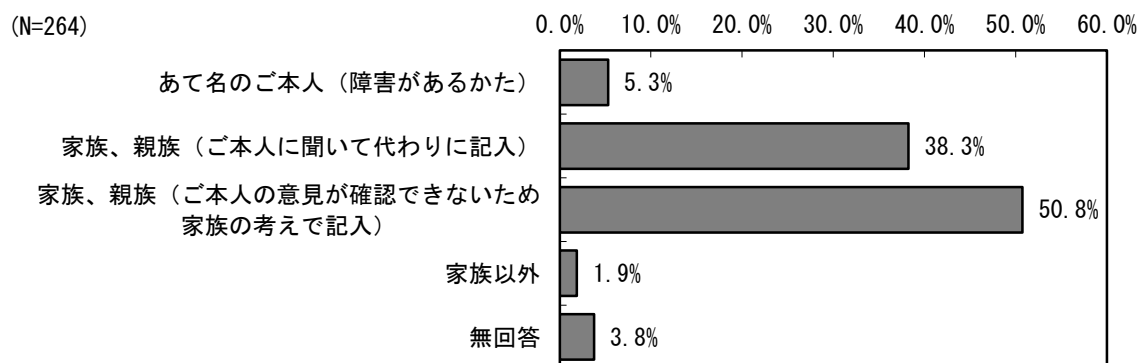
II. 調査結果（①18歳未満の障害児）

1. 回答者について

(1) 回答者

問1 このアンケートを回答されるかたは、どなたですか。（1つに○）

【図1 回答者】



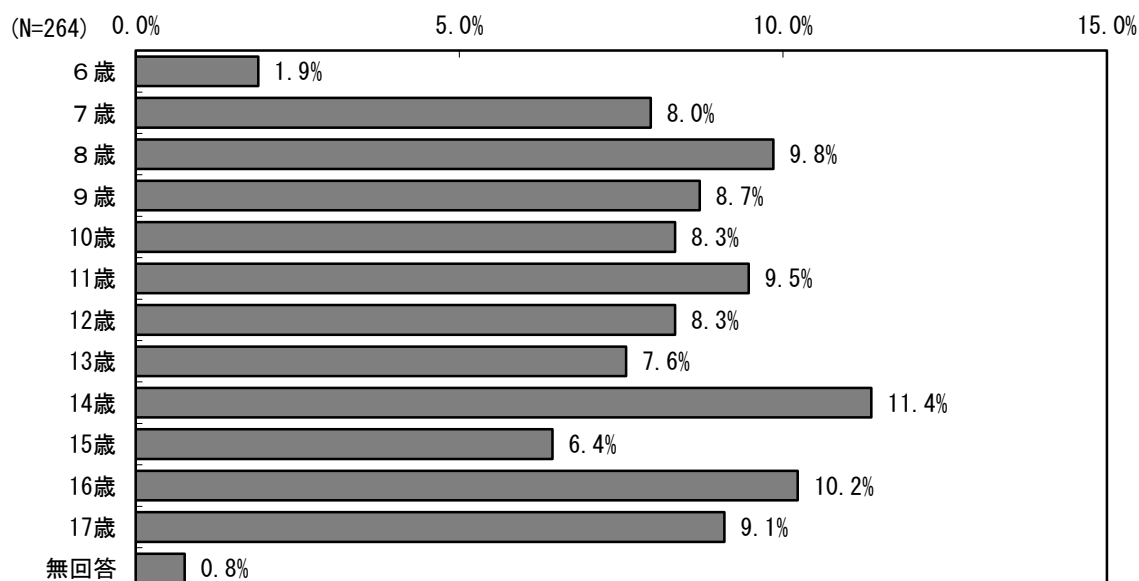
回答者について見ると、「家族、親族（ご本人の意見が確認できないため家族の考えで記入）」が50.8%と最も高く、次いで「家族、親族（ご本人に聞いて代わりに記入）」が38.3%、「あて名のご本人（障害があるかた）」が5.3%となっています。

(2) 年齢

問2 あなた（障害があるかたご本人。以下同じ。）の年齢はおいくつですか。

※ 令和5年（2023年）1月1日現在でお答えください。

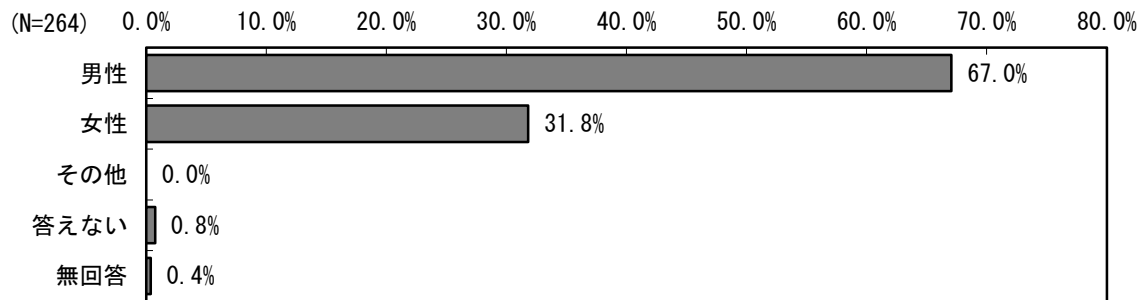
【図2 年齢】



(3) 性別

問3 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

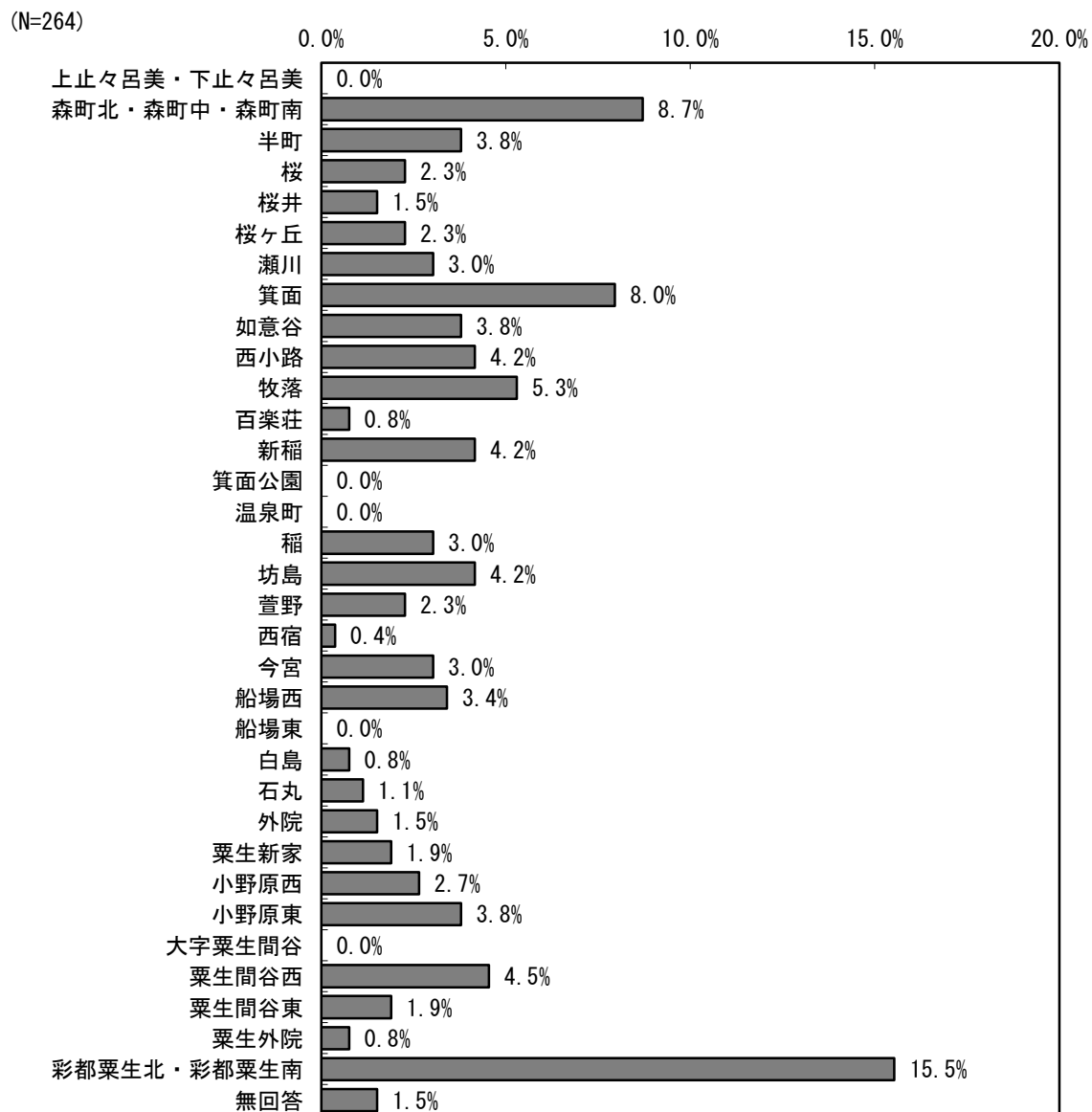
【図3 性別】



(4) 居住地域

問4 あなたのお住まいの地域はどこですか。(1つに○)

【図4 居住地域】

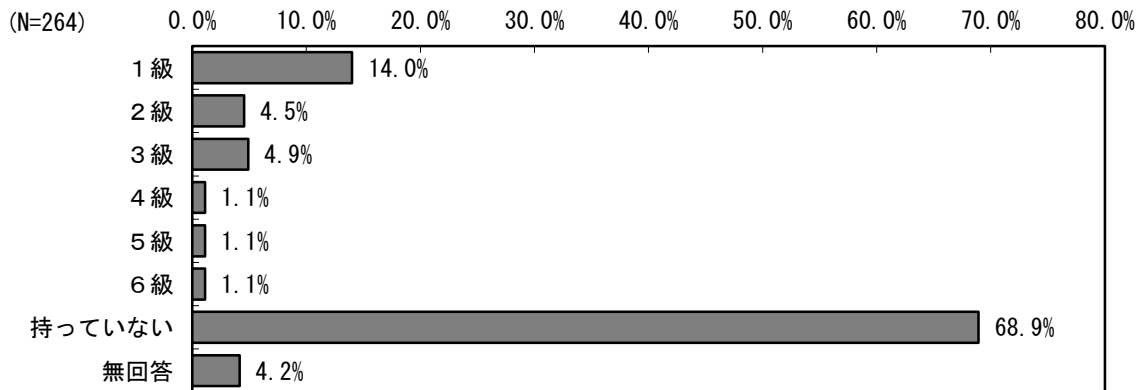


2. 障害について

(1) 身体障害者手帳の所持状況

問5 (1) あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(1つに○)

【図5-1 身体障害者手帳の所持状況】



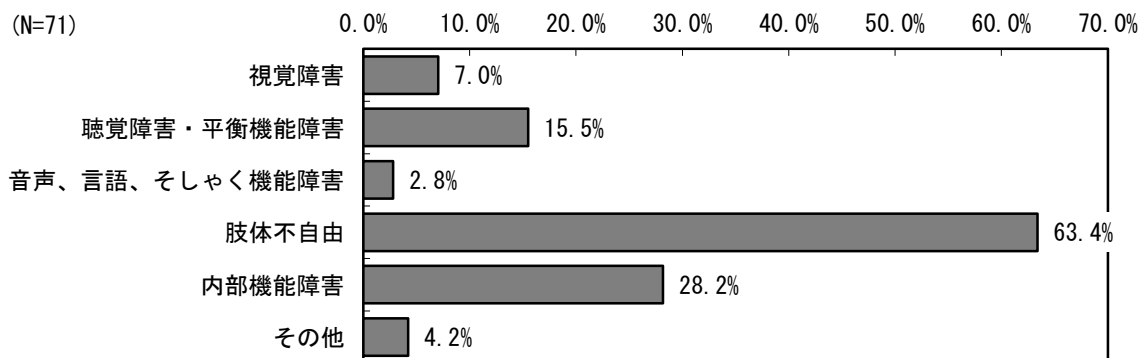
身体障害者手帳を所持している人のうち、「1級」が14.0%と最も多く、次いで「3級」が4.9%となっています。

(2) 身体障害の種類

【問5 (1) で1～6のいずれかに○をつけたかたにおたずねします。】

問5 (2) あなたが診断されている障害は何ですか。(あてはまるものにすべてに○、障害が複数ある場合は、主な障害に◎をつけてください)

【図5-2 身体障害の種類（複数回答）】

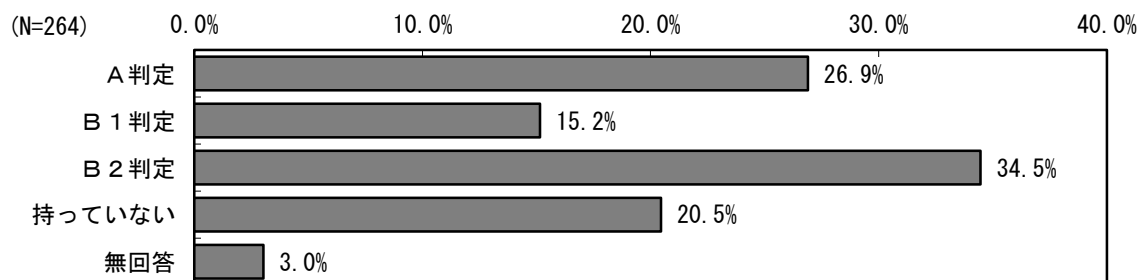


身体障害の種類について見ると、「肢体不自由（上肢、下肢、体幹、運動機能障害）」が63.4%と最も高く、次いで「内部機能障害（心臓、腎臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓、免疫）」が28.2%、「聴覚障害・平衡機能障害」が15.5%となっています。

(3) 療育手帳の所持状況

問6 あなたは療育手帳をお持ちですか。(1つに○)

【図6 療育手帳の所持状況】

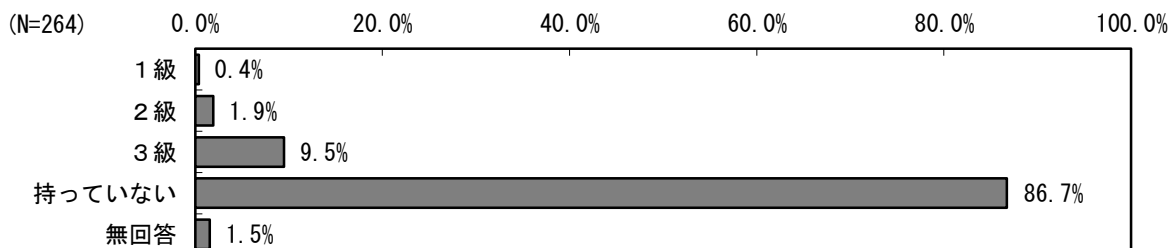


療育手帳を所持している人のうち、「B2判定」が34.5%と最も多く、次いで「A判定」が26.9%となっています。

(4) 精神障害者保健福祉手帳の所持状況

問7 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(1つに○)

【図7 精神障害者保健福祉手帳の所持状況】

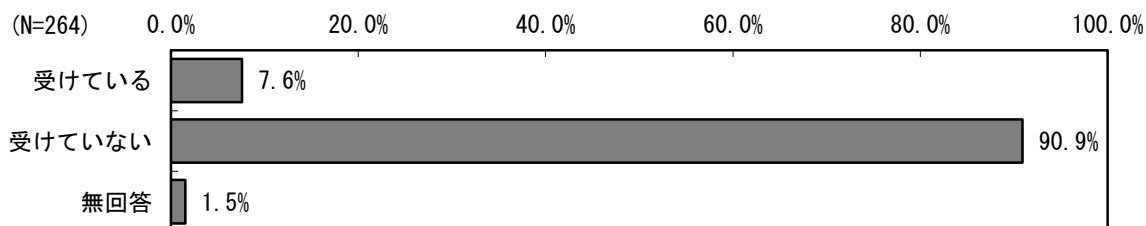


精神障害者保健福祉手帳を所持している人のうち、「3級」が9.5%と最も多く、次いで「2級」が1.9%となっています。

(5) 自立支援医療（精神通院医療）を受けているか

問8 自立支援医療（精神通院医療）を受けていますか。（1つに○）

【図8 自立支援医療（精神通院医療）を受けているか】

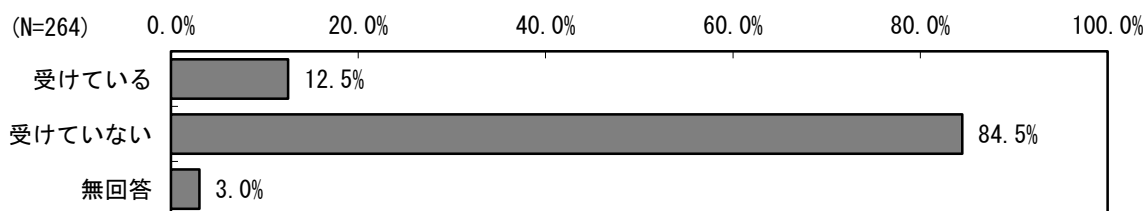


自立支援医療（精神通院医療）については、「受けている」が7.6%となっています。

(6) 指定難病の診断

問9 あなたは指定難病の診断を受けていますか。（1つに○）

【図9 指定難病の診断】



指定難病の診断については、「受けている」が12.5%となっています。

3. 医療的ケアについて

(1) 医療的ケアを受けているか

問10(1) あなたは医療的ケアを受けていますか。(1つに○)

【図10-1 医療的ケアを受けているか】



医療的ケアを受けているかについて見ると、「受けていない」が92.0%、「受けている」が6.4%となっています。

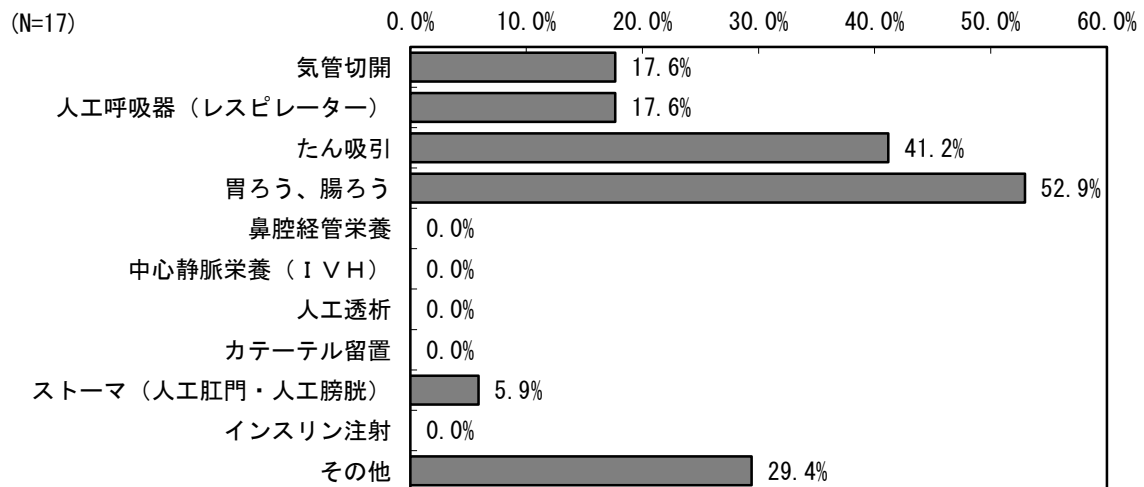
(2) 受けている医療的ケア

【問10(1)で1に○をつけたかたにおたずねします。】

※医療的ケアを受けている方

問10(2) あなたが受けている医療的ケアはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

【図10-2 受けている医療的ケア(複数回答)】



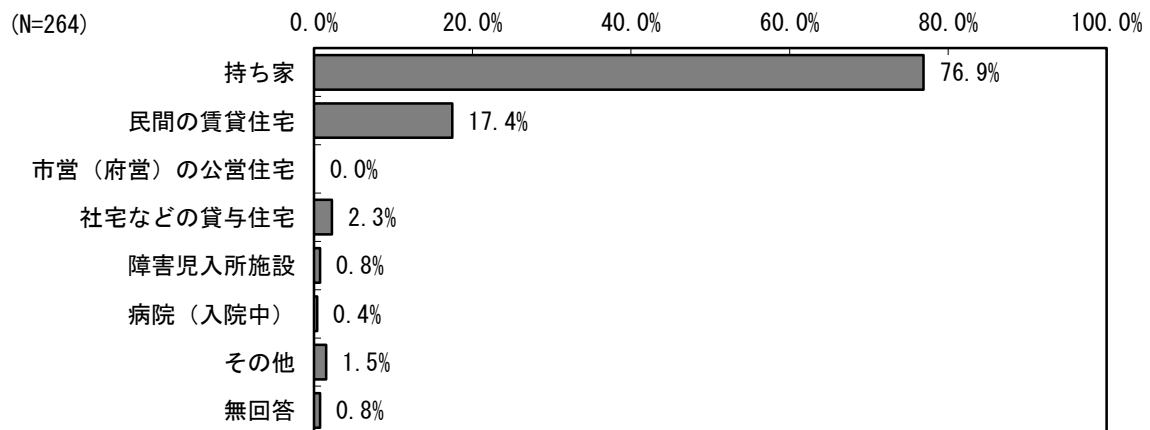
受けている医療的ケアについて見ると、「胃ろう、腸ろう」が52.9%と最も高く、次いで「たん吸引」が41.2%でした。

4. 住まいについて

(1) 住まいの形態

問 1 1 あなたのお住まいは、どのような形態ですか（1つに○）

【図 11 住まいの形態】

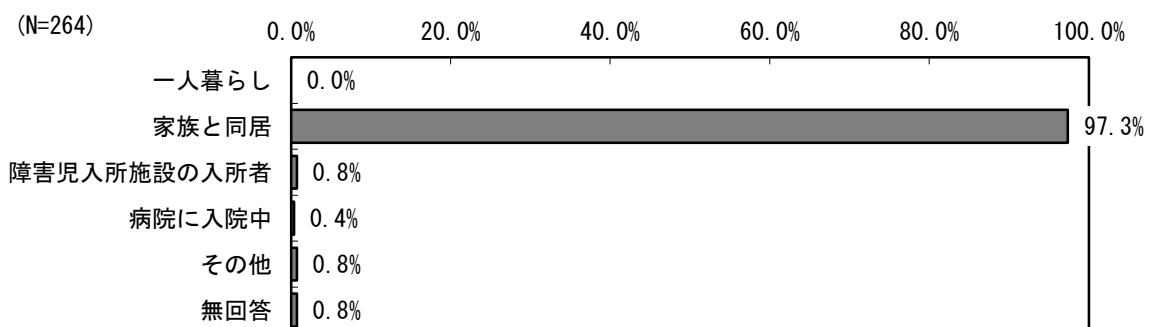


住まいの形態について見ると、「持ち家」が76.9%と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅」が17.4%、「社宅などの貸与住宅」が2.3%となっています。

(2) 同居者の状況

問 1 2 あなたは、どなたとお住まいですか。（1つに○）

【図 12 同居者の状況】

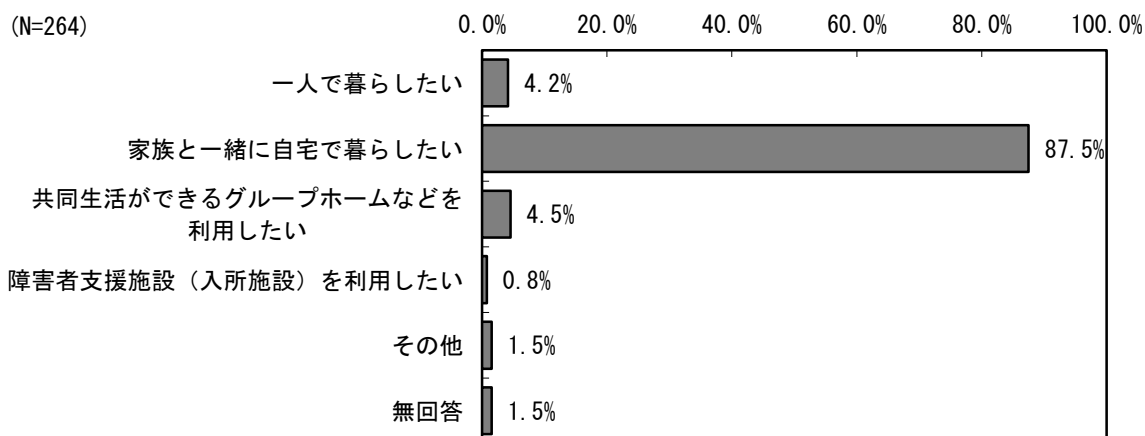


同居人の状況について見ると、「家族と同居」が97.3%と最も高く、次いで「障害児入所施設の入所者」、「その他」が0.8%となっています。

(3) この先5年以内の希望の暮らし

問13 (1) あなたはこの先5年以内に、どのような暮らしをしたいと思いますか。(1つに○)

【図13-1 この先5年以内の希望の暮らし】



この先5年以内の希望の暮らしについて見ると、「家族と一緒に自宅で暮らしたい」が87.5%と最も高く、次いで「共同生活ができるグループホームなどを利用したい」が4.5%、「一人で暮らしたい」が4.2%となっています。

(4) グループホームを利用する際に求める条件

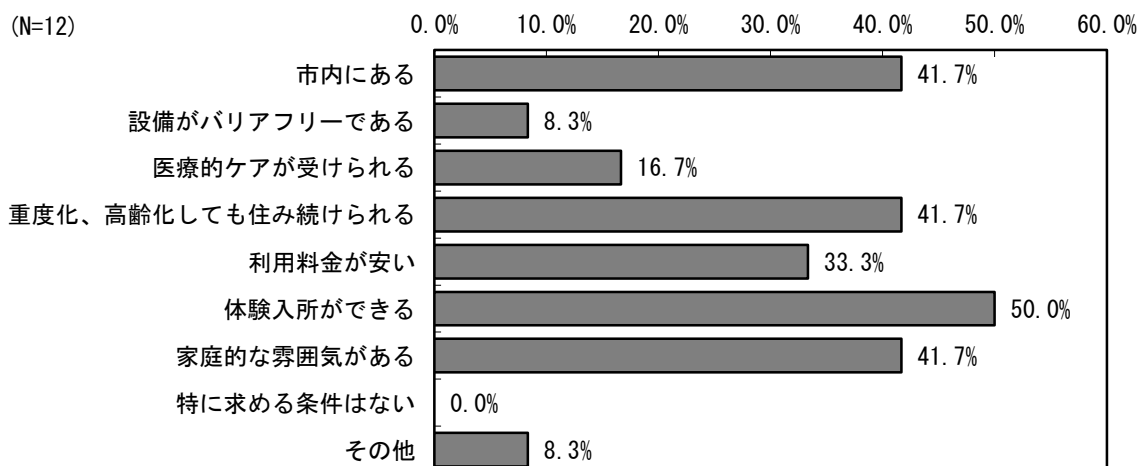
【問13 (1) で3に○をつけたかたにおたずねします。】

※「共同生活ができるグループホームなどを利用したい」と回答した方

問13 (2) あなたがグループホームを利用する際に求める条件は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

【図13-2 グループホームを利用する際に求める条件(複数回答)】



グループホームを利用する際に求める条件について見ると、「体験入所ができる」が50.0%と最も高く、次いで「市内にある」、「重度化、高齢化しても住み続けられる」、「家庭的な雰囲気がある」が41.7%となっています。

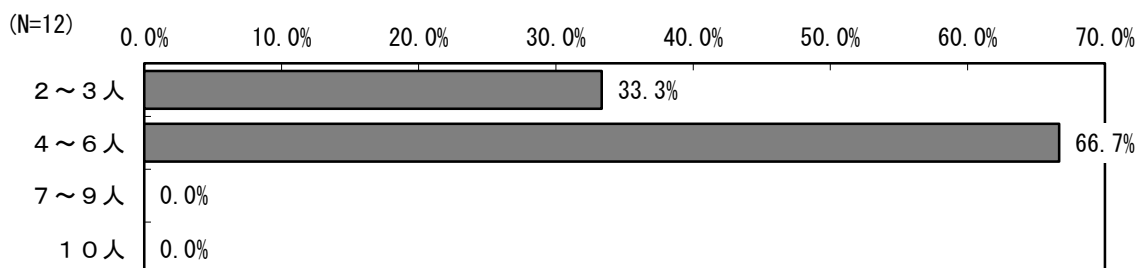
(5) 希望するグループホームで一緒に生活する人数の上限

【問 1 3 (1) で 3 に○をつけたかたにおたずねします。】

※「共同生活ができるグループホームなどを利用したい」と回答した方

問 1 3 (3) あなたがグループホームを利用する際に一緒に生活する（食事をしたりする）人数は、自分を含めて何人までがいいですか。（1つに○）

【図 13-3 希望するグループホームで一緒に生活する人数の上限】

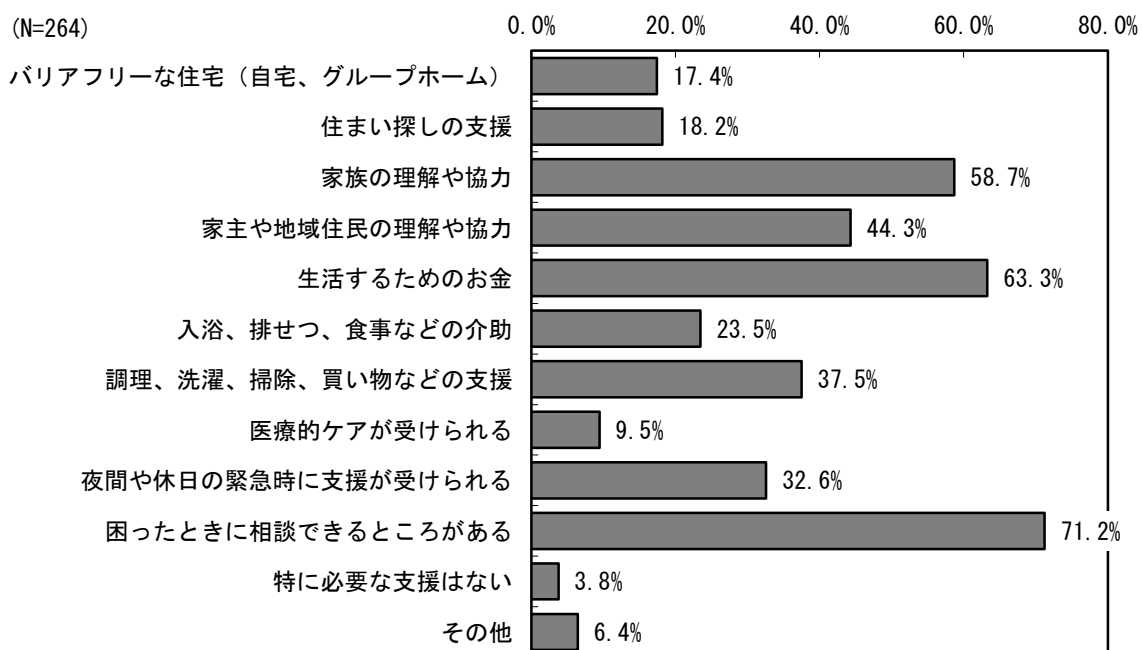


希望するグループホームで一緒に生活する人数の上限について見ると、「4～6人」が66.7%と最も高く、次いで「2～3人」が33.3%となっています。

(6) 地域で暮らしていくために必要な支援

問 1 4 あなたが地域で暮らしていくために必要な支援は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

【図 14 地域で暮らしていくために必要な支援（複数回答）】



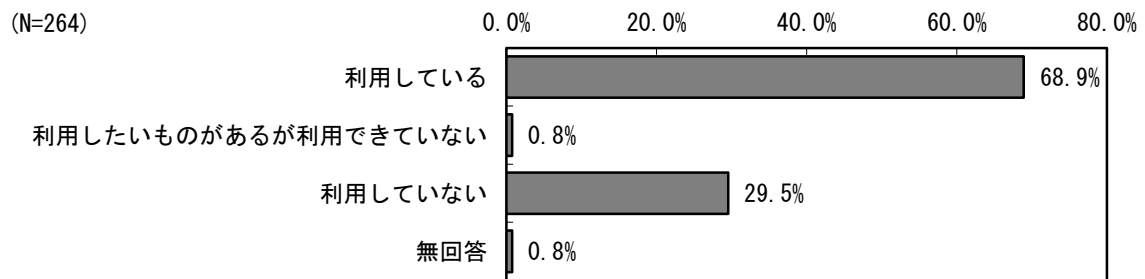
地域で暮らしていくために必要な支援について見ると、「困ったときに相談できる場所がある」が71.2%と最も高く、次いで「生活するためのお金」が63.3%、「家族の理解や協力」が58.7%となっています。

5. 障害福祉サービスの利用状況

(1) 障害福祉サービスの利用状況

問 15 (1) あなたは障害福祉サービスを利用していますか。(1つに○)

【図 15-1 障害福祉サービスの利用状況】



「障害福祉サービスの利用状況」について見ると、「利用している」が 68.9%と最も高く、次いで「利用していない」が 29.5%、「利用したいものがあるが利用できていない」が 0.8%となっています。

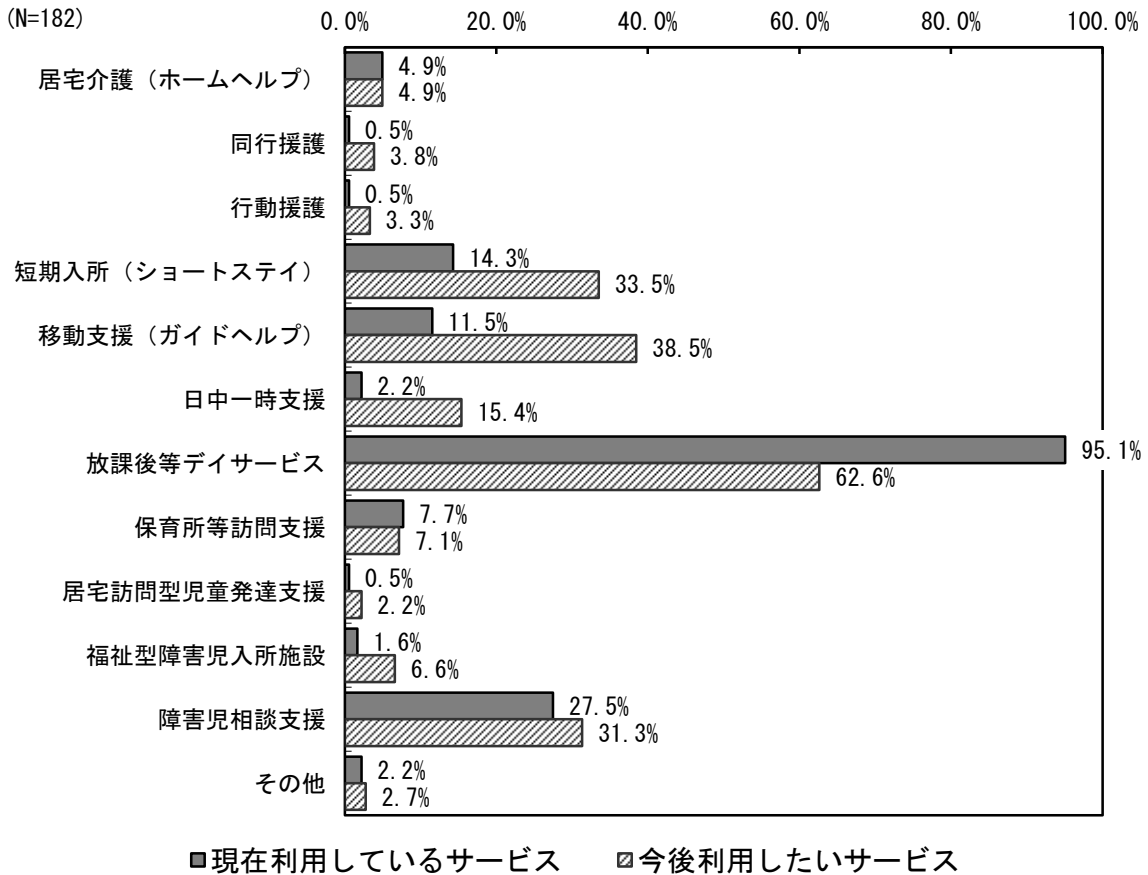
(2) 現在利用している障害福祉サービス、また、今後 18 歳までの間に利用したい障害福祉サービス

【問 15 (1) で 1 に○をつけたかたにおたずねします。】

※「障害福祉サービスを利用している」と回答した方

問 15 (2) あなたが現在、利用している（支給決定を受けている）障害福祉サービスはなんですか。また、今後（18 歳までの間）に利用したい障害福祉サービスもお答えください。

【図 15-2 現在利用している障害福祉サービスおよび今後 18 歳までの間に利用したい障害福祉サービス（複数回答）】



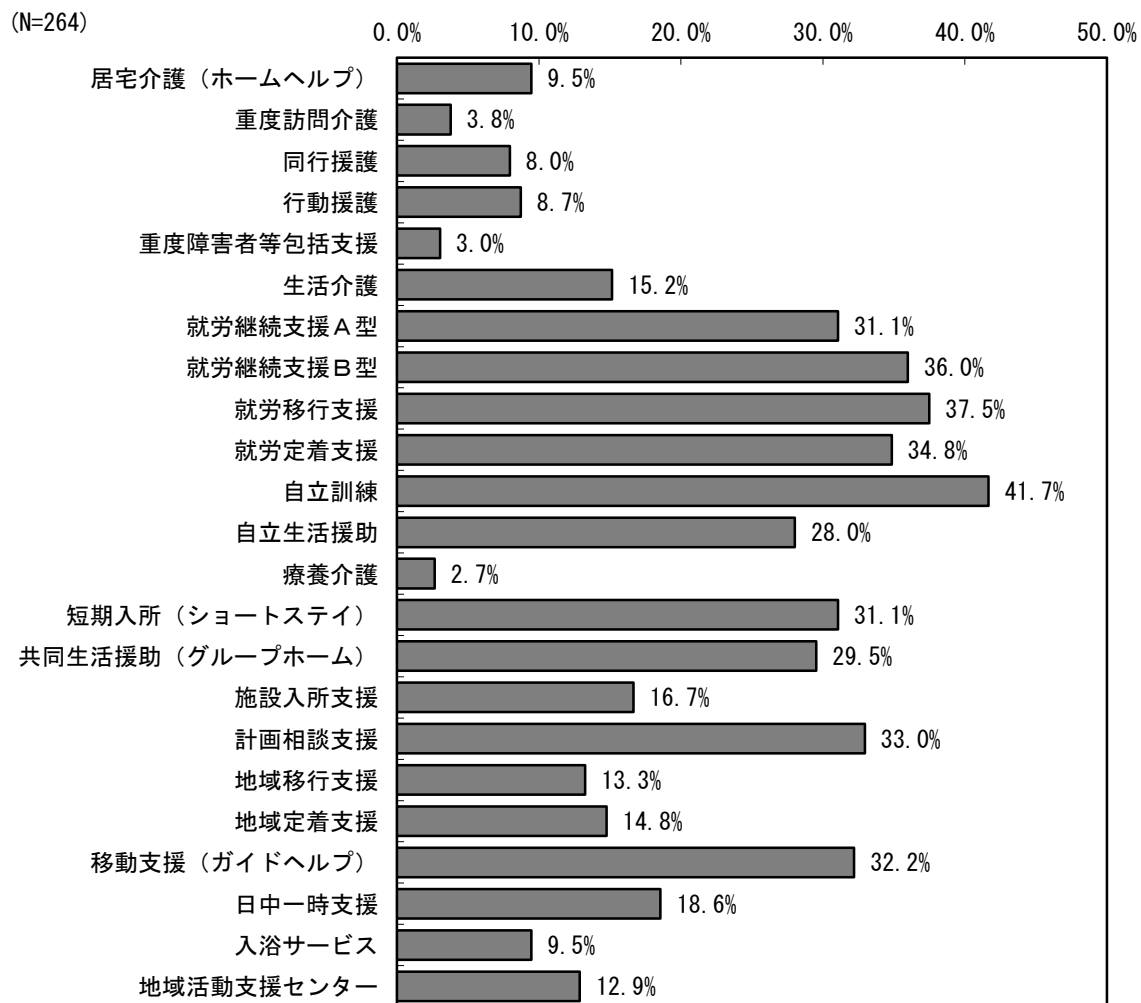
現在利用している障害福祉サービスについて見ると、「放課後等デイサービス」が 95.1%と最も高く、次いで「障害児相談支援」が 27.5%、「短期入所（ショートステイ）」が 14.3%となっています。

また、今後 18 歳までの間に利用したい障害福祉サービスについて見ると、「放課後等デイサービス」が 62.6%と最も高く、次いで「移動支援（ガイドヘルプ）」が 38.5%、「短期入所（ショートステイ）」が 33.5%となっています。

(3) 将来（18歳以降）利用したい障害福祉サービス

問15(3) あなたが将来（18歳以降）利用したい障害福祉サービスはなんですか。

【図15-3 将来（18歳以降）利用したい障害福祉サービス（複数回答）】



将来（18歳以降）利用したい障害福祉サービスについて見ると、「自立訓練」が41.7%と最も高く、次いで「就労移行支援」が37.5%、「就労継続支援B型」が36.0%となっています。

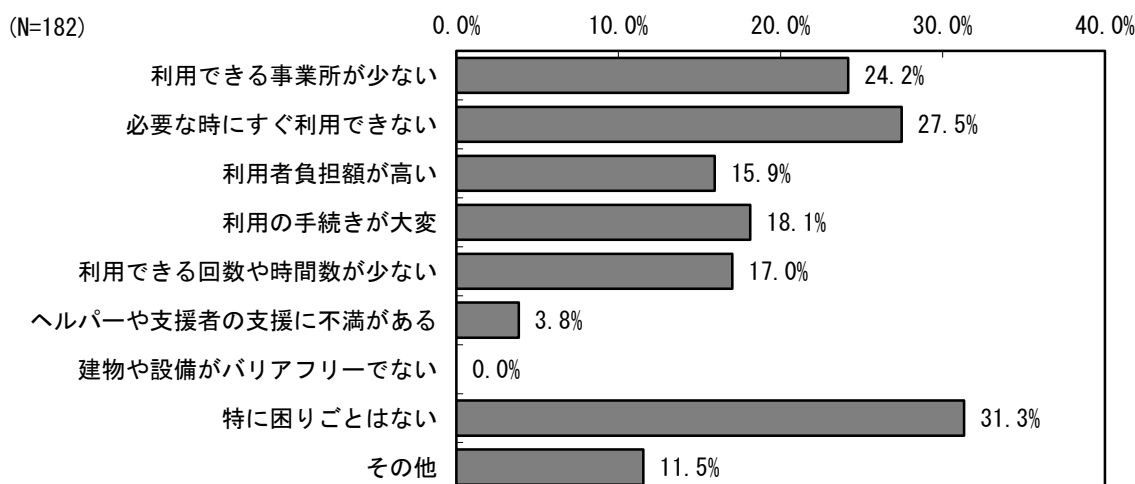
(4) 現在利用している障害福祉サービスでの困りごと

【問 15 (1) で 1 に○をつけたかたにおたずねします。】

※「障害福祉サービスを利用している」と回答した方

問 15 (4) 現在、利用している障害福祉サービスでの困りごとはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

【図 15-4 現在利用している障害福祉サービスでの困りごと（複数回答）】



現在利用している障害福祉サービスでの困りごとについて見ると、「特に困りごとはない」が 31.3%と最も高く、次いで「必要な時にすぐ利用できない」が 27.5%、「利用できる事業所が少ない」が 24.2%となっています。

(5) 障害福祉サービスを利用できていない理由

【問 15 (1) で 2 に○をつけたかたにおたずねします。】

※「障害福祉サービスで利用したいものがあるが利用できていない」と回答した方

問 15 (5) 障害福祉サービスを利用できていない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

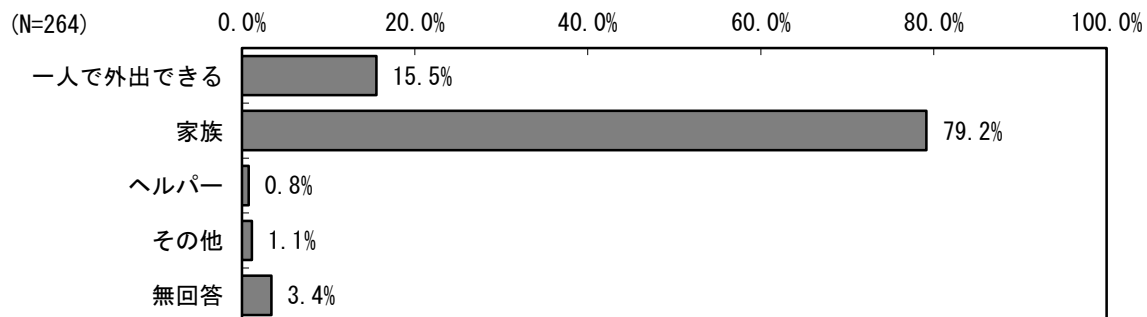
「障害福祉サービスで利用したいものがあるが利用できていない」と回答した方は 2 人で、その理由を見ると、「どこの事業所がいいのかわからない」、「その他」がそれぞれ 1 件となっています。「その他」は、「コロナ禍でなかなか利用していなかった」となっています。

6. 外出について

(1) 外出時の同行者

問 1 6 あなたが外出する際、主にどなたと外出しますか。（1つに○）

【図 16 外出時の同行者】

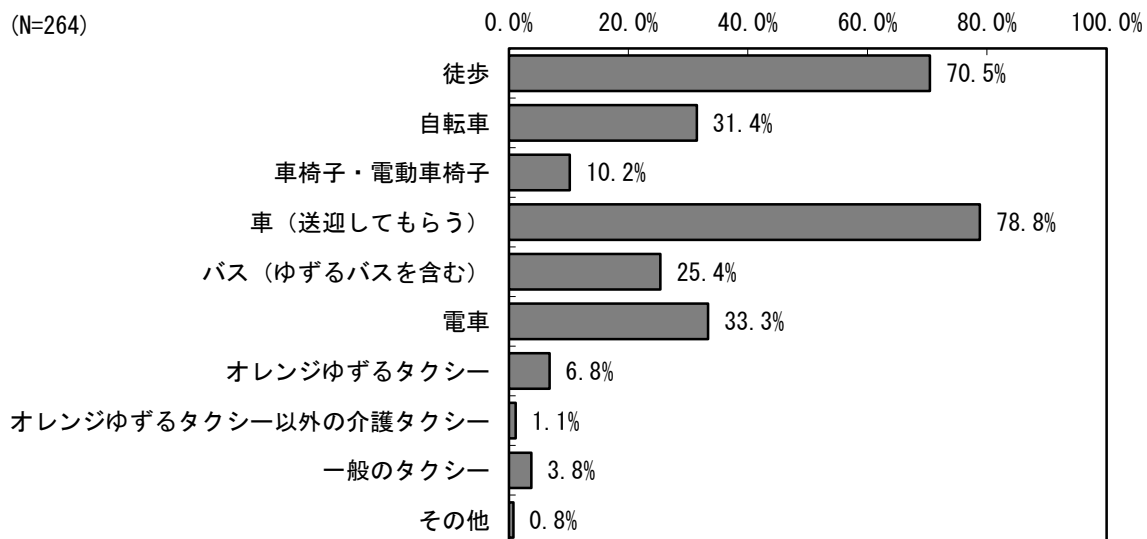


外出時の同行者について見ると、「家族」が79.2%と最も高く、次いで「一人で外出できる」が15.5%、「その他」が1.1%となっています。

(2) 外出時の主な移動手段

問 1 7 あなたが外出する際の主な移動手段は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

【図 17 外出時の主な移動手段（複数回答）】

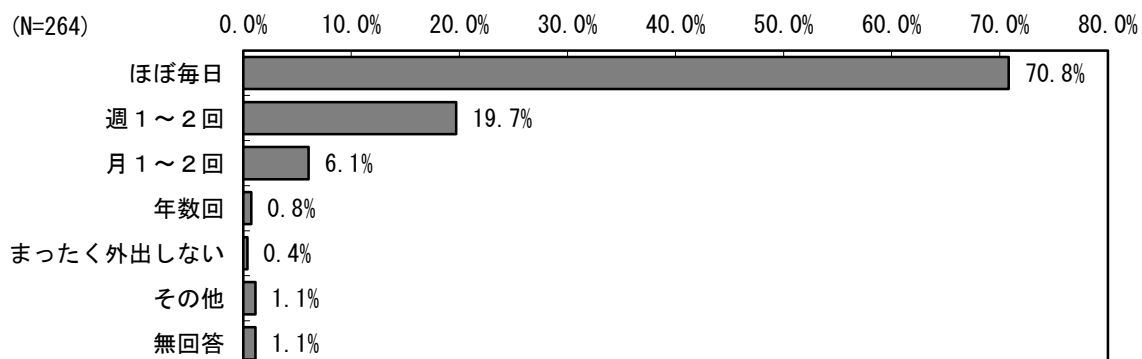


外出時の主な移動手段について見ると、「車（送迎してもらう）」が78.8%と最も高く、次いで「徒歩」が70.5%、「電車」が33.3%となっています。

(3) 外出頻度

問 18 あなたが外出する頻度はどれぐらいですか。(1つに○)

【図 18 外出頻度】

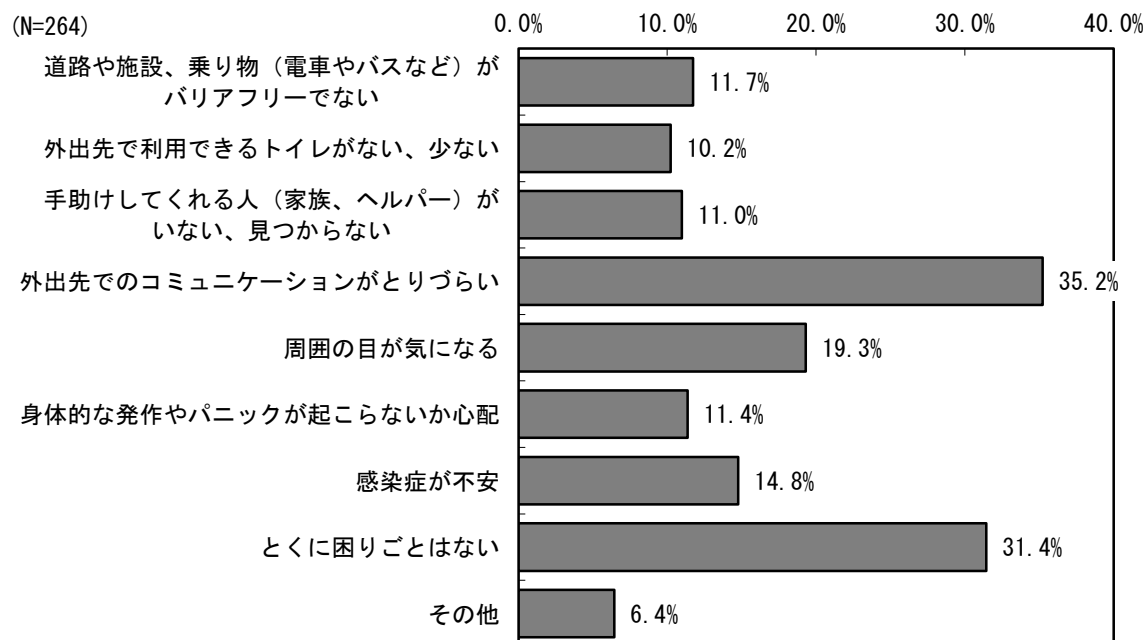


外出頻度について見ると、「ほぼ毎日」が70.8%と最も高く、次いで「週1~2回」が19.7%、「月1~2回」が6.1%となっています。

(4) 外出する際の困りごと

問 19 あなたが外出する際の困りごとはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 19 外出する際の困りごと (複数回答)】

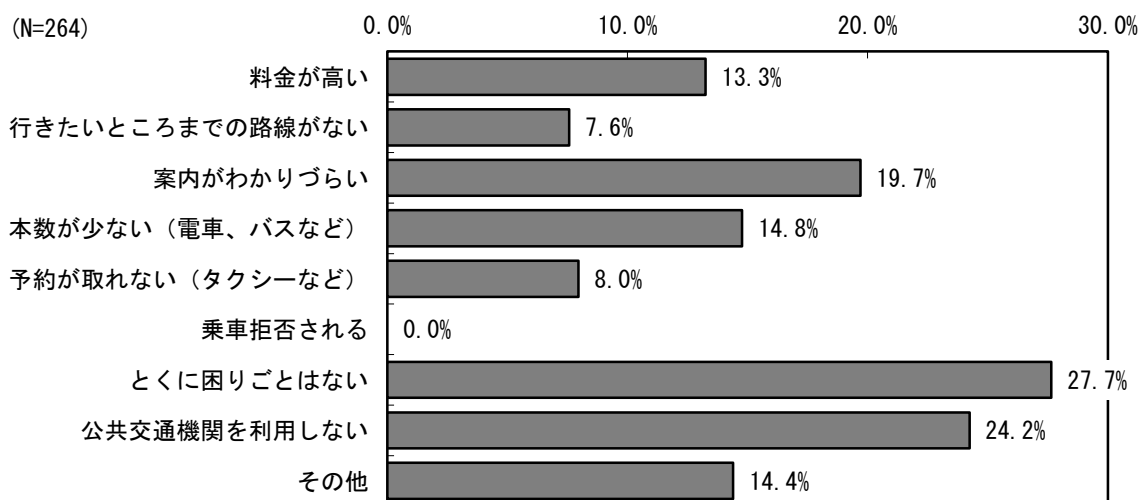


外出する際の困りごとについて見ると、「外出先でのコミュニケーションがとりづらい」が35.2%と最も高く、次いで「とくに困りごとはない」が31.4%、「周囲の目が気になる」が19.3%となっています。

(5) 公共交通機関を利用する際の困りごと

問 2 0 あなたが公共交通機関（電車、バス、タクシーなど）を利用する際の困りごとはなんですか。
（あてはまるものすべてに○）

【図 20 公共交通機関を利用する際の困りごと（複数回答）】



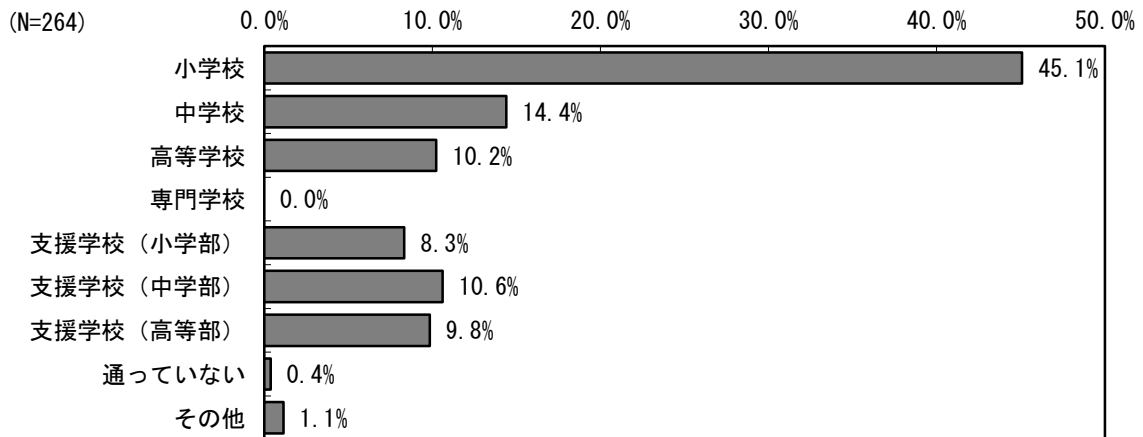
公共交通機関を利用する際の困りごとについて見ると、「とくに困りごとはない」が27.7%と最も高く、次いで「公共交通機関を利用しない」が24.2%、「案内がわかりづらい」が19.7%となっています。

7. 就学や進路について

(1) 通っている学校

問 2 1 あなたは現在、学校などに通っていますか。（1つに○）

【図 21 通っている学校】

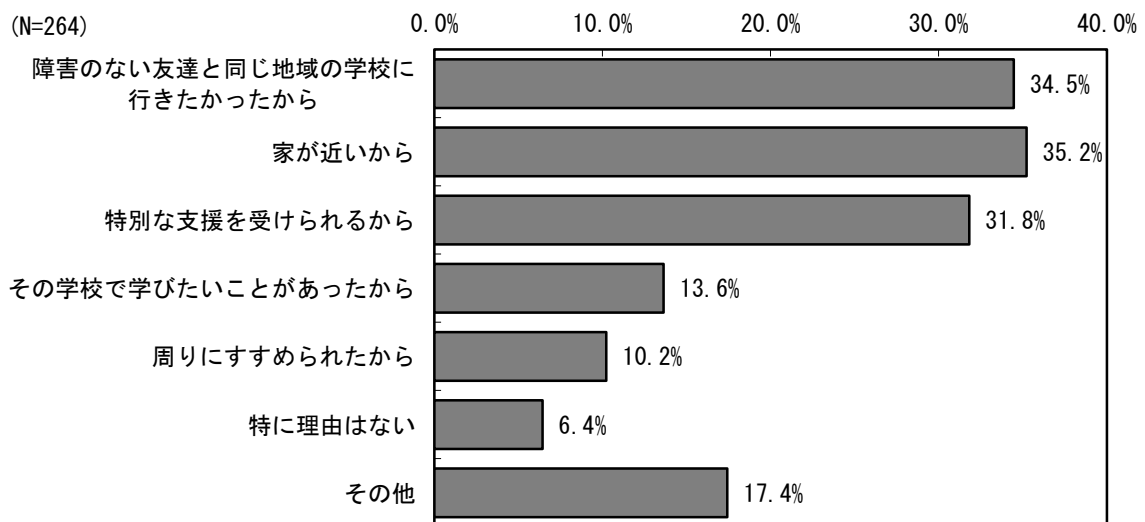


「通っている学校」について見ると、「小学校」が45.1%と最も高く、次いで「中学校」が14.4%、「支援学校（中学部）」が10.6%となっています。

(2) 現在の通学先を選んだ理由

問 2 2 現在の通学先を選んだ理由はなんですか。（あてはまるものすべてに○）

【図 22 現在の通学先を選んだ理由（複数回答）】

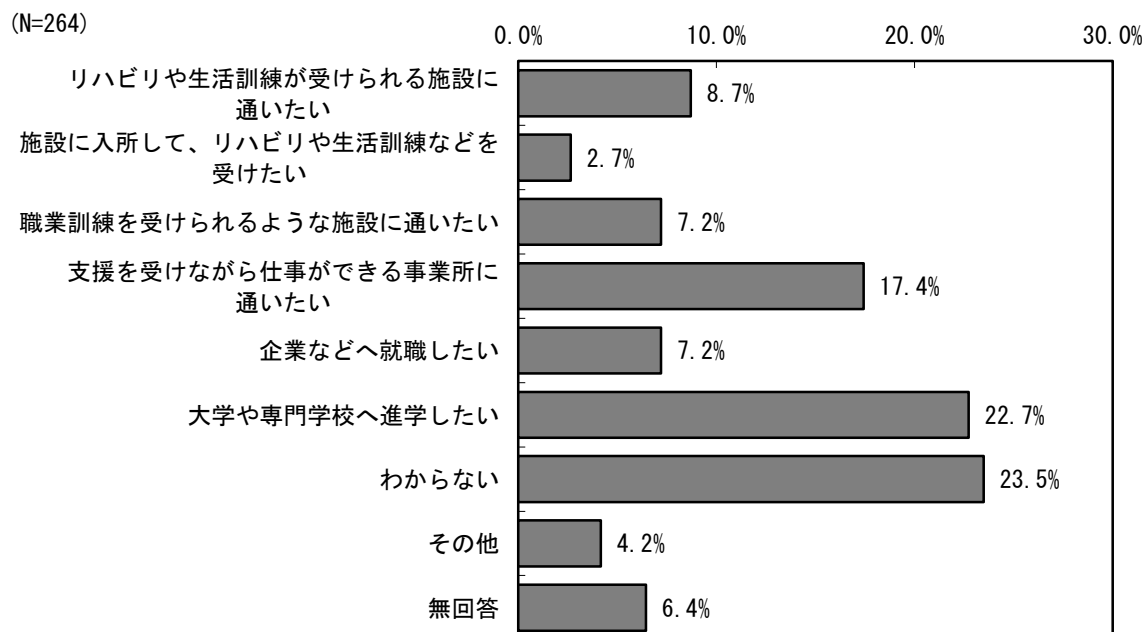


現在の通学先を選んだ理由について見ると、「家が近いから」が35.2%と最も高く、次いで「障害のない友達と同じ地域の学校に行きたかったから」が34.5%、「特別な支援を受けられるから」が31.8%となっています。

(3) 卒業後に希望する進路

問 2 3 卒業後、希望する進路についてお答えください。(1つに○)

【図 23 卒業後に希望する進路】



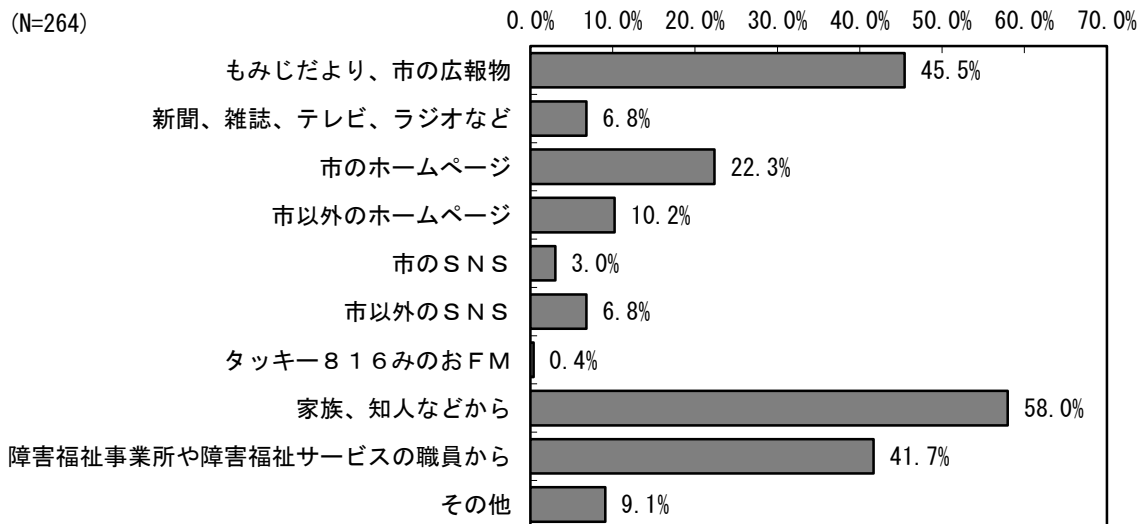
卒業後希望する進路について見ると、「わからない」が 23.5%と最も高く、次いで「大学や専門学校へ進学したい」が 22.7%、「支援を受けながら仕事ができる事業所に通いたい」が 17.4%となっています。

8. 情報収集について

(1) 障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段

問 2 4 障害福祉サービスなどに関する情報を何から入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

【図 24 障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段（複数回答）】

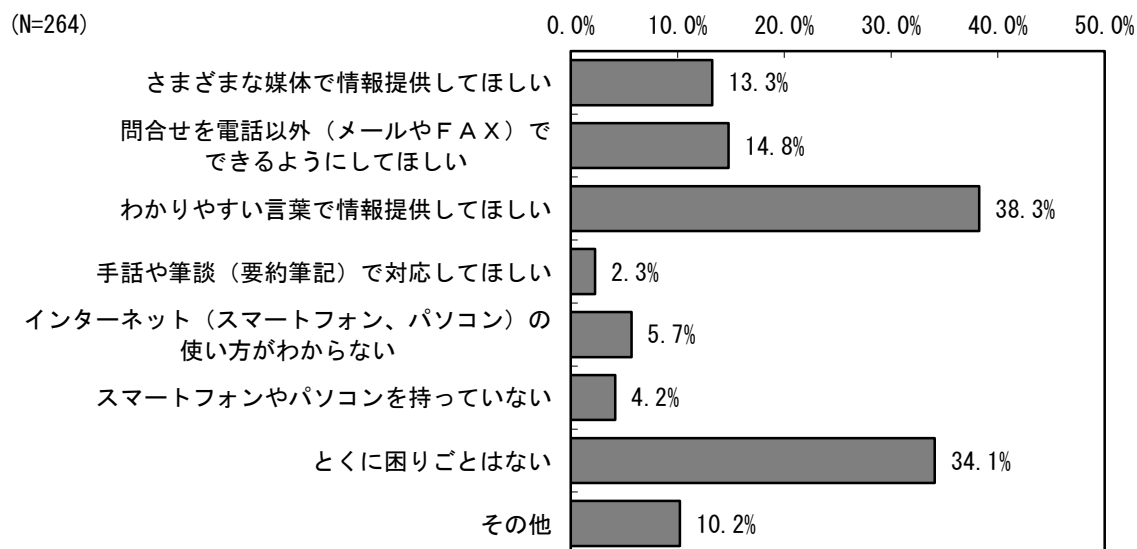


障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段について見ると、「家族、知人などから」が 58.0%と最も高く、次いで「もみじだより、市の広報物（障害福祉サービスのご案内など）」が 45.5%、「障害福祉事業所や障害福祉サービスの職員から」が 41.7%となっています。

(2) 情報収集をする際に求める対応

問 2 5 あなたが情報収集をする際に求める対応は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 25 情報収集をする際に求める対応（複数回答）】



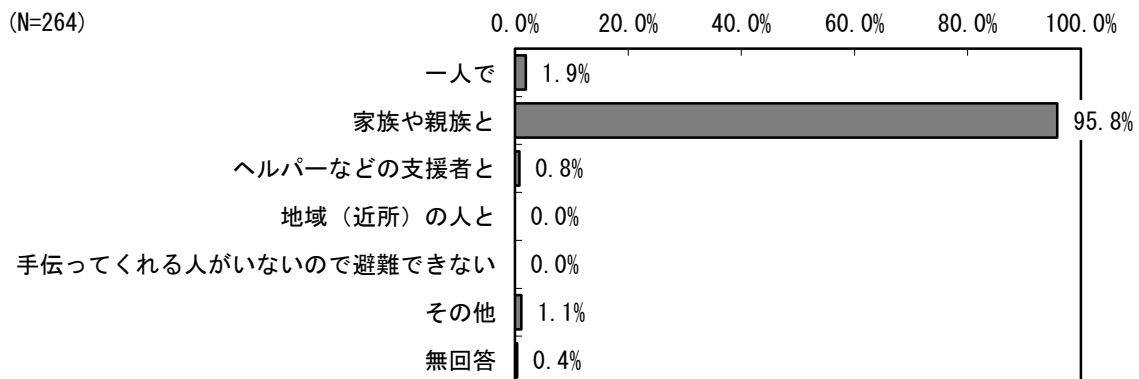
情報収集をする際に求める対応について見ると、「わかりやすい言葉で情報提供してほしい」が 38.3%と最も高く、次いで「とくに困りごとはない」が 34.1%、「問合せを電話以外（メールやFAX）でできるようにしてほしい」が 14.8%となっています。

9. 災害時の避難について

(1) 災害時の避難

問 2 6 あなたは災害が起こったときに、どなたと避難しますか。（1つに○）

【図 26 災害時の避難】

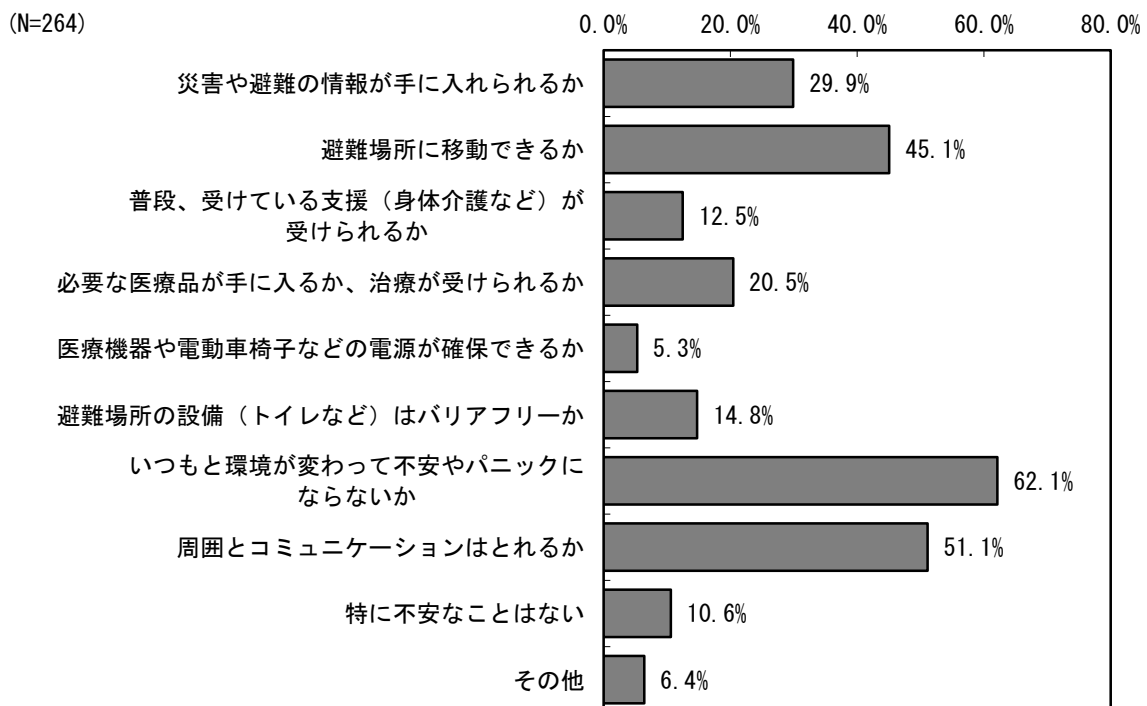


災害時の避難について見ると、「家族や親族と」が 95.8%と最も高く、次いで「一人で」が 1.9%、「その他」が 1.1%となっています。

(2) 災害時の避難で不安なこと

問 2 7 災害時の避難などで不安なことはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

【図 27 災害時の避難で不安なこと（複数回答）】



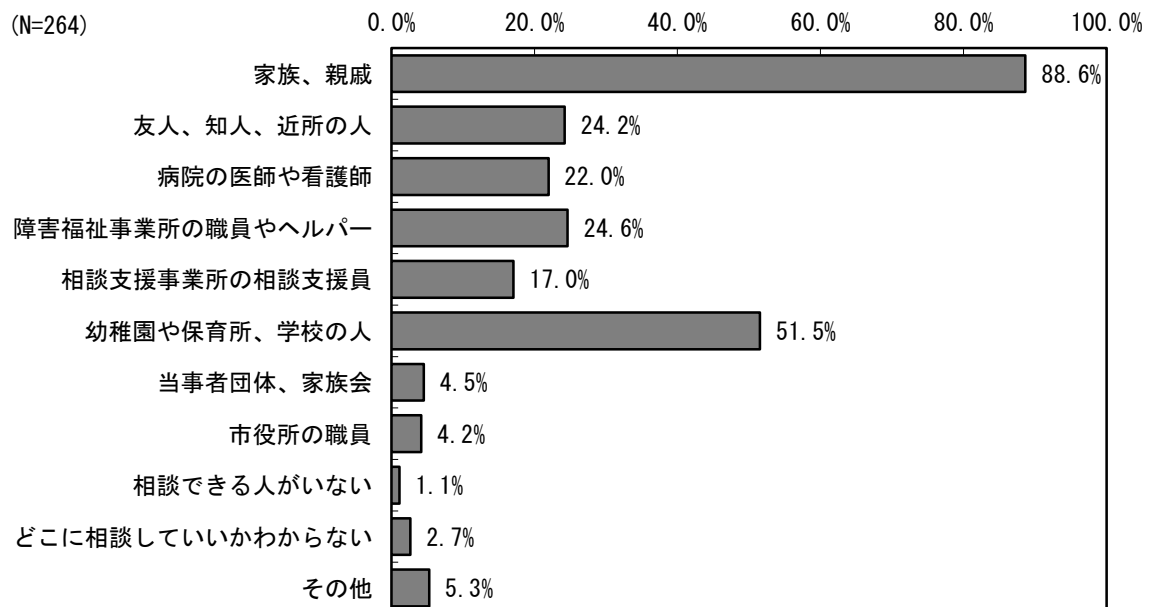
災害時の避難で不安なことについて見ると、「いつもと環境が変わって不安やパニックにならないか」が 62.1%と最も高く、次いで「周囲とコミュニケーションはとれるか」が 51.1%、「避難場所に移動できるか」が 45.1%となっています。

10. 相談相手について

(1) 日頃、相談する人

問 2 8 あなたが日頃、相談する人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

【図 28 日頃、相談する人（複数回答）】



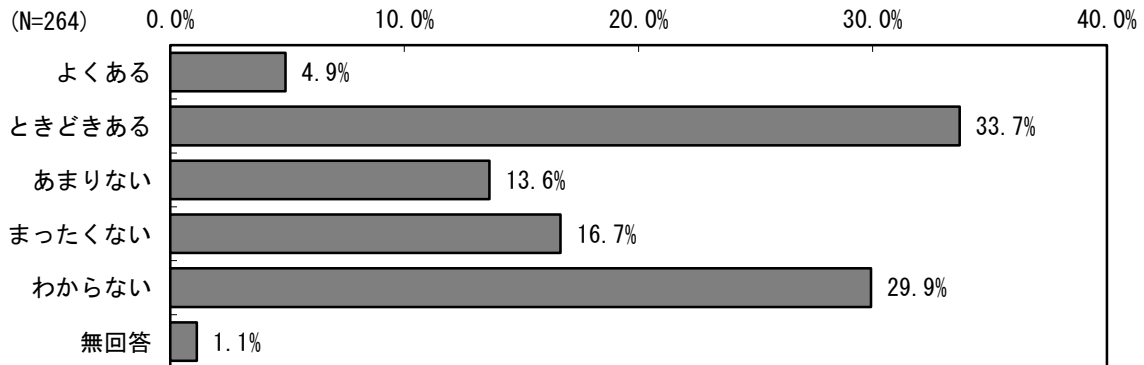
日頃相談する人について見ると、「家族、親戚」が 88.6%と最も高く、次いで「幼稚園や保育所、学校の人」が 51.5%、「障害福祉事業所の職員やヘルパー」が 24.6%となっています。

11. 差別について

(1) 障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験

問 29 (1) あなたは、ここ5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをしたことがありますか。(1つに○)

【図 29-1 障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験】



障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験について見ると、「ときどきある」が33.7%と最も高く、次いで「わからない」が29.9%、「まったくない」が16.7%となっています。

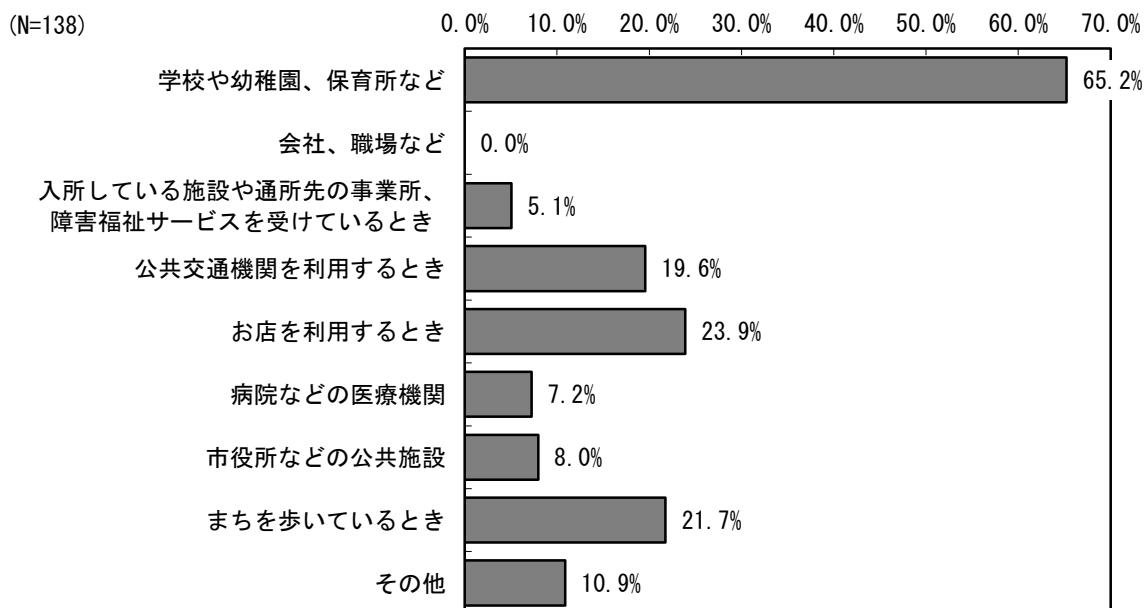
(2) 差別を受けたり嫌な思いをした場面

【問 29 (1) で 1～3 に○をつけたかたにおたずねします。】

※「5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをしたこと」が、「よくある」「ときどきある」「あまりない」と回答した方

問 29 (2) どのような場面で差別を受けたり、嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図 29-2 差別を受けたり嫌な思いをした場面（複数回答）】



差別を受けたり嫌な思いをした場面について見ると、「学校や幼稚園、保育所など」が65.2%と最も高く、次いで「お店を利用するとき」が23.9%、「まちを歩いているとき」が21.7%となっています。

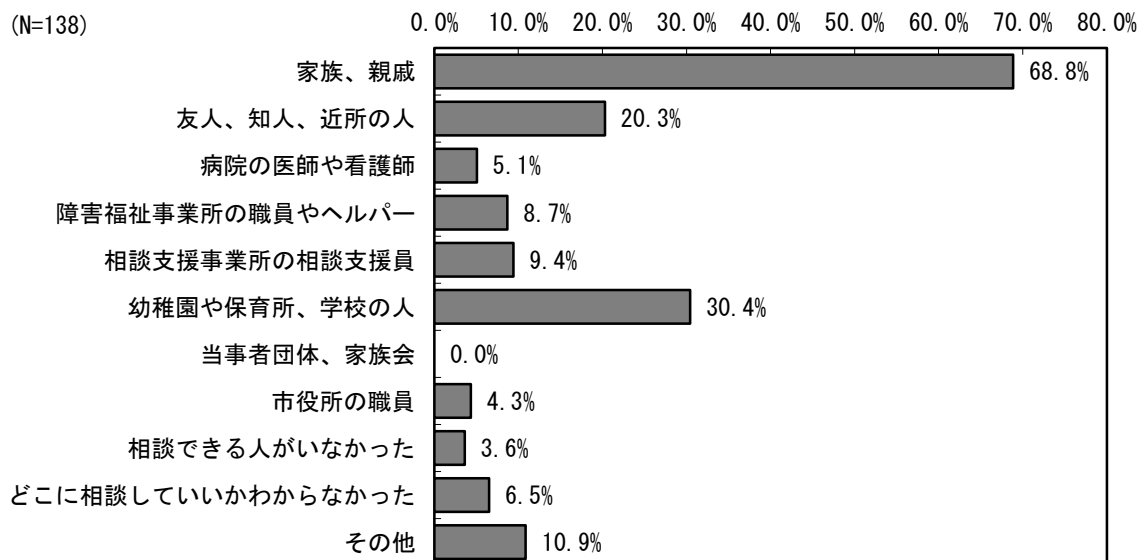
(3) 差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手

【問29(1)で1～3に○をつけたかたにおたずねします。】

※「5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをしたこと」が、「よくある」「ときどきある」「あまりない」と回答した方

問29(3) 差別を受けたり、嫌な思いをしたとき、どなたに相談しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

【図 29-3 差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手（複数回答）】



差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手について見ると、「家族、親戚」が68.8%と最も高く、次いで「幼稚園や保育所、学校の人」が30.4%、「友人、知人、近所の人」が20.3%となっています。

(4) 差別を受けた具体的な内容

【問 29 (1) で 1～3 に○をつけたかたにおたずねします。】

※「5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした差別を受けたり、嫌な思いをしたこと」が、「よくある」「ときどきある」「あまりない」と回答した方

問 29 (4) 差別を受けたり、嫌な思いをしたときの具体的な内容を、可能な範囲でお答えください。(任意回答)

「5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをしたこと」が、「よくある」「ときどきある」「あまりない」と回答した方(138人)のうち85人から、差別を受けた具体的な内容の回答がありました。

【図 29-4 差別を受けた具体的な内容(自由記述)】

回答内容	回答数	構成比
職員や店員などからの差別的な対応	21	24.7%
同級生などからの嫌がらせ、からかい	21	24.7%
外出時での差別的な発言や視線	27	31.8%
その他	16	18.8%
合計	85	100.0%

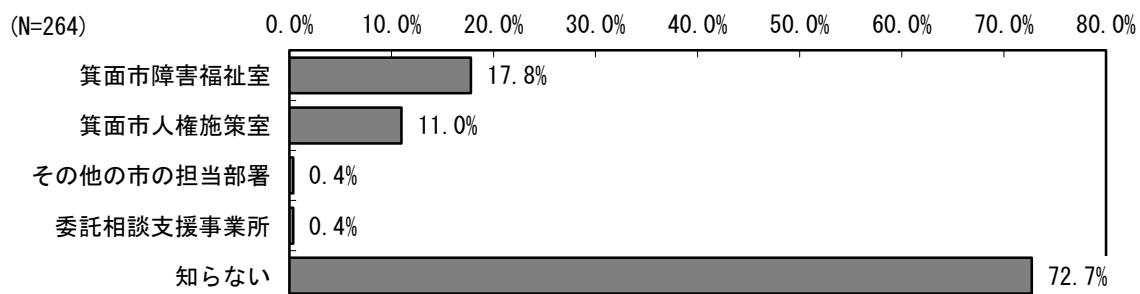
「その他」の記載内容：

- 本人は大変つらい思いをしていて、思い出したくない。
- こちらから動かないとサービスを受けられないものが多い。とりあえず受けられるサービスを教えてほしい。利用料がかかるものも、逆に世帯収入で受けられないサービスがあるならば教えてほしい。
- 市に相談したが解決できなかった。
- よくあることなので一つ一つ覚えていない。
- 勝手に話をしてきたり、決めつけられたり、なんでもかんでも勝手に決められたりすること。 等。

(5) 差別に関する相談窓口の認知度

問 3 0 あなたは、以下の差別に関する相談窓口を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

【図 30 差別に関する相談窓口の認知度 (複数回答)】



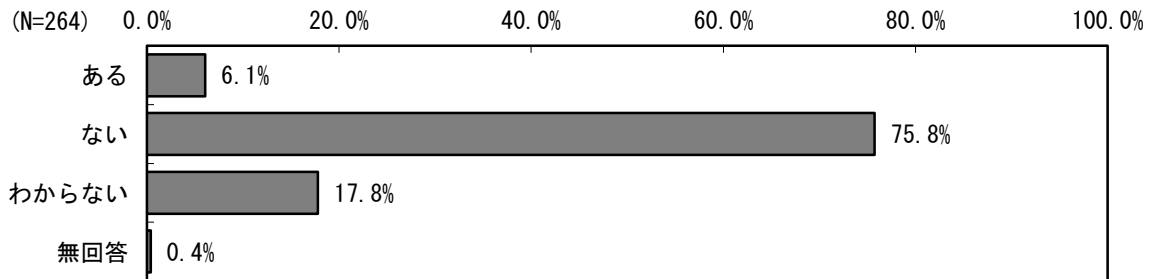
差別に関する相談窓口の認知度について見ると、「知らない」が72.7%と最も高く、次いで「箕面市障害福祉室」が17.8%、「箕面市人権施策室」が11.0%となっています。

12. 虐待について

(1) 虐待を受けた経験

問3 1 (1) あなたは、これまで虐待を受けたことがありますか。(1つに○)

【図 31-1 虐待を受けた経験】



虐待を受けた経験について見ると、「ない」が75.8%と最も高く、次いで「わからない」が17.8%、「ある」が6.1%となっています。

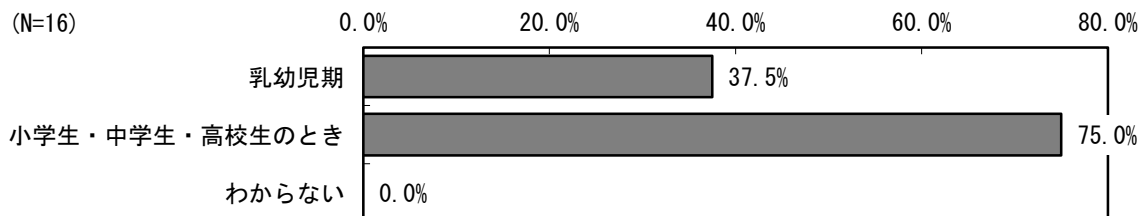
(2) 虐待を受けた時期

【問3 1 (1) で1に○をつけたかたにおたずねします。】

※「これまで虐待を受けたことがある」と回答した方

問3 1 (2) いつ頃、虐待を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図 31-2 虐待を受けた時期 (複数回答)】



虐待を受けた時期について見ると、「小学生・中学生・高校生のとき」が75.0%、「乳幼児期」が37.5%となっています。

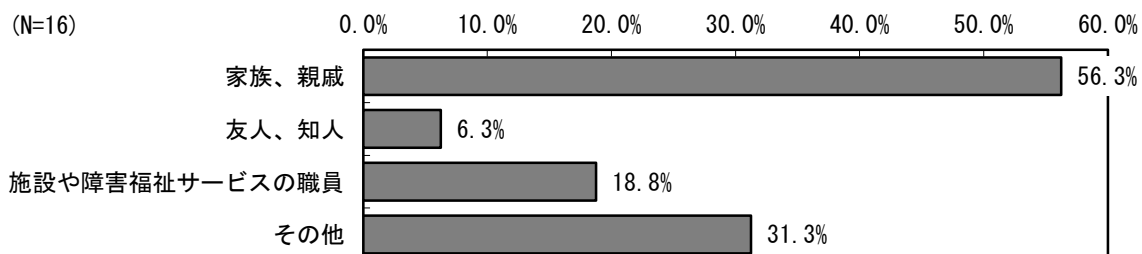
(3) 虐待を受けた相手

【問31(1)で1に○をつけたかたにおたずねします。】

※「これまで虐待を受けたことがある」と回答した方

問31(3) 誰から虐待を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図31-3 虐待を受けた経験(複数回答)】



虐待を受けた相手について見ると、「家族、親戚」が56.3%と最も高く、次いで「その他」が31.3%、「施設や障害福祉サービスの職員」が18.8%となっています。

「その他」は5件あり、このうち4件が学校園等の関係者との回答がありました。

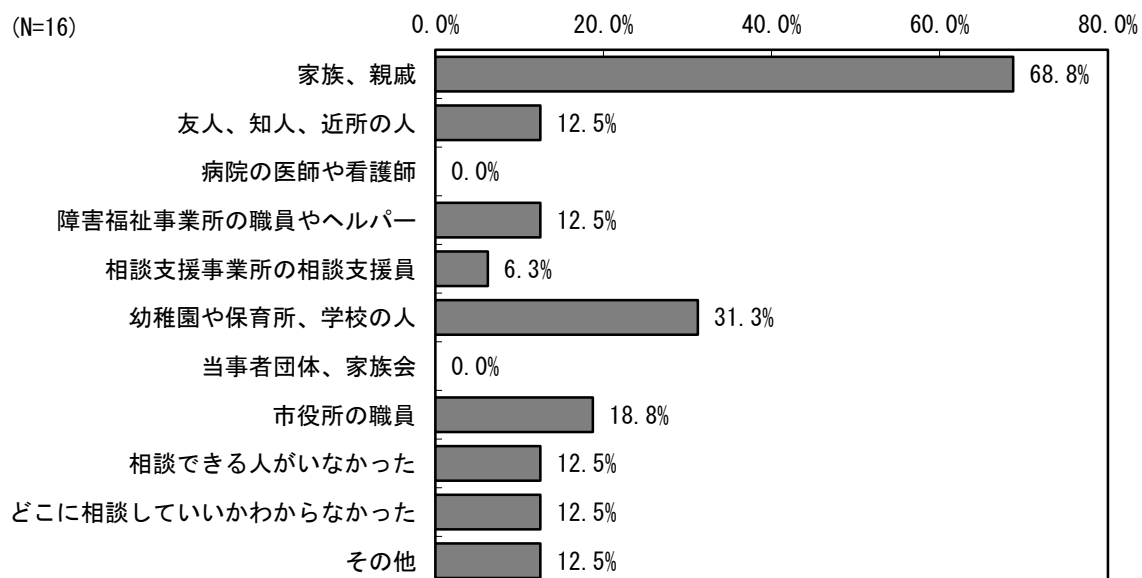
(4) 虐待を受けたときの相談相手

【問31(1)で1に○をつけたかたにおたずねします。】

※「これまで虐待を受けたことがある」と回答した方

問31(4) 虐待を受けたとき、どなたに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図31-4 虐待を受けたときの相談相手(複数回答)】



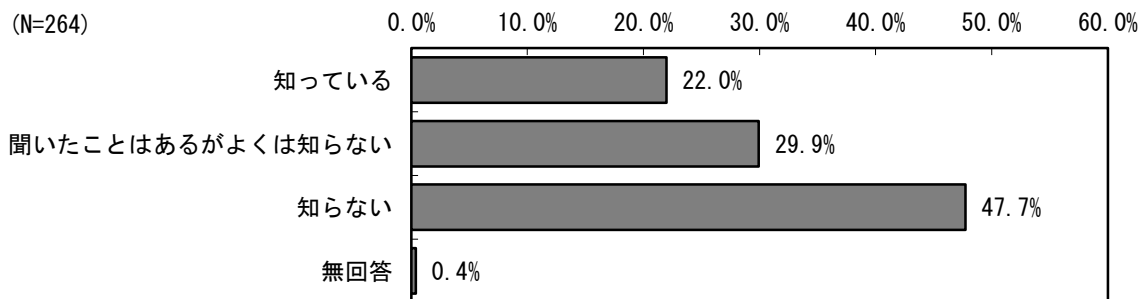
虐待を受けたときの相談相手について見ると、「家族、親戚」が68.8%と最も高く、次いで「幼稚園や保育所、学校の人」が31.3%、「市役所の職員」が18.8%となっています。

13. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

問 3 2 あなたは成年後見制度について知っていますか。(1つに○)

【図 32 成年後見制度の認知度】

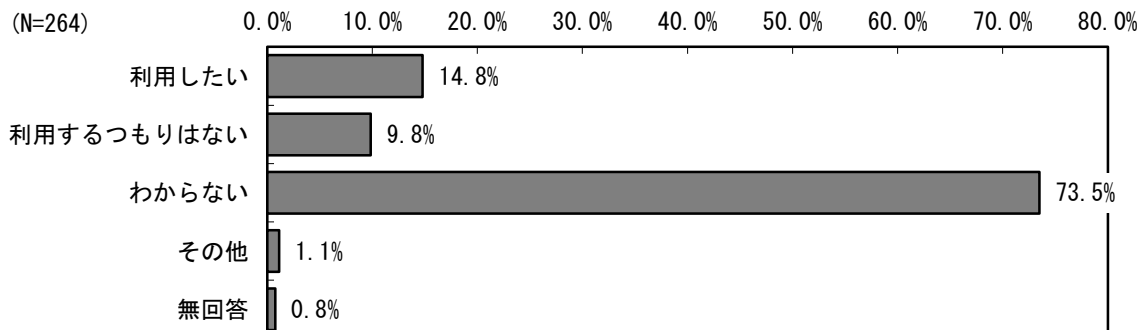


成年後見制度の認知度について見ると、「知らない」が47.7%と最も高く、次いで「聞いたことはあるがよくは知らない」が29.9%、「知っている」が22.0%となっています。

(2) 今後の成年後見制度の利用意向

問 3 3 あなたは今後、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

【図 33 今後の成年後見制度の利用意向】



今後の成年後見制度の利用意向について見ると、「わからない」が73.5%と最も高く、次いで「利用したい」が14.8%、「利用するつもりはない」が9.8%となっています。

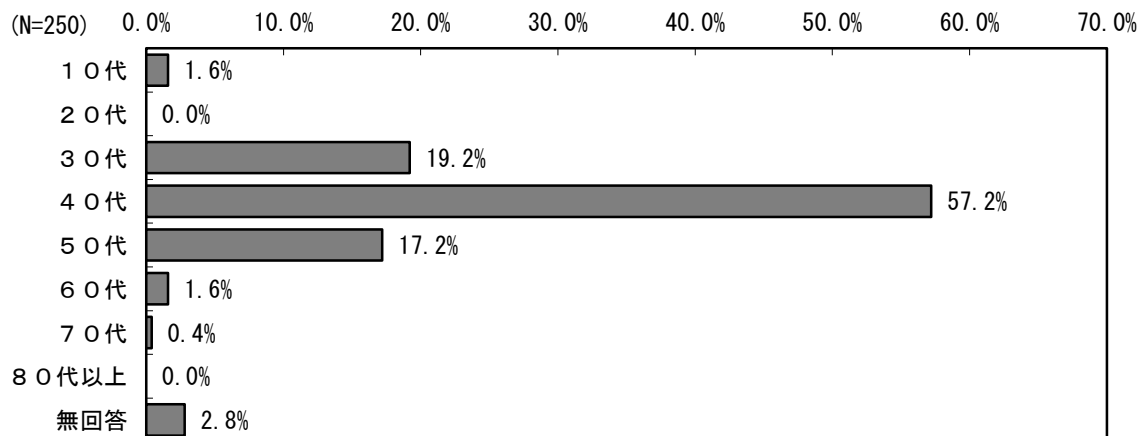
14. 本人以外の回答者について

(1) 回答者（本人以外）の年齢

問34 あなた（障害のあるご本人以外でこのアンケートにお答えいただいているかた。以下同じ。）の年齢はおいくつですか。（1つに○）

※ 令和5年（2023年）1月1日現在でお答えください。

【図34 回答者（本人以外）の年齢】

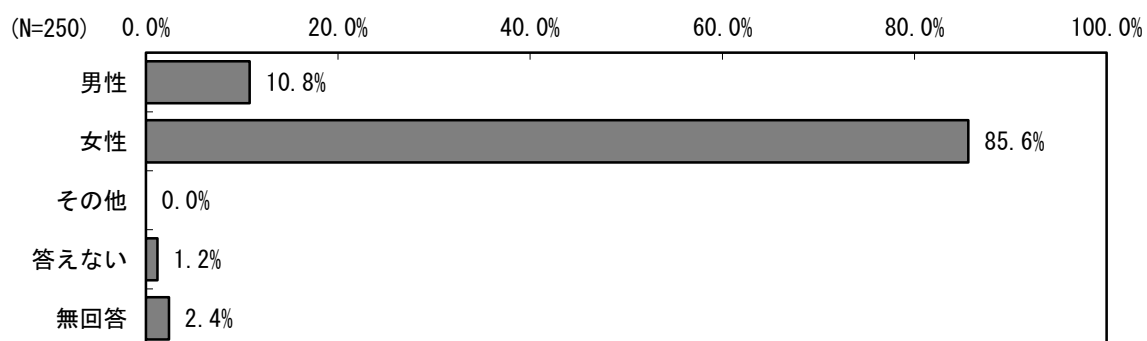


回答者（本人以外）の年齢について見ると、「40代」が57.2%と最も高く、次いで「30代」が19.2%、「50代」が17.2%となっています。

(2) 回答者（本人以外）の性別

問35 あなたの性別をお答えください。（1つに○）

【図35 回答者（本人以外）の性別】

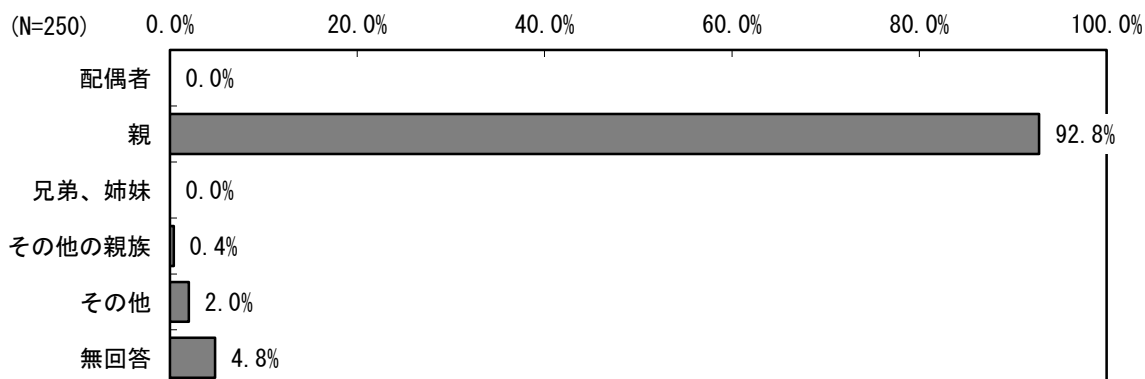


回答者の性別について見ると、「女性」が85.6%と最も高く、次いで「男性」が10.8%、「答えない」が1.2%となっています。

(3) 回答者本人との続柄

問 3 6 障害のあるかたご本人から見たあなたのご関係をお答えください。(1つに○)

【図 36 回答者本人との続柄】

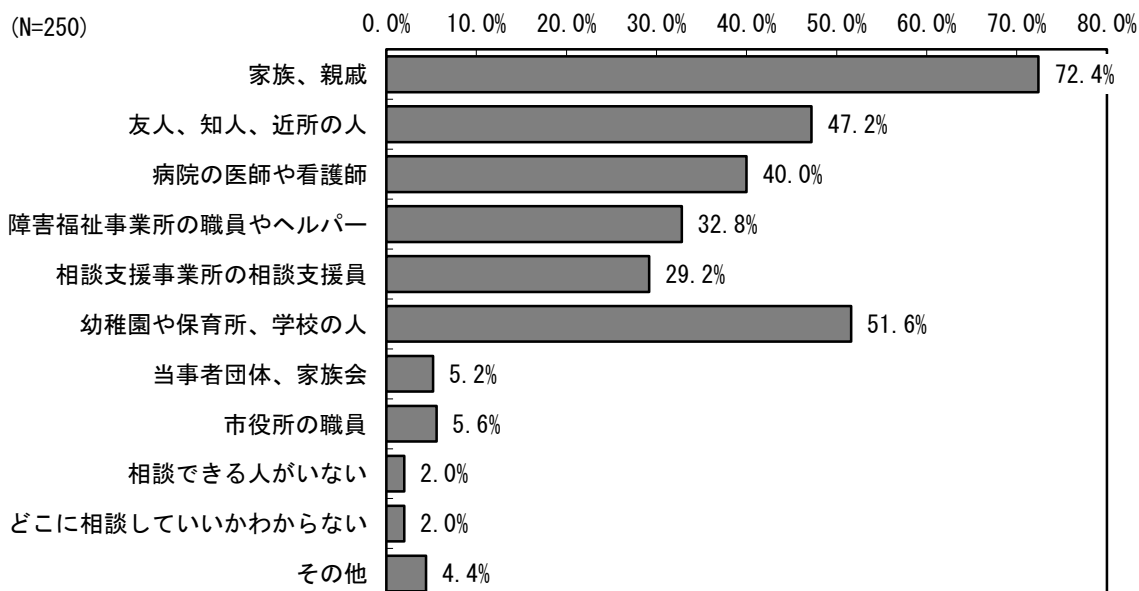


回答者の本人との続柄について見ると、「親」が 92.8%と最も高く、次いで「その他」が 2.0%、「その他の親族」が 0.4%となっています。

(4) 回答者（本人以外）の日頃の相談相手

問 3 7 あなたが日頃、相談する人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 37 回答者（本人以外）の日頃の相談相手（複数回答）】

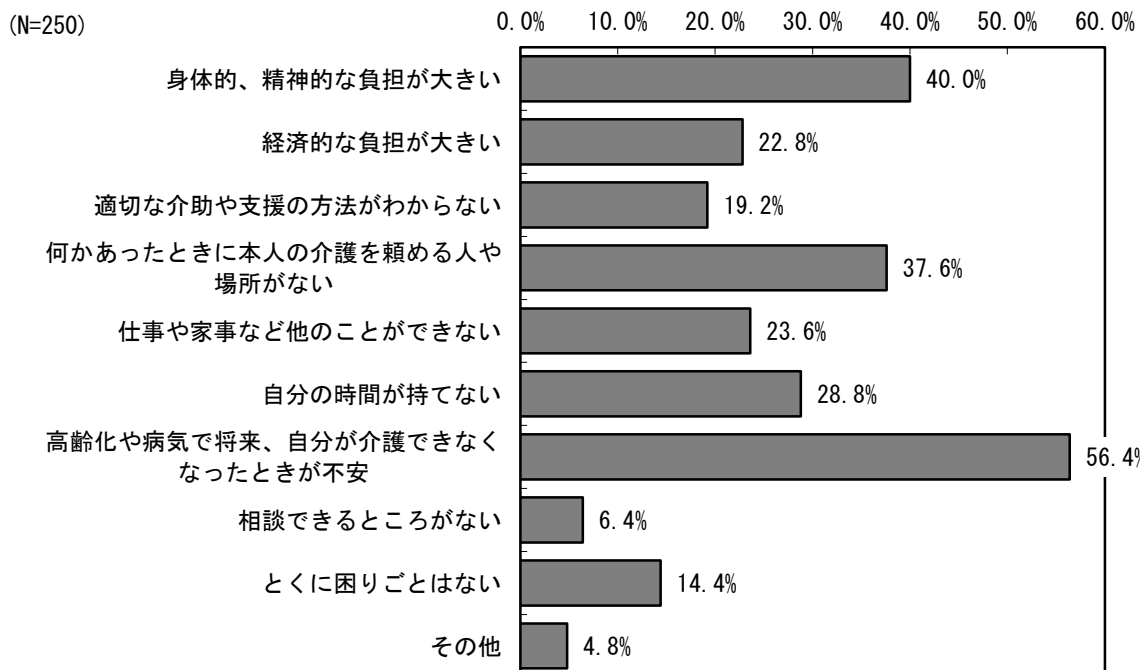


回答者の日頃の相談相手について見ると、「家族、親戚」が 72.4%と最も高く、次いで「幼稚園や保育所、学校の人」が 51.6%、「友人、知人、近所の人」が 47.2%となっています。

(5) 回答者（本人以外）の日頃の困りごと

問38 あなたが日頃、介助や支援をする際の困りごとはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

【図38 回答者（本人以外）の日頃の困りごと（複数回答）】



回答者の日頃の困りごとについて見ると、「高齢化や病気で将来、自分が介護できなくなったときが不安」が56.4%と最も高く、次いで「身体的、精神的な負担が大きい」が40.0%、「何かあったときに本人の介護を頼める人や場所がない」が37.6%となっています。

15. 自由記述（障害福祉サービスや行政の取り組みについての意見・提案）

大分類	小分類	件数	構成比 (%)
1 情報提供、相談体制、窓口対応	1-1 情報提供・周知について	14	
	1-2 相談体制・窓口対応について	23	
	1-3 保護者・介助者への支援について	13	
	小計	50	28.7
2 人権尊重・理解促進	2-1 様々な障害への理解促進について	13	
	小計	13	7.5
3 地域生活	3-1 地域生活や移動手手段について	7	
	小計	7	4.0
4 教育・就学	4-1 教育全般や就学・進学について	25	
	小計	25	14.4
5 就労	5-1 就労について	3	
	小計	3	1.7
6 経済的な問題	6-1 特別児童扶養手当等の所得制限やその他経済的な問題について	11	
	小計	11	6.3
7 障害福祉施策全般	7-1 障害福祉サービスへの内容について	13	
	7-2 各種手続きについて	4	
	7-3 市の障害福祉施策の現状や要望について	37	
	小計	54	31.0
8 その他	8-1 その他	11	
	小計	11	6.3
	合計	174	100.0

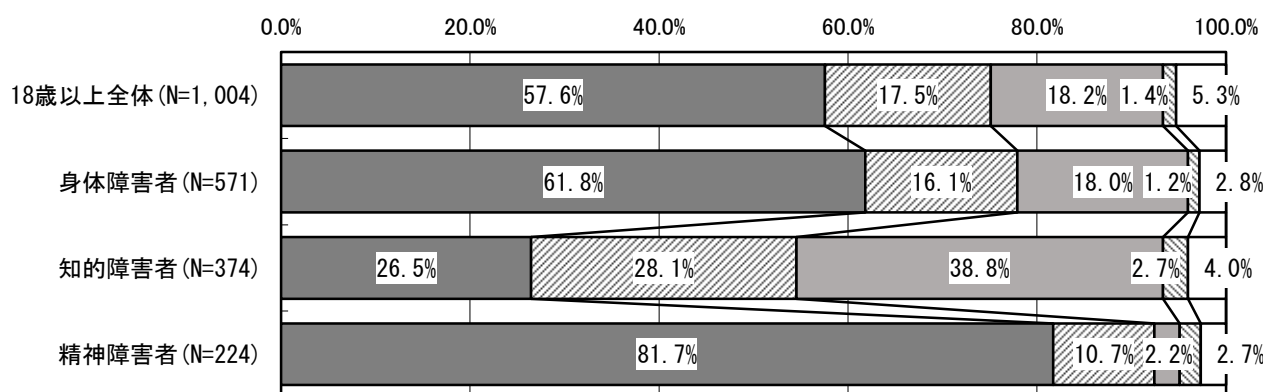
III. 調査結果（②18歳以上の障害者）

1. 回答者について

(1) 回答者

問1 このアンケートを回答されるかたは、どなたですか。（1つに○）

【図1 回答者】



- あて名のご本人（障害があるかた）
- 家族、親族（ご本人に聞いて代わりに記入）
- 家族、親族（ご本人の意見が確認できないため家族の考えで記入）
- 家族以外
- 無回答

回答者について見ると、「あて名のご本人（障害があるかた）」が57.6%と最も高く、次いで「家族、親族（ご本人の意見が確認できないため家族の考えで記入）」が18.2%、「家族、親族（ご本人に聞いて代わりに記入）」が17.5%となっています。

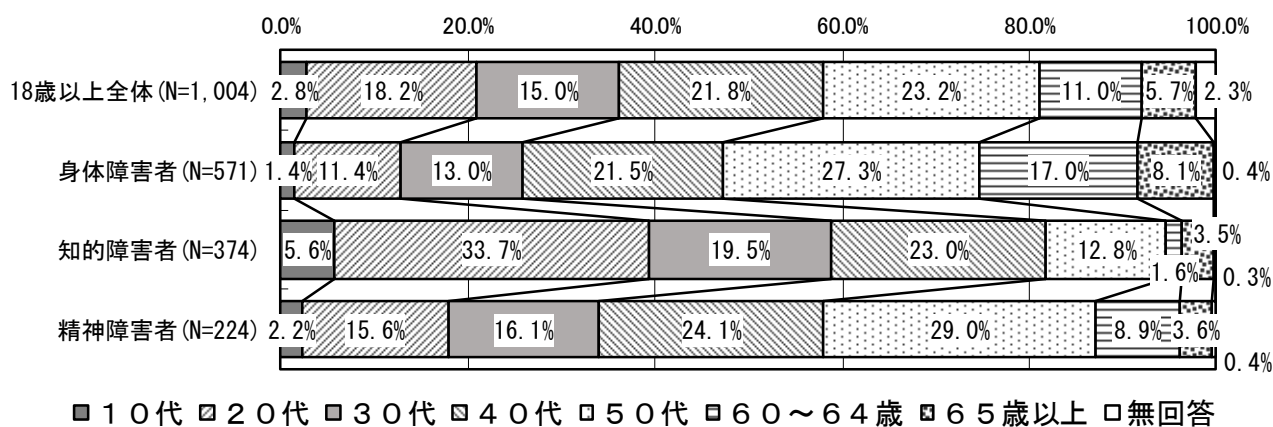
障害種別ごとに見ると、身体障害者と精神障害者は「あて名のご本人（障害があるかた）」が6割から8割となっています。知的障害者は「家族、親族（ご本人の意見が確認できないため家族の考えで記入）」が38.8%と最も高くなっています。

(2) 年齢

問2 あなた（障害があるかたご本人。以下同じ。）の年齢はおいくつですか。（1つに○）

※ 令和5年（2023年）1月1日現在でお答えください。

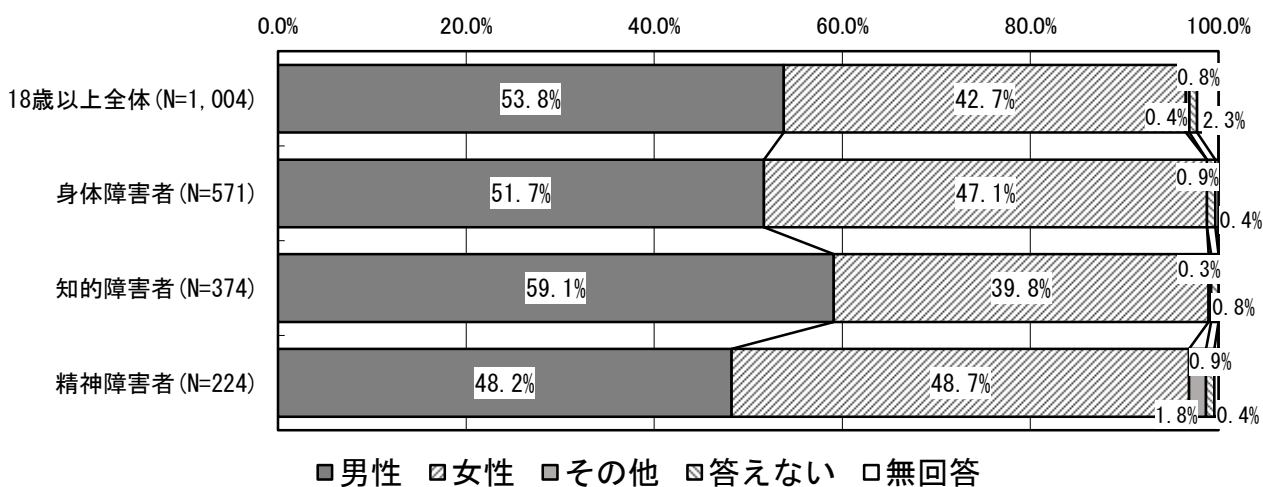
【図2 年齢】



(3) 性別

問3 あなたの性別をお答えください。（1つに○）

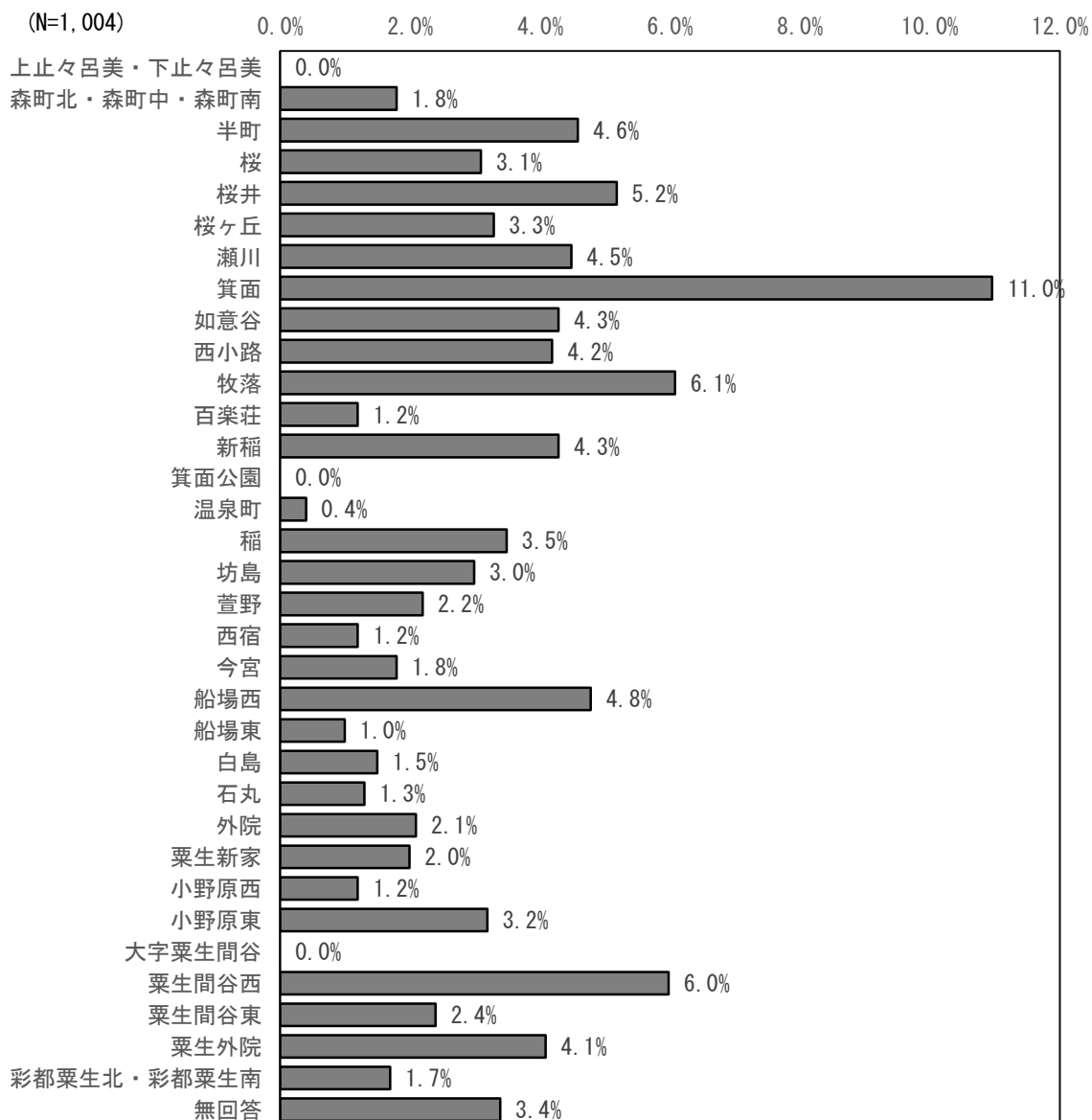
【図3 性別】



(4) 居住地域

問4 あなたのお住まいの地域はどこですか。(1つに○)

【図4 居住地域】

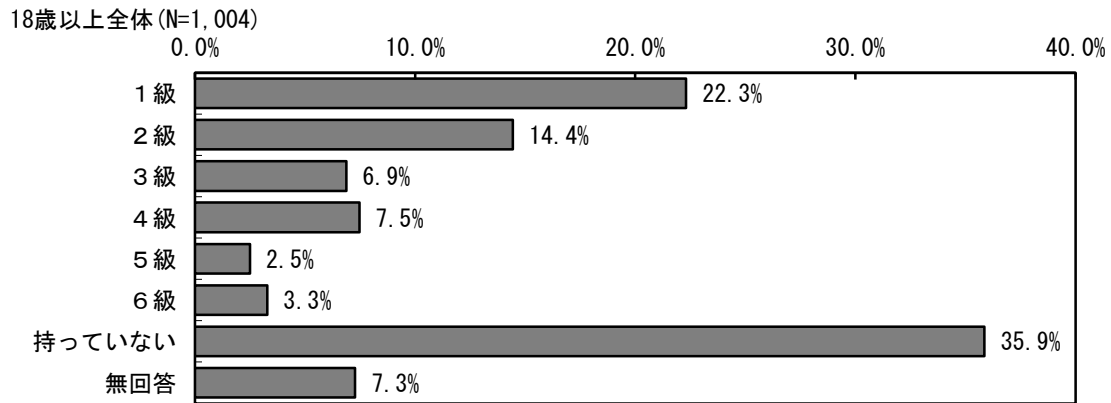


2. 障害について

(1) 身体障害者手帳の所持状況

問5 (1) あなたは身体障害者手帳をお持ちですか。(1つに○)

【図5-1 身体障害者手帳の所持状況】



身体障害者手帳を所持している人のうち、「1級」が22.3%と最も多く、次いで「2級」が14.4%となっています。

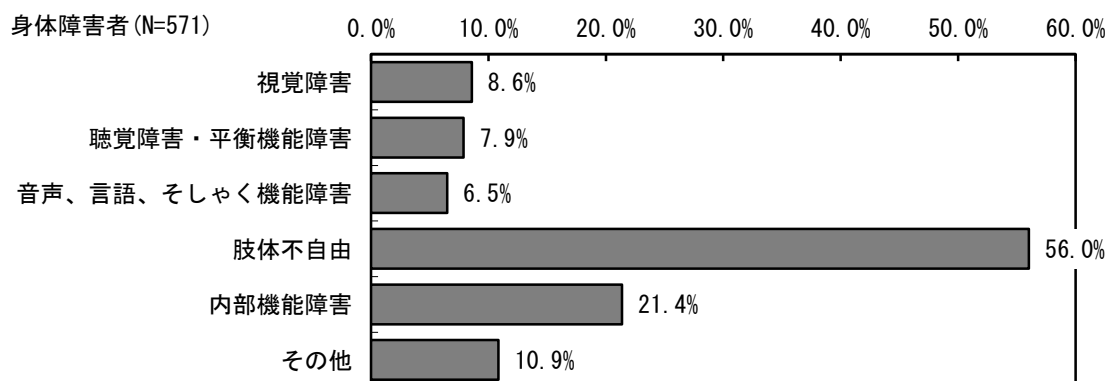
(2) 身体障害の種類

【問5 (1) で1～6のいずれかに○をつけたかたにおたずねします。】

※「身体障害者手帳を持っている」と回答した方

問5 (2) あなたが診断されている障害は何ですか。(あてはまるものにすべてに○、障害が複数ある場合は、主な障害に◎をつけてください)

【図5-2 身体障害の種類（複数回答）】

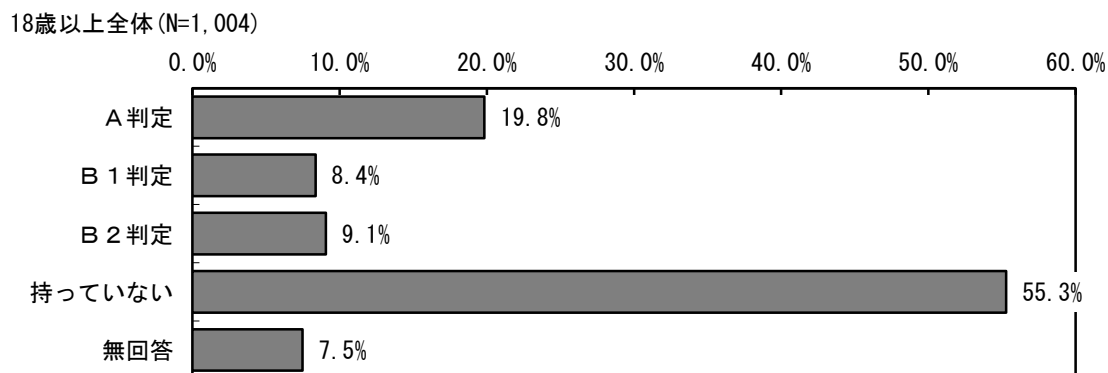


身体障害の種類（複数回答）について見ると、「肢体不自由（上肢、下肢、体幹、運動機能障害）」が56.0%と最も高く、次いで「内部機能障害（心臓、腎臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓、免疫）」が21.4%、「その他」が10.9%となっています。

(3) 療育手帳の所持状況

問6 あなたは療育手帳をお持ちですか。(1つに○)

【図6 療育手帳の所持状況】

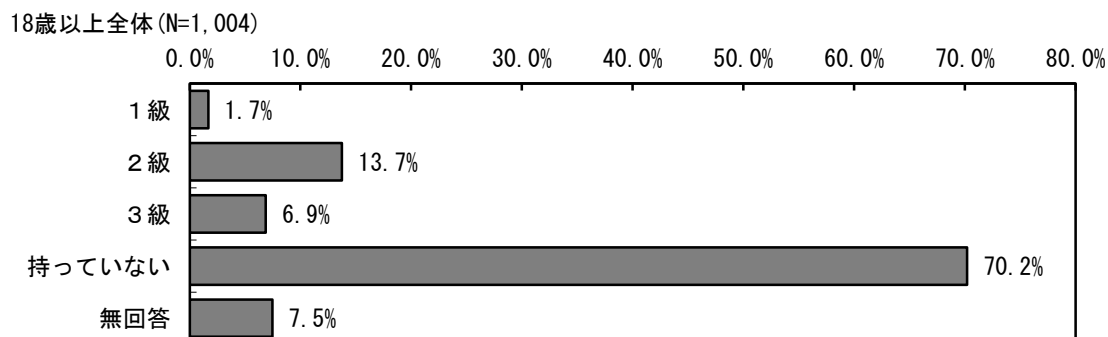


療育手帳を所持している人のうち、「A判定」が19.8%と最も多く、次いで「B2判定」が9.1%となっています。

(4) 精神障害者保健福祉手帳の所持状況

問7 あなたは精神障害者保健福祉手帳をお持ちですか。(1つに○)

【図7 精神障害者保健福祉手帳の所持状況】

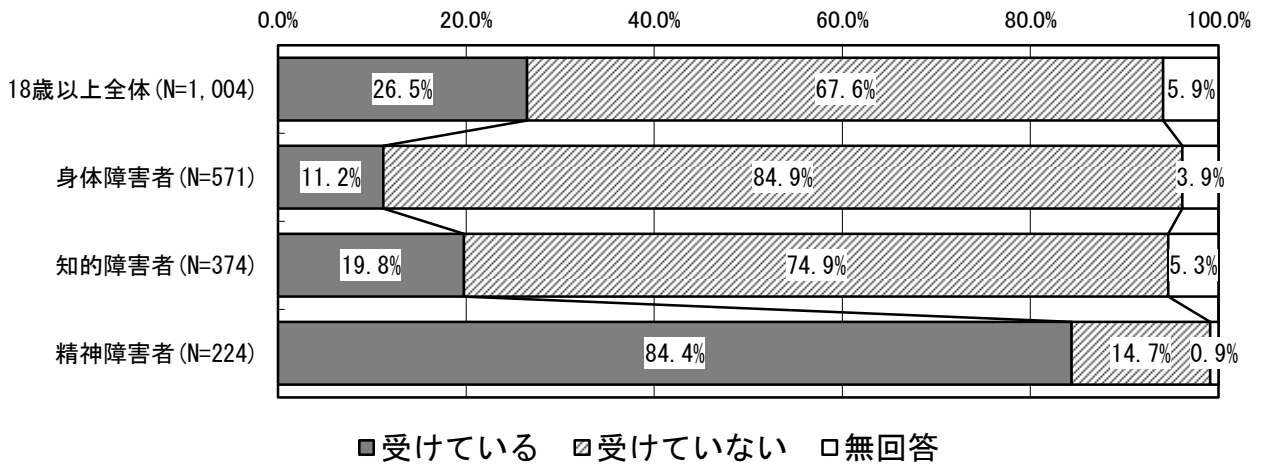


精神障害者保健福祉手帳を所持している人のうち、「2級」が13.7%と最も多く、次いで「3級」が6.9%となっています。

(5) 自立支援医療（精神通院医療）を受けているか

問 8 自立支援医療（精神通院医療）を受けていますか。（1つに○）

【図 8 自立支援医療（精神通院医療）を受けているか】

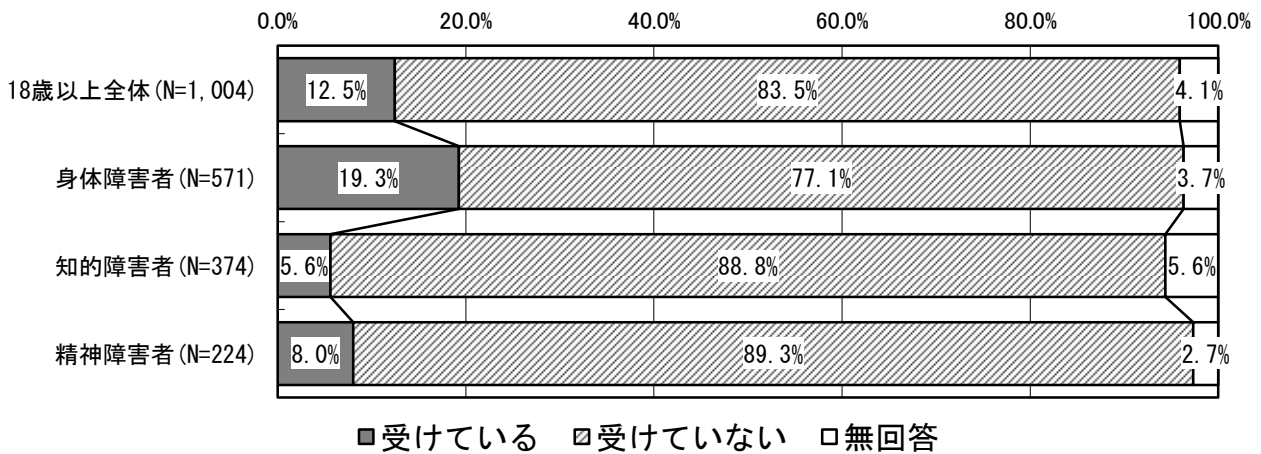


自立支援医療（精神通院医療）については、「受けている」が 26.5%となっています。

(6) 指定難病の診断

問 9 あなたは指定難病の診断を受けていますか。（1つに○）

【図 9 指定難病の診断】



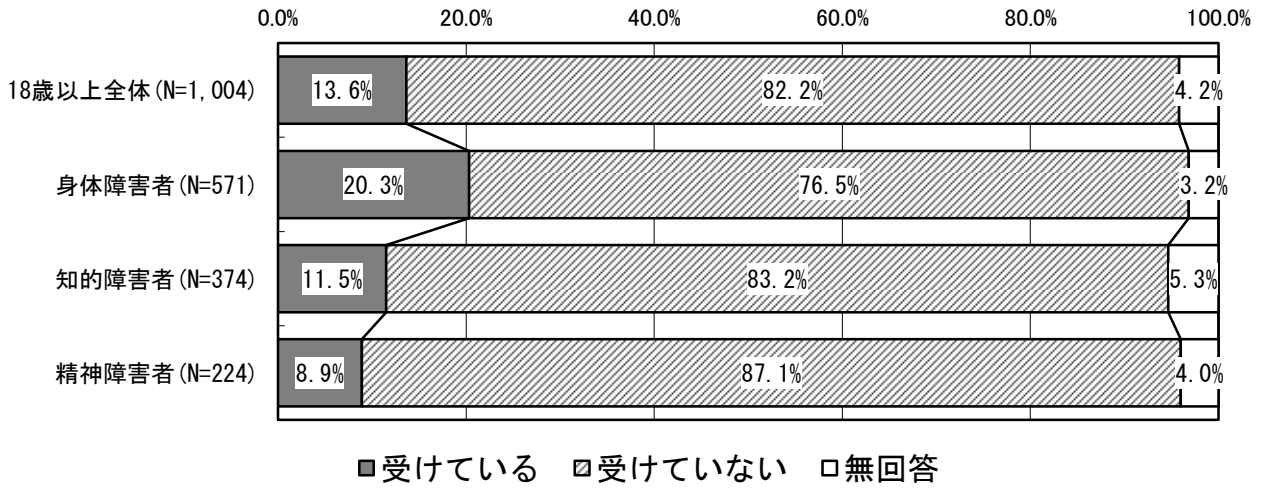
指定難病の診断については「受けている」が 12.5%となっています。

3. 医療的ケアについて

(1) 医療的ケアを受けているか

問10(1) あなたは医療的ケアを受けていますか。(1つに○)

【図 10-1 医療的ケアを受けているか】



医療的ケアを受けているかについて見ると、「受けていない」が 82.2%、「受けている」が 13.6%となっています。

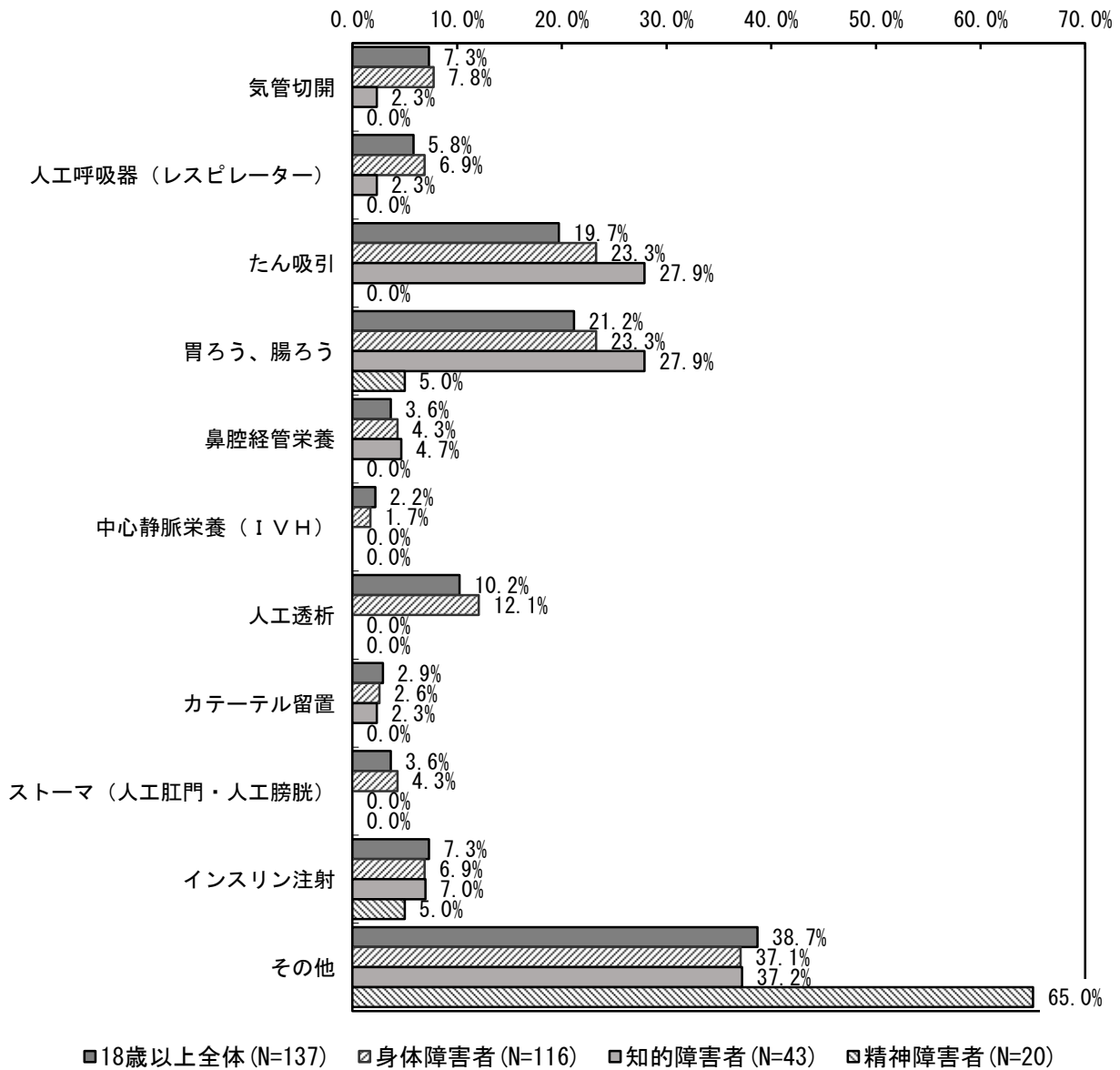
(2) 受けている医療的ケア

【問10(1)で1に○をつけたかたにおたずねします。】

※「医療的ケアを受けている」と回答した方

問10(2) あなたが受けている医療的ケアはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

【図10-2 受けている医療的ケア(複数回答)】



受けている医療的ケアについて見ると、「その他」を除くと「胃ろう、腸ろう」が21.2%と最も多く、次いで「たん吸引」が19.7%となっています。

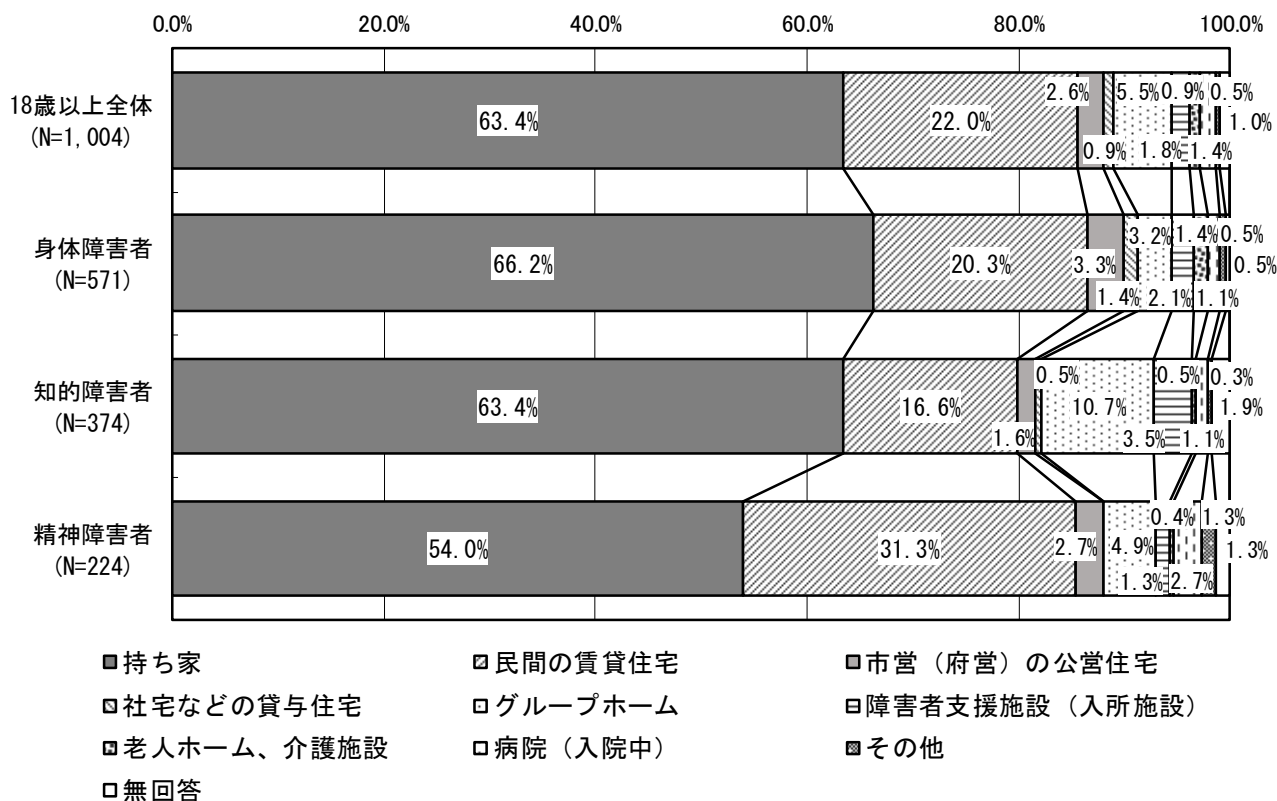
「その他」としては、投薬、酸素吸入等の回答がありました。

4. 住まいについて

(1) 住まいの形態

問 1 1 あなたのお住まいは、どのような形態ですか（1つに○）

【図 11 住まいの形態】



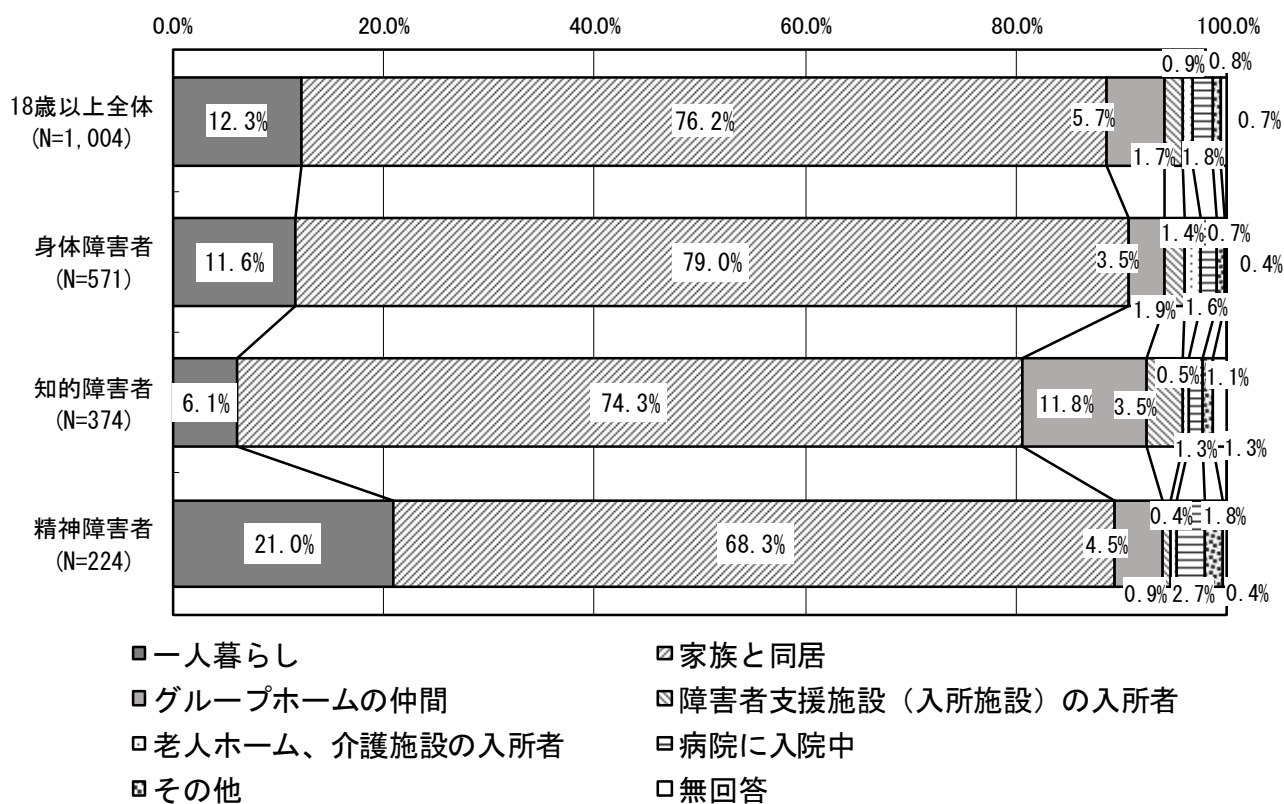
住まいの形態について見ると、「持ち家」が63.4%と最も高く、次いで「民間の賃貸住宅」が22.0%、「グループホーム」が5.5%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「持ち家」が5割から6割と最も高くなっています。

(2) 同居者の状況

問 1 2 あなたは、どなたとお住まいですか。（1つに○）

【図 12 同居者の状況】



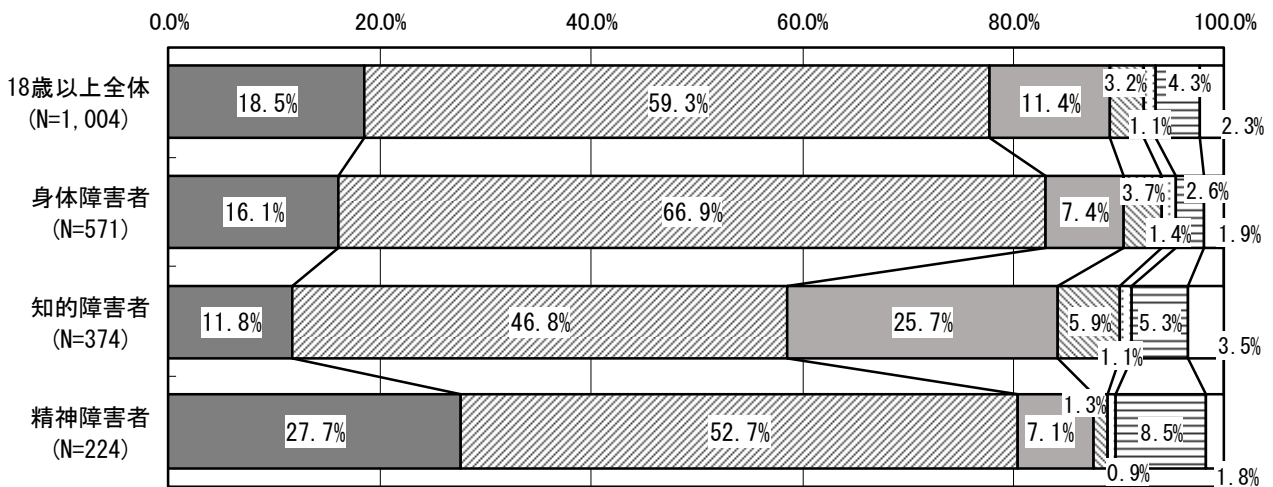
同居人の状況について見ると、「家族と同居」が76.2%と最も高く、次いで「一人暮らし」が12.3%、「グループホームの仲間」が5.7%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「家族と同居」が6割から7割と最も高くなっています。

(3) この先5年以内の希望の暮らし

問13 (1) あなたはこの先5年以内に、どのような暮らしをしたいと思いますか (1つに○)

【図13-1 この先5年以内の希望の暮らし】



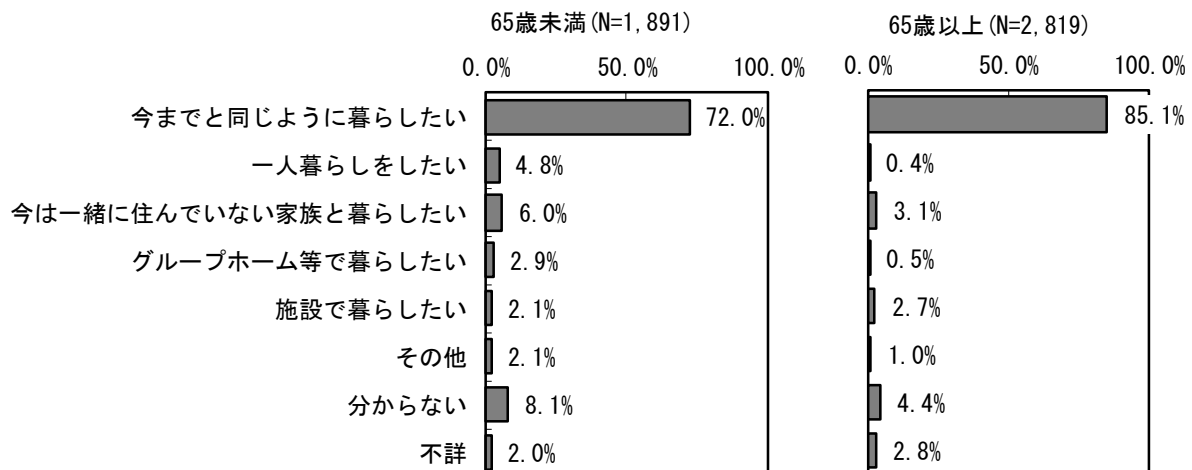
- 一人で暮らしたい
- 家族と一緒に自宅で暮らしたい
- 共同生活ができるグループホームなどを利用したい
- 障害者支援施設(入所施設)を利用したい
- 老人ホームや介護施設を利用したい
- その他
- 無回答

この先5年以内の希望の暮らしについて見ると、「家族と一緒に自宅で暮らしたい」が59.3%と最も高く、次いで「一人で暮らしたい」が18.5%、「共同生活ができるグループホームなどを利用したい」が11.4%となっています。障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「家族と一緒に自宅で暮らしたい」が最も高くなっています。他の障害種別と比べて知的障害者は、「共同生活ができるグループホームなどを利用したい」が高くなっています。

参考

厚生労働省 平成28年 生活のしづらさなどに関する調査 (全国在宅障害児・者等実態調査)

【図13-1-1 今後どのように暮らしたいか(総数)】



(4) グループホームを利用する際に求める条件

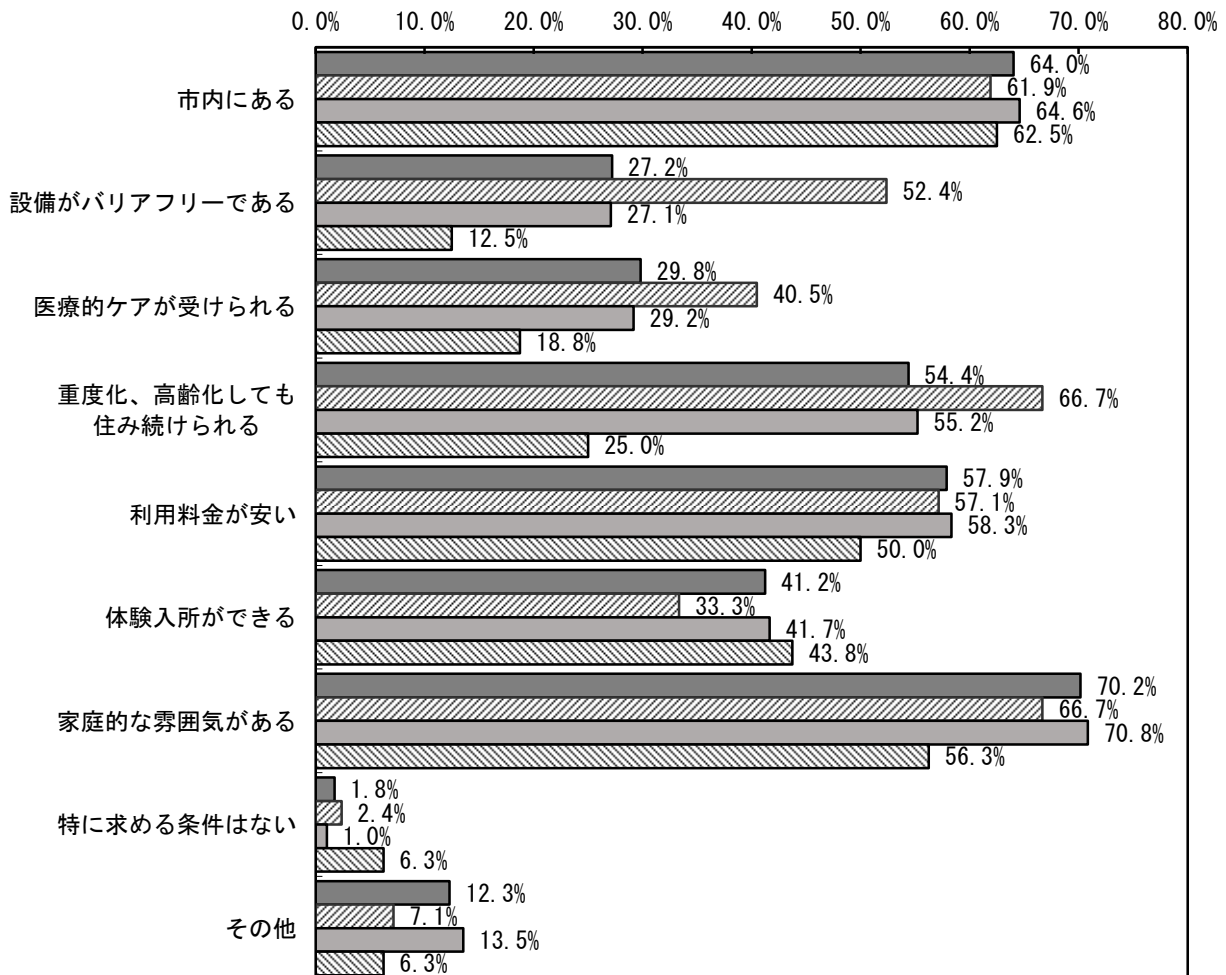
【問 1 3 (1) で 3 に○をつけたかたにおたずねします。】

※「共同生活ができるグループホームなどを利用したい」と回答した方

問 1 3 (2) あなたがグループホームを利用する際に求める条件は何ですか。

(あてはまるものすべてに○)

【図 13-2 グループホームを利用する際に求める条件（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=114) □身体障害者 (N=42) □知的障害者 (N=96) □精神障害者 (N=16)

グループホームを利用する際に求める条件について見ると、「家庭的な雰囲気がある」が70.2%と最も高く、次いで「市内にある」が64.0%、「利用料金が安い」が57.9%となっています。

障害種別ごとに見ると、

身体障害者は、「重度化、高齢化しても住み続けられる」、「家庭的な雰囲気がある」が66.7%と最も高く、次いで「市内にある」が61.9%となっています。

知的障害者は、「家庭的な雰囲気がある」が70.8%と最も高く、次いで「市内にある」が64.6%、「利用料金が安い」が58.3%となっています。

精神障害者は、「市内にある」が62.5%と最も高く、次いで「家庭的な雰囲気がある」が56.3%、「利用料金が安い」が50.0%となっています。

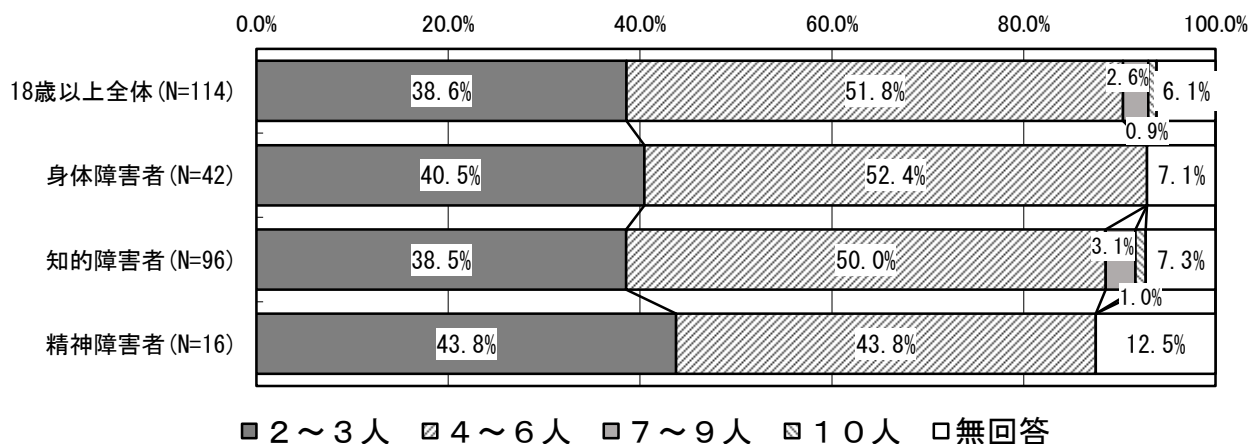
(5) 希望するグループホームで一緒に生活する人数の上限

【問 1 3 (1) で 3 に○をつけたかたにおたずねします。】

※「共同生活ができるグループホームなどを利用したい」と回答した方

問 1 3 (3) あなたがグループホームを利用する際に一緒に生活する（食事をしたりする）人数は、自分を含めて何人までがいいですか。（1つに○）

【図 13-3 希望するグループホームで一緒に生活する人数の上限】



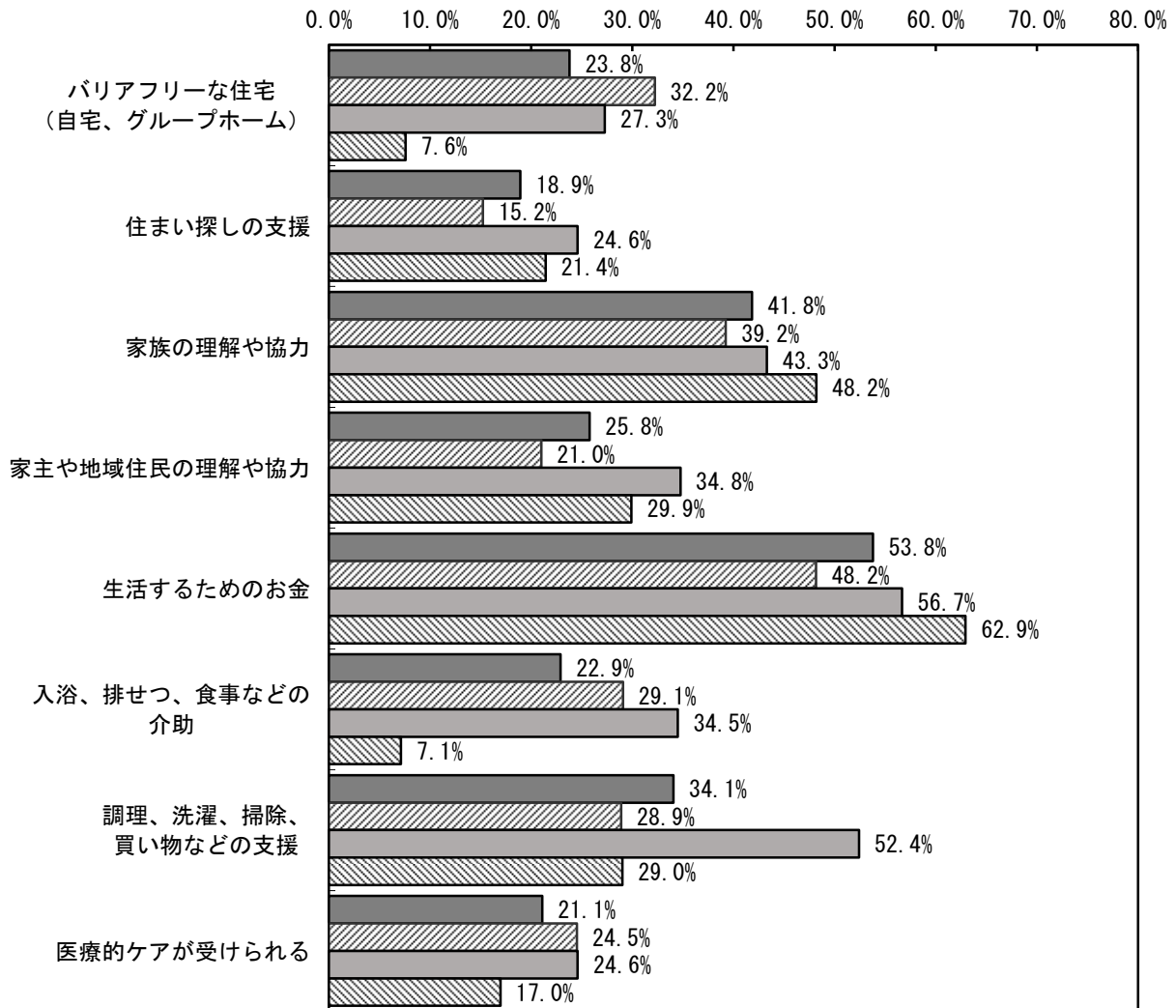
希望するグループホームで一緒に生活する人数の上限について見ると、「4～6人」が51.8%と最も高く、次いで「2～3人」が38.6%、「7～9人」が2.6%となっています。

障害種別による大きな差異は見られません。

(6) 地域で暮らしていくために必要な支援

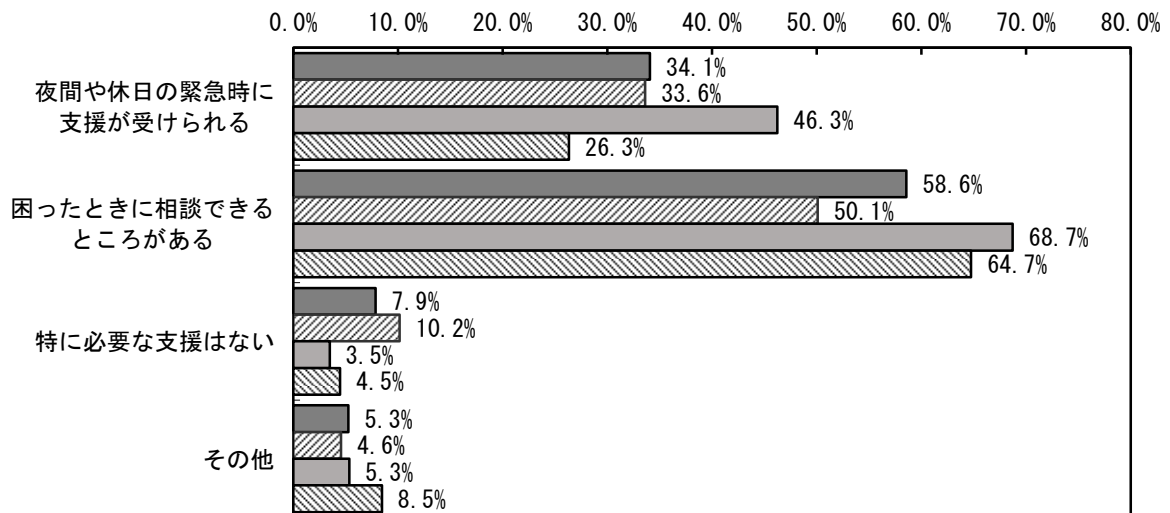
問 1 4 あなたが地域で暮らしていくために必要な支援は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 14 地域で暮らしていくために必要な支援（複数回答）】（1）



■18歳以上全体 (N=1,004) □身体障害者 (N=571) ▨知的障害者 (N=374) ▩精神障害者 (N=224)

【図 14 地域で暮らしていくために必要な支援（複数回答）】（2）



■18歳以上全体 (N=1,004) □身体障害者 (N=571) ▨知的障害者 (N=374) ▩精神障害者 (N=224)

地域で暮らしていくために必要な支援について見ると、「困ったときに相談できるところがある」が58.6%と最も高く、次いで「生活するためのお金」が53.8%、「家族の理解や協力」が41.8%となっています。

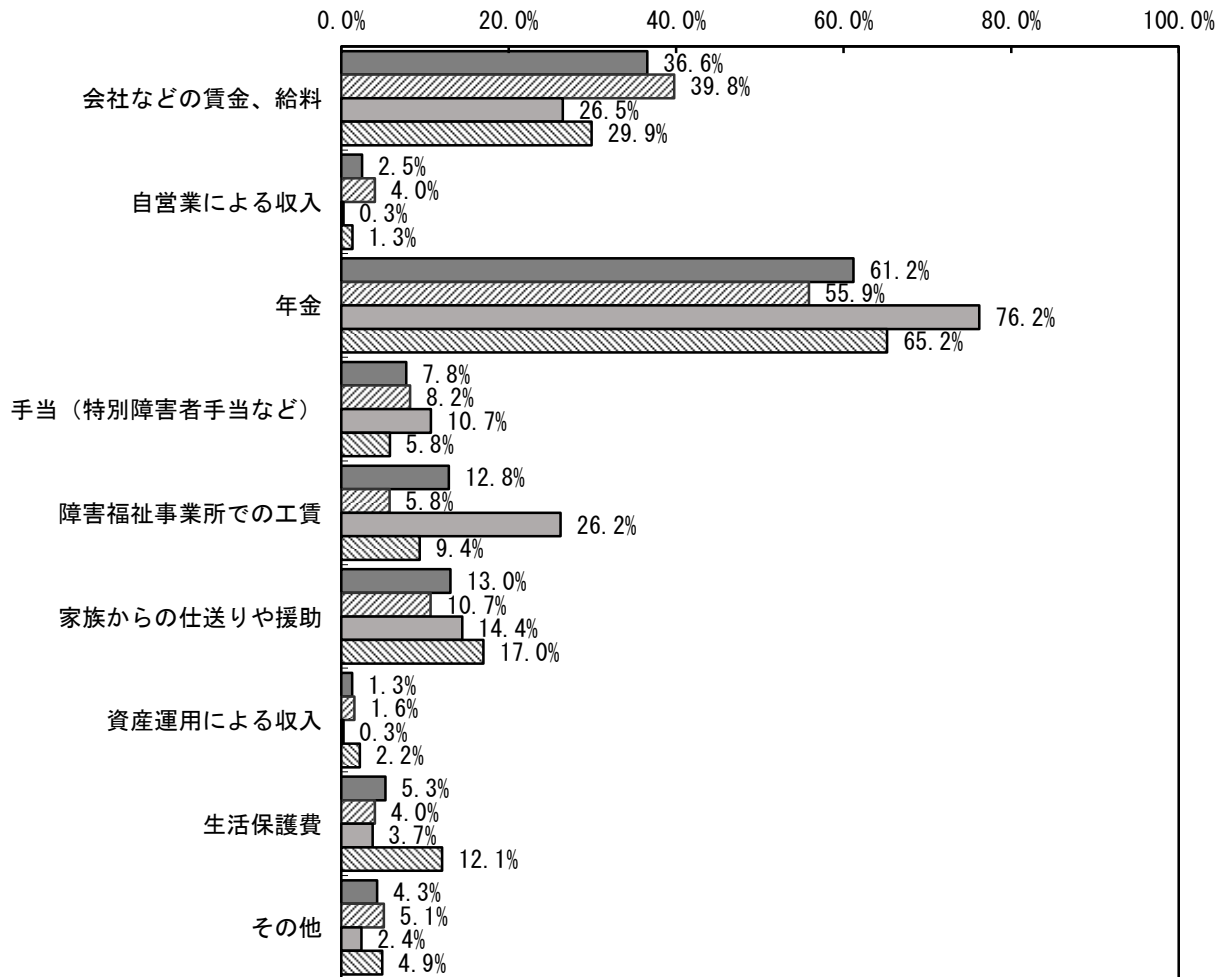
障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「困ったときに相談できるところがある」が最も高く、次いで「生活するためのお金」となっています。

5. 収入について

(1) 現在の収入源

問 1 5 現在、あなたはどのような収入がありますか。(あてはまるものすべてに○)

【図 15 現在の収入源（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=1,004) □身体障害者 (N=571) ▨知的障害者 (N=374) ▩精神障害者 (N=224)

現在の収入源について見ると、「年金」が61.2%と最も高く、次いで「会社などの賃金、給料」が36.6%、「家族からの仕送りや援助」が13.0%となっています。

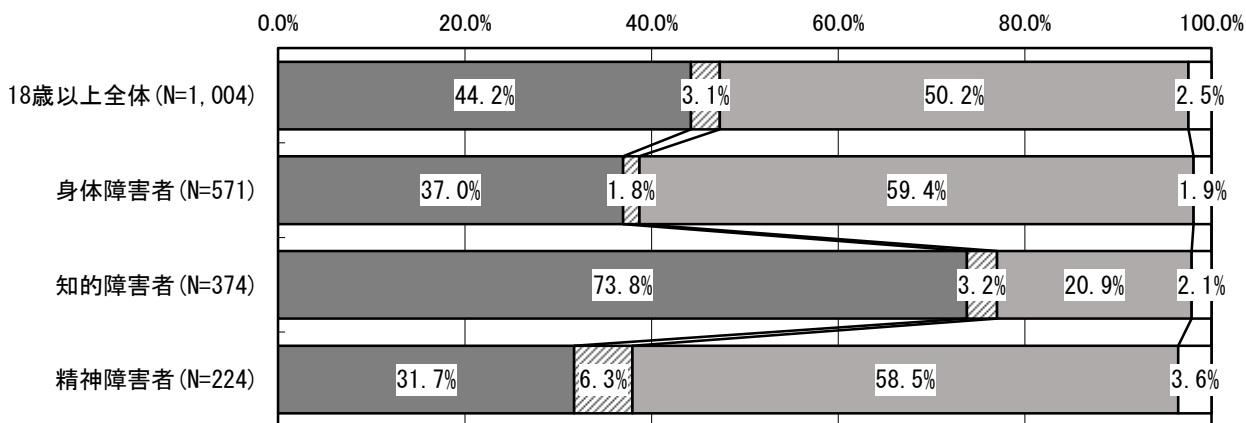
障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「年金」が最も高く、次いで「会社などの賃金、給料」となっています。

6. 障害福祉サービスの利用状況

(1) 障害福祉サービスの利用状況

問 1 6 (1) あなたは障害福祉サービスを利用していますか。(1 つに○)

【図 16-1 障害福祉サービスの利用状況】



■利用している □利用したいものがあるが利用できていない □利用していない □無回答

障害福祉サービスの利用状況について見ると、「利用していない」が 50.2%と最も高く、次いで「利用している」が 44.2%、「利用したいものがあるが利用できていない」が 3.1%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者と精神障害者は「利用している」が約 3 割となっていますが、知的障害者は 73.8%と高くなっています。

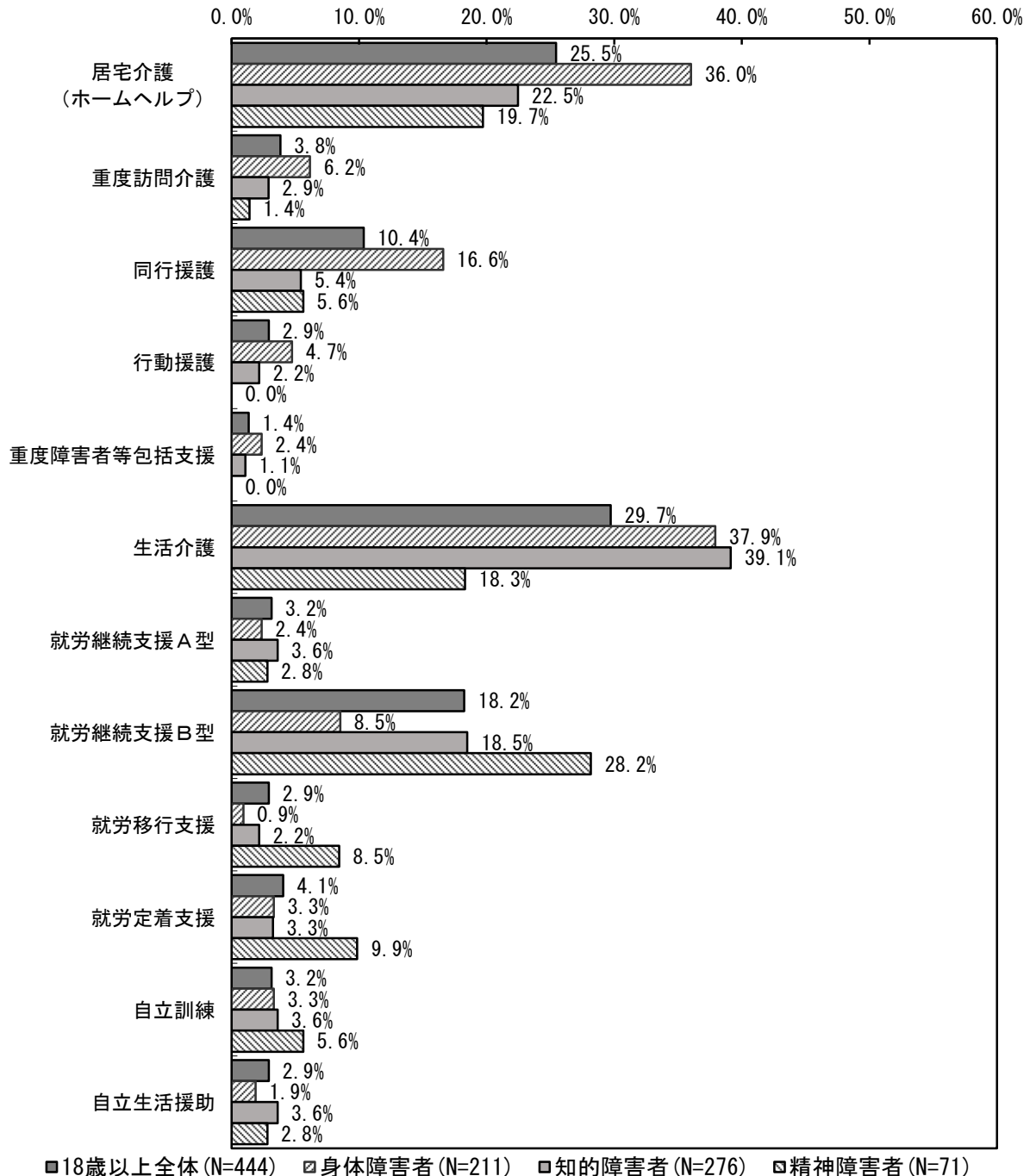
(2) 現在利用している障害福祉サービス、また、今後利用したい障害福祉サービス

【問16(1)で1に○をつけたかたにおたずねします。】

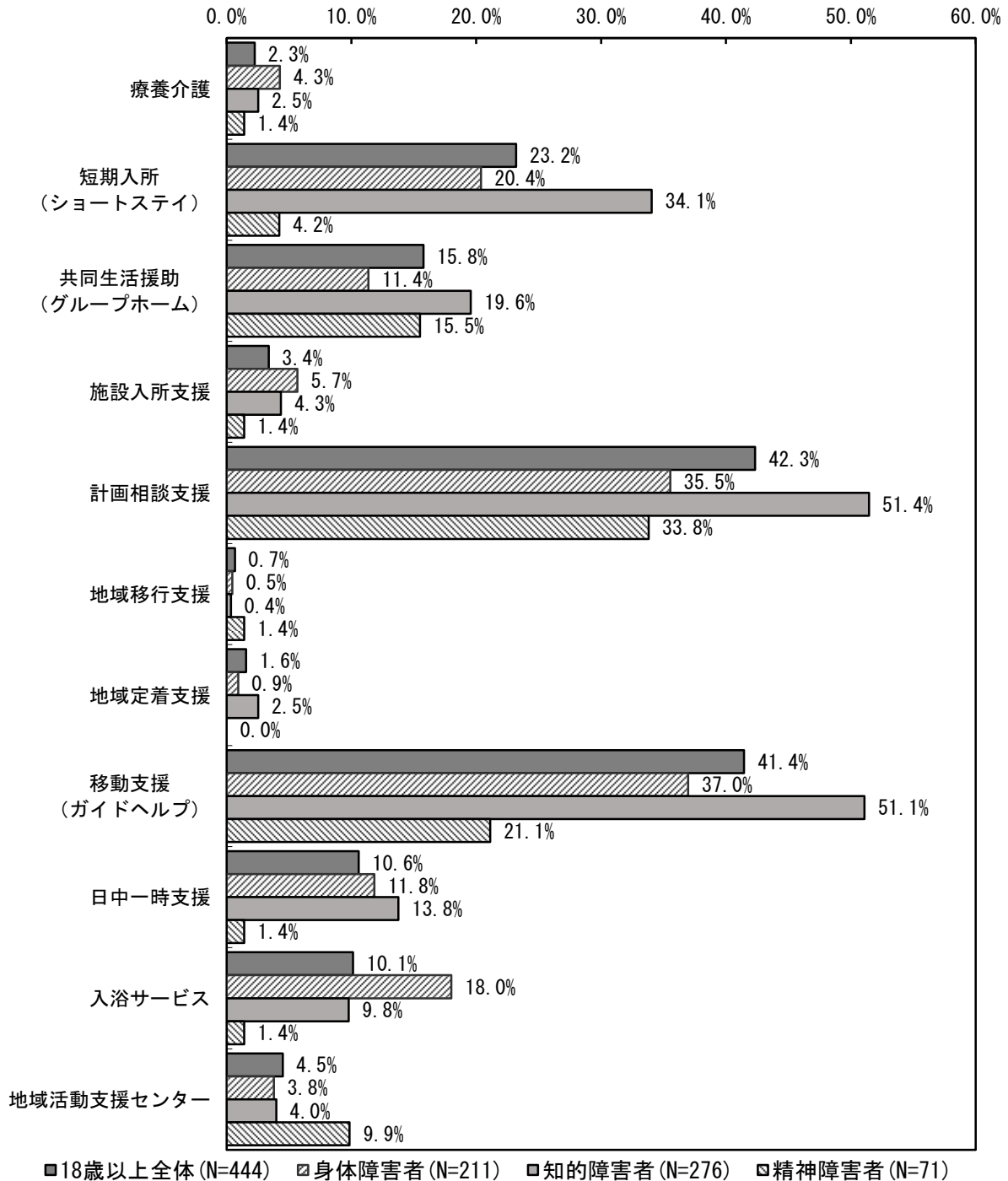
※「障害福祉サービスを利用している」と回答した方

問16(2) あなたが現在、利用している(支給決定を受けている)障害福祉サービスはなんですか。また、今後利用したい障害福祉サービスもお答えください。
(あてはまるものすべてに○)

【図16-2-1 現在利用している障害福祉サービス(複数回答)】(1)



【図 16-2-1 現在利用している障害福祉サービス（複数回答）】（2）



現在利用している障害福祉サービスについて見ると、「計画相談支援」が42.3%と最も高く、次いで「移動支援（ガイドヘルプ）」が41.4%、「生活介護」が29.7%となっています。

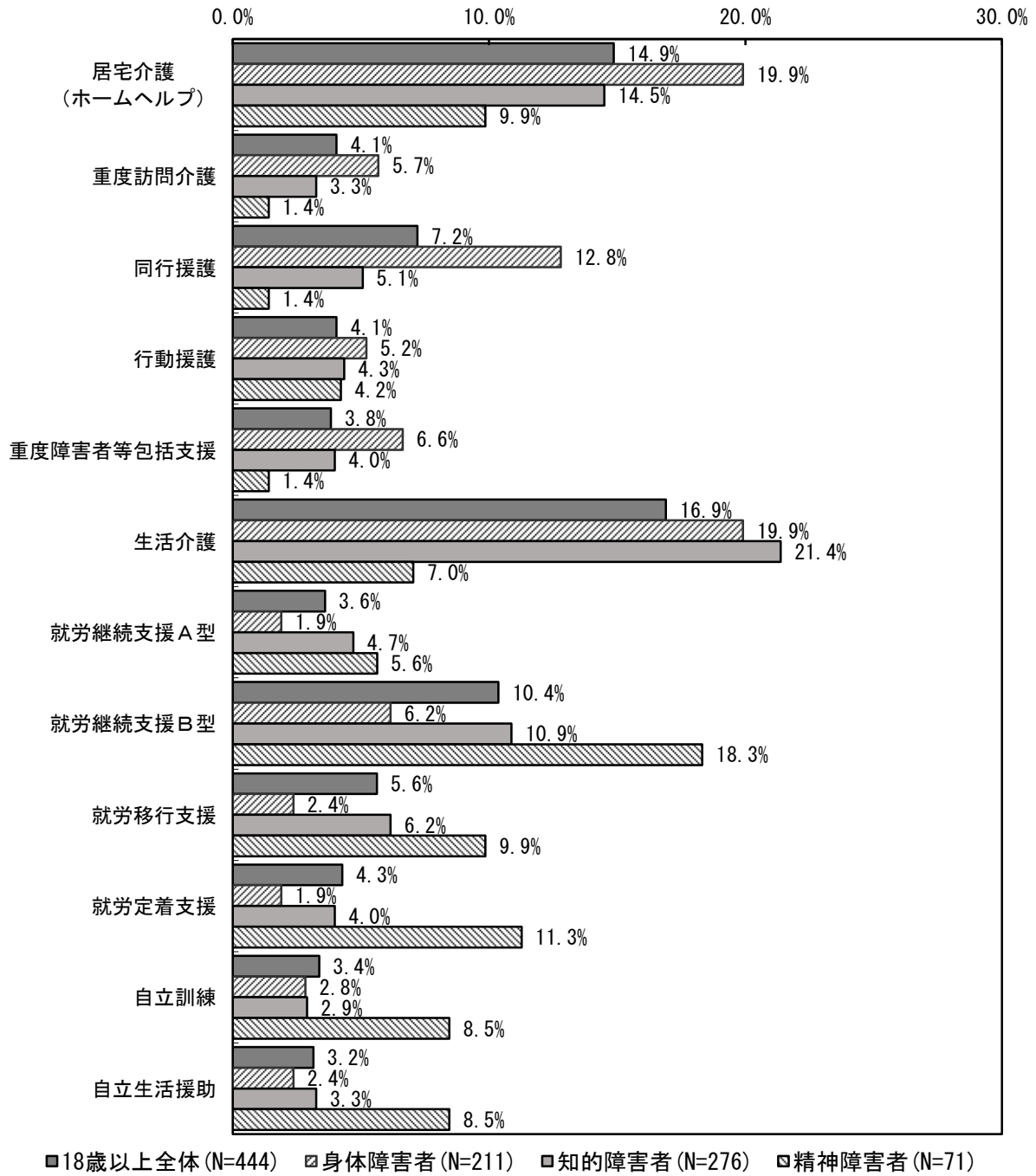
障害種別ごとにみると、

身体障害者は、「生活介護」が37.9%と最も高く、次いで「移動支援（ガイドヘルプ）」が37.0%、「居宅介護（ホームヘルプ）」が36.0%となっています。

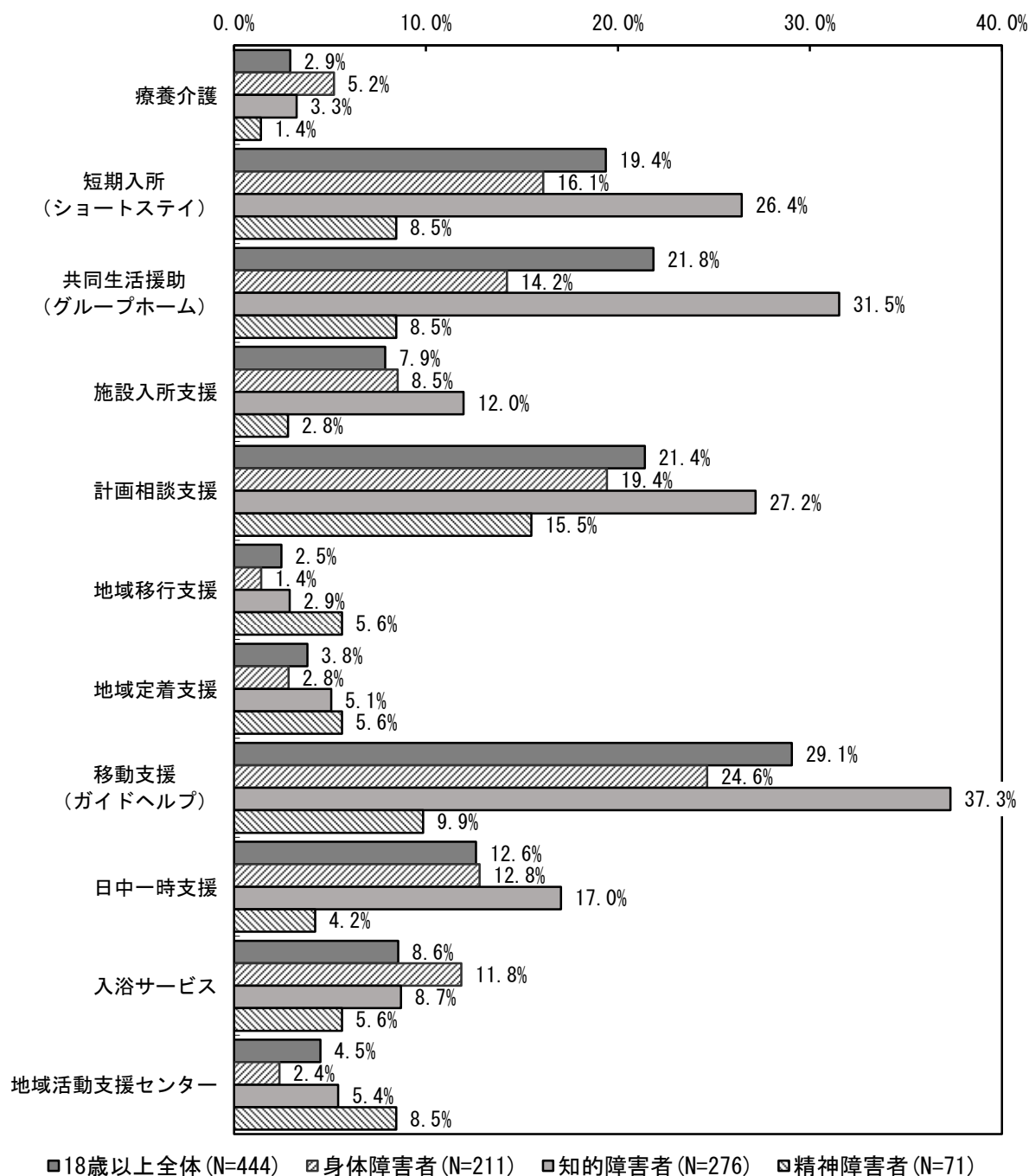
知的障害者は、「計画相談支援」が51.4%と最も高く、次いで「移動支援（ガイドヘルプ）」が51.1%、「生活介護」が39.1%となっています。

精神障害者は、「計画相談支援」が33.8%と最も高く、次いで「就労継続支援B型」が28.2%、「移動支援（ガイドヘルプ）」が21.1%となっています。

【図 16-2-2 今後利用したい障害福祉サービス（複数回答）】（1）



【図 16-2-2 今後利用したい障害福祉サービス（複数回答）】（2）



今後利用したい障害福祉サービスについて見ると、「移動支援（ガイドヘルプ）」が 29.1%と最も高く、次いで「共同生活援助（グループホーム）」が 21.8%、「計画相談支援」が 21.4%となっています。

障害種別ごとに見ると、

身体障害者は、「移動支援（ガイドヘルプ）」が 24.6%と最も高く、次いで「居宅介護（ホームヘルプ）」、「生活介護」が 19.9%となっています。

知的障害者は、「移動支援（ガイドヘルプ）」が 37.3%と最も高く、次いで「共同生活援助（グループホーム）」が 31.5%、「計画相談支援」が 27.2%となっています。

精神障害者は、「就労継続支援 B 型」が 18.3%と最も高く、次いで「計画相談支援」が 15.5%、「就労定着支援」が 11.3%となっています。

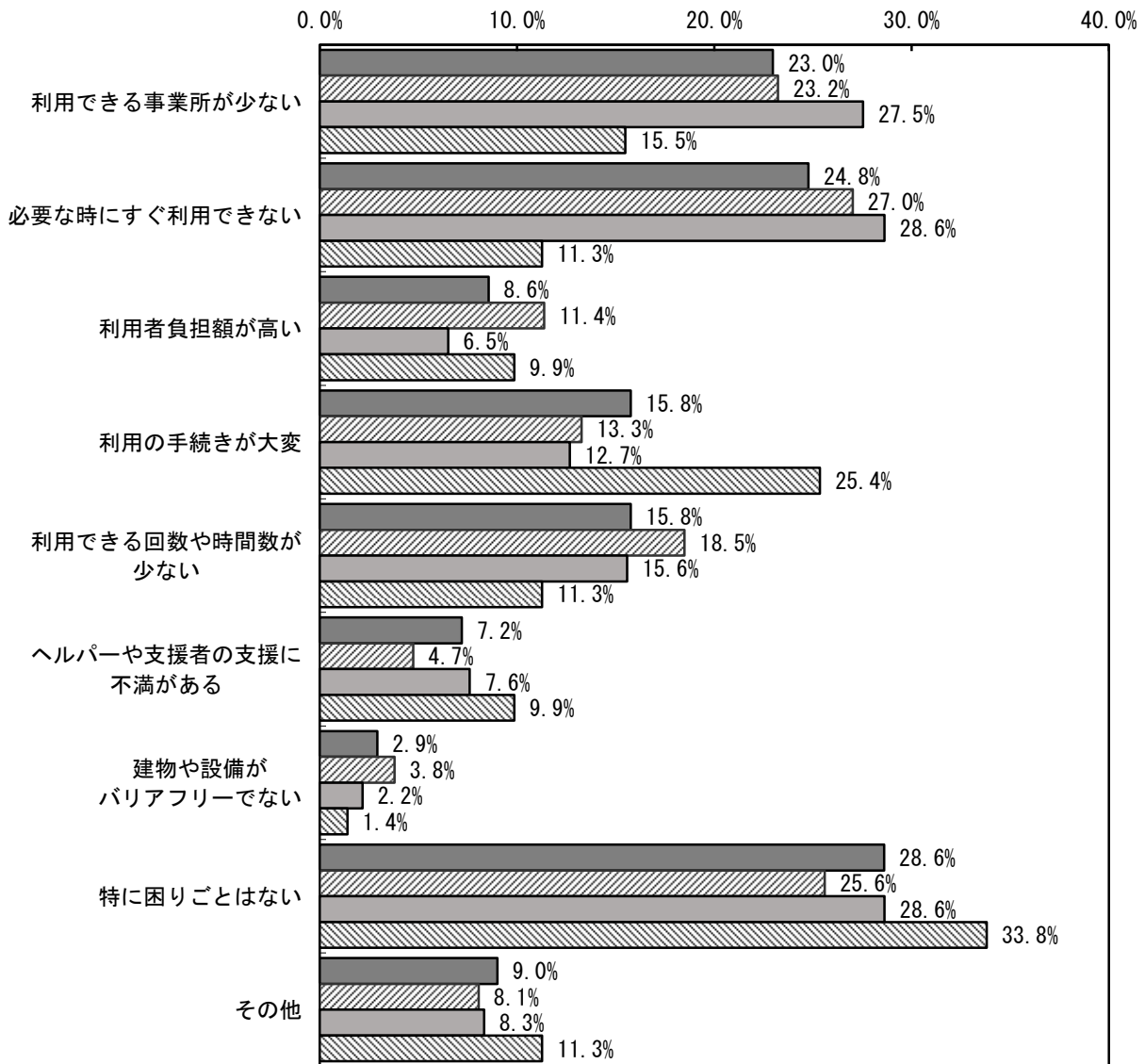
(3) 現在利用している障害福祉サービスでの困りごと

【問16(1)で1に○をつけたかたにおたずねします。】

※「障害福祉サービスを利用している」と回答した方

問16(3) 現在、利用している障害福祉サービスでの困りごとはなんですか。
(あてはまるものすべてに○)

【図16-3 現在利用している障害福祉サービスでの困りごと(複数回答)】



■18歳以上全体 (N=444) □身体障害者 (N=211) □知的障害者 (N=276) □精神障害者 (N=71)

現在利用している障害福祉サービスでの困りごとについて見ると、「特に困りごとはない」が28.6%と最も高く、次いで「必要な時にすぐ利用できない」が24.8%、「利用できる事業所が少ない」が23.0%となっています。

障害種別ごとに見ると、

身体障害者と知的障害者は、「必要な時にすぐ利用できない」が最も高く、次いで「特に困りごとはない」、「利用できる事業所が少ない」となっています。

精神障害者は、「特に困りごとはない」が最も高く、次いで「利用の手続きが大変」、「利用できる事業所が少ない」となっています。

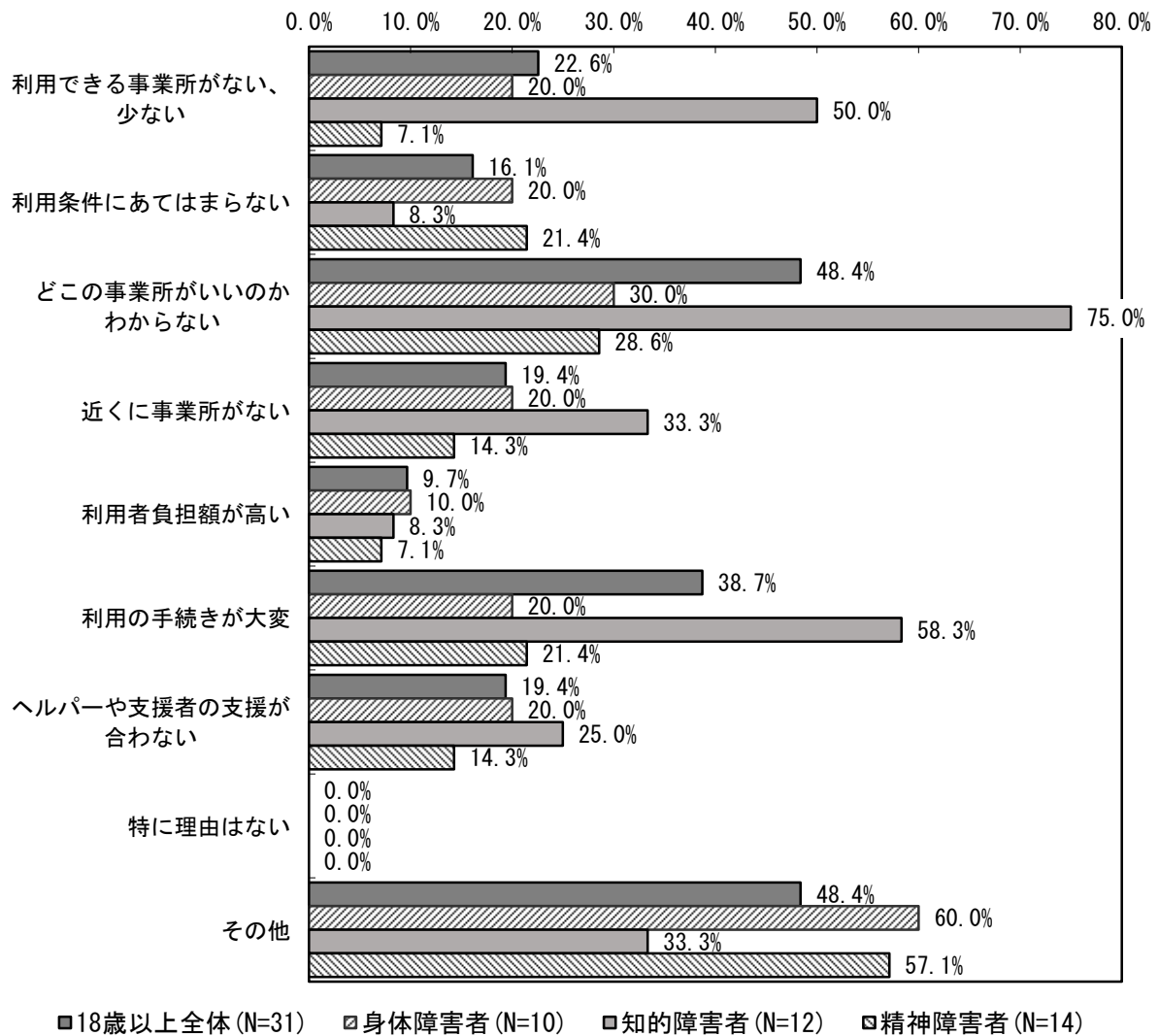
(4) 障害福祉サービスを利用できていない理由

【問16(1)で2に○をつけたかたにおたずねします。】

※「利用したいものがあるが利用できていない」と回答した方

問16(4) 障害福祉サービスを利用できていない理由はなんですか。(あてはまるものすべてに○)

【図16-4 障害福祉サービスを利用できていない理由(複数回答)】



障害福祉サービスを利用できていない理由について見ると、「どこの事業所がいいのかわからない」、「その他」が48.4%と最も高く、次いで「利用の手続きが大変」が38.7%となっています。

障害種別ごとに見ると、

身体障害者と精神障害者は、「その他」が最も高く、次いで「どこの事業所がいいのかわからない」となっています。知的障害者は、「どこの事業所がいいのかわからない」が最も高く、次いで「利用の手続きが大変」、「利用できる事業所が少ない」となっています。

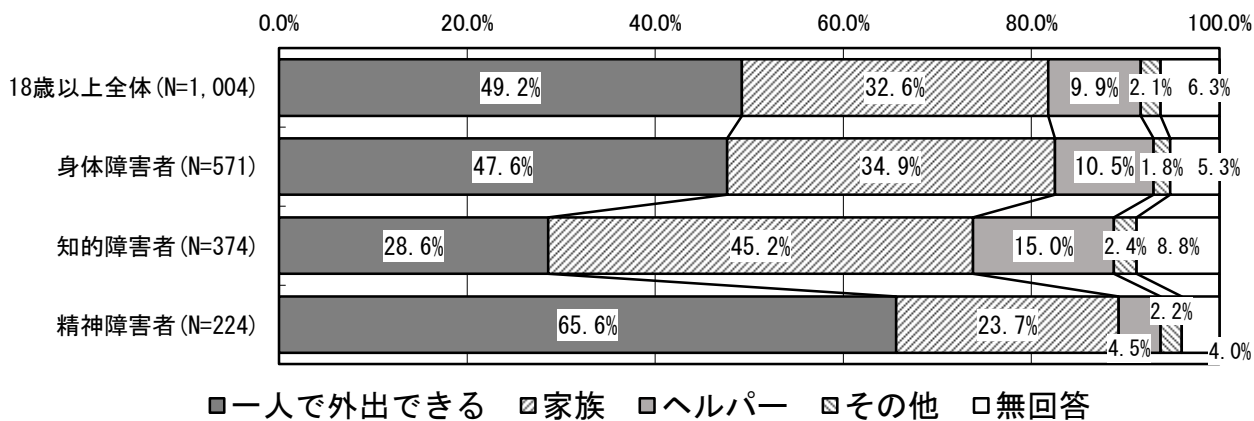
「その他」の回答は全体で15件あり、「利用の仕方がわからない」(4件)、「コロナになったため」(2件)、「継続して通う自信がない」、「自分に合った事業所が少ない」、「手続きのために多くの時間とお金がかかるので利用したくてもできない」(各1件)などとなっています。

7. 外出について

(1) 外出時の同行者

問 17 あなたが外出する際、主にどなたと外出しますか。(1つに○)

【図 17 外出時の同行者】



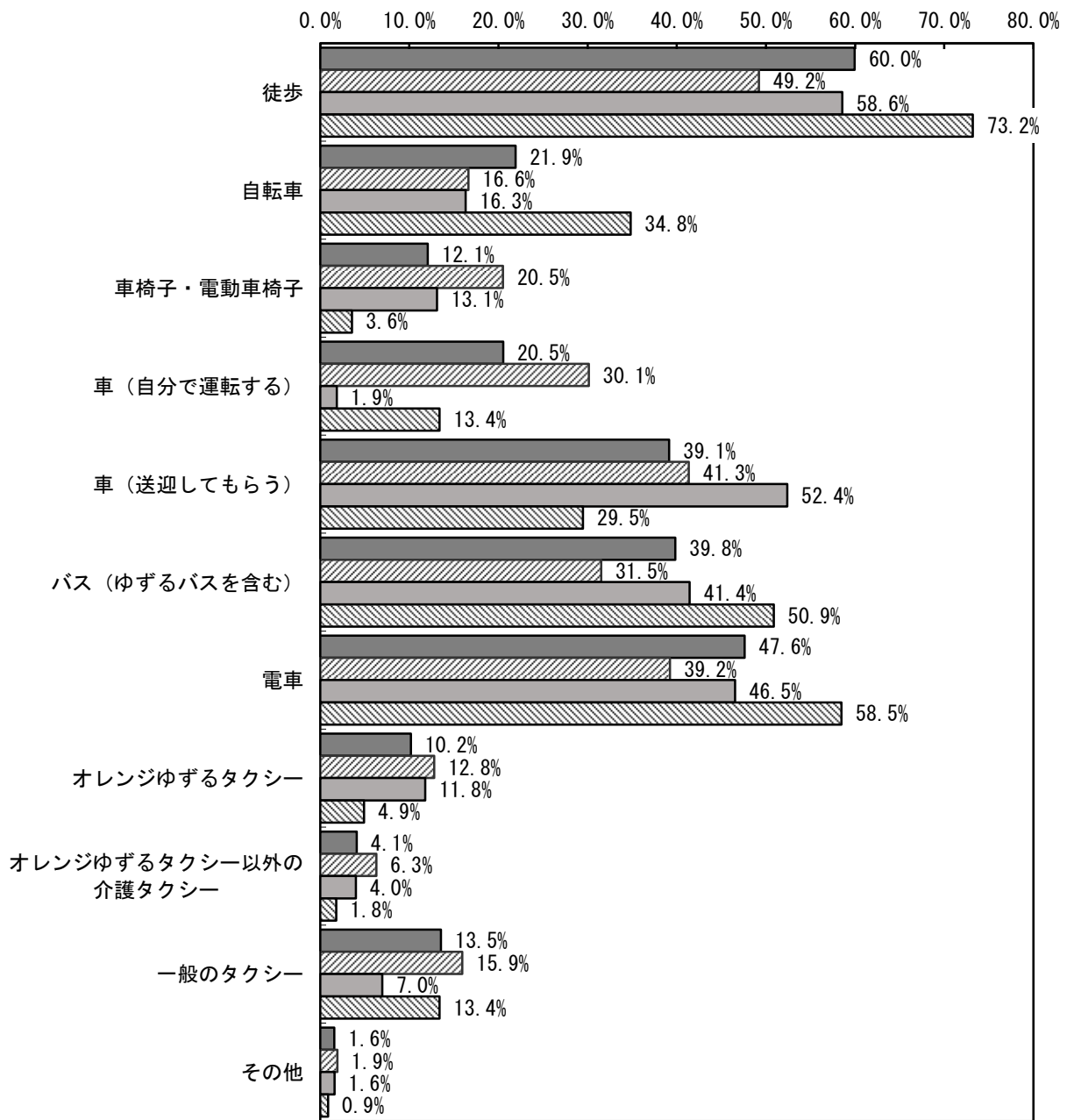
外出時の同行者について見ると、「一人で外出できる」が49.2%と最も高く、次いで「家族」が32.6%、「ヘルパー」が9.9%となっています。

障害種別ごとに見ると、精神障害者は他の障害種別と比べて「一人で外出できる」が最も低くなっています。

(2) 外出時の主な移動手段

問 18 あなたが外出する際の主な移動手段は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 18 外出時の主な移動手段（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=1,004) □身体障害者 (N=571) □知的障害者 (N=374) □精神障害者 (N=224)

外出時の主な移動手段について見ると、「徒歩」が60.0%と最も高く、次いで「電車」が47.6%、「バス（ゆずるバスを含む）」が39.8%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「徒歩」が最も高くなっています。

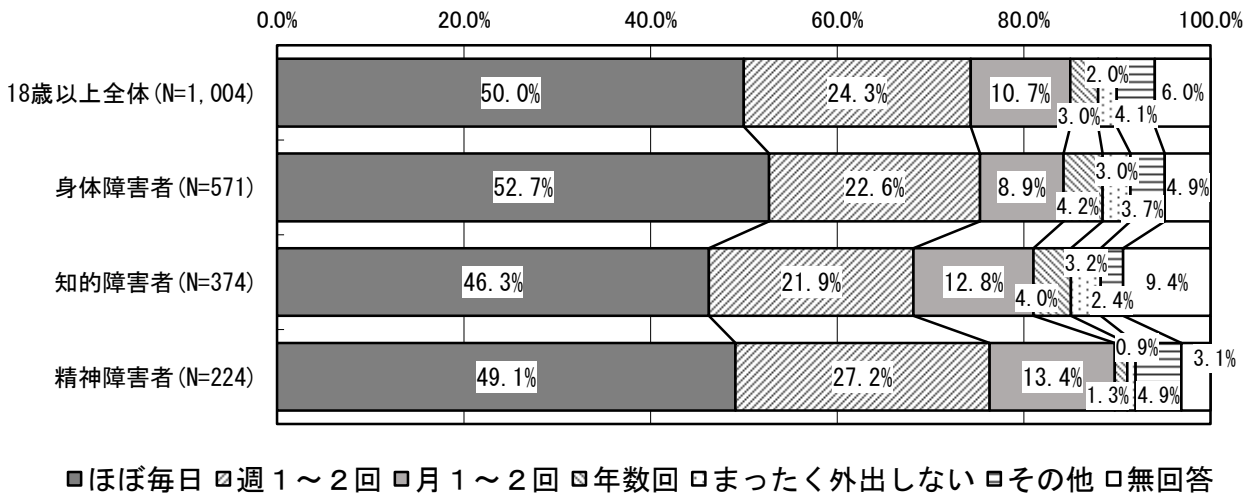
身体障害者と知的障害者は、次いで「車（送迎してもらう）」、「電車」となっています。

精神障害者は、次いで「電車」、「バス（ゆずるバスを含む）」となっています。

(3) 外出頻度

問 19 あなたが外出する頻度はどれぐらいですか。(1つに○)

【図 19 外出頻度】



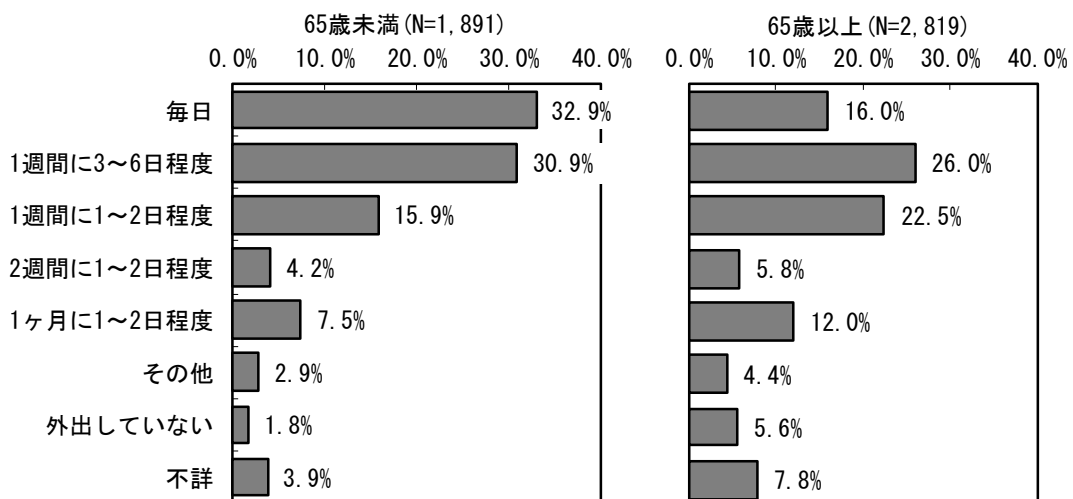
外出頻度について見ると、「ほぼ毎日」が50.0%と最も高く、次いで「週1~2回」が24.3%、「月1~2回」が10.7%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「ほぼ毎日」が最も高くなっています。

参考

厚生労働省 平成28年 生活のしづらさなどに関する調査（全国在宅障害児・者等実態調査）

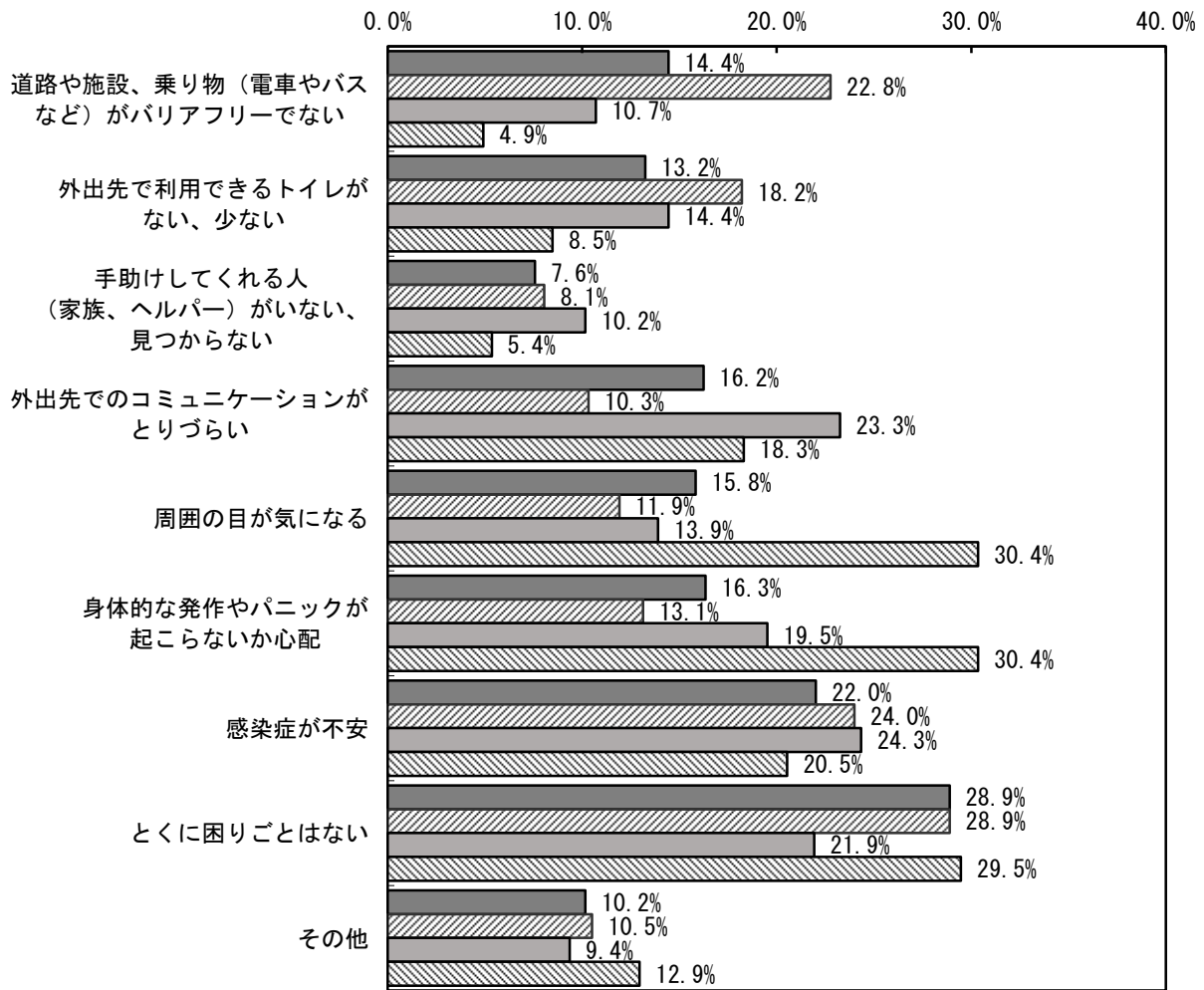
【図 19-1 1年間の外出状況】



(4) 外出する際の困りごと

問 2 0 あなたが外出する際の困りごとはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 20 外出する際の困りごと（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=1,004) ▨身体障害者 (N=571) ▤知的障害者 (N=374) ▩精神障害者 (N=224)

外出する際の困りごとについて見ると、「とくに困りごとはない」が 28.9%と最も高く、次いで「感染症が不安」が 22.0%、「身体的な発作やパニックが起こらないか心配」が 16.3%となっています。

障害種別ごとに見ると、

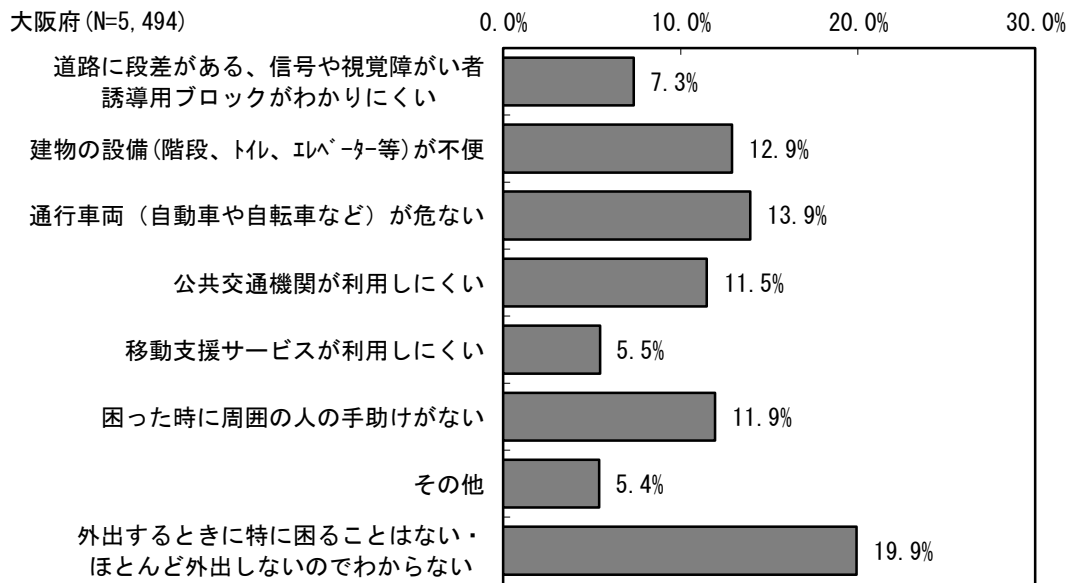
身体障害者は、「とくに困りごとはない」が 28.9%と最も高く、次いで「感染症が不安」が 24.0%、「道路や施設、乗り物（電車やバスなど）がバリアフリーでない」が 22.8%となっています。

知的障害者は、「感染症が不安」が 24.3%と最も高く、次いで「外出先でのコミュニケーションがとりづらい」が 23.3%、「とくに困りごとはない」が 21.9%となっています。

精神障害者は、「周囲の目が気になる」、「身体的な発作やパニックが起こらないか心配」が 30.4%と最も高く、次いで「とくに困りごとはない」が 29.5%となっています。

平成 28 年度大阪府障がい者生活ニーズ実態調査

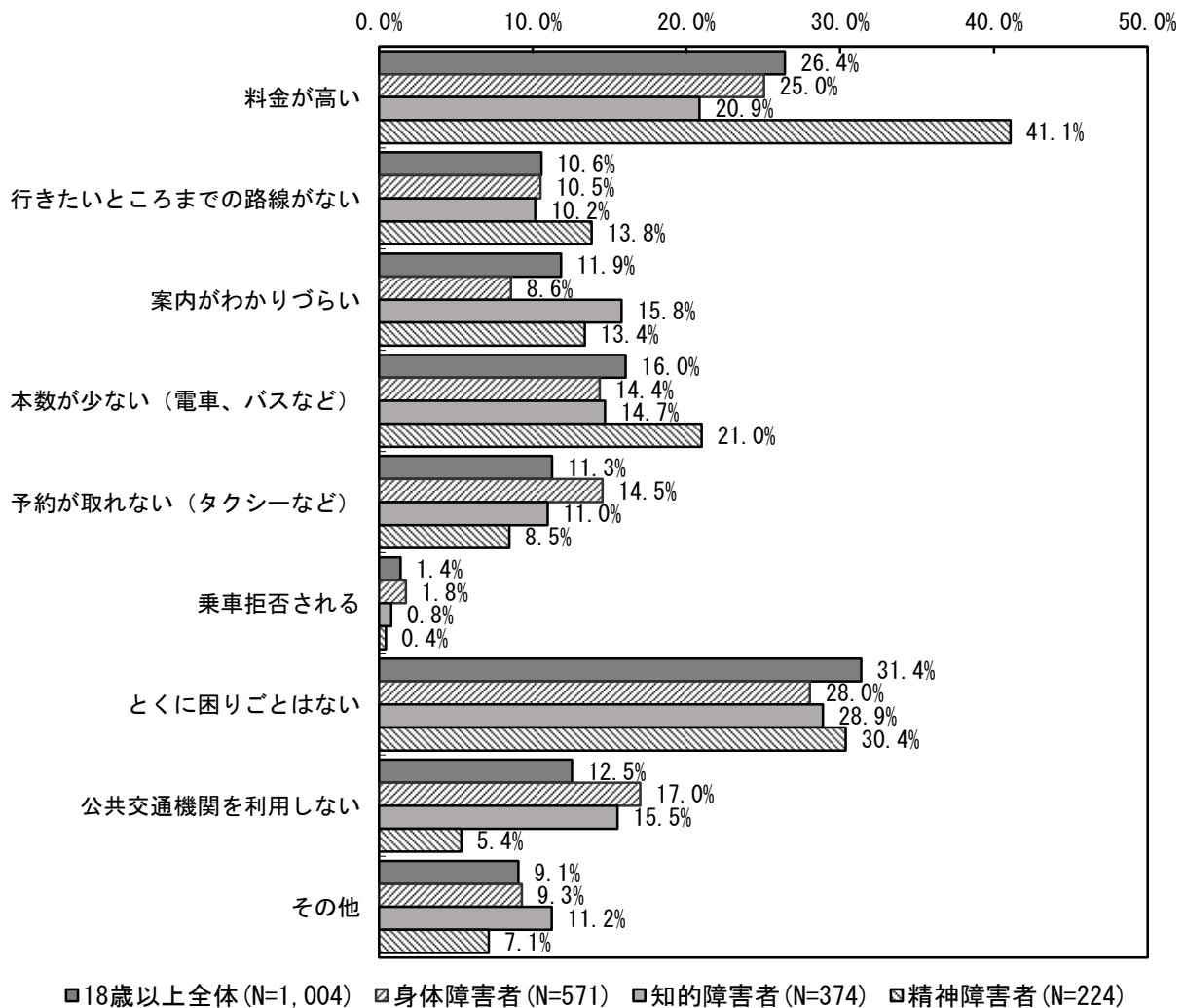
【図 20-1 外出するときに困ることや不便なこと】



(5) 公共交通機関を利用する際の困りごと

問 2 1 あなたが公共交通機関（電車、バス、タクシーなど）を利用する際の困りごとはなんですか。
（あてはまるものすべてに○）

【図 21 公共交通機関を利用する際の困りごと（複数回答）】



公共交通機関を利用する際の困りごとについて見ると、「とくに困りごとはない」が31.4%と最も高く、次いで「料金が低い」が26.4%、「本数が少ない（電車、バスなど）」が16.0%となっています。

障害種別ごとに見ると、

身体障害者と知的障害者は、「とくに困りごとはない」が最も高く、次いで「料金が低い」となっています。

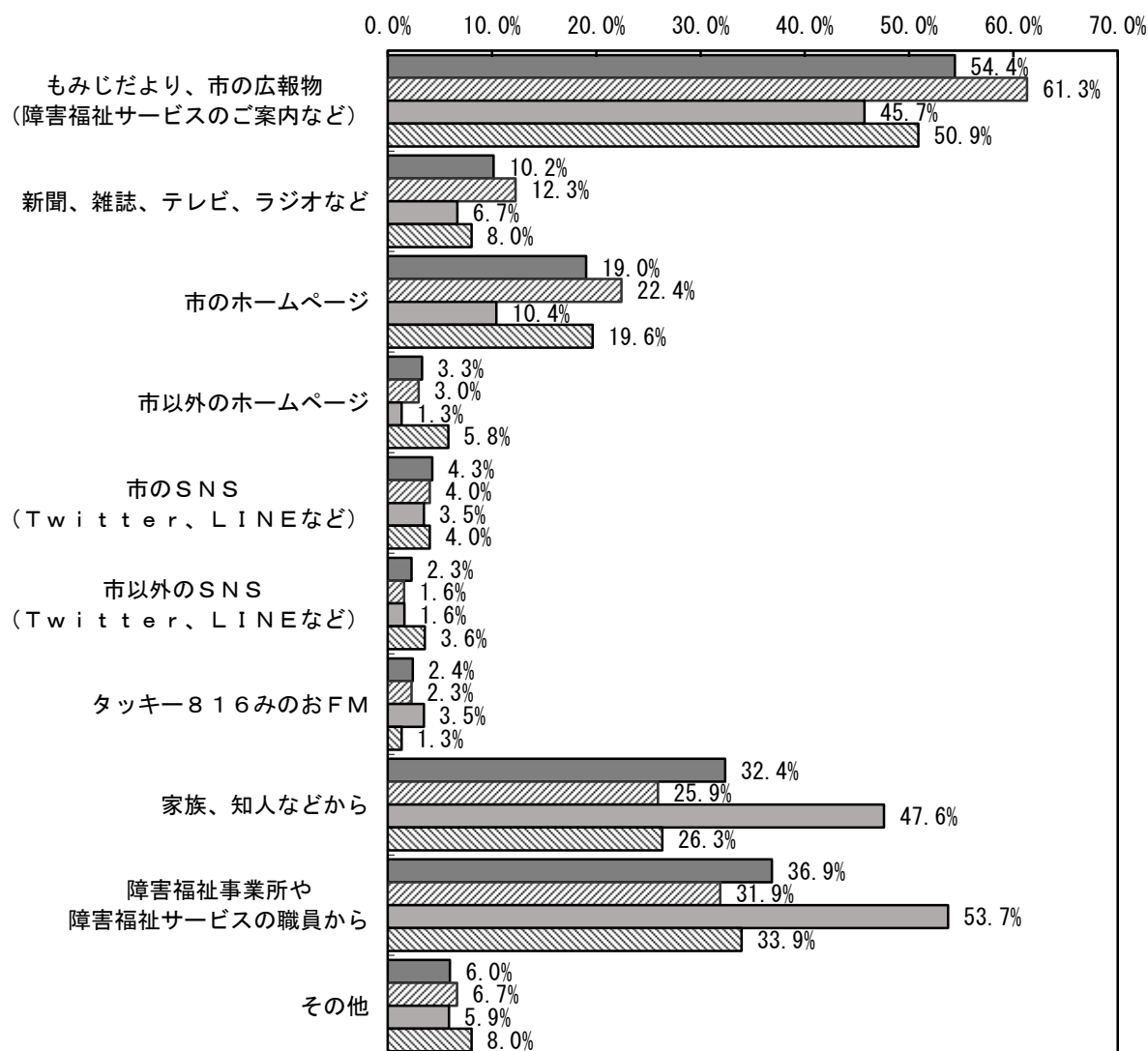
精神障害者は、「料金が低い」が最も高く、次いで「とくに困りごとはない」となっています。

8. 情報収集について

(1) 障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段

問 2 2 障害福祉サービスなどに関する情報を何から入手していますか。(あてはまるものすべてに○)

【図 22 障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段（複数回答）】



■18歳以上全体(N=1,004) □身体障害者(N=571) □知的障害者(N=374) □精神障害者(N=224)

障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段について見ると、「もみじだより、市の広報物（障害福祉サービスのご案内など）」が54.4%と最も高く、次いで「障害福祉事業所や障害福祉サービスの職員から」が36.9%、「家族、知人などから」が32.4%となっています。

障害種別ごとに見ると、

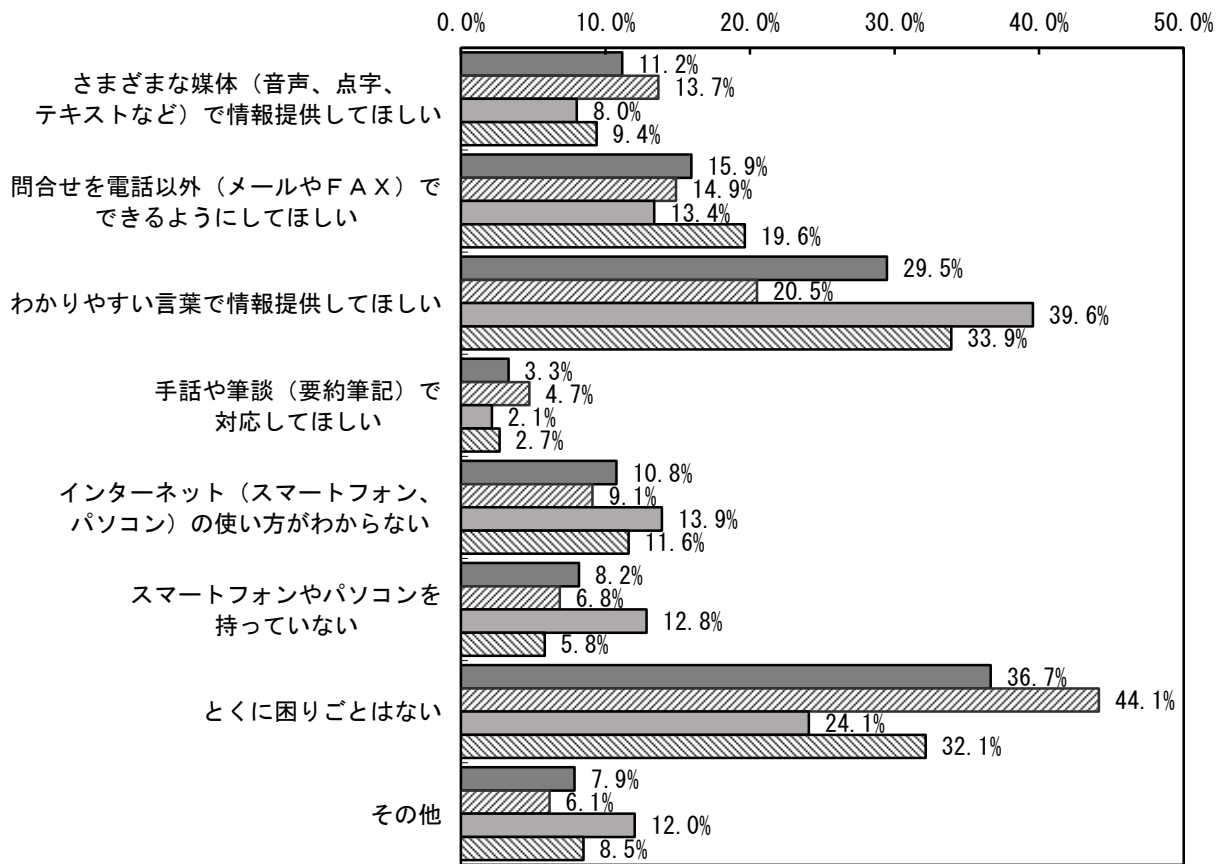
身体障害者と精神障害者は、「もみじだより、市の広報物（障害福祉サービスのご案内など）」が最も高く、次いで「障害福祉事業所や障害福祉サービスの職員から」、「家族、知人などから」となっています。

知的障害者は、「障害福祉事業所や障害福祉サービスの職員から」が最も高く、次いで「家族、知人などから」、「もみじだより、市の広報物（障害福祉サービスのご案内など）」となっています。

(2) 情報収集をする際に求める対応

問 2 3 あなたが情報収集をする際に求める対応は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 23 情報収集をする際に求める対応（複数回答）】



■18歳以上全体(N=1,004) ■身体障害者(N=571) ■知的障害者(N=374) ■精神障害者(N=224)

情報収集をする際に求める対応について見ると、「とくに困りごとはない」が36.7%と最も高く、次いで「わかりやすい言葉で情報提供してほしい」が29.5%、「問合せを電話以外（メールやFAX）でできるようにしてほしい」が15.9%となっています。

障害種別ごとに見ると、

身体障害者は、「とくに困りごとはない」が最も高く、次いで「わかりやすい言葉で情報提供してほしい」となっています。

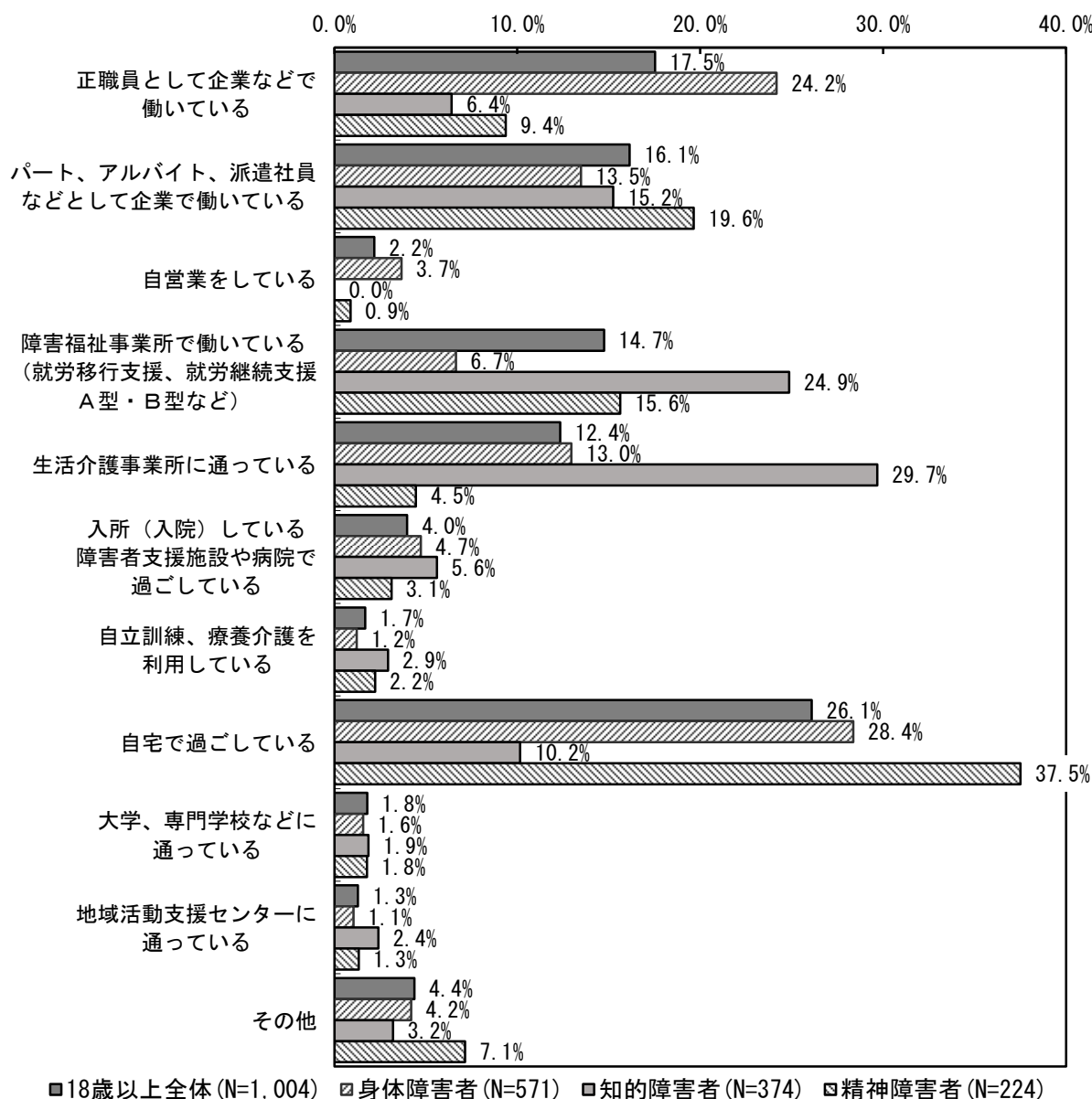
知的障害者と精神障害者は、「わかりやすい言葉で情報提供してほしい」が最も高く、次いで「とくに困りごとはない」となっています。

9. 日中の活動や就労について

(1) 平日の日中の過ごし方（現在の過ごし方）

問 2 4 (1) 現在、あなたは平日の日中を主にどのように過ごしていますか。また、今後どう過ごしたいかについてもお答えください。（1つに○）

【図 24-1 平日の日中の過ごし方（現在の過ごし方）】



平日の日中の過ごし方（現在の過ごし方）について見ると、「自宅で過ごしている」が26.1%と最も高く、次いで「正職員として企業などで働いている」が17.5%、「パート、アルバイト、派遣社員などとして企業で働いている」が16.1%となっています。

障害種別ごとに見ると、

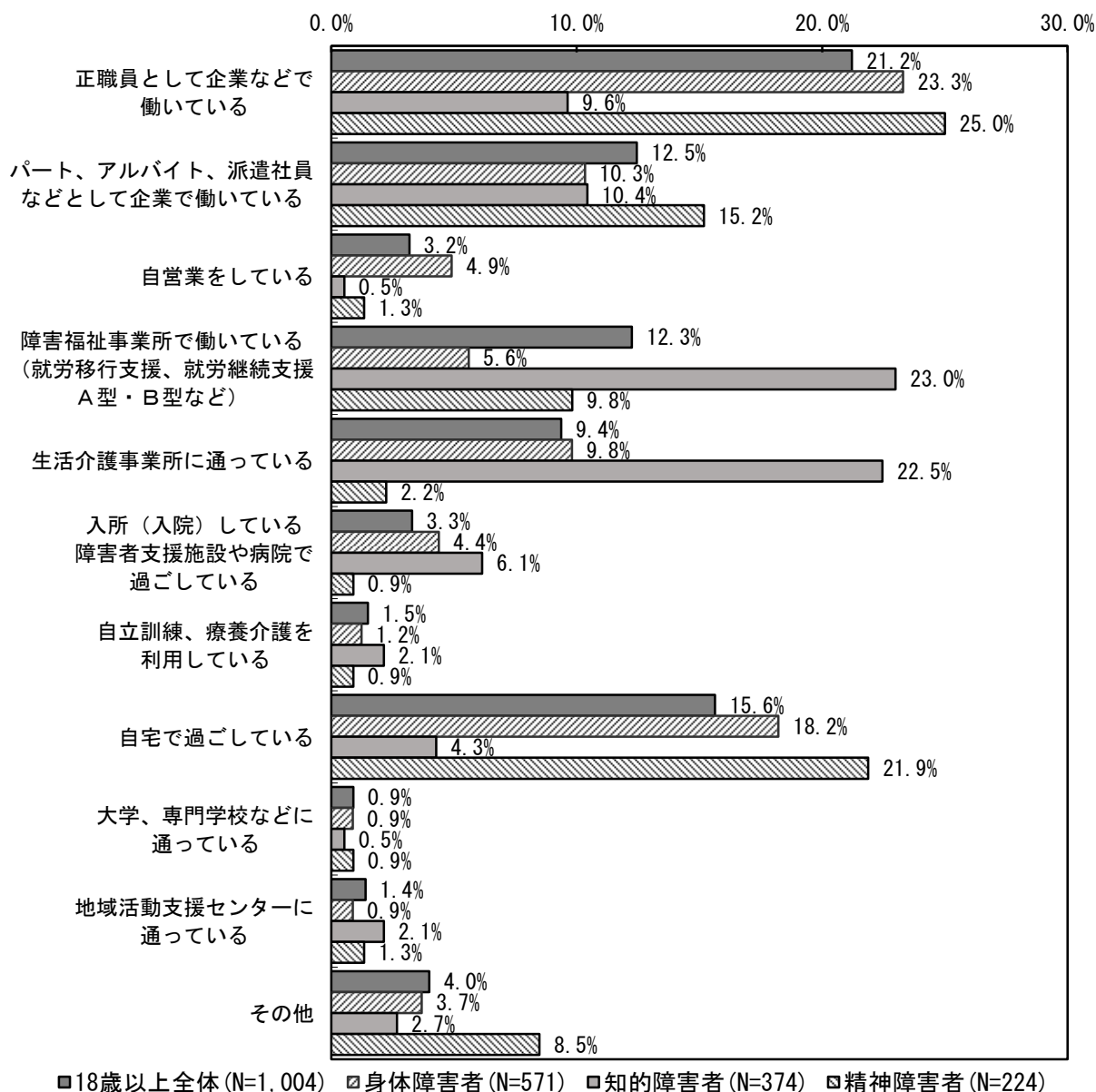
身体障害者は、「自宅で過ごしている」が28.4%と最も高く、次いで「正職員として企業などで働いている」が24.2%、「パート、アルバイト、派遣社員などとして企業で働いている」が13.5%となっています。

知的障害者は、「生活介護事業所に通っている」が29.7%と最も高く、次いで「障害福祉事業所で働いている（就労移行支援、就労継続支援A型・B型など）」が24.9%、「パート、アルバイト、派遣社員などとして企業で働いている」が15.2%となっています。

精神障害者は、「自宅で過ごしている」が 37.5%と最も高く、次いで「パート、アルバイト、派遣社員などとして企業で働いている」が 19.6%、「障害福祉事業所で働いている（就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型など）」が 15.6%となっています。

(2) 平日の日中の過ごし方（今後の過ごし方の希望）

【図 24-2 平日の日中の過ごし方（今後の過ごし方の希望）】



平日の日中の過ごし方（今後の過ごし方の希望）について見ると、「正職員として企業などで働いている」が 21.2%と最も高く、次いで「自宅で過ごしている」が 15.6%、「パート、アルバイト、派遣社員などとして企業で働いている」が 12.5%となっています。

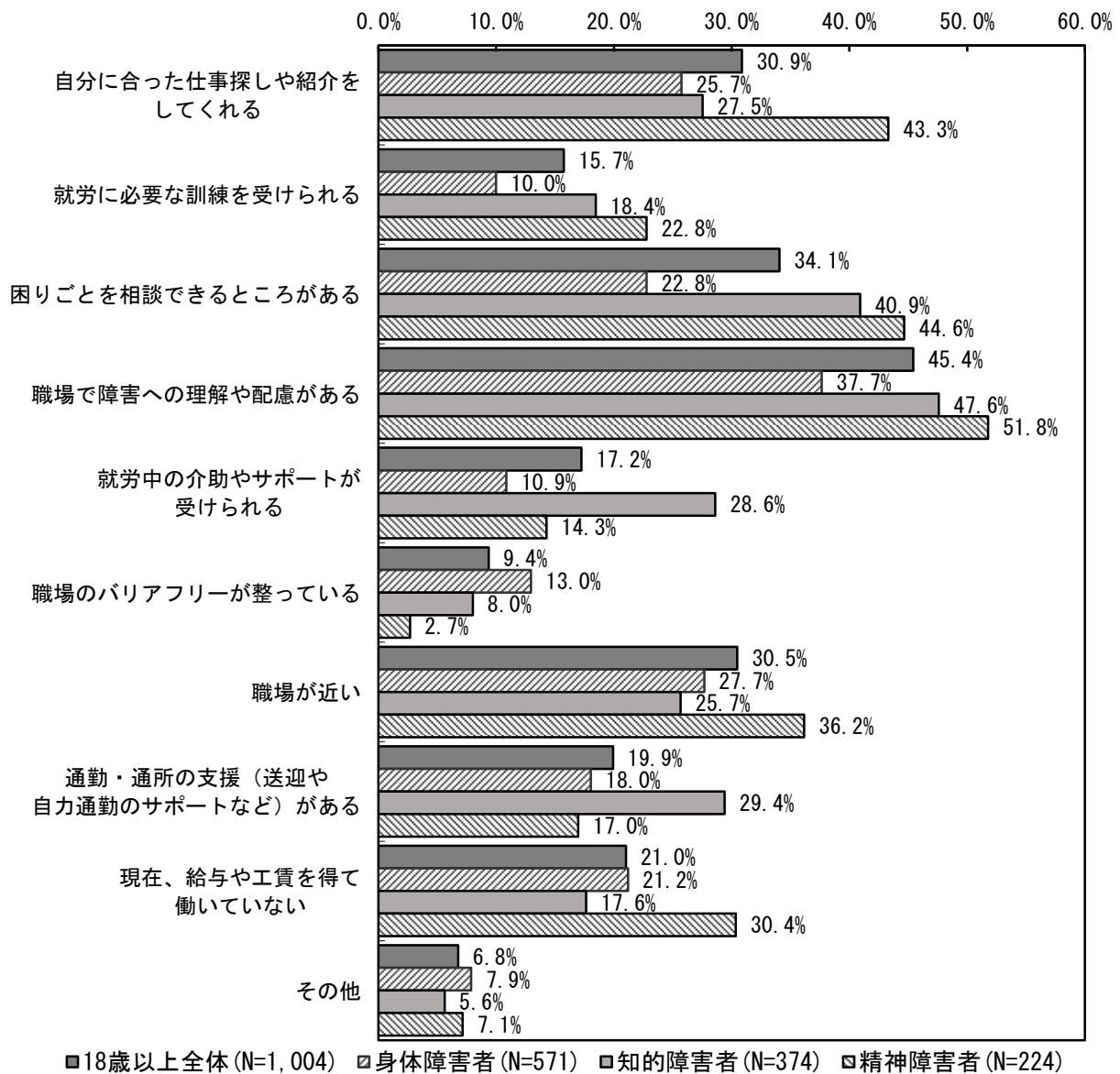
身体障害者と精神障害者は、「正職員として企業などで働いている」が最も高く、次いで「自宅で過ごしている」、「パート、アルバイト、派遣社員などとして企業で働いている」となっています。

知的障害者は、「障害福祉事業所で働いている（就労移行支援、就労継続支援 A 型・B 型など）」が最も高く、次いで「生活介護事業所に通っている」、「パート、アルバイト、派遣社員などとして企業で働いている」となっています。

(3) 継続して働くために必要なこと

問 2 5 あなたが継続して働くために必要なことをお答えください。(あてはまるものすべてに○)

【図 25 継続して働くために必要なこと（複数回答）】



継続して働くために必要なことについて見ると、「職場で障害への理解や配慮がある」が45.4%と最も高く、次いで「困りごとを相談できるところがある」が34.1%、「自分に合った仕事探しや紹介をしてくれる」が30.9%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「職場で障害への理解や配慮がある」が最も高くなっています。

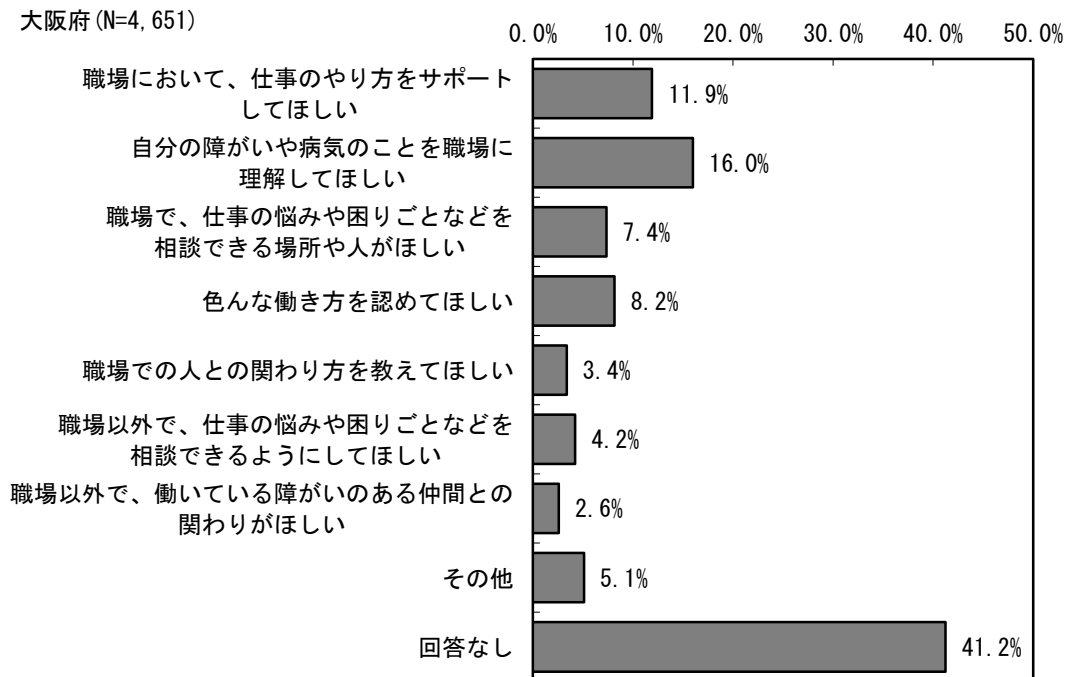
身体障害者は、次いで「職場が近い」が27.7%、「自分に合った仕事探しや紹介をしてくれる」が25.7%となっています。

知的障害者は、次いで「困りごとを相談できるところがある」が40.9%、「通勤・通所の支援（送迎や自力通勤のサポートなど）がある」が29.4%となっています。

精神障害者は、次いで「困りごとを相談できるところがある」が44.6%、「自分に合った仕事探しや紹介をしてくれる」が43.3%となっています。

平成 28 年度大阪府障がい者生活ニーズ実態調査

【図 25-1 働く、働き続けるために、望むこと】

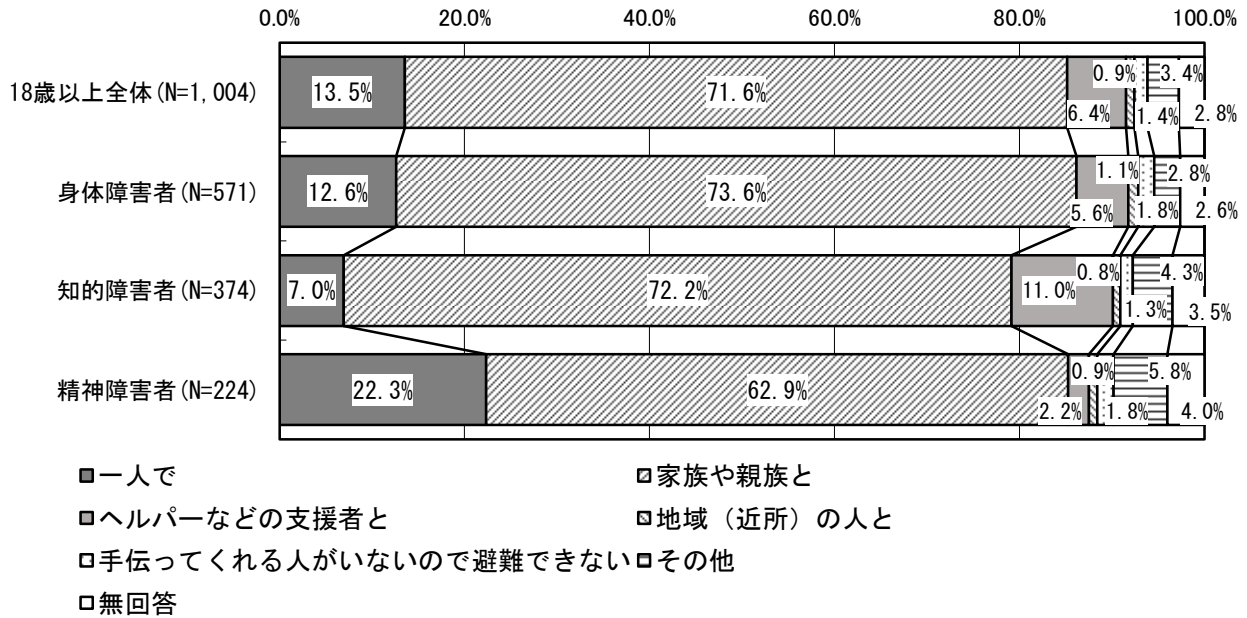


10. 災害時の避難について

(1) 災害時の避難

問 2 6 あなたは災害が起こったときに、どなたと避難しますか。(1つに○)

【図 26 災害時の避難】



災害時の避難について見ると、「家族や親族と」が71.6%と最も高く、次いで「一人で」が13.5%、「ヘルパーなどの支援者と」が6.4%となっています。

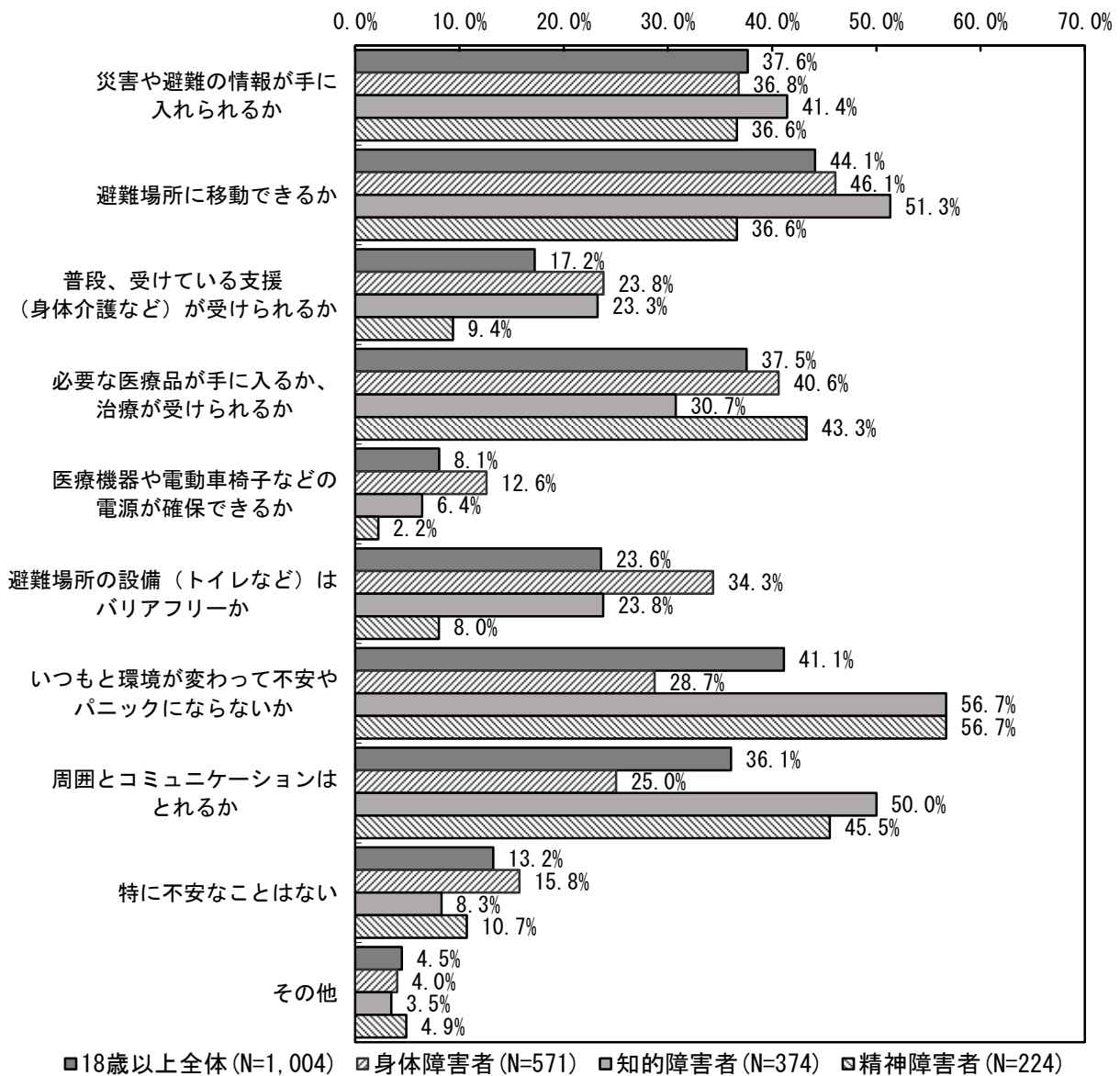
障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「家族や親族と」が最も高くなっています。

知的障害者は、他の障害種別に比べて「一人で」が最も低くなっています。

(2) 災害時の避難で不安なこと

問 2 7 災害時の避難などで不安なことはなんですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 27 災害時の避難で不安なこと（複数回答）】



災害時の避難で不安なことについて見ると、「避難場所に移動できるか」が 44.1%と最も高く、次いで「いつもと環境が変わって不安やパニックにならないか」が 41.1%、「災害や避難の情報が手に入られるか」が 37.6%となっています。

障害種別ごとに見ると、

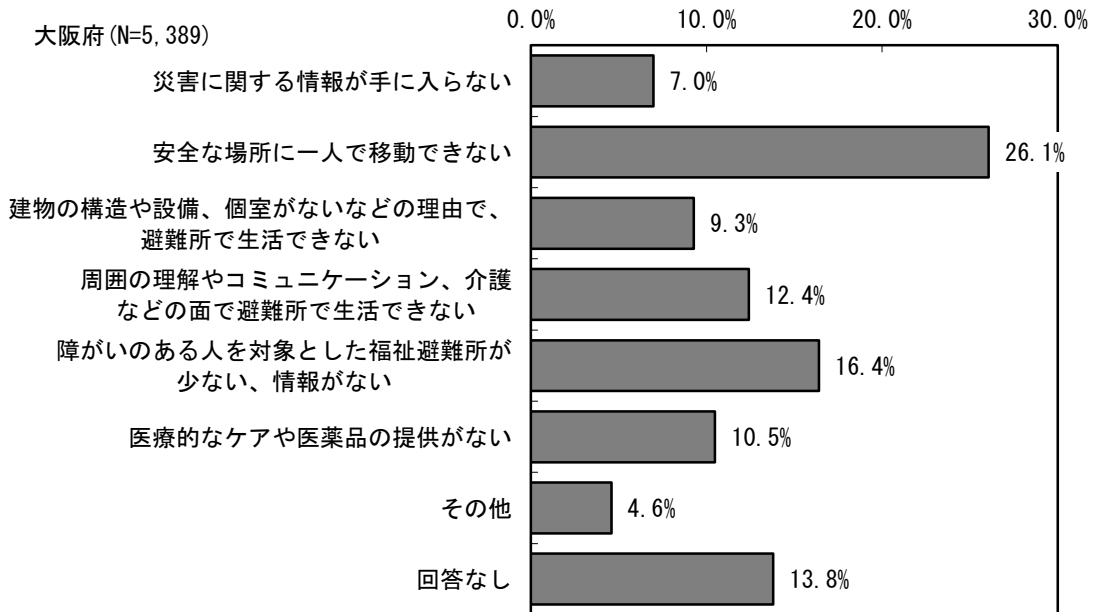
身体障害者は、「避難場所に移動できるか」が 46.1%と最も高く、次いで「必要な医療品が手に入るか、治療が受けられるか」が 40.6%、「災害や避難の情報が手に入られるか」が 36.8%となっています。

知的障害者は、「いつもと環境が変わって不安やパニックにならないか」が 56.7%と最も高く、次いで「避難場所に移動できるか」が 51.3%、「周囲とコミュニケーションはとれるか」が 50.0%となっています。

精神障害者は、「いつもと環境が変わって不安やパニックにならないか」が 56.7%と最も高く、次いで「周囲とコミュニケーションはとれるか」が 45.5%、「必要な医療品が手に入るか、治療が受けられるか」が 43.3%となっています。

平成 28 年度大阪府障がい者生活ニーズ実態調査

【図 27-1 災害時に困ると思うこと】

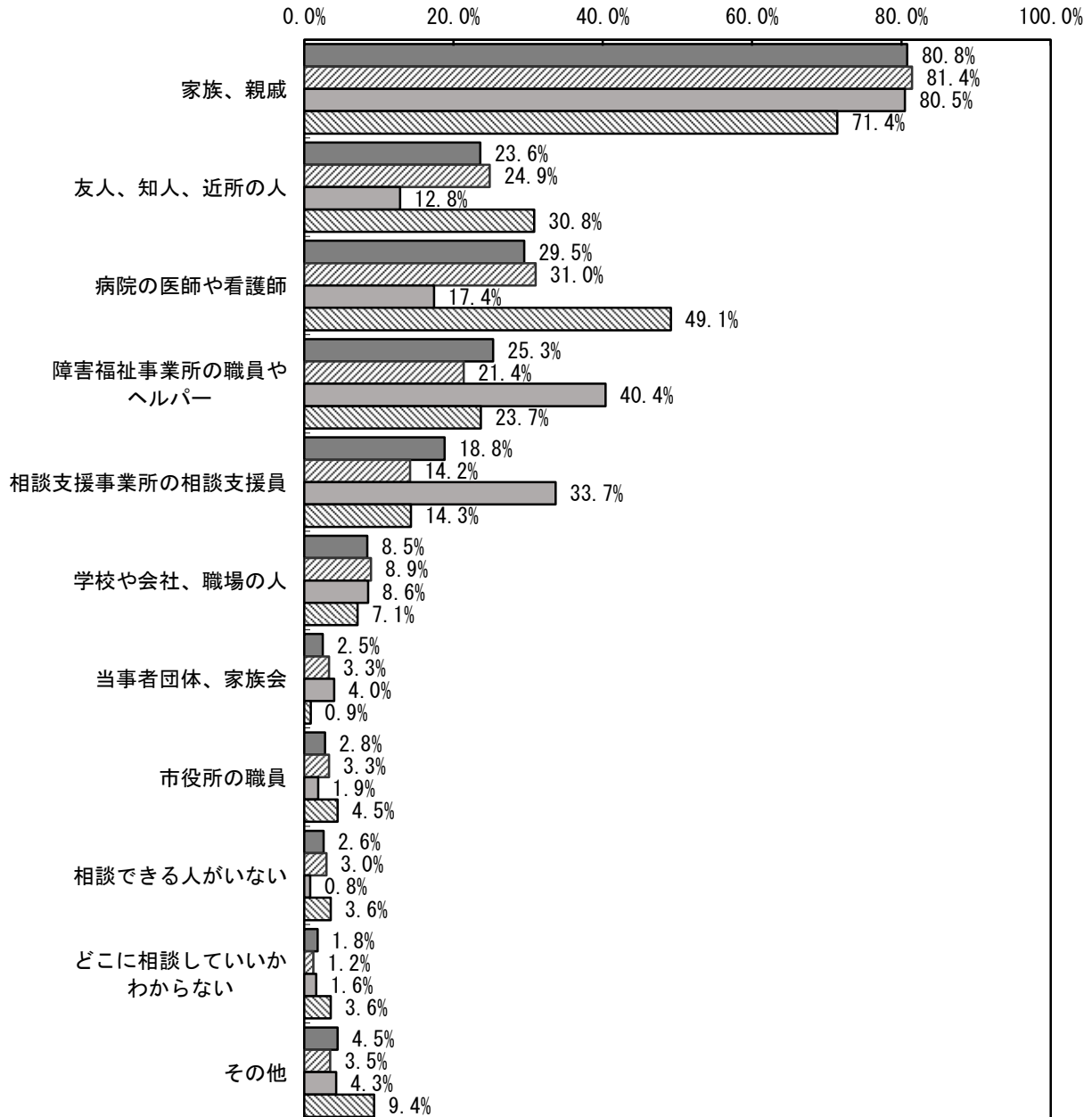


11. 相談相手について

(1) 日頃、相談する人

問 2 8 あなたが日頃、相談する人はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 28 日頃、相談する人（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=1,004) ▨身体障害者 (N=571) □知的障害者 (N=374) ▩精神障害者 (N=224)

日頃相談する人について見ると、「家族、親戚」が 80.8%と最も高く、次いで「病院の医師や看護師」が 29.5%、「障害福祉事業所の職員やヘルパー」が 25.3%となっています。

障害種別ごとに見ると、

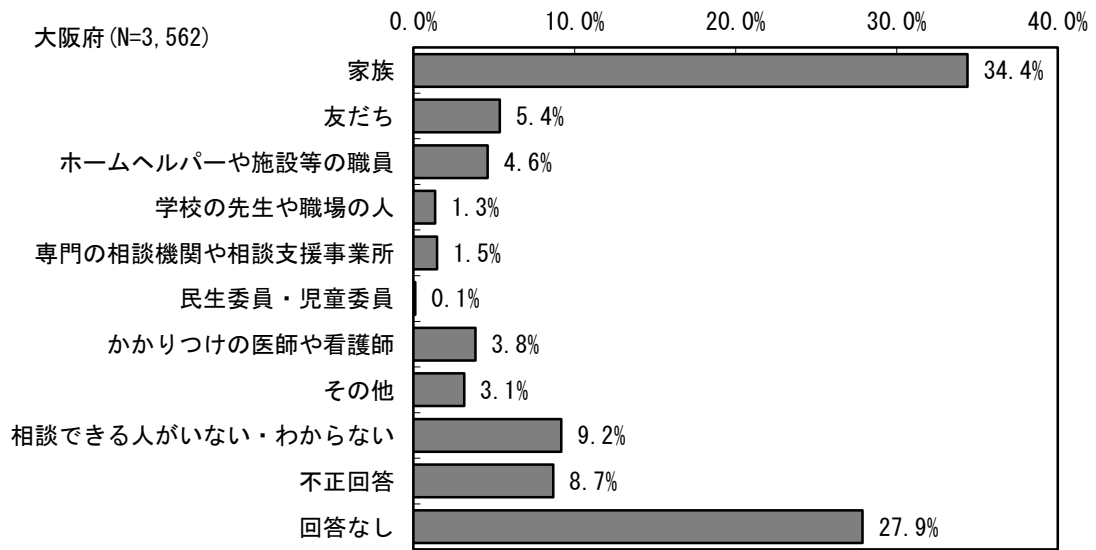
すべての障害種別で「家族、親戚」が最も高くなっています。

身体障害者と精神障害者は、次いで「病院の医師や看護師」、「友人、知人、近所の人」となっています。

知的障害者は、次いで「障害福祉事業所の職員やヘルパー」、「相談支援事業所の相談支援員」となっています。

平成 28 年度大阪府障がい者生活ニーズ実態調査

【図 28-1 悩みや心配事を相談する人】

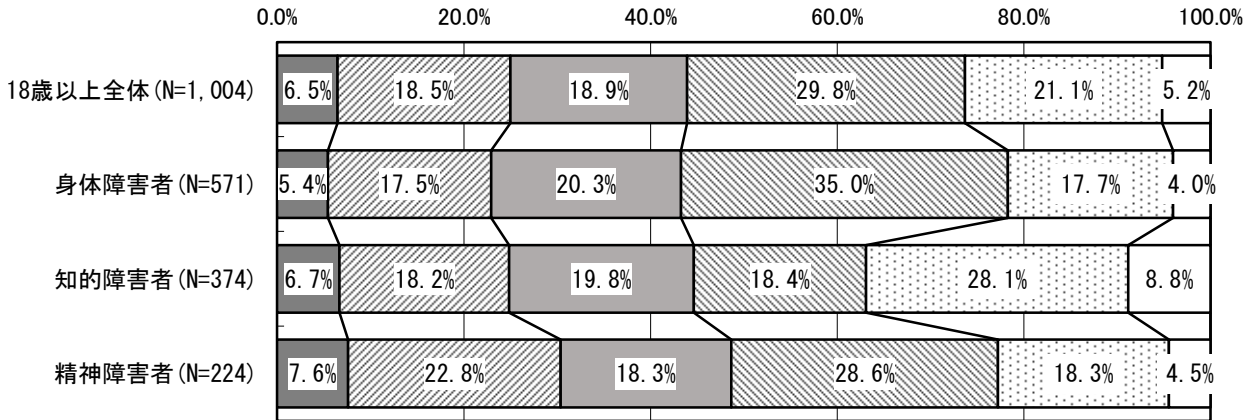


12. 差別について

(1) 障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験

問 29 (1) あなたは、ここ5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをしたことがありますか。(1つに○)

【図 29-1 障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験】



□よくある □ときどきある □あまりない □まったくない □わからない □無回答

障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験について見ると、「まったくない」が29.8%と最も高く、次いで「わからない」が21.1%、「あまりない」が18.9%となっています。

障害種別ごとに見ると、精神障害者は他の障害種別と比べて「よくある」「ときどきある」を合わせた“ある”が30.4ポイントと最も高くなっています。

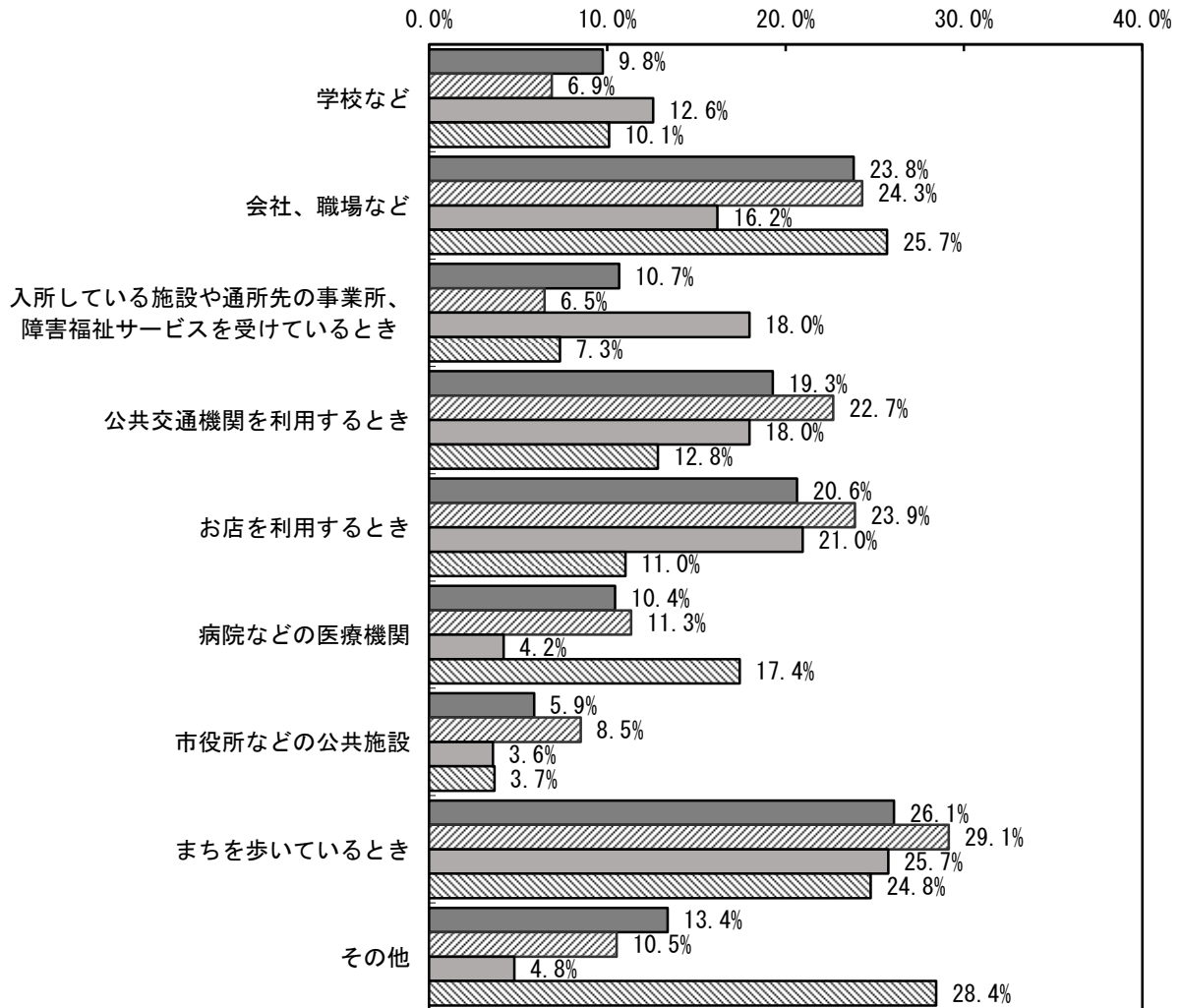
(2) 差別を受けたり嫌な思いをした場面

【問29(1)で1~3に○をつけたかたにおたずねします。】

※「5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをしたこと」が「よくある」「ときどきある」「あまりない」と回答した方

問29(2) どのような場面で差別を受けたり、嫌な思いをしましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図29-2 差別を受けたり嫌な思いをした場面（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=441) □身体障害者 (N=247) □知的障害者 (N=167) □精神障害者 (N=109)

差別を受けたり嫌な思いをした場面について見ると、「まちを歩いているとき」が26.1%と最も高く、次いで「会社、職場など」が23.8%、「お店を利用するとき」が20.6%となっています。

障害種別ごとに見ると、

身体障害者は、「まったくない」が35.0%と最も高く、次いで「あまりない」が20.3%、「わからない」が17.7%となっています。

知的障害者は、「まちを歩いているとき」が25.7%と最も高く、次いで「お店を利用するとき」が21.0%、「入所している施設や通所先の事業」が18.0%となっています。

精神障害者は、「その他」が28.4%と最も高く、次いで「会社、職場など」が25.7%、「まちを歩いているとき」が24.8%となっています。

精神障害者の「その他」の回答は31人あり、このうち27人から記述があり、家庭内や親戚付き合い、近所付き合いや学校などでの保護者間の付き合い、インターネットやSNSとなっています。

【問 29（2）「その他」回答の内容（精神障害者手帳所持者）】(N=31)

回答内容	回答数
家庭内や親戚付き合い	6
近所付き合いや学校などでの保護者間の付き合い	6
インターネットや SNS	3

注：精神障害者手帳所持者で「その他」の（ ）内に記述があったうちの回答内容上位 3 位を表記。

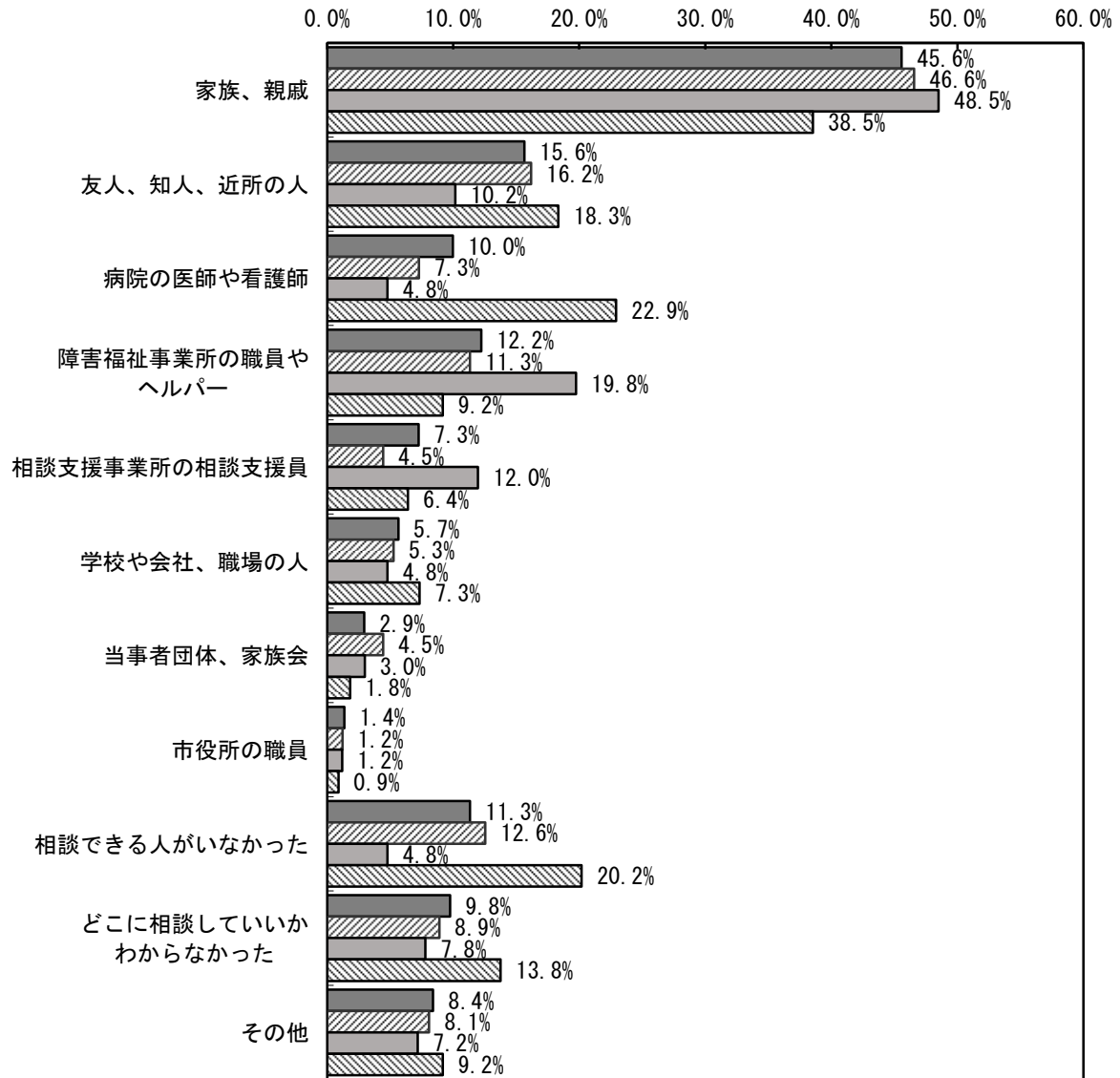
(3) 差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手

【問29(1)で1~3に○をつけたかたにおたずねします。】

※「5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをしたこと」が「よくある」「ときどきある」「あまりない」と回答した方

問29(3) 差別を受けたり、嫌な思いをしたとき、どなたに相談しましたか。
(あてはまるものすべてに○)

【図 29-3 差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=441) ▨身体障害者 (N=247) ▩知的障害者 (N=167) ▪精神障害者 (N=109)

差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手について見ると、「家族、親戚」が45.6%と最も高く、次いで「友人、知人、近所の人」が15.6%、「障害福祉事業所の職員やヘルパー」が12.2%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「家族、親戚」が最も高くなっています。

身体障害者は、次いで「友人、知人、近所の人」が16.2%、「相談できる人がいなかった」が12.6%となっています。

知的障害者は、次いで「障害福祉事業所の職員やヘルパー」が19.8%、「相談支援事業所の相談支援員」が12.0%となっています。

精神障害者は、次いで「病院の医師や看護師」が22.9%、「相談できる人がいなかった」が20.2%となっています。

(4) 差別を受けた具体的な内容

【問29(1)で1～3に○をつけたかたにおたずねします。】

※「5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをしたこと」が「よくある」「ときどきある」「あまりない」と回答した方

問29(4) 差別を受けたり、嫌な思いをしたときの具体的な内容を、可能な範囲でお答えください。(任意回答)

「5年間で障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをしたこと」が、「よくある」「ときどきある」「あまりない」と回答した方(441人)のうち199人から、差別を受けた具体的な内容の回答がありました。

【図29-4 差別を受けた具体的な内容(自由記述)】

回答内容	回答数	構成比
職員や店員などからの差別的な対応	35	17.6%
職場などでの障害を理由とした不当な扱い	53	26.6%
家族や知人からの差別的な対応、からかい	15	7.5%
外出時での差別的な視線、発言、対応	69	34.7%
公共施設などでの無配慮	3	1.5%
その他	24	12.1%
合計	199	100.0%

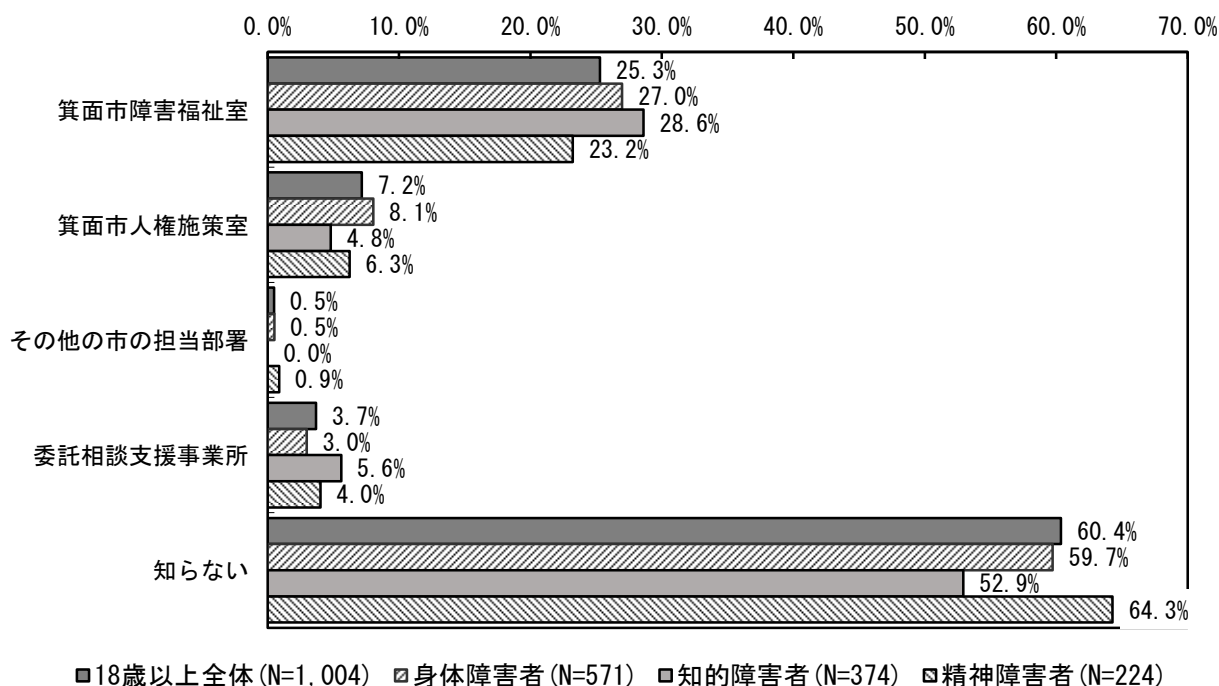
「その他」の記載内容：

- つらいので思い出したくない。
- 友達の輪に入れない。
- 市や学校に相談したが解決できなかった。
- 「障害者」と言われるのが嫌だ。
- よく覚えていない。
- 自分の意志に反して物事を判断される。 等。

(5) 差別に関する相談窓口の認知度

問30 あなたは、以下の差別に関する相談窓口を知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

【図30 差別に関する相談窓口の認知度（複数回答）】



差別に関する相談窓口の認知度について見ると、「知らない」が60.4%と最も高く、次いで「箕面市障害福祉室」が25.3%、「箕面市人権施策室」が7.2%となっています。

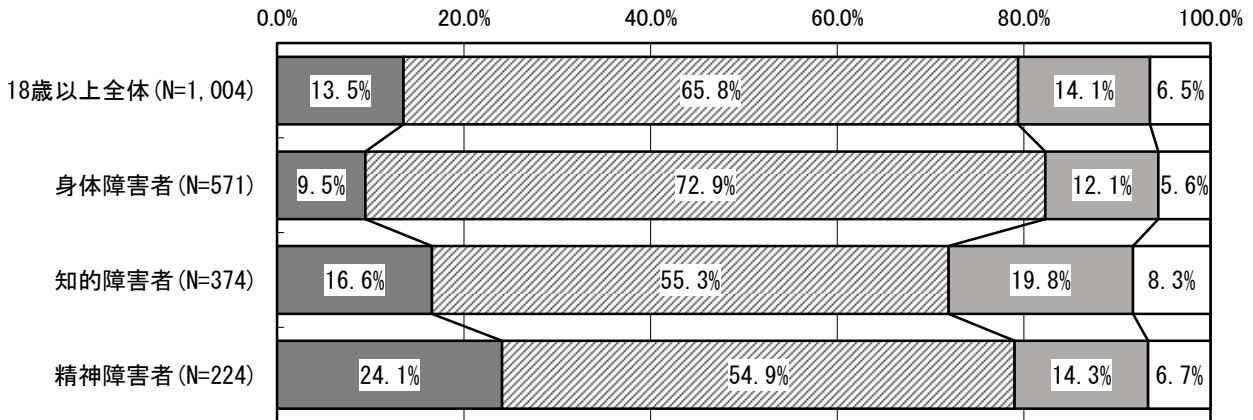
障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「知らない」が最も高く、次いで「箕面市障害福祉室」となっています。

13. 虐待について

(1) 虐待を受けた経験

問 3 1 (1) あなたは、これまで虐待を受けたことがありますか。(1つに○)

【図 31-1 虐待を受けた経験】



□ある □ない □わからない □無回答

虐待を受けた経験について見ると、「ない」が 65.8%と最も高く、次いで「わからない」が 14.1%、「ある」が 13.5%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「ない」が最も高くなっています。

精神障害者は、他の障害種別と比べて「ある」が 24.1%と最も高くなっています。

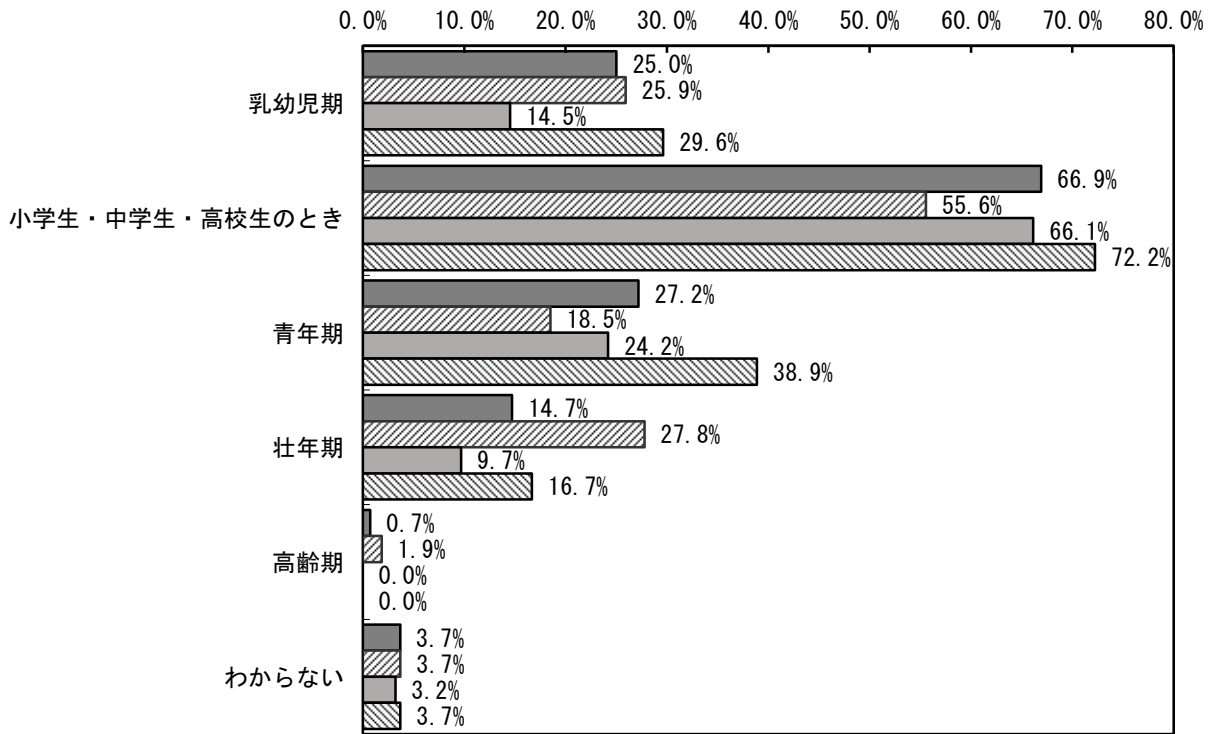
(2) 虐待を受けた時期

【問31(1)で1に○をつけたかたにおたずねします。】

※「これまで虐待を受けたこと」があると回答した方

問31(2) いつ頃、虐待を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図31-2 虐待を受けた時期（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=136) □身体障害者 (N=54) □知的障害者 (N=62) □精神障害者 (N=54)

虐待を受けた時期について見ると、「小学生・中学生・高校生のとき」が66.9%と最も高く、次いで「青年期」が27.2%、「乳幼児期」が25.0%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「小学生・中学生・高校生のとき」が最も高くなっています。

身体障害者は、次いで「壮年期」、「乳幼児期」となっています。

知的障害者と精神障害者は、次いで「青年期」、「乳幼児期」となっています。

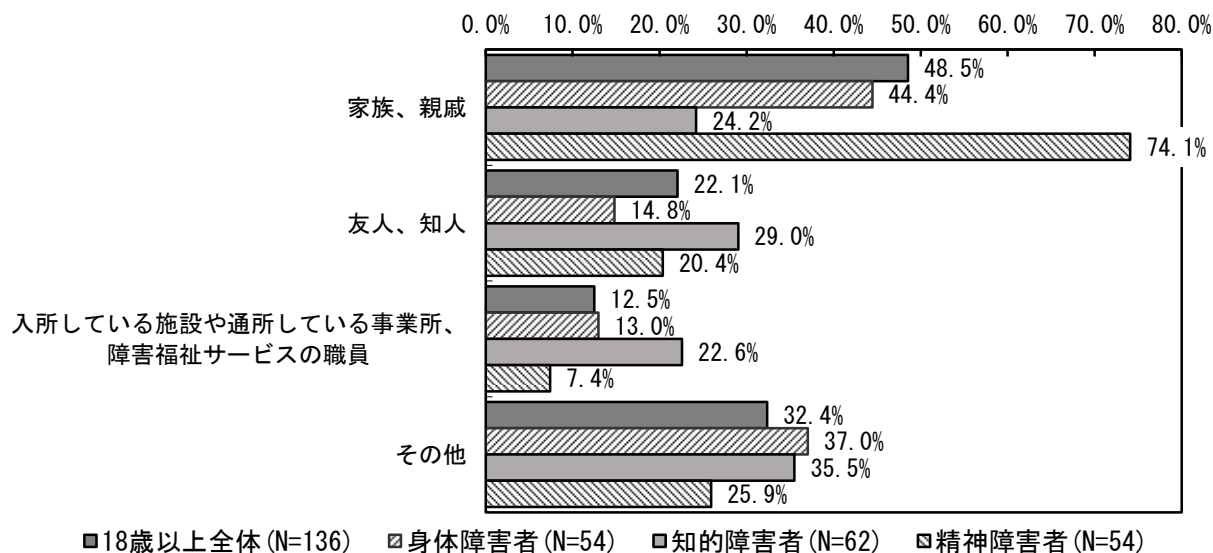
(3) 虐待を受けた相手

【問31(1)で1に○をつけたかたにおたずねします。】

※「これまで虐待を受けたこと」があると回答した方

問31(3) 誰から虐待を受けましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図 31-3 虐待を受けた経験（複数回答）】



虐待を受けた相手について見ると、「家族、親戚」が48.5%と最も高く、次いで「その他」が32.4%、「友人、知人」が22.1%となっています。「その他」の内容については、学校、職場、病院関係者などの回答がありました。

障害種別ごとに見ると、
 身体障害者と精神障害者は、「家族、親戚」が最も高く、次いで「その他」、「友人、知人」となっています。
 知的障害者は、「その他」が最も高く、次いで「友人、知人」、「家族、親戚」となっています。

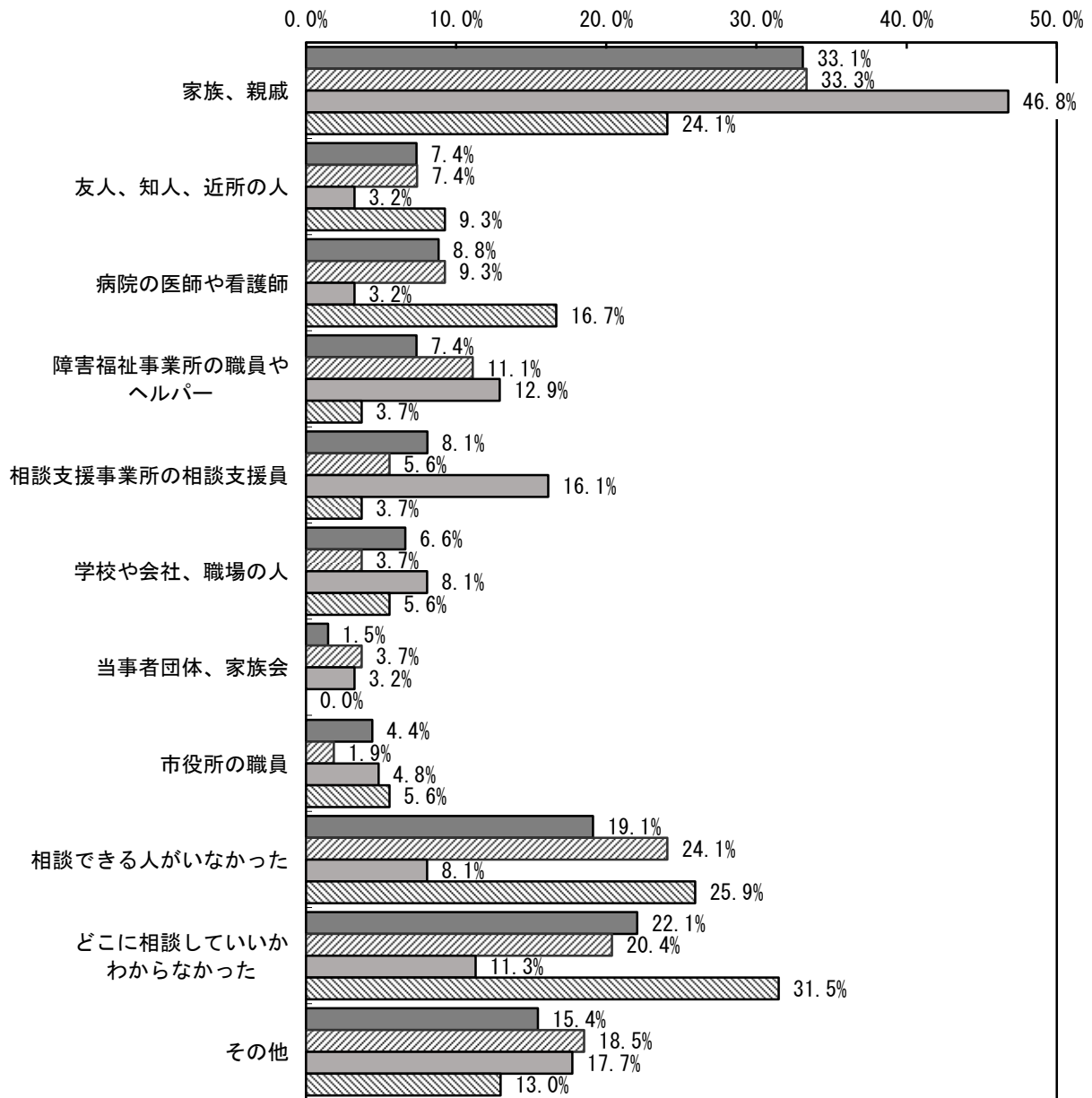
(4) 虐待を受けたときの相談相手

【問31(1)で1に○をつけたかたにおたずねします。】

※「これまで虐待を受けたこと」があると回答した方

問31(4) 虐待を受けたとき、どなたに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

【図 31-4 虐待を受けたときの相談相手（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=136) □身体障害者 (N=54) ▣知的障害者 (N=62) ▤精神障害者 (N=54)

虐待を受けたときの相談相手について見ると、「家族、親戚」が33.1%と最も高く、次いで「どこに相談していいかわからなかった」が22.1%、「相談できる人がいなかった」が19.1%となっています。

障害種別ごとに見ると、

身体障害者は、「家族、親戚」が33.3%と最も高く、次いで「相談できる人がいなかった」が24.1%、「どこに相談していいかわからなかった」が20.4%となっています。

知的障害者は、「家族、親戚」が46.8%と最も高く、次いで「その他」が17.7%、「相談支援事業所の相談支援員」が16.1%となっています。

精神障害者は、「どこに相談していいかわからなかった」が 31.5%と最も高く、次いで「相談できる人がいなかった」が 25.9%、「家族、親戚」が 24.1%となっています。

「その他」は、学校の教員・職員、職場の人、病院の医師・看護師など。

【問 31（3）「その他」回答の内容】（N=45）

回答内容	回答数	構成比
学校の教員・職員	19	42.2%
職場の人	8	17.8%
病院の医師・看護師	3	6.7%

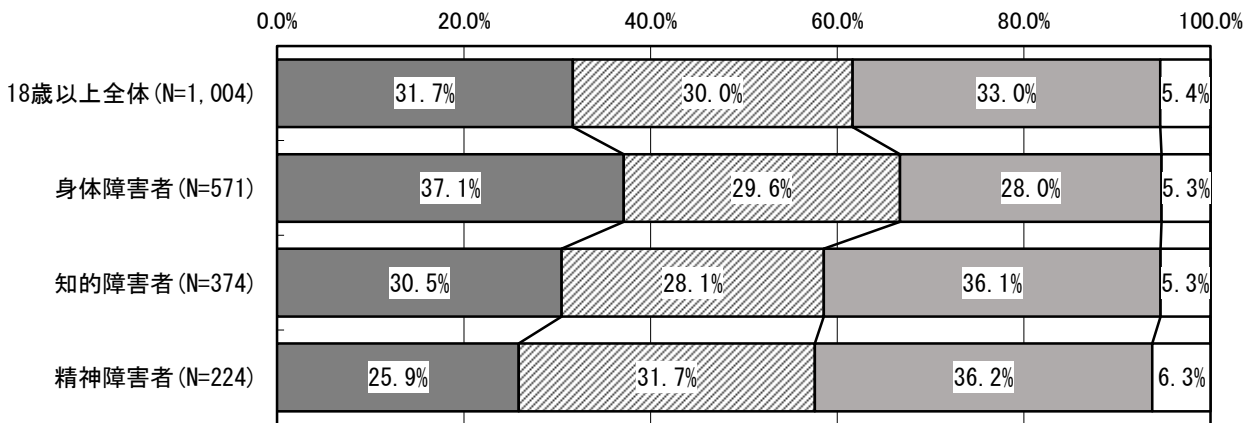
注：「その他」の（）内に記述があったうちの回答内容上位3位を表記。

14. 成年後見制度について

(1) 成年後見制度の認知度

問 3 2 あなたは成年後見制度について知っていますか。(1つに○)

【図 32 成年後見制度の認知度】



■知っている □聞いたことはあるがよくは知らない □知らない □無回答

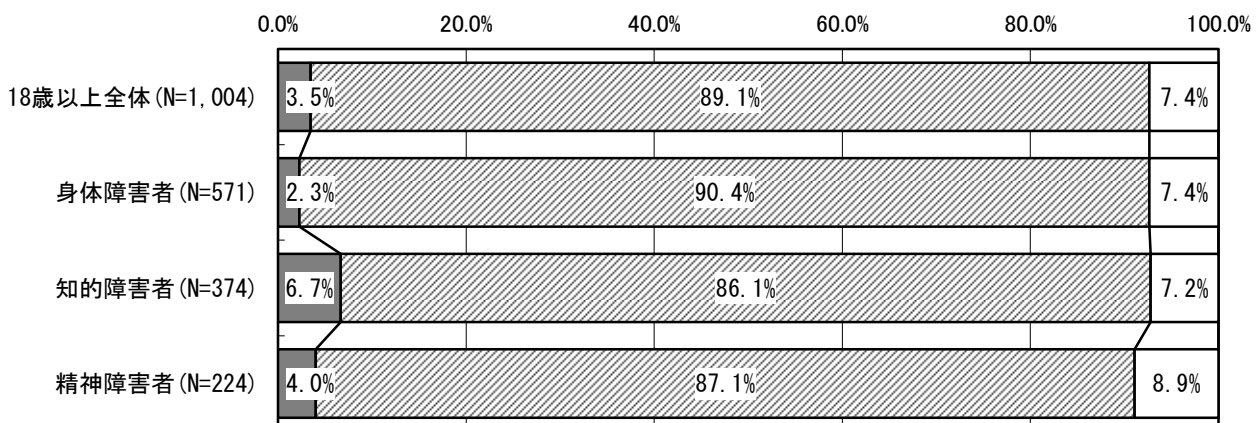
成年後見制度の認知度について見ると、「知らない」が 33.0%、「知っている」が 31.7%、「聞いたことはあるがよくは知らない」が 30.0%となっています。

障害種別ごとに見ると、身体障害者は他の障害種別と比べて「知っている」が最も低くなっています。

(2) 成年後見制度の利用状況

問 3 3 あなたは成年後見制度を利用していますか。(1つに○)

【図 33 成年後見制度の利用状況】



■利用している □利用していない □無回答

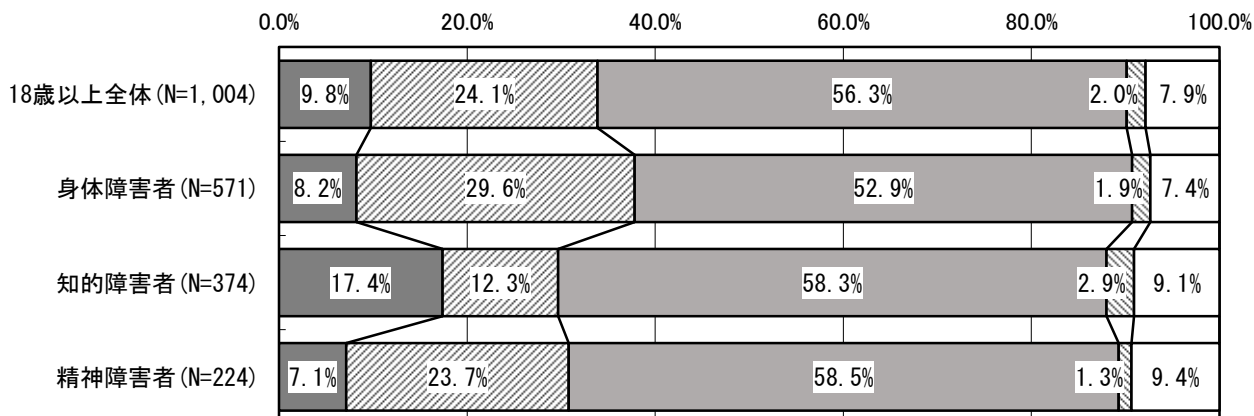
成年後見制度の利用状況について見ると、「利用していない」が 89.1%、「利用している」が 3.5%となっています。

障害種別による大きな差異は見られません。

(3) 今後の成年後見制度の利用意向

問 3 4 あなたは今後、成年後見制度を利用したいと思いますか。(1つに○)

【図 34 今後の成年後見制度の利用意向】



■利用したい □利用するつもりはない □わからない □その他 □無回答

今後の成年後見制度の利用意向について見ると、「わからない」が56.3%と最も高く、次いで「利用するつもりはない」が24.1%、「利用したい」が9.8%となっています。

障害種別ごとに見ると、知的障害者は他の障害種別と比べて「利用したい」が最も低くなっています。

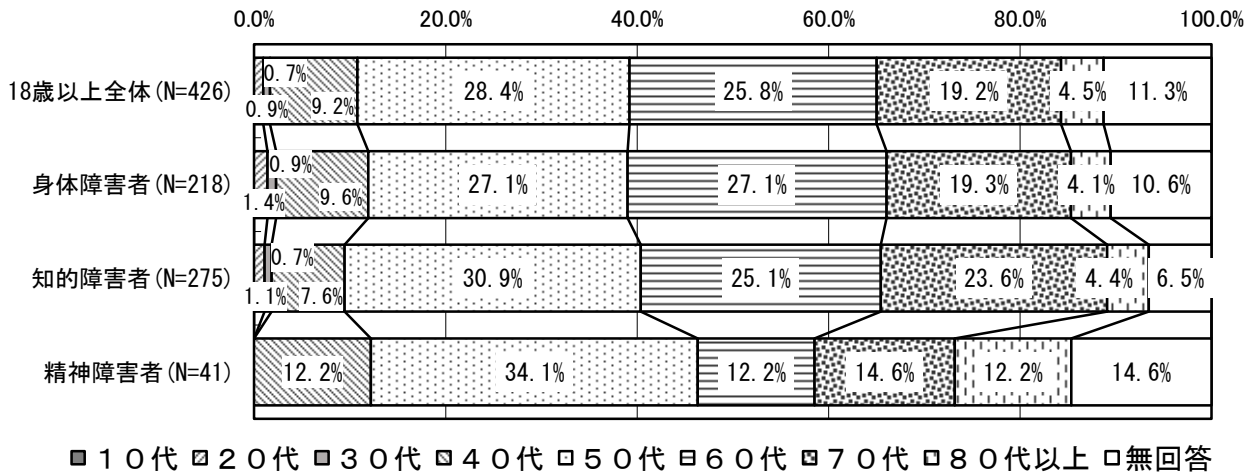
15. 本人以外の回答者について

(1) 回答者（本人以外）の年齢

問 3 5 あなた（障害のあるご本人以外でこのアンケートにお答えいただいているかた。以下同じ。）の年齢はおいくつですか。（1つに○）

※ 令和5年（2023年）1月1日現在でお答えください。

【図 35 回答者（本人以外）の年齢】



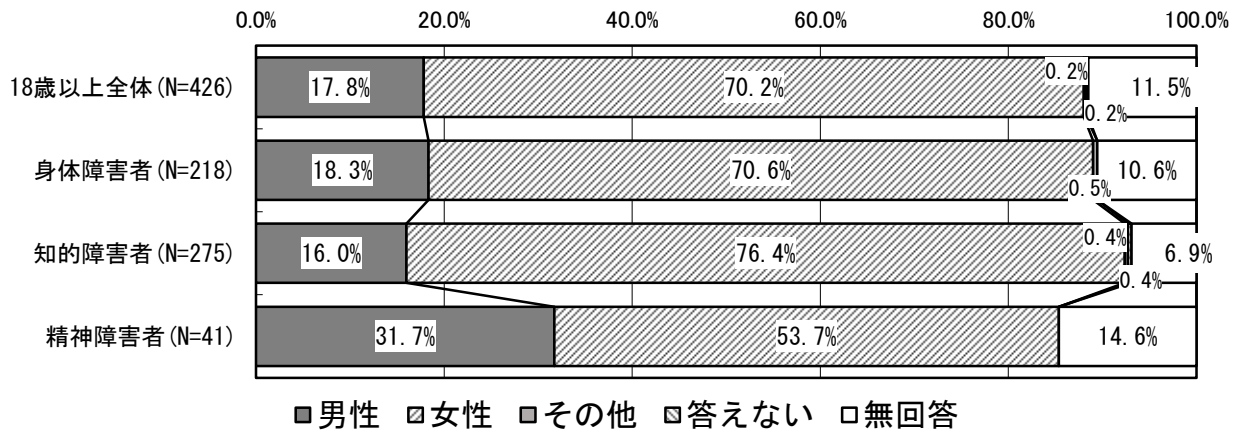
回答者（本人以外）の年齢について見ると、「50代」が28.4%と最も高く、次いで「60代」が25.8%、「70代」が19.2%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「50代」が最も高く、身体障害者は同率で「60代」も高くなっています。

(2) 回答者（本人以外）の性別

問 3 6 あなたの性別をお答えください。（1つに○）

【図 36 回答者（本人以外）の性別】

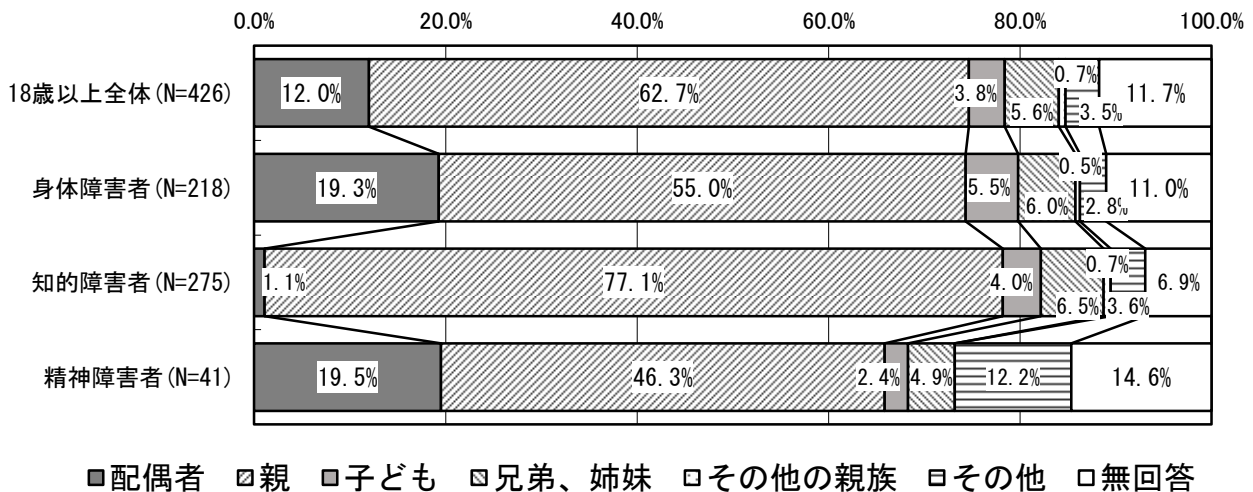


回答者の性別について見ると、「女性」が70.2%、「男性」が17.8%、「その他」が0.2%となっています。障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「女性」が最も高くなっています。

(3) 回答者本人との続柄

問 3 7 障害のあるかたご本人から見たあなたのご関係をお答えください。（1つに○）

【図 37 回答者本人との続柄】



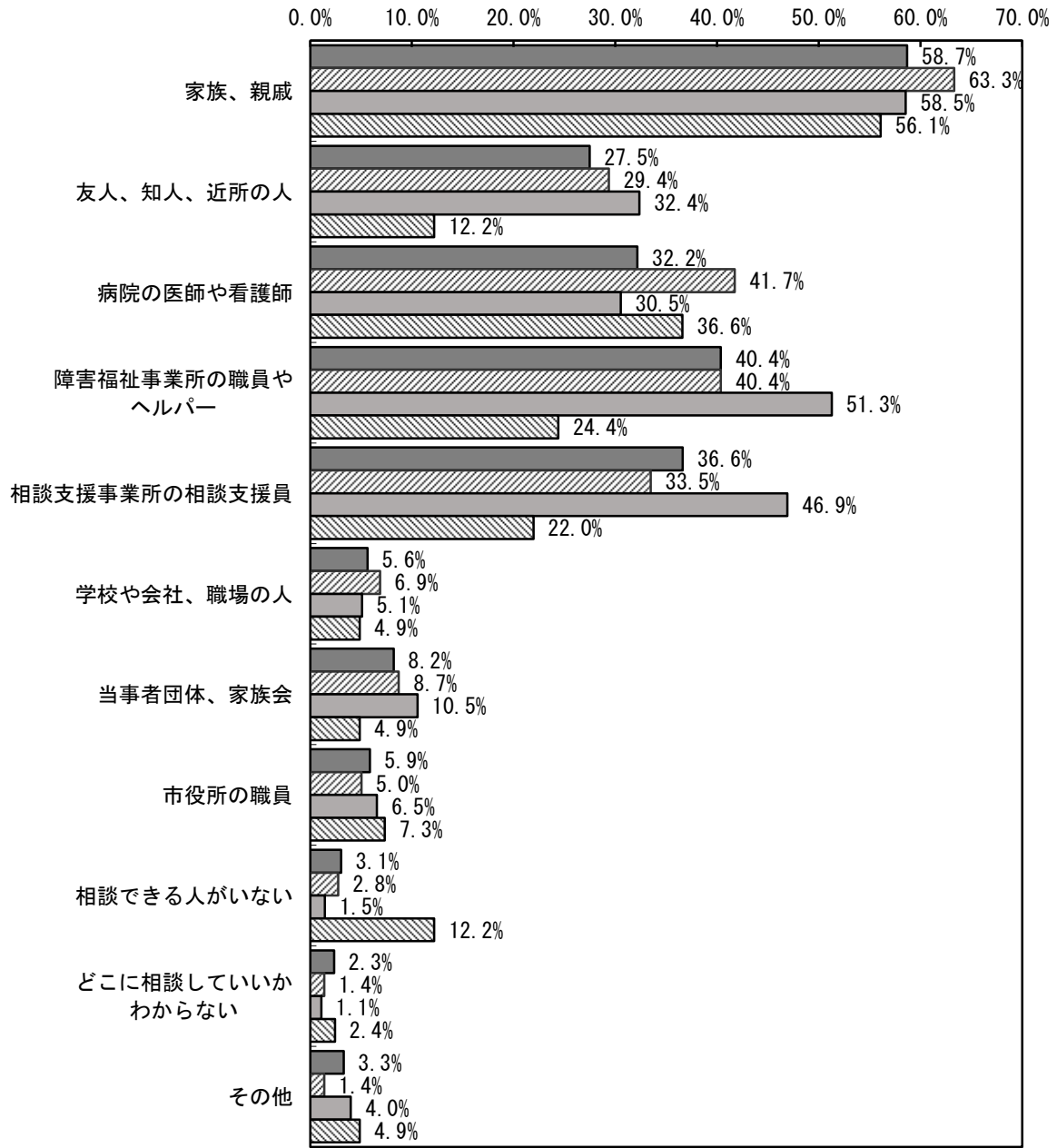
回答者の本人との続柄について見ると、「親」が62.7%と最も高く、次いで「配偶者」が12.0%、「兄弟、姉妹」が5.6%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「親」が最も高くなっています。

(4) 回答者（本人以外）の日頃の相談相手

問38 あなたが日頃、相談する人はどなたですか。（あてはまるものすべてに○）

【図38 回答者（本人以外）の日頃の相談相手（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=426) □身体障害者 (N=218) □知的障害者 (N=275) □精神障害者 (N=41)

回答者の日頃の相談相手について見ると、「家族、親戚」が58.7%と最も高く、次いで「障害福祉事業所の職員やヘルパー」が40.4%、「相談支援事業所の相談支援員」が36.6%となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「家族、親戚」が最も高くなっています。

身体障害者は、次いで「病院の医師や看護師」が41.7%、「障害福祉事業所の職員やヘルパー」が40.4%となっています。

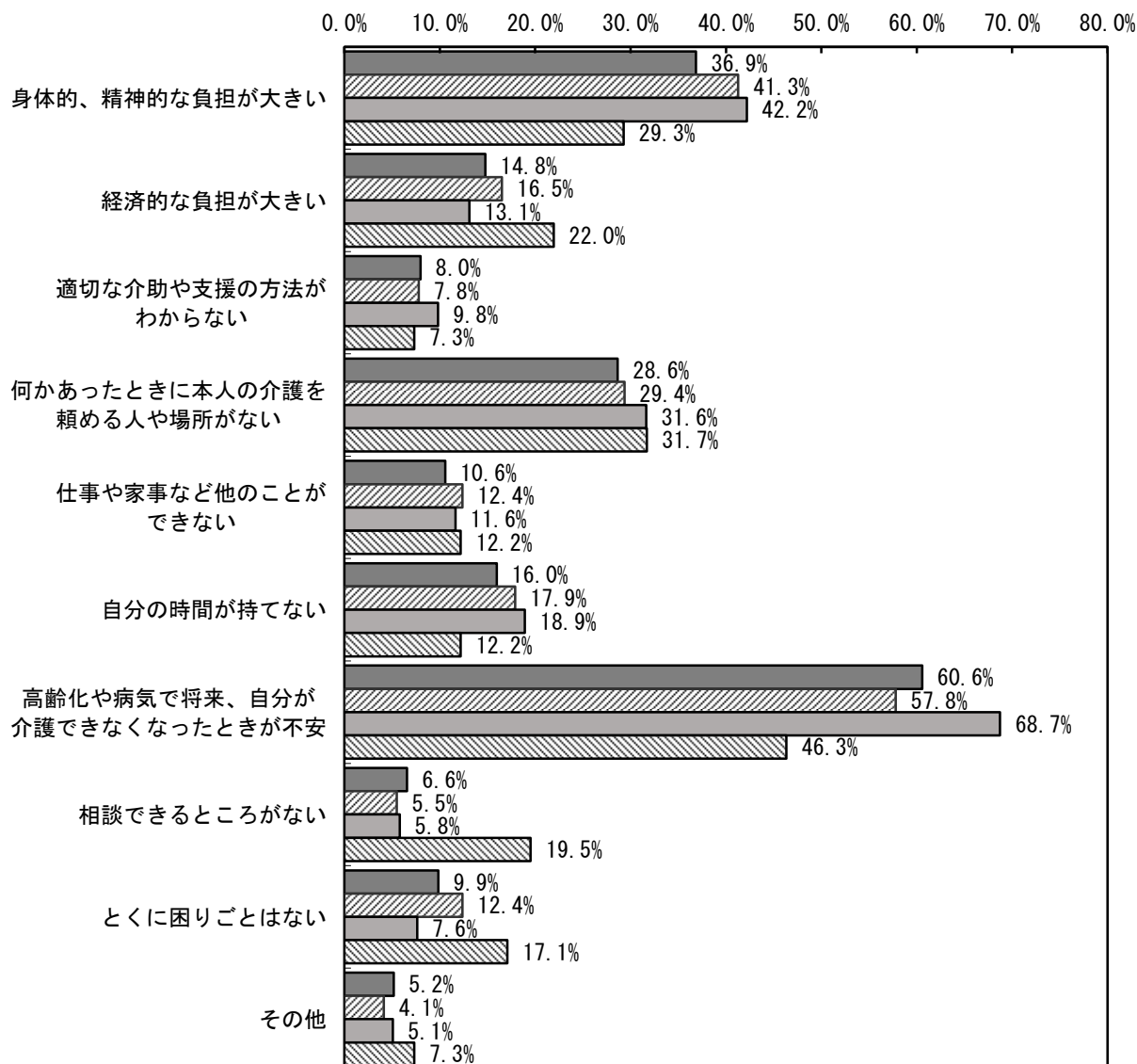
知的障害者は、次いで「障害福祉事業所の職員やヘルパー」が51.3%、「相談支援事業所の相談支援員」が46.9%となっています。

精神障害者は、次いで「病院の医師や看護師」が36.6%、「障害福祉事業所の職員やヘルパー」が24.4%となっています。

(5) 回答者（本人以外）の日頃の困りごと

問 39 あなたが日頃、介助や支援をする際の困りごとはなんですか。（あてはまるものすべてに○）

【図 39 回答者（本人以外）の日頃の困りごと（複数回答）】



■18歳以上全体 (N=426) □身体障害者 (N=218) □知的障害者 (N=275) □精神障害者 (N=41)

回答者の日頃の困りごとについて見ると、「高齢化や病気で将来、自分が介護できなくなったときが不安」が60.6%と最も高く、次いで「身体的、精神的な負担が大きい」が36.9%、「何かあったときに本人の介護を頼める人や場所がない」が28.6%となっています。

障害種別ごとに見ると、

身体障害者と知的障害者は、次いで「身体的、精神的な負担が大きい」、「何かあったときに本人の介護を頼める人や場所がない」となっています。

精神障害者は、次いで「何かあったときに本人の介護を頼める人や場所がない」、「身体的、精神的な負担が大きい」となっています。

16. 自由記述（障害福祉サービスや行政の取り組みについての意見・提案）

大分類	小分類	件数	構成比 (%)
1 情報提供、相談体制、窓口対応	1-1 情報提供・周知について	20	
	1-2 相談体制・窓口対応について	36	
	1-3 保護者・介助者への支援について	10	
	小計	66	18.3
2 人権尊重・理解促進	2-1 様々な障害への理解促進や配慮について	26	
	小計	26	7.2
3 地域生活	3-1 地域生活・地域活動について	9	
	3-2 移動手段について	28	
	小計	37	10.3
5 就労	5-1 就労について	15	
	小計	15	4.2
6 経済的な問題	6-1 障害者年金、生活保護、その他経済的な問題について	30	
	小計	30	8.3
7 障害福祉施策全般	7-1 障害福祉サービスへの内容について	29	
	7-2 各種手続きについて	10	
	7-3 成年後見制度について	2	
	7-4 将来への不安について	33	
	7-5 市の障害福祉施策の現状や要望について	73	
	小計	147	40.8
8 その他	8-1 その他	39	
	小計	39	10.8
	合計	360	100.0

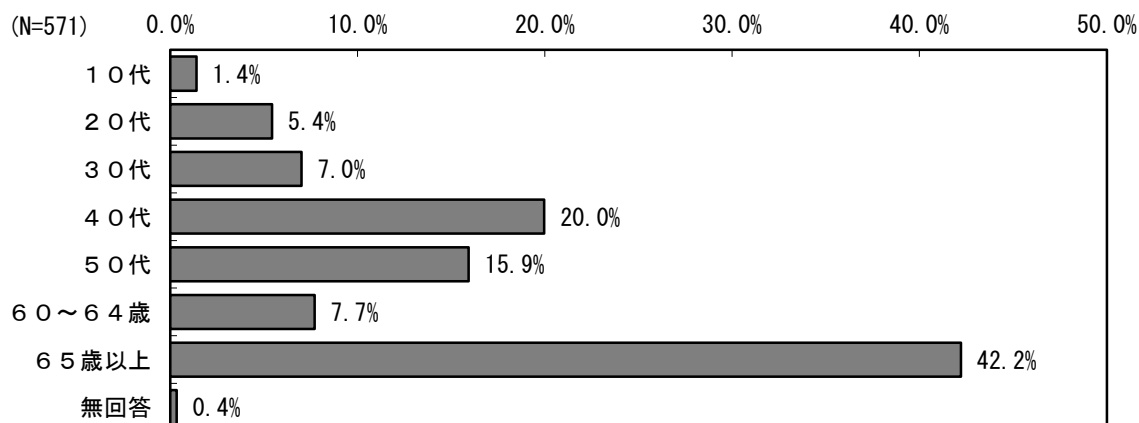
IV. 調査結果 (③18歳以上の障害者でない市民)

1. 回答者について

(1) 年齢

問1 あなたの年齢はおいくつですか。(1つに○)
※ 令和5年(2023年)1月1日現在でお答えください。

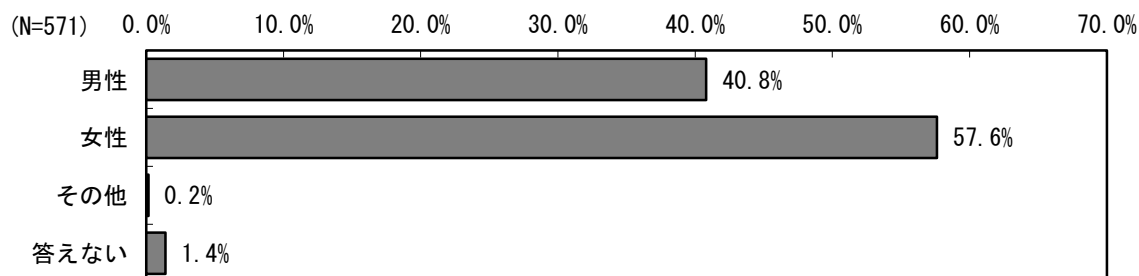
【図1 年齢】



(2) 性別

問2 あなたの性別をお答えください。(1つに○)

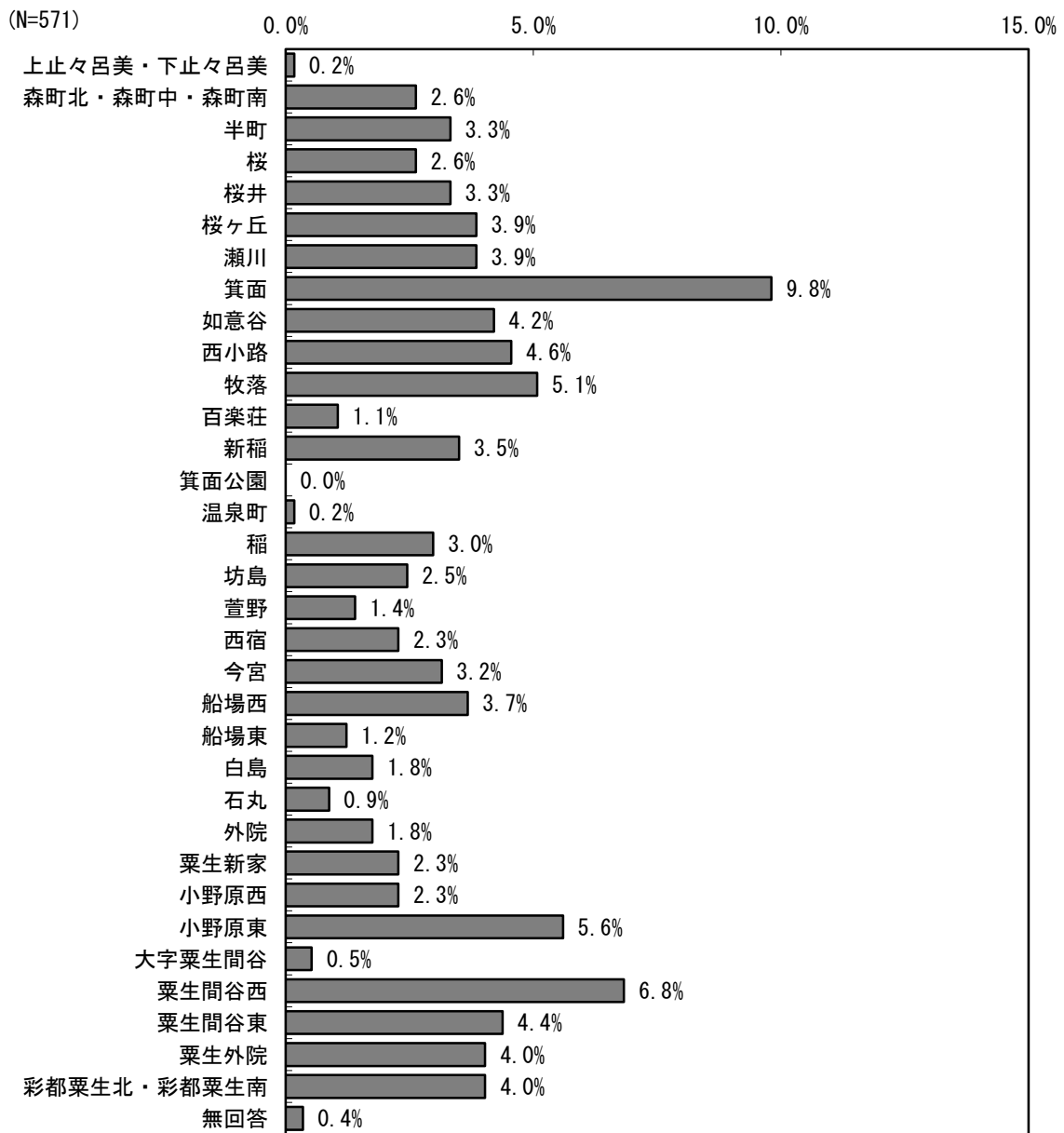
【図2 性別】



(3) 居住地域

問3 あなたのお住まいの地域はどこですか。(1つに○)

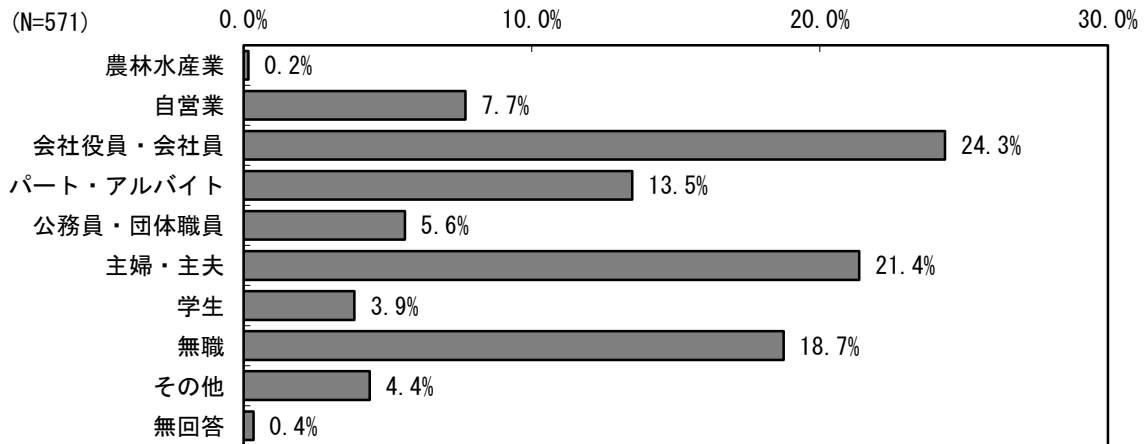
【図3 居住地域】



(4) 職業

問4 あなたのお仕事は何ですか。(1つに○)

【図4 職業】



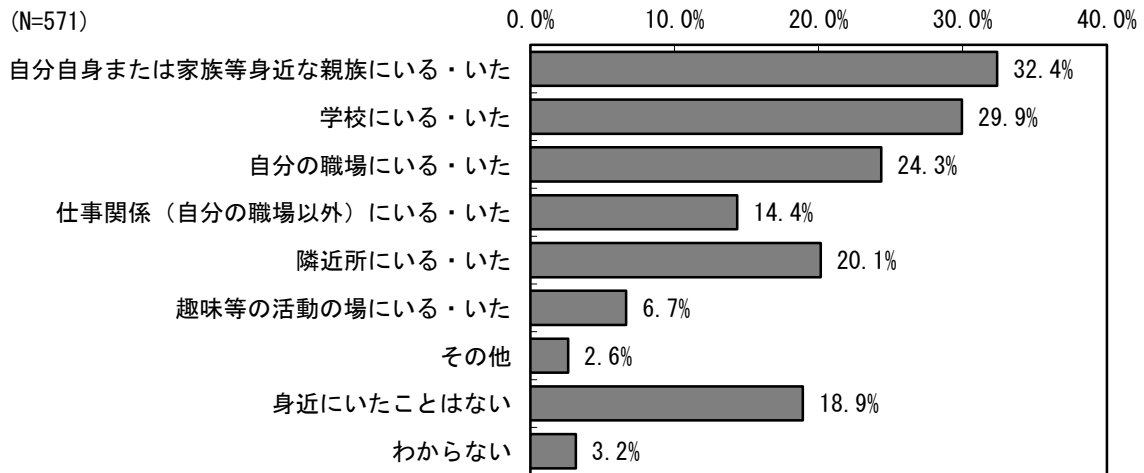
職業について見ると、「会社役員・会社員」が24.3%と最も高く、次いで「主婦・主夫」が21.4%、「無職」が18.7%となっています。

2. 障害や障害のある人について

(1) 身近に障害者のある人がいるか

問5 あなたの身近に、障害のある人がいますか。または、これまでにいたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

【図5 身近に障害のある人がいるか（複数回答）】



身近に障害のある人がいるかについて見ると、「自分自身または家族等身近な親族にいる・いた」が32.4%と最も高く、次いで「学校にいる・いた」が29.9%、「自分の職場にいる・いた」が24.3%となっています。

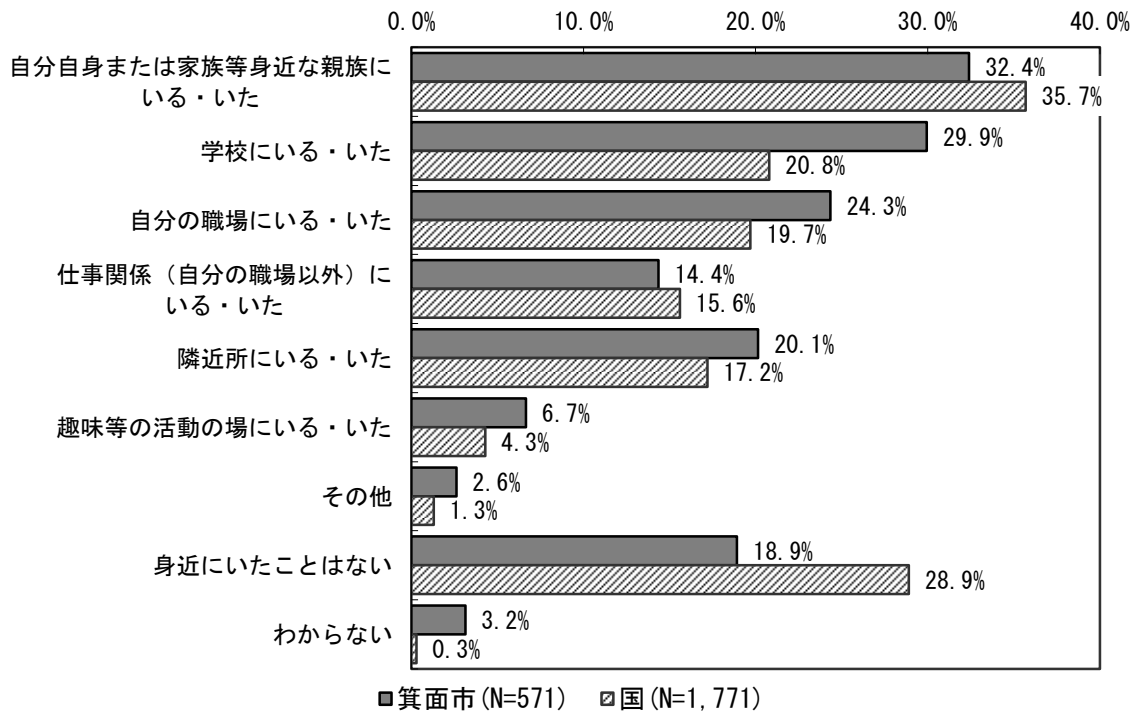
【表5 身近に障害のある人がいるか（複数回答）—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
自分自身または家族等身近な親族にいる・いた	25.0%	22.6%	22.5%	42.1%	37.4%	25.0%	30.7%	0.0%	32.4%
学校にいる・いた	37.5%	77.4%	47.5%	48.2%	40.7%	11.4%	11.2%	50.0%	29.9%
自分の職場にいる・いた	0.0%	9.7%	35.0%	34.2%	33.0%	25.0%	17.4%	0.0%	24.3%
仕事関係（自分の職場以外）にいる・いた	0.0%	9.7%	25.0%	18.4%	15.4%	15.9%	11.2%	0.0%	14.4%
隣近所にいる・いた	50.0%	12.9%	17.5%	23.7%	17.6%	15.9%	20.7%	0.0%	20.1%
趣味等の活動の場にいる・いた	0.0%	6.5%	5.0%	5.3%	8.8%	2.3%	7.9%	0.0%	6.7%
その他	0.0%	0.0%	2.5%	4.4%	3.3%	4.5%	1.7%	0.0%	2.6%
身近にいたことはない	0.0%	6.5%	12.5%	10.5%	9.9%	25.0%	28.6%	0.0%	18.9%
わからない	12.5%	3.2%	5.0%	0.0%	3.3%	0.0%	4.6%	0.0%	3.2%

年齢別で見ると、「学校にいる・いた」は20代が他の年代よりも高くなっています。

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

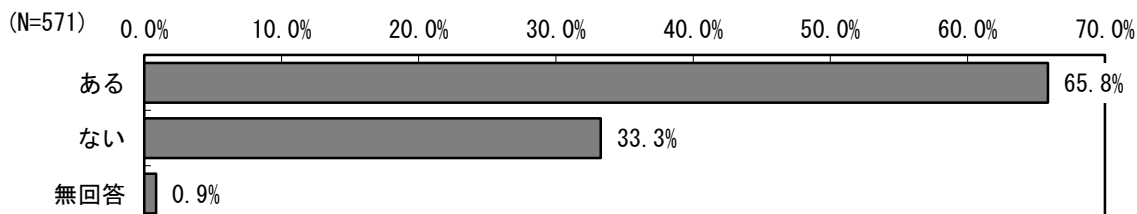
【図 5-1 身近に障害のある人がいるか】



(2) 障害のある人が困っているときに手助けをした経験

問6 あなたは、障害のある人が困っているときに、手助けをしたことがありますか。（1つに○）

【図6 障害のある人が困っているときに手助けをした経験】



障害のある人が困っているときに手助けをした経験について見ると、「ある」が65.8%、「ない」が33.3%となっています。

【表6 障害のある人が困っているときに手助けをした経験—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
ある	60.9%	69.0%	100.0%	75.0%	65.8%
ない	37.8%	30.4%	0.0%	25.0%	33.3%
無回答	1.3%	0.6%	0.0%	0.0%	0.9%

性別でみると、「ある」は女性の方が8.1ポイント高くなっています。

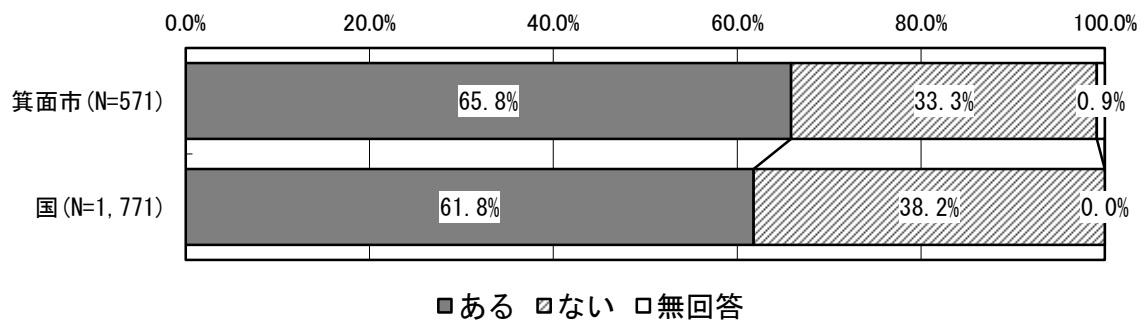
【表6 障害のある人が困っているときに手助けをした経験—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
ある	25.0%	61.3%	65.0%	79.8%	64.8%	61.4%	62.7%	50.0%	65.8%
ない	75.0%	38.7%	32.5%	18.4%	35.2%	38.6%	36.5%	50.0%	33.3%
無回答	0.0%	0.0%	2.5%	1.8%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	0.9%

年齢別でみると、「ある」は40代が最も高くなっています。

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

【図 6-1 障害のある人が困っているときに手助けをした経験】



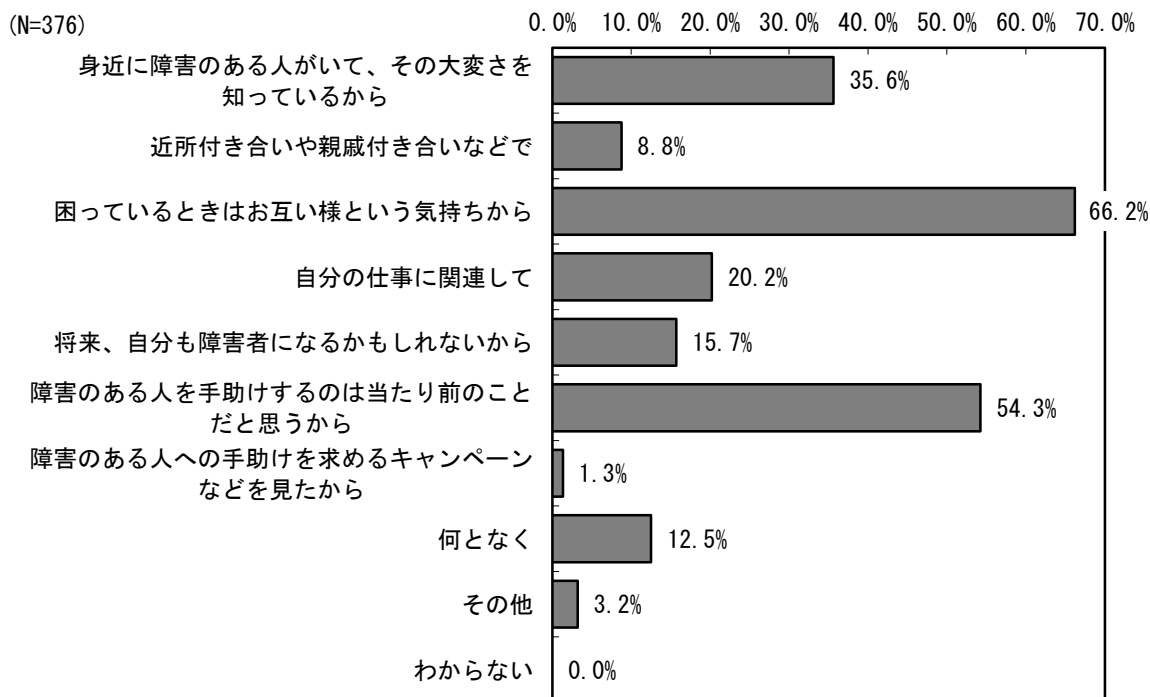
(3) 手助けをした理由

【問6で「1. ある」に○をつけたかたにおたずねします。】

※「障害のある人が困っているときに、手助けをしたこと」があると回答した方

問7(1)「1. ある」と答えたかたは、どのような気持ちからですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 7-1 手助けをした理由（複数回答）】



手助けをした理由について見ると、「困っているときはお互い様という気持ちから」が66.2%と最も高く、次いで「障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから」が54.3%、「身近に障害のある人がいて、その大変さを知っているから」が35.6%となっています。

【表 7 手助けをした理由（複数回答）—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	142	227	1	6	376
身近に障害のある人がいて、その大変さを知っているから	40.1%	32.6%	0.0%	50.0%	35.6%
近所付き合いや親戚付き合いなどで	9.2%	8.4%	0.0%	16.7%	8.8%
困っているときはお互い様という気持ちから	69.0%	64.8%	100.0%	50.0%	66.2%
自分の仕事に関連して	16.9%	22.5%	0.0%	16.7%	20.2%
将来、自分も障害者になるかもしれないから	14.8%	15.9%	0.0%	33.3%	15.7%
障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから	52.1%	56.4%	0.0%	33.3%	54.3%
障害のある人への手助けを求めるキャンペーンなどを見(み)たから	2.1%	0.9%	0.0%	0.0%	1.3%
何となく	9.2%	14.1%	0.0%	33.3%	12.5%
その他	2.1%	4.0%	0.0%	0.0%	3.2%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

性別でみると、男女とも「困っているときはお互い様という気持ちから」が最も高くなっている。

【表7 手助けをした理由（複数回答）—年齢別】

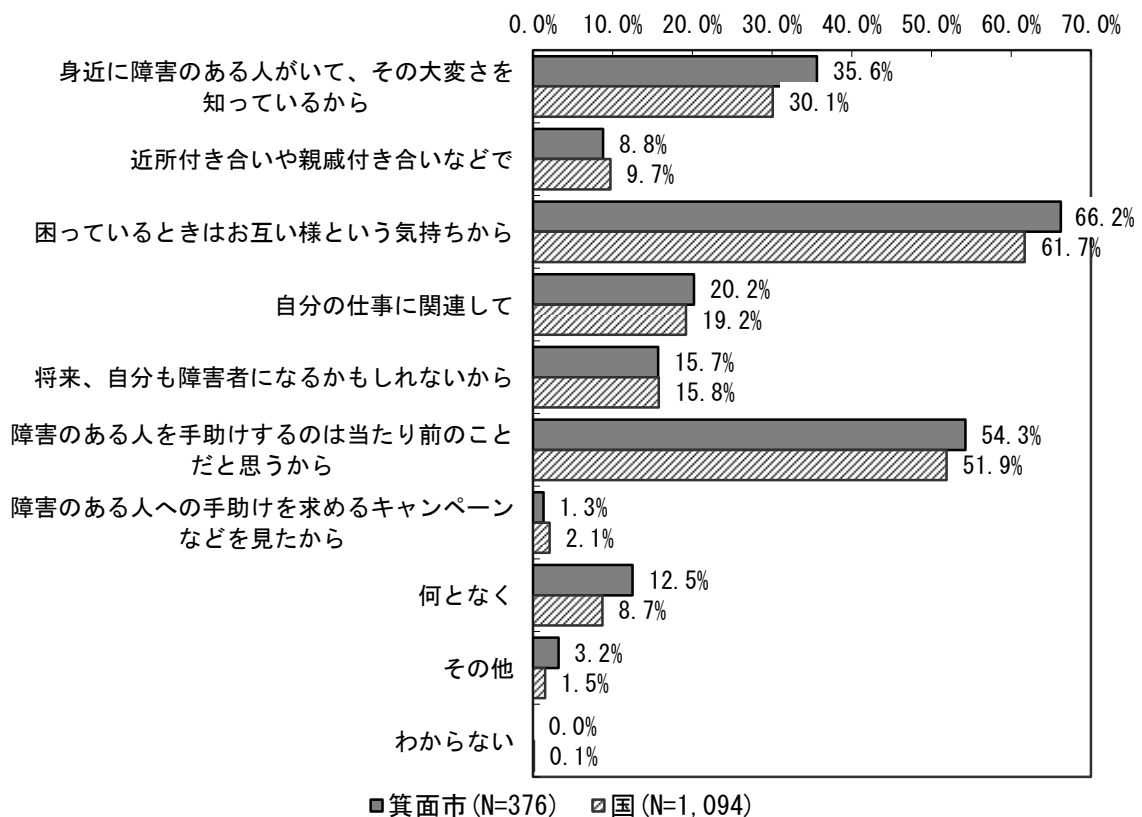
	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	2	19	26	91	59	27	151	1	376
身近に障害のある人がいて、その大変さを知っているから	50.0%	21.1%	15.4%	41.8%	35.6%	33.3%	37.7%	0.0%	35.6%
近所付き合いや親戚付き合いなどで困っているときはお互い様という気持ちから	50.0%	0.0%	7.7%	9.9%	11.9%	0.0%	9.3%	0.0%	8.8%
自分の仕事に関連して	0.0%	26.3%	30.8%	18.7%	18.6%	25.9%	18.5%	0.0%	20.2%
将来、自分も障害者になるかもしれないから	50.0%	0.0%	11.5%	13.2%	10.2%	11.1%	22.5%	0.0%	15.7%
障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから	0.0%	42.1%	50.0%	47.3%	57.6%	59.3%	59.6%	0.0%	54.3%
障害のある人への手助けを求めるキャンペーンなどを見(み)たから	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	1.3%
何となく	100.0%	5.3%	11.5%	13.2%	11.9%	14.8%	11.3%	100.0%	12.5%
その他	0.0%	0.0%	3.8%	6.6%	1.7%	7.4%	1.3%	0.0%	3.2%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

年齢別にみると、どの年代も「困っているときはお互い様という気持ちから」が最も高くなっている。

参考

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

【図 7-1 手助けをした理由（複数回答）】

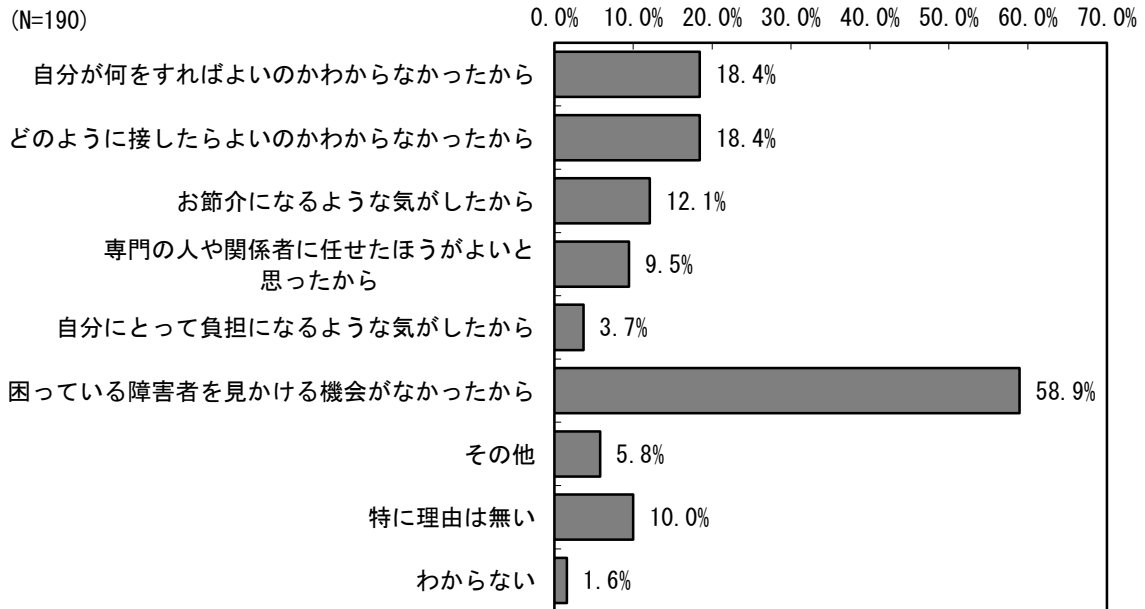


(4) 手助けをしなかった理由

【問6で「2. ない」に○をつけたかたにおたずねします。】

※「障害のある人が困っているときに、手助けをしたこと」がないと回答した方
問7(2)「2. ない」と答えたかたは、どのような気持ちからですか。(あてはまるものすべてに○)

【図7-2 手助けをしなかった理由（複数回答）】



手助けをしなかった理由について見ると、「困っている障害者を見かける機会がなかったから」が58.9%と最も高く、次いで「自分が何をすればよいのかわからなかったから」、「どのように接したらよいのかわからなかったから」が18.4%となっています。

【表7-2 手助けをしなかった理由（複数回答）—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	88	100	0	2	190
自分が何をすればよいのかわからなかったから	20.5%	17.0%	-	0.0%	18.4%
どのように接したらよいのかわからなかったから	19.3%	17.0%	-	50.0%	18.4%
お節介になるような気がしたから	15.9%	9.0%	-	0.0%	12.1%
専門の人や関係者に任せようがよいと思ったから	10.2%	9.0%	-	0.0%	9.5%
自分にとって負担になるような気がしたから	4.5%	3.0%	-	0.0%	3.7%
困っている障害者を見かける機会がなかったから	51.1%	66.0%	-	50.0%	58.9%
その他	6.8%	5.0%	-	0.0%	5.8%
特に理由は無い	11.4%	9.0%	-	0.0%	10.0%
わからない	2.3%	1.0%	-	0.0%	1.6%

性別で見ると、男女とも「困っている障害者を見かける機会がなかったから」が最も高く、女性の方が14.9ポイント高くなっています。

【表 7-2 手助けをしなかった理由（複数回答）—年齢別】

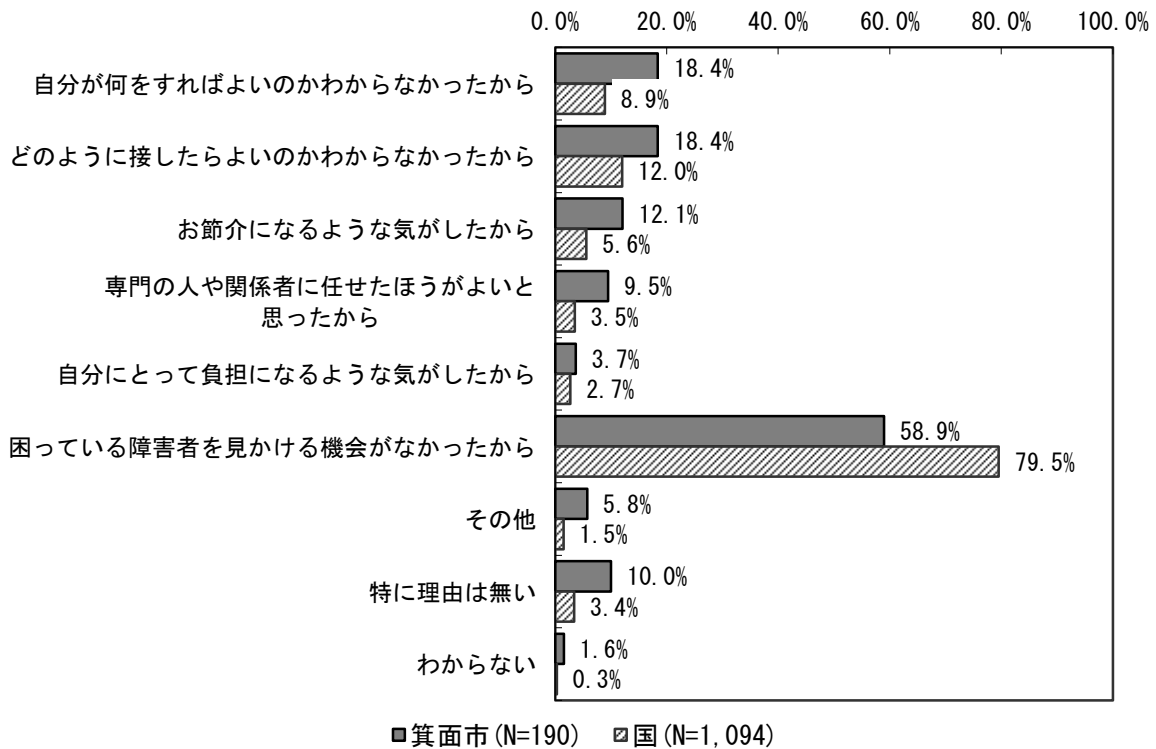
	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	6	12	13	21	32	17	88	1	190
自分が何をすればよいのかわからなかったから	33.3%	33.3%	23.1%	23.8%	28.1%	17.6%	10.2%	0.0%	18.4%
どのように接したらよいのかわからなかったから	50.0%	41.7%	15.4%	14.3%	21.9%	17.6%	13.6%	0.0%	18.4%
お節介になるような気がしたから	33.3%	33.3%	7.7%	14.3%	6.3%	11.8%	10.2%	0.0%	12.1%
専門の人や関係者に任せようがよいと思ったから	16.7%	25.0%	7.7%	4.8%	9.4%	5.9%	9.1%	0.0%	9.5%
自分にとって負担になるような気がしたから	16.7%	8.3%	7.7%	0.0%	3.1%	5.9%	2.3%	0.0%	3.7%
困っている障害者を見かける機会がなかったから	50.0%	16.7%	69.2%	71.4%	53.1%	70.6%	60.2%	100.0%	58.9%
その他	0.0%	0.0%	7.7%	0.0%	9.4%	5.9%	6.8%	0.0%	5.8%
特に理由は無い	0.0%	25.0%	7.7%	4.8%	9.4%	0.0%	12.5%	0.0%	10.0%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	1.6%

年齢別にみると、30代以上の年代では「困っている障害者を見かける機会がなかったから」が最も高く、20代は「どのように接したらよいのかわからなかったから」が最も高くなっています。10代は「困っている障害者を見かける機会がなかったから」と「どのように接したらよいのかわからなかったから」が同率となっています。

参考

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

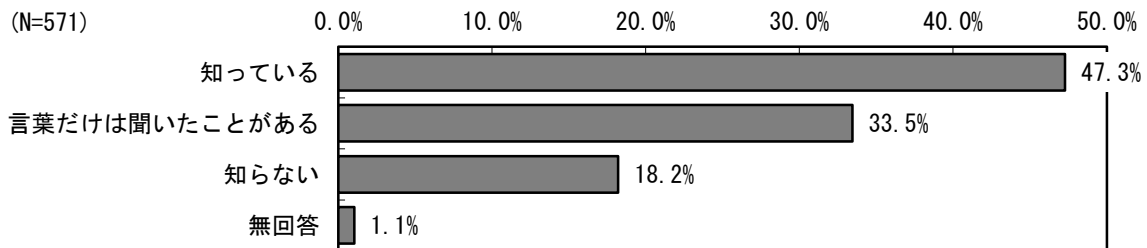
【図 7-2-2 手助けをしなかった理由（複数回答）】



(5) 「共生社会」という考え方を知っているか

問8 あなたは、障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らすことを目指す「共生社会」という考えかたを知っていますか。(1つに○)

【図8 「共生社会」という考え方を知っているか】



「共生社会」という考えかたを知っているかについて見ると、「知っている」が47.3%と最も高く、次いで「言葉だけは聞いたことがある」が33.5%、「知らない」が18.2%となっています。

【表8 「共生社会」という考え方を知っているか—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
知っている	49.8%	45.9%	100.0%	25.0%	47.3%
言葉だけは聞いたことがある	33.9%	33.1%	0.0%	37.5%	33.5%
知らない	14.6%	20.4%	0.0%	37.5%	18.2%
無回答	1.7%	0.6%	0.0%	0.0%	1.1%

性別でみると、「知らない」が女性の方が5.8ポイント高くなっています。

【表8 「共生社会」という考え方を知っているか—年齢別】

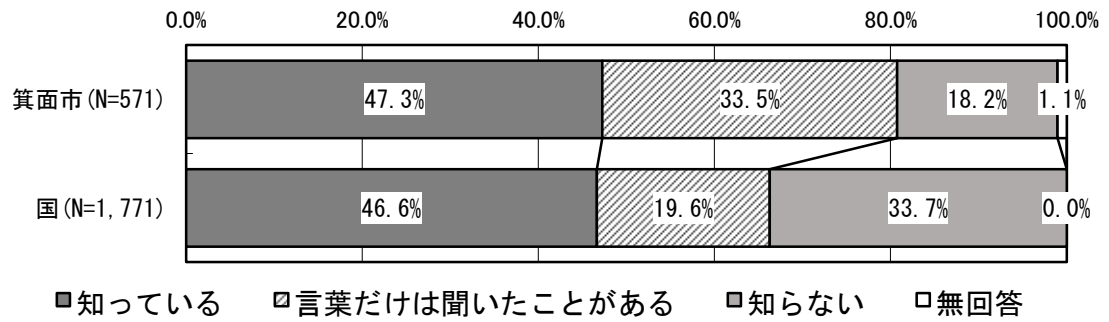
	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
知っている	62.5%	45.2%	37.5%	38.6%	54.9%	63.6%	47.3%	0.0%	47.3%
言葉だけは聞いたことがある	25.0%	25.8%	37.5%	36.8%	29.7%	22.7%	35.7%	50.0%	33.5%
知らない	12.5%	29.0%	22.5%	23.7%	15.4%	13.6%	15.4%	50.0%	18.2%
無回答	0.0%	0.0%	2.5%	0.9%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	1.1%

年齢別にみると、「知っている」は10代、50代、60～64歳で50%以上となっています。

参考

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

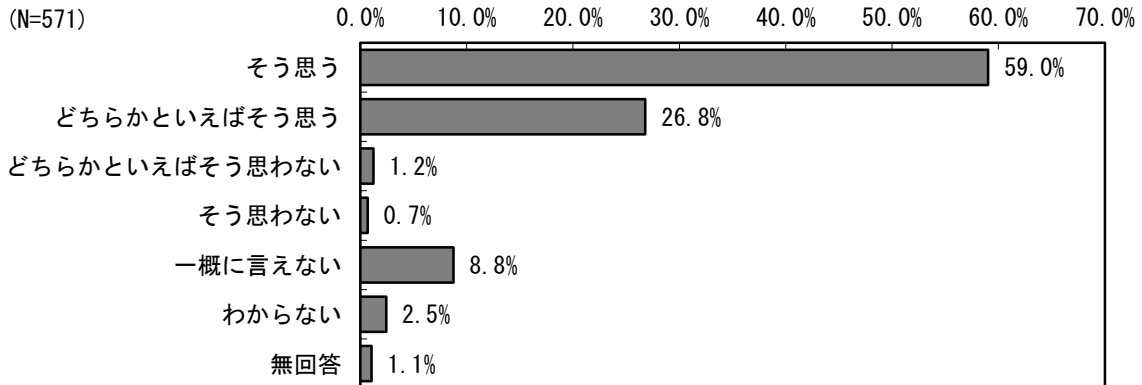
【表 8-1 「共生社会」という考え方を知っているか】



(6) 「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考え方

問9 国や自治体では、「共生社会」の考えかたに基づいて、障害のある人もない人も共に生活するための環境づくりを進めています。あなたは、この「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考えかたについて、どう思いますか。（1つに○）

【図9 「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考え方】



「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考えかたについて見ると、「そう思う」が59.0%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が26.8%、「一概に言えない」が8.8%となっています。

【表9 「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考え方—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
そう思う	59.7%	58.1%	100.0%	75.0%	59.0%
どちらかといえばそう思う	28.8%	25.8%	0.0%	12.5%	26.8%
どちらかといえばそう思わない	0.4%	1.8%	0.0%	0.0%	1.2%
そう思わない	0.4%	0.9%	0.0%	0.0%	0.7%
一概に言えない	6.4%	10.6%	0.0%	0.0%	8.8%
わからない	2.6%	2.1%	0.0%	12.5%	2.5%
無回答	1.7%	0.6%	0.0%	0.0%	1.1%

性別による大きな差異は見られません。

【表9 「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考え方—年齢別】

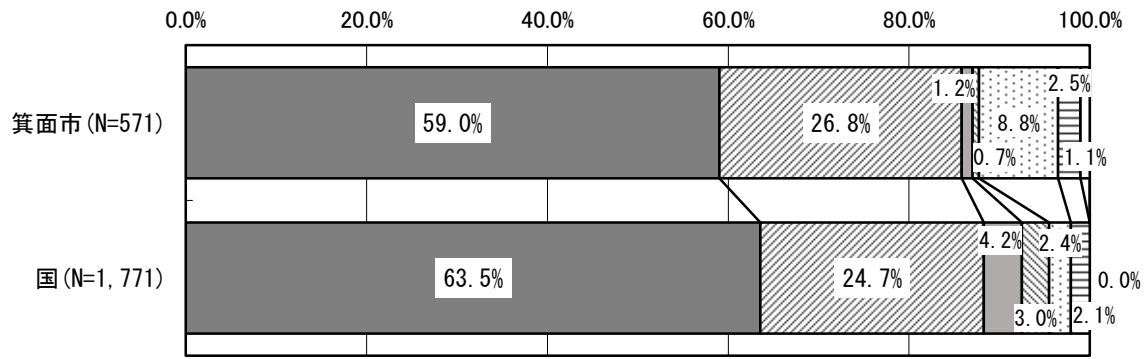
	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
そう思う	87.5%	61.3%	60.0%	55.3%	61.5%	56.8%	58.5%	100.0%	59.0%
どちらかといえばそう思う	12.5%	22.6%	22.5%	29.8%	23.1%	36.4%	27.0%	0.0%	26.8%
どちらかといえばそう思わない	0.0%	0.0%	7.5%	0.9%	1.1%	0.0%	0.8%	0.0%	1.2%
そう思わない	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	1.1%	0.0%	0.8%	0.0%	0.7%
一概に言えない	0.0%	9.7%	7.5%	9.6%	11.0%	6.8%	8.3%	0.0%	8.8%
わからない	0.0%	6.5%	0.0%	2.6%	2.2%	0.0%	2.9%	0.0%	2.5%
無回答	0.0%	0.0%	2.5%	0.9%	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	1.1%

年齢別にみると、「そう思う」は10代が最も高くなっています。

参考

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

【図 9-1 「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前」という考え方】

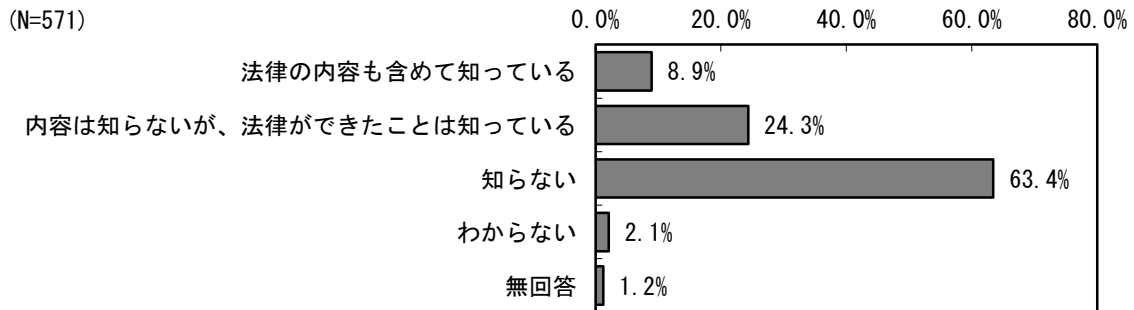


- 思う
- どちらかといえば思う
- どちらかといえばそう思わない
- そう思わない
- 一概に言えない
- わからない
- 無回答

(7) 「障害者差別解消法」の認知度

問10 障害のある人もない人も、互いに、その人らしさを認め合いながら共に生きる社会づくりを目指すため、平成28年4月からいわゆる「障害者差別解消法」が施行されています。あなたは、この法律を知っていますか。(1つに○)

【図10 「障害者差別解消法」の認知度】



「障害者差別解消法」の認知度について見ると、「知らない」が63.4%と最も高く、次いで「内容は知らないが、法律ができたことは知っている」が24.3%、「法律の内容も含めて知っている」が8.9%となっています。

【表10 「障害者差別解消法」の認知度—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
法律の内容も含めて知っている	9.9%	8.2%	0.0%	12.5%	8.9%
内容は知らないが、法律ができたことは知っている	26.6%	23.4%	0.0%	0.0%	24.3%
知らない	61.8%	63.8%	100.0%	87.5%	63.4%
わからない	1.3%	2.7%	0.0%	0.0%	2.1%
無回答	0.4%	1.8%	0.0%	0.0%	1.2%

性別による大きな差異は見られません。

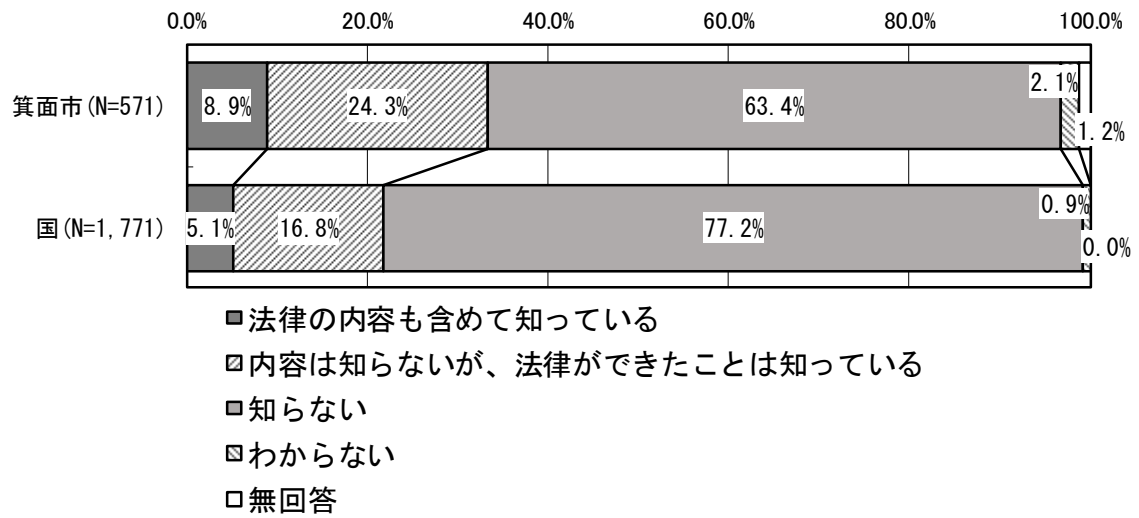
【表10 「障害者差別解消法」の認知度—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
法律の内容も含めて知っている	12.5%	9.7%	15.0%	11.4%	11.0%	4.5%	6.6%	0.0%	8.9%
内容は知らないが、法律ができたことは知っている	0.0%	25.8%	15.0%	9.6%	23.1%	31.8%	32.4%	50.0%	24.3%
知らない	87.5%	61.3%	70.0%	76.3%	62.6%	61.4%	56.4%	50.0%	63.4%
わからない	0.0%	3.2%	0.0%	0.9%	2.2%	2.3%	2.9%	0.0%	2.1%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.1%	0.0%	1.7%	0.0%	1.2%

年齢別にみると、「知らない」は10代が最も高くなっています。

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

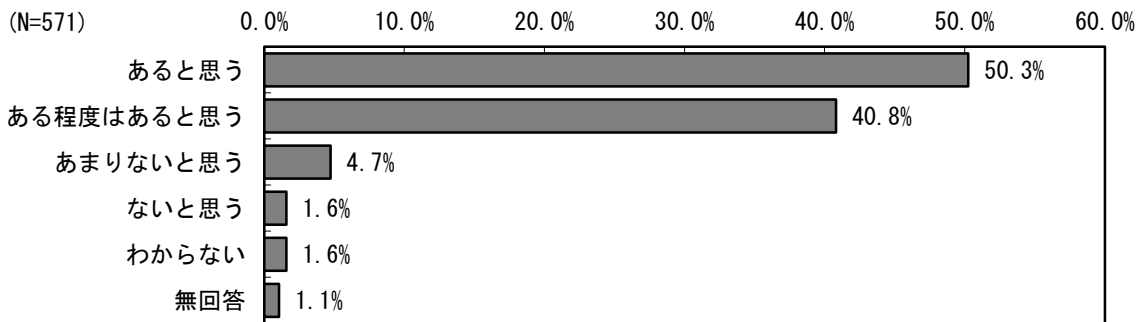
【図 10-1 「障害者差別解消法」の認知度】



(8) 障害を理由とする差別や偏見があると思うか

問 1 1 あなたは、世の中には障害のある人に対して、障害を理由とする差別や偏見があると思いますか。(1つに○)

【図 11 障害を理由とする差別や偏見があると思うか】



障害を理由とする差別や偏見があると思うかについて見ると、「あると思う」が 50.3%と最も高く、次いで「ある程度はあると思う」が 40.8%、「あまりないと思う」が 4.7%となっています。

【表 11 障害を理由とする差別や偏見があると思うか—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
あると思う	49.8%	50.2%	0.0%	75.0%	50.3%
ある程度はあると思う	39.1%	42.2%	100.0%	25.0%	40.8%
あまりないと思う	7.3%	3.0%	0.0%	0.0%	4.7%
ないと思う	2.1%	1.2%	0.0%	0.0%	1.6%
わからない	1.3%	1.8%	0.0%	0.0%	1.6%
無回答	0.4%	1.5%	0.0%	0.0%	1.1%

性別による大きな差異は見られません。

【図 11 障害を理由とする差別や偏見があると思うか—年齢別】

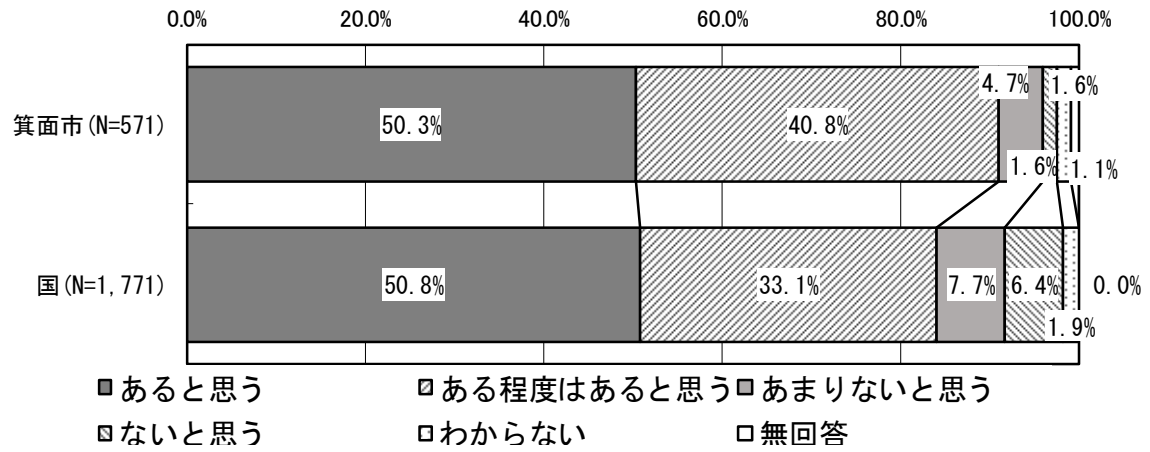
	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
あると思う	62.5%	51.6%	72.5%	52.6%	54.9%	36.4%	45.6%	50.0%	50.3%
ある程度はあると思う	37.5%	41.9%	22.5%	43.9%	41.8%	50.0%	40.7%	0.0%	40.8%
あまりないと思う	0.0%	3.2%	2.5%	0.9%	0.0%	11.4%	7.5%	50.0%	4.7%
ないと思う	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	2.2%	2.3%	2.1%	0.0%	1.6%
わからない	0.0%	0.0%	2.5%	0.9%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	1.6%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	1.1%	0.0%	1.2%	0.0%	1.1%

年齢別にみると、「あると思う」は 30 代が最も高くなっています。

参考

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

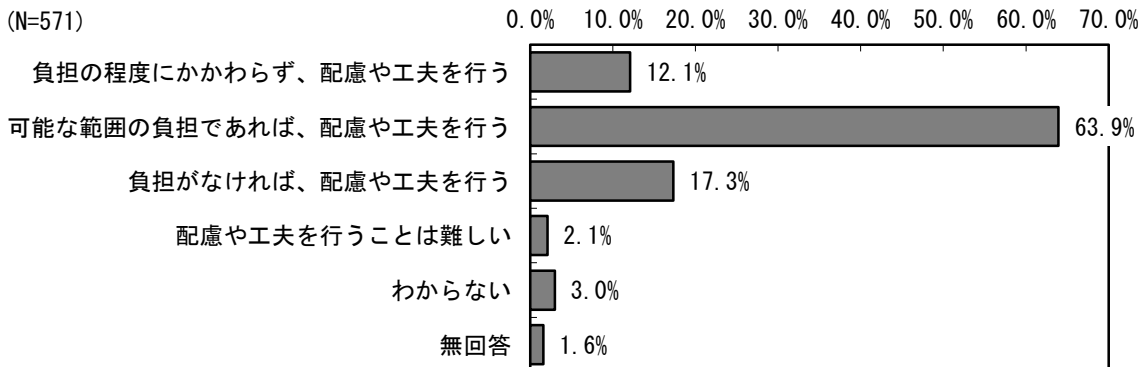
【図 11-1 障害を理由とする差別や偏見があると思うか】



(9) 経済的な負担を伴う配慮や工夫への対応

問 1 2 障害のある人とない人が同じように生活していくために必要となることをあなたが求められた場合、経済的な負担を伴うことがありますか、あなたはどうしますか。(1つに○)

【図 11 経済的な負担を伴う配慮や工夫への対応】



経済的な負担を伴う配慮や工夫への対応について見ると、「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行う」が63.9%と最も高く、次いで「負担がなければ、配慮や工夫を行う」が17.3%、「負担の程度にかかわらず、配慮や工夫を行う」が12.1%となっています。

【表 11 経済的な負担を伴う配慮や工夫への対応—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
負担の程度にかかわらず、配慮や工夫を行う	14.2%	10.9%	0.0%	0.0%	12.1%
可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行う	63.5%	64.1%	0.0%	75.0%	63.9%
負担がなければ、配慮や工夫を行う	15.5%	18.2%	100.0%	25.0%	17.3%
配慮や工夫を行うことは難しい	2.6%	1.8%	0.0%	0.0%	2.1%
わからない	3.4%	2.7%	0.0%	0.0%	3.0%
無回答	0.9%	2.1%	0.0%	0.0%	1.6%

性別による大きな差異は見られません。

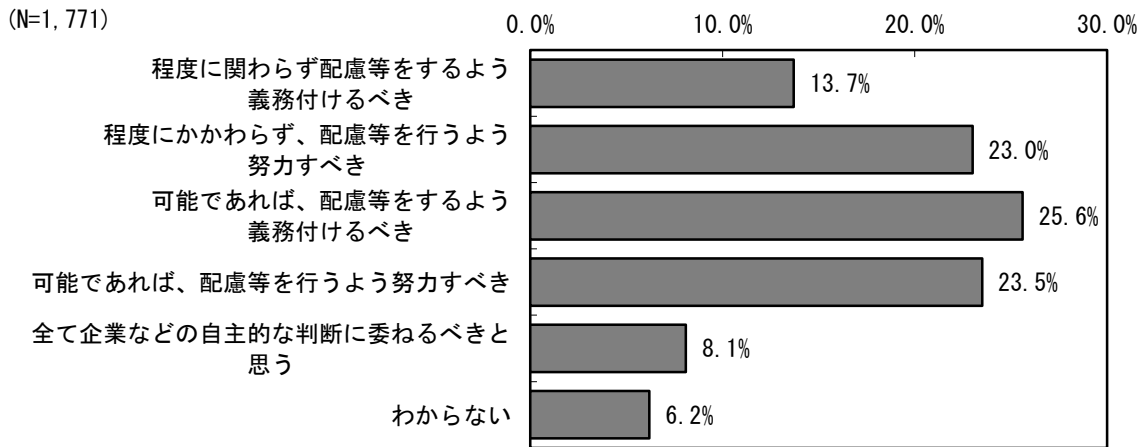
【表 11 経済的な負担を伴う配慮や工夫への対応—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
負担の程度にかかわらず、配慮や工夫を行う	0.0%	9.7%	17.5%	10.5%	14.3%	11.4%	12.0%	0.0%	12.1%
可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行う	87.5%	71.0%	67.5%	64.9%	70.3%	59.1%	59.8%	50.0%	63.9%
負担がなければ、配慮や工夫を行う	12.5%	19.4%	12.5%	17.5%	12.1%	22.7%	18.7%	50.0%	17.3%
配慮や工夫を行うことは難しい	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	4.6%	0.0%	2.1%
わからない	0.0%	0.0%	2.5%	5.3%	1.1%	4.5%	2.9%	0.0%	3.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%	2.2%	0.0%	2.1%	0.0%	1.6%

年齢別にみると、すべての年代で「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行う」が最も高くなっています。

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

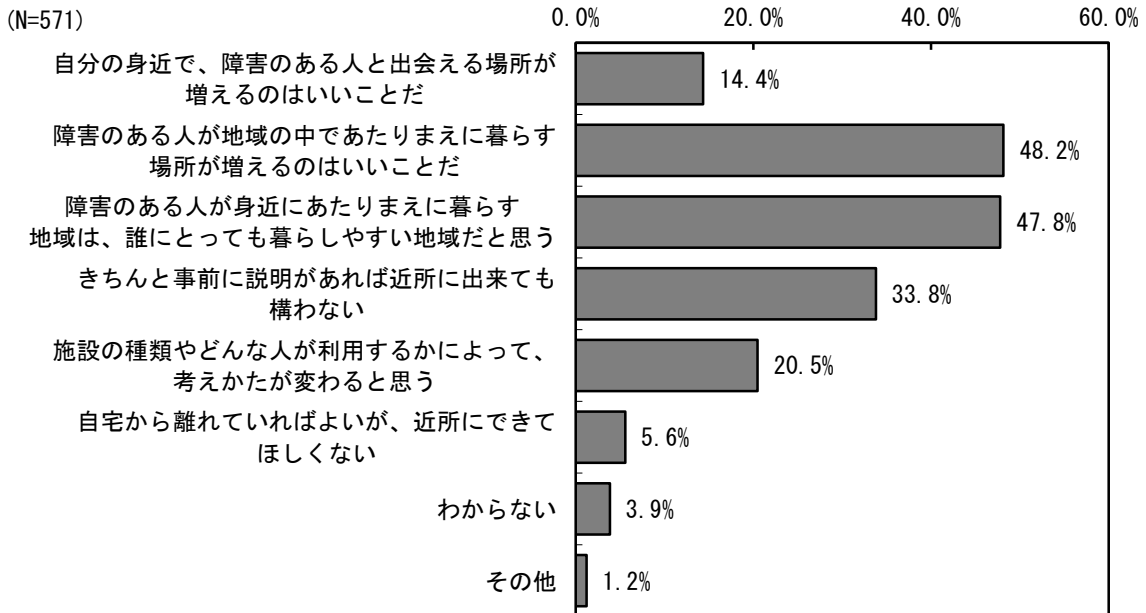
【図 11-1 経済的な負担を伴う配慮や工夫への対応】



(10) 通所施設やグループホームが自宅の近所にできたとしたら

問 1 3 障害のある人が通い、仕事・作業・レクリエーション活動などを行う通所施設（デイサービス）や、数人が共同で暮らすグループホームが、あなたの自宅の近所にできるとしたら、あなたの考えに近いものはどれですか。（あてはまるものすべてに○）

【図 13 通所施設やグループホームが自宅の近所にできたとしたら（複数回答）】



通所施設やグループホームが自宅の近所にできるとしたらについて見ると、「障害のある人が地域の中であたりまえに暮らす場所が増えるのはいいことだ」が48.2%と最も高く、次いで「障害のある人が身近にあたりまえに暮らす地域は、誰にとっても暮らしやすい地域だと思う」が47.8%、「きちんと事前に説明があれば近所に出来ても構わない」が33.8%となっています。

【表 13 通所施設やグループホームが自宅の近所にできたとしたら（複数回答）一性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
自分の身近で、障害のある人と出会う場所が増えるのはいいことだ	15.5%	13.7%	0.0%	12.5%	14.4%
障害のある人が地域の中であたりまえに暮らす場所が増えるのはいいことだ	45.1%	50.8%	0.0%	37.5%	48.2%
障害のある人が身近にあたりまえに暮らす地域は、誰にとっても暮らしやすい地域だと思う	48.1%	48.3%	100.0%	12.5%	47.8%
きちんと事前に説明があれば近所に出来ても構わない	30.9%	36.2%	0.0%	25.0%	33.8%
施設の種類やどんな人が利用するかによって、考えかたが変わると思う	19.3%	21.0%	0.0%	37.5%	20.5%
自宅から離れていけばよいが、近所にできてほしくない	6.9%	4.6%	0.0%	12.5%	5.6%
わからない	5.2%	3.0%	0.0%	0.0%	3.9%
その他	0.9%	1.5%	0.0%	0.0%	1.2%

性別でみると、「障害のある人が地域の中であたりまえに暮らす場所が増えるのはいいことだ」は女性の方が5.7ポイント高くなっています。

【表 13 通所施設やグループホームが自宅の近所にできたとしたら（複数回答）—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
自分の身近で、障害のある人と出会う場所が増えるのはいいことだ	12.5%	12.9%	10.0%	14.0%	13.2%	6.8%	17.4%	0.0%	14.4%
障害のある人が地域の中であたりまえに暮らす場所が増えるのはいいことだ	50.0%	48.4%	47.5%	41.2%	50.5%	40.9%	51.5%	100.0%	48.2%
障害のある人が身近にあたりまえに暮らす地域は、誰にとっても暮らしやすい地域だと思う	25.0%	48.4%	37.5%	43.0%	53.8%	43.2%	51.5%	0.0%	47.8%
きちんと事前に説明があれば近所に出来ても構わない	25.0%	19.4%	30.0%	34.2%	29.7%	45.5%	36.1%	0.0%	33.8%
施設の種類やどんな人が利用するかによって、考えかたが変わると思う	50.0%	25.8%	30.0%	21.1%	20.9%	22.7%	16.6%	0.0%	20.5%
自宅から離れていればよいが、近所にできてほしくない	12.5%	6.5%	10.0%	3.5%	4.4%	9.1%	5.4%	0.0%	5.6%
わからない	0.0%	3.2%	5.0%	4.4%	3.3%	4.5%	3.7%	0.0%	3.9%
その他	0.0%	3.2%	2.5%	4.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%

年齢別にみると、10代と30代は「障害のある人が地域の中であたりまえに暮らす場所が増えるのはいいことだ」が最も高く、40代から64歳までは「障害のある人が身近にあたりまえに暮らす地域は、誰にとっても暮らしやすい地域だと思う」が最も高くなっています。20代と65歳以上はこの2項目が同率で最も高くなっています。

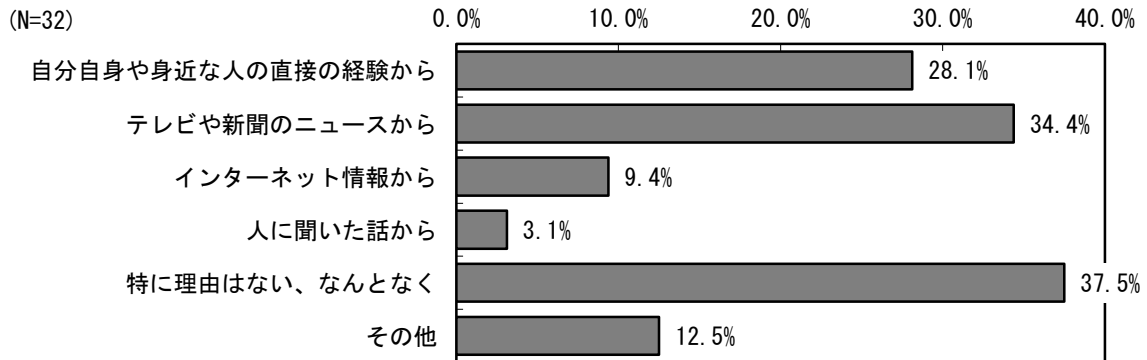
(11) 通所施設やグループホームへの思いのきっかけ

【問 1 3 で「6. 自宅から離れていけばよいが、近所にできてほしくない」に○をつけたかたにおたずねします。】

※「通所施設（デイサービス）やグループホームが、自宅から離れていけばよいが、近所にできてほしくない」と回答した方

問 1 4 そう思うようになったきっかけは何ですか。（あてはまるものすべてに○）

【図 14 通所施設やグループホームへの思いのきっかけ（複数回答）】



通所施設やグループホームへの思いのきっかけについて見ると、「特に理由はない、なんとなく」が 37.5%と最も高く、次いで「テレビや新聞のニュースから」が 34.4%、「自分自身や身近な人の直接の経験から」が 28.1%となっています。

【表 14 通所施設やグループホームへの思いのきっかけ（複数回答）—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	16	15	0	1	32
自分自身や身近な人の直接の経験から	25.0%	33.3%	0.0%	0.0%	28.1%
テレビや新聞のニュースから	25.0%	46.7%	0.0%	0.0%	34.4%
インターネット情報から	18.8%	0.0%	0.0%	0.0%	9.4%
人に聞いた話から	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	3.1%
特に理由はない、なんとなく	43.8%	33.3%	0.0%	0.0%	37.5%
その他	6.3%	13.3%	0.0%	100.0%	12.5%

性別でみると、「テレビや新聞のニュースから」は女性の方が 21.7 ポイント高くなっています。

【表 14 通所施設やグループホームへの思いのきっかけ（複数回答）—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	1	2	4	4	4	4	13	0	32
自分自身や身近な人の直接の経験から	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	50.0%	30.8%	-	28.1%
テレビや新聞のニュースから	100.0%	50.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	46.2%	-	34.4%
インターネット情報から	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	-	9.4%
人に聞いた話から	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	-	3.1%
特に理由はない、なんとなく	0.0%	50.0%	50.0%	25.0%	50.0%	0.0%	46.2%	-	37.5%
その他	0.0%	0.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	7.7%	-	12.5%

年齢別にみると、以下の項目がそれぞれ最も高くなっています。（項目が複数の場合は同率。）

10代は「テレビや新聞のニュースから」、「インターネット情報から」。

20代は「テレビや新聞のニュースから」、「特に理由はない、なんとなく」。

30代は「特に理由は内、なんとなく」、「その他」。

40代は「自分自身や身近な人の直接の経験から」、「テレビや新聞のニュースから」、「特に理由はない、なんとなく」、「その他」。

50代は「特に理由は内、なんとなく」。

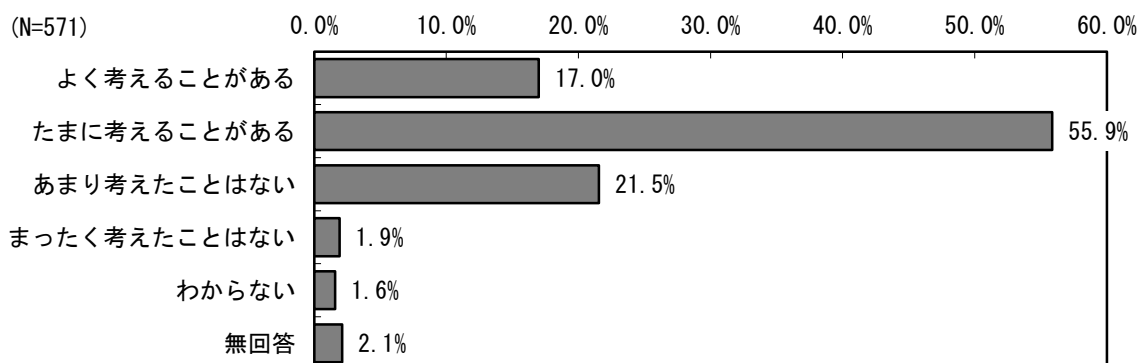
60～64歳は「自分自身や身近な人の直接の経験から」。

65歳以上は「テレビや新聞のニュースから」、「特に理由はない、なんとなく」。

(12) 障害者になる可能性の想定

問 1 5 あなたは、自分や家族が事故や病気等で将来障害者になるかもしれないと考えることはありますか。(1つに○)

【図 15 障害者になる可能性の想定】



障害者になる可能性の想定について見ると、「たまに考えることがある」が 55.9%と最も高く、次いで「あまり考えたことはない」が 21.5%、「よく考えることがある」が 17.0%となっています。

【表 15 障害者になる可能性の想定—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
よく考えることがある	15.0%	18.5%	0.0%	12.5%	17.0%
たまに考えることがある	55.4%	56.5%	0.0%	50.0%	55.9%
あまり考えたことはない	24.5%	19.1%	0.0%	37.5%	21.5%
まったく考えたことはない	3.0%	1.2%	0.0%	0.0%	1.9%
わからない	0.9%	1.8%	100.0%	0.0%	1.6%
無回答	1.3%	2.7%	0.0%	0.0%	2.1%

性別でみると、「あまり考えたことはない」は男性の方が 5.4 ポイント高くなっています。

【表 15 障害者になる可能性の想定—年齢別】

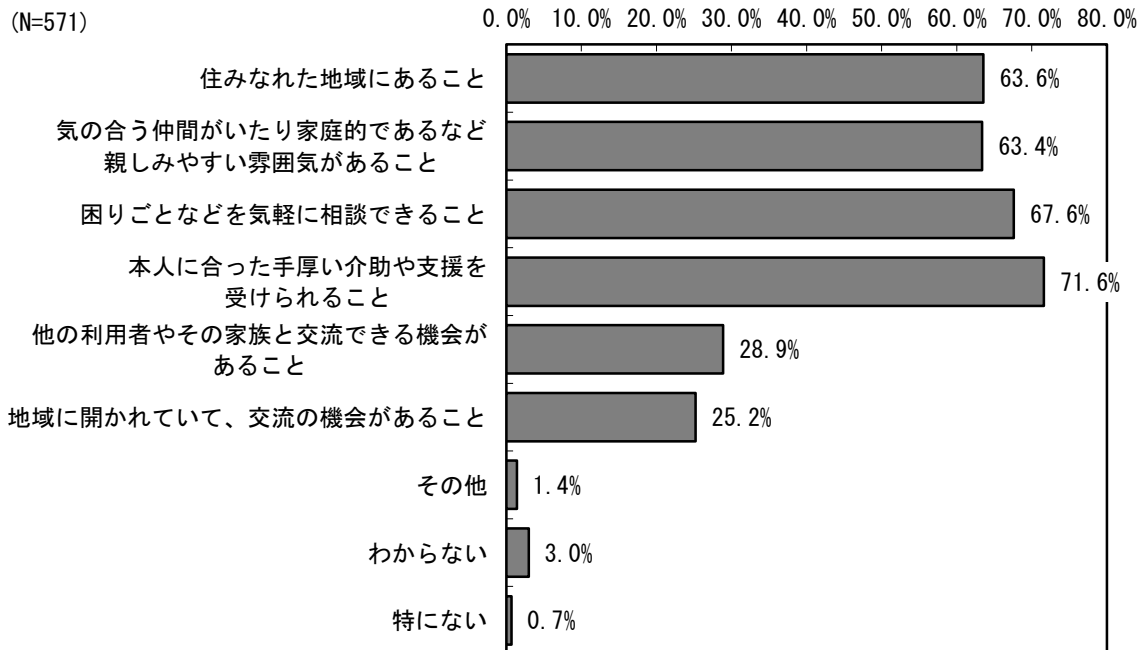
	年齢							無回答	合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上		
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
よく考えることがある	25.0%	9.7%	20.0%	17.5%	15.4%	22.7%	16.2%	50.0%	17.0%
たまに考えることがある	50.0%	41.9%	62.5%	59.6%	52.7%	54.5%	56.8%	0.0%	55.9%
あまり考えたことはない	25.0%	35.5%	12.5%	16.7%	26.4%	18.2%	22.0%	50.0%	21.5%
まったく考えたことはない	0.0%	9.7%	0.0%	3.5%	1.1%	2.3%	0.8%	0.0%	1.9%
わからない	0.0%	0.0%	2.5%	0.9%	1.1%	0.0%	2.5%	0.0%	1.6%
無回答	0.0%	3.2%	2.5%	1.8%	3.3%	2.3%	1.7%	0.0%	2.1%

年齢別でみると、すべての年代で「たまに考えることがある」が最も高くなっています。

(13) 自分や家族が利用する場合の施設や住まいの希望

問 1 6 もし自分や家族が障害者になり、通所施設（デイサービス）やグループホームを利用することになった場合、どのような施設や住まいを望みますか。（あてはまるものすべてに○）

【図 16 自分や家族が利用する場合の施設や住まいの希望（複数回答）】



自分や家族が利用する場合の施設や住まいの希望について見ると、「本人に合った手厚い介助や支援を受けられること」が71.6%と最も高く、次いで「困りごとなどを気軽に相談できること」が67.6%、「住みなれた地域にあること」が63.6%となっています。

【表 16 自分や家族が利用する場合の施設や住まいの希望（複数回答）—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
住みなれた地域にあること	65.7%	63.2%	0.0%	25.0%	63.6%
気の合う仲間がいたり家庭的であるなど親しみやすい雰囲気があること	58.4%	67.5%	0.0%	50.0%	63.4%
困りごとなどを気軽に相談できること	60.5%	72.9%	0.0%	62.5%	67.6%
本人に合った手厚い介助や支援を受けられること	65.2%	76.3%	0.0%	75.0%	71.6%
他の利用者やその家族と交流できる機会があること	28.8%	28.9%	0.0%	37.5%	28.9%
地域に開かれていて、交流の機会があること	29.2%	22.5%	0.0%	25.0%	25.2%
その他	0.9%	1.8%	0.0%	0.0%	1.4%
わからない	3.9%	2.1%	100.0%	0.0%	3.0%
特にない	0.9%	0.6%	0.0%	0.0%	0.7%

性別で見ると、「困りごとなどを気軽に相談できること」は女性の方が12.4ポイント高くなっています。

【表 16 自分や家族が利用する場合の施設や住まいの希望（複数回答）—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
住みなれた地域にあること	62.5%	77.4%	60.0%	55.3%	65.9%	70.5%	64.7%	0.0%	63.6%
気の合う仲間がいたり家庭的であるなど親しみやすい雰囲気があること	37.5%	61.3%	62.5%	70.2%	67.0%	65.9%	59.3%	100.0%	63.4%
困りごとなどを気軽に相談できること	50.0%	80.6%	65.0%	74.6%	69.2%	68.2%	63.1%	50.0%	67.6%
本人に合った手厚い介助や支援を受けられること	87.5%	80.6%	75.0%	67.5%	74.7%	75.0%	69.7%	50.0%	71.6%
他の利用者やその家族と交流できる機会があること	25.0%	16.1%	27.5%	29.8%	28.6%	22.7%	32.0%	0.0%	28.9%
地域に開かれていて、交流の機会があること	37.5%	6.5%	20.0%	15.8%	24.2%	25.0%	33.2%	0.0%	25.2%
その他	12.5%	3.2%	0.0%	0.9%	1.1%	6.8%	0.4%	0.0%	1.4%
わからない	0.0%	0.0%	2.5%	3.5%	2.2%	2.3%	3.7%	0.0%	3.0%
特になし	0.0%	0.0%	0.0%	0.9%	0.0%	2.3%	0.8%	0.0%	0.7%

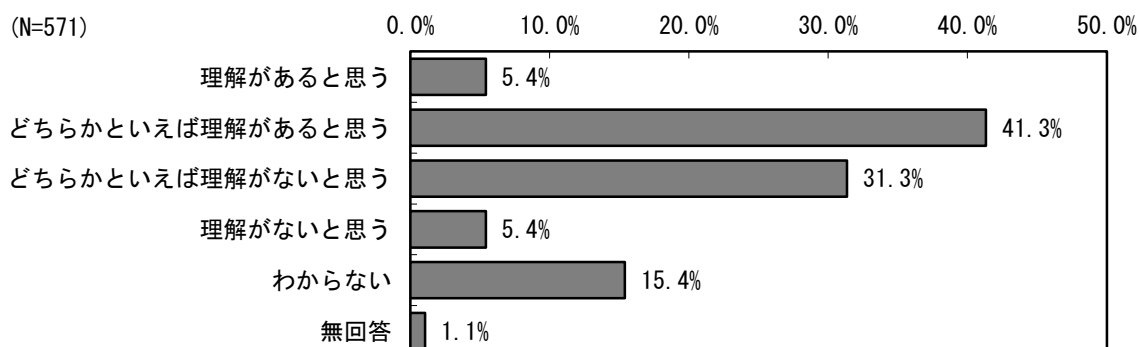
年齢別にみると、10代、30代、50代から65歳以上は「本人に合った手厚い介助や支援を受けられること」が最も高く、40代は「困りごとなどを気軽に相談できること」が最も高くなっています。

20代はこの2項目が同率で最も高くなっています。

(14) 障害者が地域で暮らすことについての社会の理解

問 1 7 あなたは、障害のある人が施設や病院を出て地域で暮らすことについて社会の理解があると思いますか。(1つに○)

【図 17 障害者が地域で暮らすことについての社会の理解】



障害者が地域で暮らすことについての社会の理解について見ると、「どちらかといえば理解があると思う」が41.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば理解がないと思う」が31.3%、「わからない」が15.4%となっています。

【表 7 障害者が地域で暮らすことについての社会の理解—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
理解があると思う	6.9%	4.6%	0.0%	0.0%	5.4%
どちらかといえば理解があると思う	42.1%	41.0%	0.0%	37.5%	41.3%
どちらかといえば理解がないと思う	27.9%	34.0%	0.0%	25.0%	31.3%
理解がないと思う	8.6%	3.3%	0.0%	0.0%	5.4%
わからない	13.3%	16.1%	100.0%	37.5%	15.4%
無回答	1.3%	0.9%	0.0%	0.0%	1.1%

性別で見ると、「どちらかといえば理解がないと思う」は女性の方が6.1ポイント高くなっています。

【表 7 障害者が地域で暮らすことについての社会の理解—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～ 64歳	65歳 以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
理解があると思う	0.0%	3.2%	5.0%	6.1%	5.5%	6.8%	5.0%	50.0%	5.4%
どちらかといえば理解があると思う	62.5%	61.3%	32.5%	37.7%	42.9%	40.9%	41.1%	0.0%	41.3%
どちらかといえば理解がないと思う	0.0%	12.9%	50.0%	26.3%	30.8%	36.4%	33.6%	0.0%	31.3%
理解がないと思う	25.0%	9.7%	5.0%	4.4%	6.6%	6.8%	4.1%	0.0%	5.4%
わからない	12.5%	12.9%	7.5%	25.4%	14.3%	9.1%	13.7%	50.0%	15.4%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	1.1%

年齢別に見ると、30代以外の年代は「どちらかといえば理解があると思う」が最も高く、30代は「どちらかといえば理解がないと思う」が最も高くなっています。

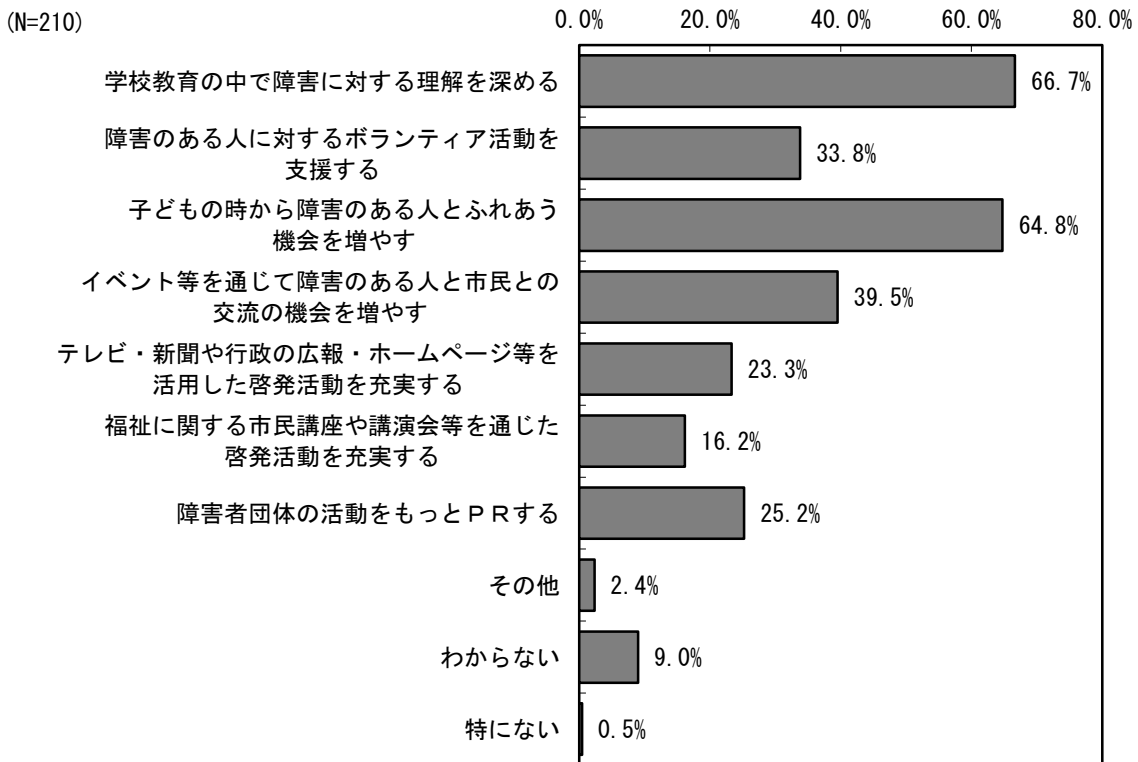
(15) どのような取り組みがあれば理解が進むか

【問17で「3. どちらかといえば理解がないと思う」「4. 理解がないと思う」に○をつけたかたにおたずねします。】

※「障害のある人が施設や病院を出て地域で暮らすことについて社会の理解」が「どちらかといえば理解がないと思う」「理解がないと思う」と回答した方

問18 どのような取り組みがあれば理解が進むと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

【図18 どのような取り組みがあれば理解が進むか(複数回答)】



どのような取り組みがあれば理解が進むかについて見ると、「学校教育の中で障害に対する理解を深める」が66.7%と最も高く、次いで「子どもの時から障害のある人とふれあう機会を増やす」が64.8%、「イベント等を通じて障害のある人と市民との交流の機会を増やす」が39.5%となっています。

【表18 どのような取り組みがあれば理解が進むか(複数回答) —性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	85	123	0	2	210
学校教育の中で障害に対する理解を深める	69.4%	65.0%	0.0%	50.0%	66.7%
障害のある人に対するボランティア活動を支援する	38.8%	30.1%	0.0%	50.0%	33.8%
子どもの時から障害のある人とふれあう機会を増やす	64.7%	65.0%	0.0%	50.0%	64.8%
イベント等を通じて障害のある人と市民との交流の機会を増やす	40.0%	39.8%	0.0%	0.0%	39.5%
テレビ・新聞や行政の広報・ホームページ等を活用した啓発活動を充実する	24.7%	22.8%	0.0%	0.0%	23.3%
福祉に関する市民講座や講演会等を通じた啓発活動を充実する	15.3%	17.1%	0.0%	0.0%	16.2%
障害者団体の活動をもっとPRする	24.7%	26.0%	0.0%	0.0%	25.2%
その他	3.5%	1.6%	0.0%	0.0%	2.4%
わからない	9.4%	8.1%	0.0%	50.0%	9.0%
特にない	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.5%

性別で見ると、「障害のある人に対するボランティア活動を支援する」は男性の方が8.7ポイント高くなっています。

【表 年齢別】

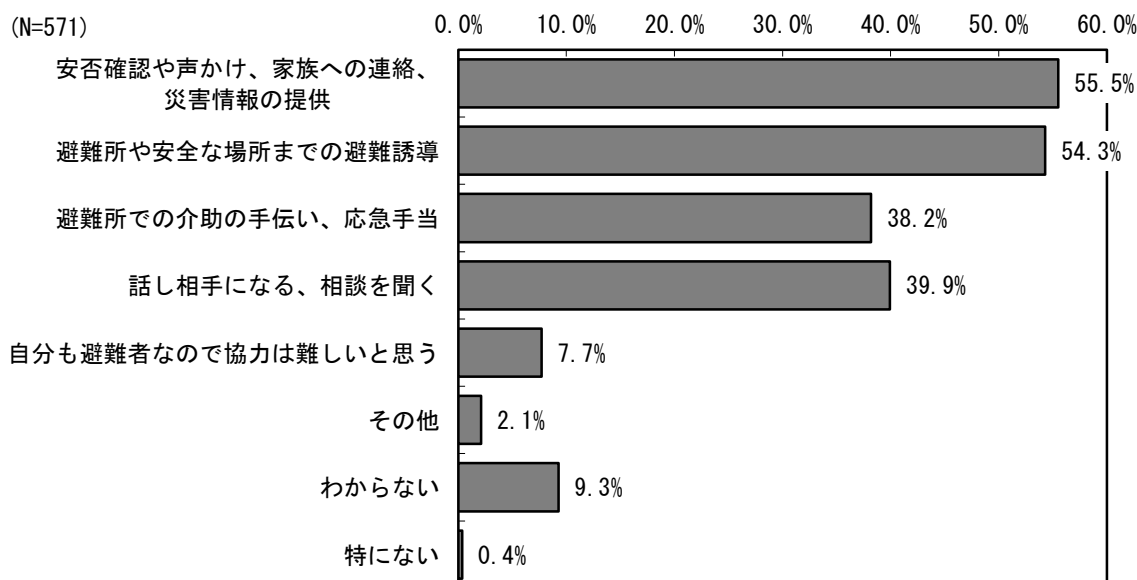
	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	2	7	22	35	34	19	91	0	210
学校教育の中で障害に対する理解を深める	50.0%	42.9%	63.6%	62.9%	58.8%	78.9%	71.4%	0.0%	66.7%
障害のある人に対するボランティア活動を支援する	50.0%	14.3%	13.6%	34.3%	44.1%	36.8%	35.2%	0.0%	33.8%
子どもの時から障害のある人とふれあう機会を増やす	50.0%	28.6%	63.6%	65.7%	73.5%	52.6%	67.0%	0.0%	64.8%
イベント等を通じて障害のある人と市民との交流の機会を増やす	50.0%	14.3%	27.3%	37.1%	35.3%	42.1%	46.2%	0.0%	39.5%
テレビ・新聞や行政の広報・ホームページ等を活用した啓発活動を充実する	0.0%	0.0%	31.8%	20.0%	17.6%	31.6%	25.3%	0.0%	23.3%
福祉に関する市民講座や講演会等を通じた啓発活動を充実する	0.0%	0.0%	4.5%	11.4%	8.8%	21.1%	24.2%	0.0%	16.2%
障害者団体の活動をもっとPRする	0.0%	28.6%	13.6%	17.1%	26.5%	21.1%	31.9%	0.0%	25.2%
その他	0.0%	0.0%	4.5%	2.9%	2.9%	5.3%	1.1%	0.0%	2.4%
わからない	50.0%	28.6%	9.1%	11.4%	11.8%	5.3%	5.5%	0.0%	9.0%
特にない	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.3%	0.0%	0.0%	0.5%

年齢別に見ると、「学校教育の中で障害に対する理解を深める」は60～64歳が最も高くなっています。

(16) 災害時に障害のある人に対してできると思う支援

問 19 地震や台風などの災害時に、障害のある人は一人で避難することが出来なかったり、避難所で介助が必要な場合があります。災害時に、あなたが障害のある人に対して、できると思う支援はありますか。（あてはまるものすべてに○）

【図 19 災害時に障害のある人に対してできると思う支援（複数回答）】



災害時に、障害のある人に対してできると思う支援について見ると、「安否確認や声かけ、家族への連絡、災害情報の提供」が 55.5%と最も高く、次いで「避難所や安全な場所までの避難誘導」が 54.3%、「話し相手になる、相談を聞く」が 39.9%となっています。

【表 19 災害時に障害のある人に対してできると思う支援（複数回答）—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
安否確認や声かけ、家族への連絡、災害情報の提供	57.1%	55.3%	0.0%	25.0%	55.5%
避難所や安全な場所までの避難誘導	61.8%	49.2%	0.0%	50.0%	54.3%
避難所での介助の手伝い、応急手当	38.6%	38.3%	0.0%	25.0%	38.2%
話し相手になる、相談を聞く	36.5%	43.2%	0.0%	12.5%	39.9%
自分も避難者なので協力は難しいと思う	7.3%	7.9%	0.0%	12.5%	7.7%
その他	1.3%	2.7%	0.0%	0.0%	2.1%
わからない	7.3%	10.0%	100.0%	25.0%	9.3%
特にない	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%

性別で見ると、「避難所や安全な場所までの避難誘導」は男性の方が 12.6 ポイント高くなっています。

【表 19 災害時に障害のある人に対してできると思う支援（複数回答）—年齢別】

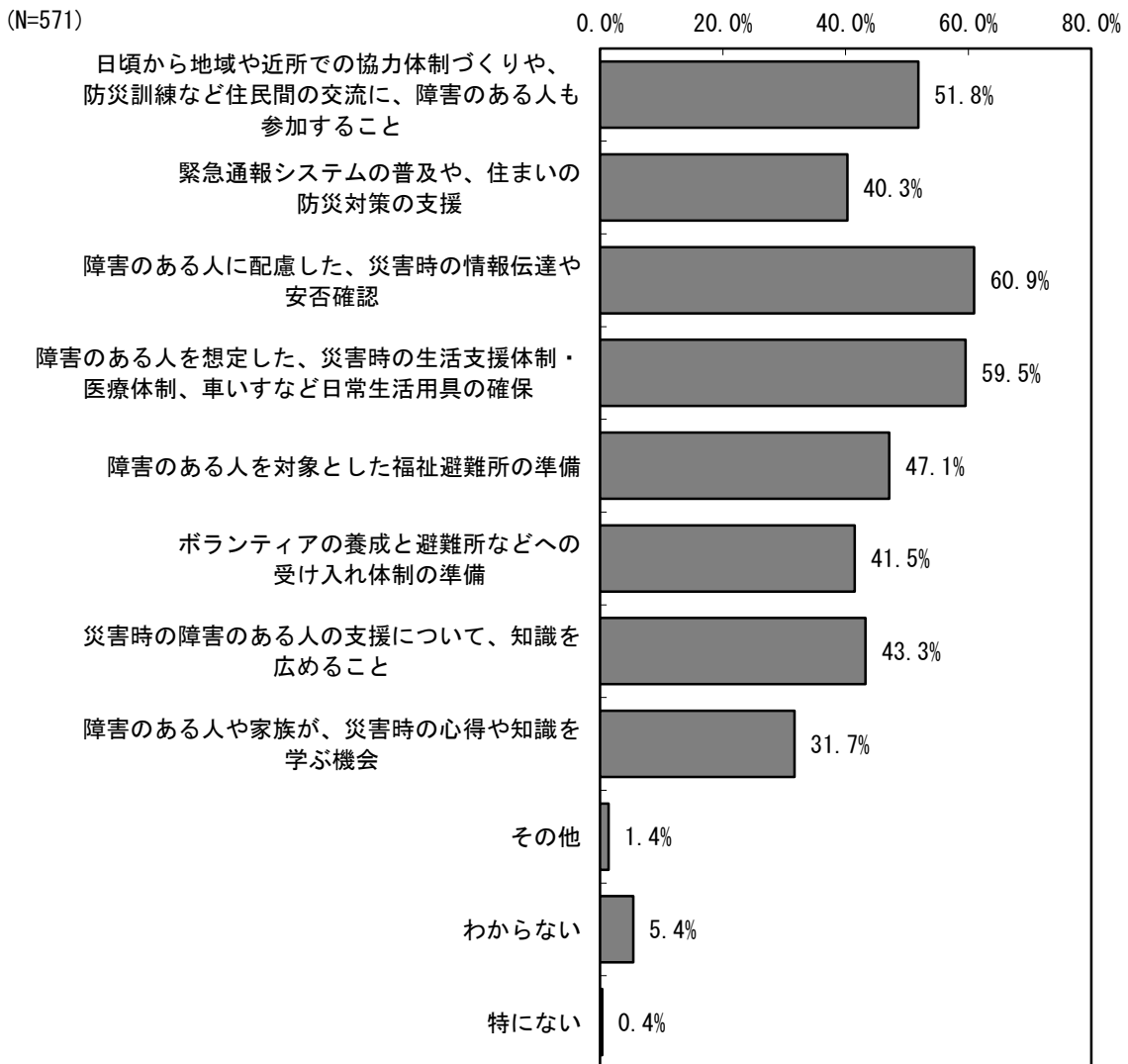
	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
安否確認や声かけ、家族への連絡、災害情報の提供	25.0%	54.8%	50.0%	64.9%	63.7%	47.7%	51.9%	0.0%	55.5%
避難所や安全な場所までの避難誘導	50.0%	67.7%	45.0%	64.0%	62.6%	63.6%	44.8%	50.0%	54.3%
避難所での介助の手伝い、応急手当	37.5%	48.4%	30.0%	42.1%	37.4%	38.6%	36.9%	0.0%	38.2%
話し相手になる、相談を聞く	25.0%	51.6%	57.5%	34.2%	29.7%	45.5%	41.5%	50.0%	39.9%
自分も避難者なので協力は難しいと思う	37.5%	6.5%	5.0%	6.1%	7.7%	6.8%	8.3%	0.0%	7.7%
その他	12.5%	0.0%	5.0%	1.8%	0.0%	0.0%	2.9%	0.0%	2.1%
わからない	25.0%	6.5%	5.0%	7.9%	13.2%	6.8%	9.5%	0.0%	9.3%
特になし	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.4%

年齢別に見ると、10代から20代と60～64歳は「避難所や安全な場所までの避難誘導」、30代は「話し相手になる、相談を聞く」、40代から50代と65歳以上は「安否確認や声かけ、家族への連絡、災害情報の提供」がそれぞれ最も高くなっています。

(17) 災害時に障害のある人を地域で支援するために必要と思うこと

問 2 0 災害時に、障害のある人を地域で支援するために、必要と思うことは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

【図 20 災害時に障害のある人を地域で支援するために必要と思うこと（複数回答）】



災害時に障害のある人を地域で支援するために必要と思うことについて見ると、「障害のある人に配慮した、災害時の情報伝達や安否確認」が 60.9%と最も高く、次いで「障害のある人を想定した、災害時の生活支援体制・医療体制、車いすなど日常生活用具の確保」が 59.5%、「日頃から地域や近所での協力体制づくりや、防災訓練など住民間の交流に、障害のある人も参加すること」が 51.8%となっています。

【表 20 災害時に障害のある人を地域で支援するために必要と思うこと（複数回答）—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
日頃から地域や近所での協力体制づくりや、防災訓練など住民間の交流に、障害のある人も参加すること	54.5%	50.5%	0.0%	37.5%	51.8%
緊急通報システムの普及や、住まいの防災対策の支援	41.6%	39.2%	0.0%	50.0%	40.3%
障害のある人に配慮した、災害時の情報伝達や安否確認	57.9%	63.5%	0.0%	50.0%	60.9%
障害のある人を想定した、災害時の生活支援体制・医療体制、車いすなど日常生活用具の確保	59.2%	60.2%	0.0%	50.0%	59.5%
障害のある人を対象とした福祉避難所の準備	45.9%	48.3%	0.0%	37.5%	47.1%
ボランティアの養成と避難所などへの受け入れ体制の準備	36.5%	45.3%	0.0%	37.5%	41.5%
災害時の障害のある人の支援について、知識を広めること	43.3%	43.2%	0.0%	50.0%	43.3%
障害のある人や家族が、災害時の心得や知識を学ぶ機会	29.2%	32.8%	0.0%	62.5%	31.7%
その他	0.9%	1.8%	0.0%	0.0%	1.4%
わからない	5.6%	4.9%	100.0%	12.5%	5.4%
特になし	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%

性別で見ると、「ボランティア養成と避難所などへの受け入れ体制の準備」は女性の方が 8.8 ポイント高くなっています。

【表 20 災害時に障害のある人を地域で支援するために必要と思うこと（複数回答）—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
日頃から地域や近所での協力体制づくりや、防災訓練など住民間の交流に、障害のある人も参加すること	62.5%	51.6%	45.0%	55.3%	54.9%	47.7%	50.6%	50.0%	51.8%
緊急通報システムの普及や、住まいの防災対策の支援	75.0%	48.4%	35.0%	39.5%	37.4%	50.0%	38.6%	50.0%	40.3%
障害のある人に配慮した、災害時の情報伝達や安否確認	75.0%	61.3%	52.5%	64.9%	62.6%	65.9%	58.5%	50.0%	60.9%
障害のある人を想定した、災害時の生活支援体制・医療体制、車いすなど日常生活用具の確保	75.0%	61.3%	75.0%	62.3%	60.4%	56.8%	55.2%	50.0%	59.5%
障害のある人を対象とした福祉避難所の準備	37.5%	51.6%	55.0%	49.1%	54.9%	40.9%	43.2%	0.0%	47.1%
ボランティアの養成と避難所などへの受け入れ体制の準備	50.0%	41.9%	40.0%	40.4%	47.3%	50.0%	38.6%	0.0%	41.5%
災害時の障害のある人の支援について、知識を広めること	62.5%	67.7%	42.5%	35.1%	49.5%	45.5%	41.1%	0.0%	43.3%
障害のある人や家族が、災害時の心得や知識を学ぶ機会	50.0%	45.2%	52.5%	33.3%	31.9%	27.3%	26.1%	0.0%	31.7%
その他	0.0%	0.0%	5.0%	4.4%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%	1.4%
わからない	0.0%	3.2%	5.0%	4.4%	8.8%	4.5%	5.4%	0.0%	5.4%
特になし	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%	0.4%

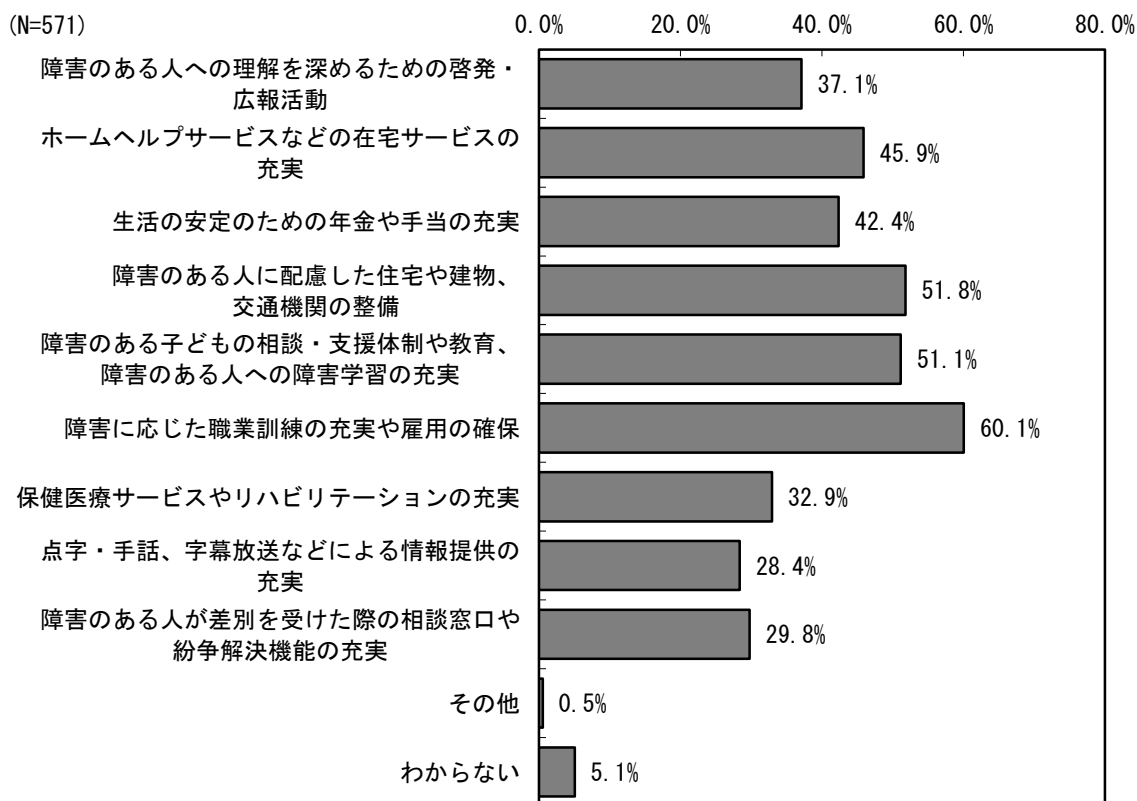
年齢別に見ると、20代は「災害時の障害のある人の支援について、知識を広めること」、30代から40代は「障害のある人を想定した、災害時の生活支援体制・医療体制、車いすなど日常生活用具の確保」、50代以上は「障害のある人に配慮した、災害時の情報伝達や安否確認」がそれぞれ最も高くなっています。

10代は「緊急通報システムの普及や、住まいの防災対策の支援」、「障害のある人に配慮した、災害時の情報伝達や安否確認」、「障害のある人を想定した、災害時の生活支援体制・医療体制、車いすなど日常生活用具の確保」が同率で最も高くなっています。

(18) 力を入れる必要がある国や自治体の施策

問 2 1 障害のある人に関する国や自治体の施策のうち、あなたがもっと力を入れる必要があると思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

【図 21 力を入れる必要がある国や自治体の施策（複数回答）】



力を入れる必要がある国や自治体の施策について見ると、「障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保」が60.1%と最も高く、次いで「障害のある人に配慮した住宅や建物、交通機関の整備」が51.8%、「障害のある子どもの相談・支援体制や教育、障害のある人への障害学習の充実」が51.1%となっています。

【表 21 力を入れる必要がある国や自治体の施策（複数回答）—性別】

	性別				合計
	男性	女性	その他	答えない	
件数	233	329	1	8	571
障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動	41.6%	34.3%	0.0%	25.0%	37.1%
ホームヘルプサービスなどの在宅サービスの充実	43.8%	48.0%	0.0%	25.0%	45.9%
生活の安定のための年金や手当の充実	47.2%	39.5%	0.0%	25.0%	42.4%
障害のある人に配慮した住宅や建物、交通機関の整備	48.9%	54.7%	0.0%	25.0%	51.8%
障害のある子どもの相談・支援体制や教育、障害のある人への障害学習の充実	50.2%	52.6%	0.0%	25.0%	51.1%
障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保	62.2%	58.4%	0.0%	75.0%	60.1%
保健医療サービスやリハビリテーションの充実	31.8%	34.0%	0.0%	25.0%	32.9%
点字・手話、字幕放送などによる情報提供の充実	27.0%	29.8%	0.0%	12.5%	28.4%
障害のある人が差別を受けた際の相談窓口や紛争解決機能の充実	29.2%	30.1%	0.0%	37.5%	29.8%
その他	0.9%	0.3%	0.0%	0.0%	0.5%
わからない	5.2%	4.9%	100.0%	0.0%	5.1%

性別で見ると、「生活の安定のための年金や手当の充実」は男性の方が 7.7 ポイント高くなっています。

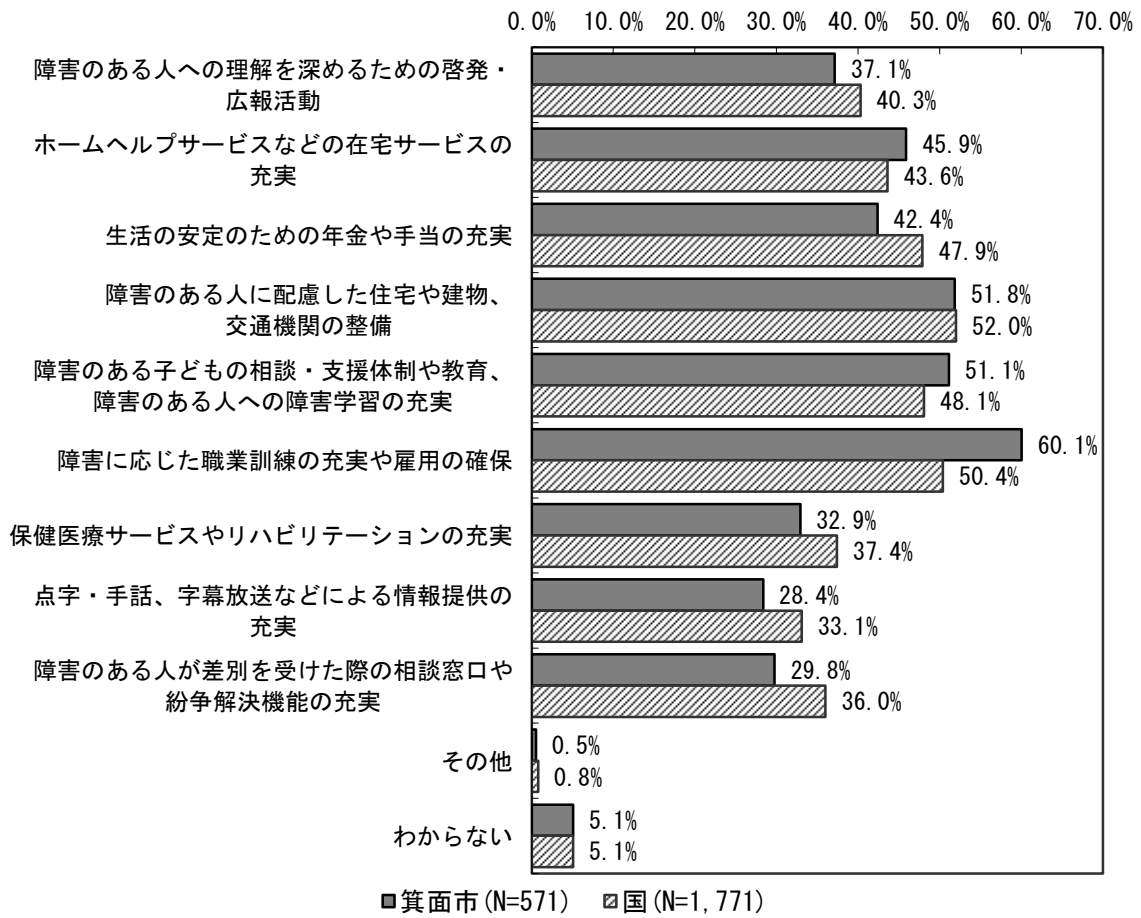
【表 21 力を入れる必要がある国や自治体の施策（複数回答）—年齢別】

	年齢								合計
	10代	20代	30代	40代	50代	60～64歳	65歳以上	無回答	
件数	8	31	40	114	91	44	21	2	571
障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動	50.0%	35.5%	27.5%	35.1%	34.1%	38.6%	40.7%	0.0%	37.1%
ホームヘルプサービスなどの在宅サービスの充実	25.0%	32.3%	47.5%	41.2%	50.5%	43.2%	49.4%	0.0%	45.9%
生活の安定のための年金や手当の充実	25.0%	58.1%	40.0%	36.0%	39.6%	31.8%	47.3%	50.0%	42.4%
障害のある人に配慮した住宅や建物、交通機関の整備	37.5%	58.1%	55.0%	49.1%	58.2%	52.3%	50.2%	0.0%	51.8%
障害のある子どもの相談・支援体制や教育、障害のある人への障害学習の充実	50.0%	48.4%	70.0%	59.6%	56.0%	47.7%	43.6%	0.0%	51.1%
障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保	50.0%	61.3%	55.0%	61.4%	61.5%	61.4%	59.8%	50.0%	60.1%
保健医療サービスやリハビリテーションの充実	25.0%	32.3%	32.5%	28.1%	38.5%	27.3%	34.9%	0.0%	32.9%
点字・手話、字幕放送などによる情報提供の充実	37.5%	29.0%	22.5%	31.6%	29.7%	34.1%	26.1%	0.0%	28.4%
障害のある人が差別を受けた際の相談窓口や紛争解決機能の充実	25.0%	29.0%	20.0%	32.5%	25.3%	20.5%	34.0%	0.0%	29.8%
その他	0.0%	3.2%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.4%	0.0%	0.5%
わからない	0.0%	3.2%	5.0%	7.9%	2.2%	6.8%	5.0%	0.0%	5.1%

年齢別に見ると、20代と40代から65歳以上は「障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保」、30代は「障害のある子どもの相談・支援体制や教育、障害のある人への障害学習の充実」がそれぞれ最も高くなっています。10代は「障害のある人への理解を深めるための啓発・広報活動」、「障害のある子どもの相談・支援体制や教育、障害のある人への障害学習の充実」、「障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保」が同率で最も高くなっています。

内閣府 平成 29 年 障害者に関する世論調査

【図 21-1 力を入れる必要がある国や自治体の施策（複数回答）】



3. 自由記述（障害福祉や行政の取り組みについての意見・提案）

大分類	小分類	件数	構成比 (%)
1 障害者への理解の促進、配慮	1-1 障害者への理解促進が必要	39	
	1-2 意識改革が必要	8	
	1-3 障害者への配慮が必要	7	
	1-4 障害者への理解が進んでいない	4	
小計		58	38.9
3 支援体制、相談支援	3-1 障害の種類・程度に即した支援が必要	30	
小計		30	20.1
10 施設整備	10-1 通所施設などの福祉施設の整備	7	
	10-2 歩道などの交通施設のバリアフリー化	4	
	10-3 建物のバリアフリー化	2	
	10-4 その他	2	
小計		15	10.1
4 教育	4-1 早い段階からの教育の重要性	11	
小計		11	7.4
5 家族への支援	5-1 家族への支援の必要性	11	
小計		11	7.4
6 地域づくり	6-1 誰にとっても暮らしやすい地域づくり	6	
	6-2 地域でのサポート	2	
	6-2 進んでいない	2	
小計		10	6.7
11 公共交通	11-1 バス利用について	6	
小計		6	4.0
12 その他	12-1 その他	8	
小計		8	5.4
合計		149	100.0

V. 調査結果のまとめと課題

1. 障害児・障害者

① 障害について

■18歳未満

身体障害者手帳は回答者の3割弱が所持しており、「1級」が最も多くなっています。身体障害の種類では、「肢体不自由」が最も多くなっています。

療育手帳は回答者の8割弱が所持しており、「B2判定」が最も多くなっています。

精神障害者保健福祉手帳は回答者の約1割が所持しています。

自立支援医療（精神通院医療）、指定難病の診断、医療的ケアは、いずれも1割前後が受けています。

■18歳以上

身体障害者手帳は回答者の5割強が所持しており、「1級」が最も多くなっています。身体障害の種類では、「肢体不自由」が最も多くなっています。

療育手帳は回答者の4割弱が所持しており、「A判定」が最も多くなっています。

精神障害者保健福祉手帳は回答者の約2割が所持しており、その8割強が自立支援医療（精神通院医療）を受けています。指定難病の診断、医療的ケアは、身体障害者手帳所持者の約2割が受けています。

注：以降の「身体障害者」「知的障害者」「精神障害者」は、それぞれの手帳所持者を指しています。

② 住まいについて

■18歳未満

現在、ほとんどが家族と暮らしており、今後も約9割が「家族と一緒に自宅で暮らしたい」となっています。

地域で暮らしていくために必要な主な支援は、「困ったときに相談できるところがある」、「生活するためのお金」、「家族の理解や協力」が6割から7割となっています。

■18歳以上

同居人の状況を障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「家族と同居」が6割から7割と最も高くなっています。この他に、精神障害者では「一人暮らし」が約2割、身体障害者では「一人暮らし」が約1割、知的障害者では「グループホームの仲間」が約1割となっています。

この先5年以内の希望の暮らしについて障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「家族と一緒に自宅で暮らしたい」が最も多くなっていますが、知的障害者では「共同生活ができるグループホームなどを利用したい」が2割強、精神障害者では「一人暮らし」が3割弱となっています。

地域で暮らしていくために必要な支援では、すべての障害種別で「困ったときに相談できるところがある」が5割から7割、「生活するためのお金」が5割から6割となっています。

障害のある人が地域で安全で安心して暮らしていくためには、家族や地域の理解や協力はもちろんのこと、何らかの問題が生じたときに相談できる組織や体制とともに、経済的な支援の仕組みが求められています。

③ 収入について

■18歳以上

現在の収入源について障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「年金」が最も高く、次いで「会社などの賃金、給料」となっています。知的障害者では、「障害福祉事業所での工賃」が3割弱となっています。

④ 障害福祉サービスの利用について

■18歳未満

障害福祉サービスは、約7割が利用しています。

現在利用しているサービスは、「放課後等デイサービス」が9割以上で最も高く、今後18歳までで利用したいサービスでも最も高くなっています。「短期入所（ショートステイ）」「移動支援（ガイドヘルプ）」は現在1割程度ですが、今後は3～4割が利用を望んでいます。

将来（18歳以降）利用したい障害福祉サービスでは、「自立訓練」「就労移行支援」「就労継続支援B型」が4割前後で高くなっています。

現在利用している障害福祉サービスでの困りごとでは、「必要な時にすぐ利用できない」「利用できる事業所が少ない」がともに3割前後となっていますが、一方で、「特に困りごとはない」も約3割となっています。

■18歳以上

障害福祉サービスの利用を障害種別ごとに見ると、身体障害者と精神障害者は「利用している」が3割から4割となっていますが、知的障害者は7割を超えています。

現在利用しているサービスと今後利用したいサービスを障害種別ごとに見ると次のようになっています。

- 身体障害者：現在の利用では、「生活介護」、「移動支援（ガイドヘルプ）」、「居宅介護（ホームヘルプ）」「計画相談支援」が他のサービスに比べて多く、今後利用したいサービスでは、「移動支援（ガイドヘルプ）」が多くなっています。
- 知的障害者：現在の利用では、「計画相談支援」、「移動支援（ガイドヘルプ）」、「生活介護」、「短期入所（ショートステイ）」が他のサービスに比べて多く、今後利用したいサービスでは、「移動支援（ガイドヘルプ）」、「共同生活援助（グループホーム）」、「計画相談支援」、「短期入所（ショートステイ）」が多くなっています。
- 精神障害者：現在の利用では、「計画相談支援」、「就労継続支援B型」が他のサービスに比べて多く、今後利用したいサービスでも同様に、「就労継続支援B型」「計画相談支援」が多くなっています。

現在利用している障害福祉サービスでの困りごとについて障害種別ごとに見ると、身体障害者と知的障害者では、「必要な時にすぐ利用できない」、「利用できる事業所が少ない」が他に比べて高くなっています。精神障害者では、「利用の手続きが大変」が他に比べて高くなっています。

障害福祉サービスでの困りごとでは、必要な時に利用できない、利用できる事業所が少ないなどサービス提供に関することが指摘されており、障害のある人が近隣で利用できるような施設整備や利用できる曜日や時間帯の柔軟な運用が求められています。

⑤ 外出について

■18歳未満

外出時の主な移動手段は、「車（送迎してもらう）」が8割、「徒歩」が7割となっています。

外出する際の困りごとでは、「外出先でのコミュニケーションがとりづらい」が4割弱、「周囲の目が気になる」が2割となっていますが、「とくに困りごとはない」も約3割となっています。

公共交通機関を利用する際の困りごとでは、「案内がわかりづらい」が2割となっていますが、一方で「とくに困りごとはない」「公共交通機関を利用しない」がそれぞれ2～3割となっています。

■18歳以上

外出時の同行者について障害種別ごとに見ると、知的障害者は身体障害者、精神障害者に比べて「一人で外出できる」が低くなっています。

外出時の主な移動手段について見ると、「徒歩」が6割、次いで「電車」が5割弱、「バス（ゆずるバスを含む）」が4割となっています。

障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「徒歩」が最も高くなっています。

身体障害者と知的障害者は、次いで「車（送迎してもらう）」、「電車」となっています。

精神障害者は、次いで「電車」、「バス（ゆずるバスを含む）」となっています。

外出する際の困りごとについて障害種別ごとに見ると、身体障害者では、「感染症が不安」、「道路や施設、乗り物（電車やバスなど）がバリアフリーでない」が他に比べて高くなっています。知的障害者では、「感染症が不安」、「外出先でのコミュニケーションがとりづらい」が他に比べて高くなっています。精神障害者では、「周囲の目が気になる」、「身体的な発作やパニックが起こらないか心配」が他に比べて高くなっています。

障害のある人の外出は、心身の健康維持とリフレッシュだけでなく、地域や周囲の人とのコミュニケーションにより、地域社会の一員としての相互理解につながることも期待されます。

⑥ 就学や進路について

■18歳未満

現在の通学先を選んだ理由では、「家が近いから」「障害のない友達と同じ地域の学校に行きたかったから」「特別な支援を受けられるから」がそれぞれ約3割となっています。

卒業後希望する進路では、「大学や専門学校へ進学したい」「支援を受けながら仕事ができる事業所に通いたい」がそれぞれ2割前後となっています。

⑦ 情報収集について

■18歳未満

障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段では、「家族、知人などから」が約6割で最も高く、次いで「もみじだより、市の広報物（障害福祉サービスのご案内など）」「障害福祉事業所や障害福祉サービスの職員から」となっています。

情報収集をする際に求める対応では、「わかりやすい言葉で情報提供してほしい」が4割弱で最も高く、次いで「とくに困りごとはない」「問合せを電話以外（メールやFAX）でできるようにしてほしい」となっています。

■18歳以上

障害福祉サービスなどに関する情報の入手手段について障害種別ごとに見ると、身体障害者と精神障害者は、「もみじだより、市の広報物（障害福祉サービスのご案内など）」が最も高く、次いで「障害福祉事業所や障害福祉サービスの職員から」、「家族、知人などから」となっています。知的障害者は、「障害福祉事業所や障害福祉サービスの職員から」が最も高く、次いで「家族、知人などから」、「もみじだより、市の広報物（障害福祉サービスのご案内など）」となっています。

情報収集をする際に求める対応について見ると、「わかりやすい言葉で情報提供してほしい」が高くなっています。

障害の種別は多様であり、情報提供、情報の内容などをわかりやすくすることが重要であり、ICT、IoTを駆使して、情報へのアクセシビリティ向上が求められています。

⑧ 日中の活動や就労について

■18歳以上

平日の日中の過ごし方について、「現在の過ごし方」と「今後の過ごし方の希望」を障害種別ごとに見ると、次のようになっています。

- 身体障害者：現在は、「自宅で過ごしている」、「正職員として企業などで働いている」が他に比べて高く、今後の希望も同様となっています。
- 知的障害者：現在は、「生活介護事業所に通っている」、「障害福祉事業所で働いている（就労移行支援、就労継続支援A型・B型など）」が他に比べて高く、今後の希望も同様となっています。
- 精神障害者：現在は、「自宅で過ごしている」、「パート、アルバイト、派遣社員などとして企業で働いている」が他に比べて高くなっていますが、今後の希望では、「自宅で過ごしている」、「正職員として企業などで働いている」が他に比べて高くなっています。

継続して働くために必要なことについて障害種別ごとに見ると、すべての障害種別で「職場で障害への理解や配慮がある」が最も高くなっています。この他には、身体障害者では、「職場が近い」、「自分に合った仕事探しや紹介をしてくれる」が高くなっています。知的障害者では、「困りごとを相談できるところがある」、「通勤・通所の支援（送迎や自力通勤のサポートなど）がある」が高くなっています。精神障害者では、「困りごとを相談できるところがある」、「自分に合った仕事探しや紹介をしてくれる」が高くなっています。

障害者の日中の活動や就労では、通所先や職場での、本人の障害特性の理解が最も重要な課題であり、本人と直接接する周囲の人の理解が必要です。また、困ったときの相談先、通勤・通所の支援などが求められています。

⑨ 災害時の避難について

■ 18歳未満

災害時の避難で不安なことでは、「いつもと環境が変わって不安やパニックにならないか」「周囲とコミュニケーションはとれるか」「避難場所に移動できるか」がいずれも4割以上と、他に比べて高くなっています。

■ 18歳以上

災害時の避難で不安なことについて障害種別ごとに見ると、身体障害者では、「避難場所に移動できるか」、「必要な医療品が手に入るか、治療が受けられるか」、「災害や避難の情報が手に入れられるか」が他に比べて高くなっています。知的障害者では、「いつもと環境が変わって不安やパニックにならないか」、「避難場所に移動できるか」、「周囲とコミュニケーションはとれるか」が他に比べて高くなっています。精神障害者では、「いつもと環境が変わって不安やパニックにならないか」、「周囲とコミュニケーションはとれるか」、「必要な医療品が手に入るか、治療が受けられるか」が他に比べて高くなっています。

災害時の避難では、避難場所への安全で短時間の移動手段の確保、避難先での多様な障害の種別に対応した環境や医療品の確保などが求められています。

⑩ 差別について

■ 18歳未満

障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験では、“ある”（「ときどきある」と「よくある」の合計）は4割弱となっています。その場面では、「学校や幼稚園、保育所など」が6割以上と高くなっています。

差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手は、「家族、親戚」が約7割となっています。

差別に関する相談窓口の認知度では、「知らない」が7割以上と高くなっています。

■ 18歳以上

障害があることで差別を受けたり、嫌な思いをした経験について障害種別ごとに見ると、精神障害者は「よくある」「ときどきある」を合わせた“ある”が3割で身体障害者、精神障害者に比べて高くなっています。その場面では、「まちを歩いているとき」、「会社、職場など」、「お店を利用するとき」が他に比べて高くなっています。

差別を受けたり嫌な思いをしたときの相談相手は、「家族、親戚」が最も高くなっています。

差別に関する相談窓口の認知度では、「知らない」が全体で6割と高くなっています。

⑪ 虐待について

■ 18歳未満

虐待を受けた経験では、「ある」が1割未満となっています。

■ 18歳以上

虐待を受けた経験について見ると、全体では「ある」が1割強となっていますが、精神障害者で「ある」が2割を超えており、身体障害者、知的障害者に比べて高くなっています。

虐待を受けた時期について見ると、「小学生・中学生・高校生のとき」が7割弱と高くなっています。

また、精神障害者では虐待を受けた相手で、「家族、親戚」が7割を超えて特に高くなっています。

差別や虐待は障害の有無に関わらず起きてはならないことであり、啓発、教育、相談窓口など、行政だけではなく地域も含めた取り組みが必要です。差別解消に向けた周知啓発や、虐待を予防するとともに、早期に発見し対応するための周知啓発等の取り組みが求められています。

⑫ 成年後見制度について

■ 18歳未満

成年後見制度の認知度では、ほとんどが“知らない”（「知らない」と「聞いたことはあるがよくは知らない」の合計）となっています。

■ 18歳以上

成年後見制度の認知度について障害種別ごとに見ると、身体障害者が最も高く、次いで知的障害者、精神障害者となっています。

今後の成年後見制度の利用意向について障害種別ごとに見ると、知的障害者は身体障害者、精神障害者に比べて「利用したい」が高くなっています。

⑬ 本人以外の回答者について

■ 18歳未満

ほとんどが本人以外の回答者となっています。

本人以外の回答者の日頃の相談相手では、「家族、親戚」が約7割で最も高くなっていますが、「幼稚園や保育所、学校の人」、「友人、知人、近所の人」（いずれも約5割）も高くなっています。

本人以外の回答者の日頃の困りごとでは、「高齢化や病気で将来、自分が介護できなくなったときが不安」が5割強、「身体的、精神的な負担が大きい」、「何かあったときに本人の介護を頼める人や場所がない」がいずれも4割前後となっています。

■ 18歳以上

本人以外の回答者は、身体障害者では4割弱、知的障害者では7割強、精神障害者では2割弱となっています。

本人以外の回答者の日頃の相談相手では、「家族、親戚」が約6割で最も高くなっています。この他に、身体障害者と精神障害者では、「病院の医師や看護師」、「障害福祉事業所の職員やヘルパー」も高く、知的障害者では、「障害福祉事業所の職員やヘルパー」、「相談支援事業所の相談支援員」も高くなっています。

本人以外の回答者の日頃の困りごとでは、いずれの障害でも「高齢化や病気で将来、自分が介護できなくなったときが不安」、「身体的、精神的な負担が大きい」、「何かあったときに本人の介護を頼める人や場所がない」が高くなっています。

障害児・障害者と主に家族の介助者では、介助者の高齢化により、親亡き後の問題があり、グループホームなどの整備、地域での見守り、地域社会の一員としての受け入れ体制の充実などが求められています。

2. 18 歳以上の障害者でない市民

① 回答者について

回答者の年齢は、「65歳以上」が4割強を占めており、女性が約6割を占めています。

② 障害や障害のある人について

身近に障害のある人がいるかについて見ると、「自分自身または家族等身近な親族にいる・いた」、「学校にいる・いた」が約3割となっています。

③ 障害のある人との関係について

障害のある人が困っているときに手助けをした経験について見ると、「ある」が6割を超えていますが、約3割は「ない」となっています。

手助けをした理由について見ると、「困っているときはお互い様という気持ちから」、「障害のある人を手助けするのは当たり前のことだと思うから」が高くなっています。

一方で、手助けをしなかった理由について見ると、「自分が何をすればよいのかわからなかったから」、「どのように接したらよいのかわからなかったから」がいずれも2割弱となっています。

④ 「共生社会」について

「共生社会」という考え方を知っているかについて見ると、「知っている」が5割弱あるものの「知らない」が2割弱となっています。「共生社会」という考え方に基づく、「障害のある人が身近で普通に生活しているのが当たり前だ」という考え方について見ると、「そう思う」が6割、「どちらかといえばそう思う」が3割弱ありますが、「一概に言えない」が1割弱となっています。

⑤ 障害のある人への差別解消について

「障害者差別解消法」の認知度について見ると、「知らない」が6割を超えています。

障害を理由とする差別や偏見があると思うかについて見ると、“あると思う”（「あると思う」と「ある程度はあると思う」の合計）が9割となっています。

障害のある人が困っているときにあたりまえに手助けができるように、障害理解を深める取り組みを進めるとともに、障害を理由とする差別や偏見をなくしていくために、周知や啓発を進めていくことが必要です。

⑥ 障害のある人が通う施設や居住施設について

障害のある人とない人が同じように生活していくために必要となることをあなたが求められた場合、経済的な負担を伴う配慮や工夫への対応について見ると、「可能な範囲の負担であれば、配慮や工夫を行う」が6割強となっています。

通所施設やグループホームが自宅の近所にできるとしたらについて見ると、「障害のある人が地域の中であたりまえに暮らす場所が増えるのはいいことだ」、「障害のある人が身近にあたりまえに暮らす地域は、誰にとっても暮らしやすい地域だと思う」がともに5割弱と高くなっています。

通所施設やグループホームが「自宅から離れていけばよいが、近所にできてほしくない」という思いのきっかけについて見ると、「特に理由はない、なんとなく」が4割弱、「テレビや新聞のニュースから」、「自分自身や身近な人の直接の経験から」が3割前後となっています。

⑦ 自分や家族が障害となった場合について

自分や家族が障害者になる可能性の想定について見ると、「たまに考えることがある」が5割強となっています。

自分や家族が障害者になり利用する場合の施設や住まいの希望について見ると、「本人に合った手厚い介助や支援を受けられること」は7割、「困りごとなどを気軽に相談できること」、「住みなれた地域にあること」、「気のあう仲間がいたり家庭的であるなど親しみやすい雰囲気があること」がいずれも6割を超えています。

⑧ 障害のある人が地域で暮らすことについて

障害者が地域で暮らすことについての社会の理解について見ると、「理解があると思う」（「理解があると思う」と「どちらかといえば理解があると思う」の合計）が5割弱となっています。

障害のある人が施設や病院を出て地域で暮らすことについて社会の理解が、どのような取り組みがあれば理解が進むかについて見ると、「学校教育の中で障害に対する理解を深める」、「子どもの時から障害のある人とふれあう機会を増やす」が6割から7割となっています。

住みなれた地域において、障害のある人が通う施設や居住施設の整備を進めるためには、障害者が地域で暮らすことについて理解を深め、学校教育での取り組みや地域との交流の機会を持つことなどが必要です。

⑨ 障害のある人の災害時の対応について

災害時に、障害のある人に対してできると思う支援について見ると、「安否確認や声かけ、家族への連絡、災害情報の提供」、「避難所や安全な場所までの避難誘導」が5割強、「話し相手になる、相談を聞く」が4割となっています。

災害時に障害のある人を地域で支援するために必要と思うことについて見ると、「障害のある人に配慮した、災害時の情報伝達や安否確認」、「障害のある人を想定した、災害時の生活支援体制・医療体制、車いすなど日常生活用具の確保」がともに6割となっています。

災害時に障害のある人に対して何らかの支援ができると思う人が一定数いることから、災害時にそういった人と支援を必要とする人をつなげる取り組みが必要です。

⑩ 障害のある人に力を入れる必要がある施策について

障害のある人に力を入れる必要がある国や自治体の施策について見ると、「障害に応じた職業訓練の充実や雇用の確保」が6割、「障害のある人に配慮した住宅や建物、交通機関の整備」、「障害のある子どもの相談・支援体制や教育、障害のある人への障害学習の充実」がともに約5割となっています。